

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第422集

だい たらう  
台太郎遺跡第44次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

岩 手 県 盛 岡 市

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第422集

# 台太郎遺跡第44次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

## 序

豊かな自然に恵まれた岩手県には、縄文時代をはじめとする数多くの遺跡や重要な文化財が残されております。これら多くの先人達が創造してきた文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。

一方では、地域開発に伴う社会資本の充実も重要な施策であります。発掘により遺跡が消滅することはまことに惜しいことではありますが、その反面それまで闇に包まれていた先人の営みに光明が当たるのも事実であります。

このように埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も今日的課題であり、(財)岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘を行い、記録保存する処置をとってまいりました。

本報告書は、盛岡南新都市計画整備事業に関連して、平成14年度に調査した台太郎遺跡第44次調査の結果をまとめたものであります。調査によって奈良時代から平安時代の遺構が発見され、貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご援助・ご協力を賜りました盛岡市都市整備部盛岡南整備課、盛岡市教育委員会をはじめとする関係各位に心より感謝申しあげます。

平成15年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 合 田 武

## 例 言

- 1 本報告は、岩手県盛岡市向中野字八日市場41-1 他に所在する台太郎遺跡第44次発掘調査の結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の発掘調査は、盛岡南新都市計画整備事業に伴い遺跡の一部が消滅するため、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。調査は盛岡市都市整備部盛岡南整備課と岩手県教育委員会事務局文化課（現・生涯学習文化課）の協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
- 3 岩手県遺跡登録台帳の遺跡番号はLE16-2269、遺跡略号はODT-02-44である。
- 4 発掘調査の期間・担当者・調査面積は次のとおりである。

平成14年4月9日～平成14年8月5日 金子佐知子・皆川英香・安藤由紀夫  
阿部眞澄 菊池 賢

調査面積：2,907㎡
- 5 室内整理の期間・担当者は次のとおりである。

平成14年11月1日～平成15年3月31日 阿部 眞澄・安藤由紀夫・菊池 賢
- 6 出土石器類の石材鑑定は花崗岩研究会、炭化材同定は木炭協会の早坂松次郎氏、火山灰・骨同定はパリノ・サーヴェイ株式会社、鉄製品保存処理は岩手県立博物館に依頼した。
- 7 基準点の測量・打設は、東北エンジニアリング株式会社、航空写真はハイマーティク株式会社に委託した。
- 8 野外調査および室内整理・報告書作成にあたり、次の方々ならびに機関から指導・助言・協力をいただいた。（敬称略）

千葉正彦（岩手県立盛岡商業高等学校教諭）、盛岡市教育委員会
- 9 野外調査では地元盛岡市の方々にご協力いただいた。
- 10 本報告書の執筆・編集・校正は、当センター臨時職員の協力を得て、阿部眞澄と菊池 賢が担当した。
- 11 本報告書では、国土地理院発行の次の地形図を使用した。

1/25,000 盛岡・小岩井農場・矢巾・南昌山  
1/50,000 盛岡・日詰

また、土層の色調観察は、「新版 標準土色帖」（小山正忠・竹原秀雄 1990年版）を使用し表記した。
- 12 調査で得られた出土遺物および調査の諸記録は、岩手県立埋蔵文化財センターで保管し、保存活用を図る予定である。
- 13 調査成果の一部については現地説明会資料および「平成14年度岩手県埋蔵文化財発掘調査略報」において公表したが、記載内容については本報告書が優先する。

## 〔本 文〕

序

例言

<p>I. 調査に至る経過 …………… 2</p> <p>II. 遺跡の位置</p> <p>    1. 遺跡の位置 …………… 3</p> <p>    2. 遺跡周辺の地形と地質 …………… 5</p> <p>    3. 基本層序 …………… 6</p> <p>    4. 周辺の遺跡 …………… 6</p> <p>III. 調査の方法と室内整理</p> <p>    1. 野外調査 …………… 12</p> <p>    2. 室内整理と掲載方法 …………… 14</p> <p>IV. 検出された遺構と遺物</p> <p>    1. 竪穴住居跡 …………… 18</p> <p>    2. 掘立柱建物跡 …………… 32</p> <p>    3. 土坑 …………… 34</p> <p>    4. 竪穴状遺構 …………… 42</p>	<p>    5. 焼土遺構 …………… 43</p> <p>    6. 溝跡・堀跡 …………… 43</p> <p>    7. 井戸跡 …………… 51</p> <p>    8. その他の遺構 …………… 52</p> <p>    9. 遺構外出土遺物 …………… 52</p> <p>V. まとめ</p> <p>    1. 遺構について ……………132</p> <p>    2. 古代台太郎ムラについての若干の考察 ……139</p> <p>    3. 遺跡について ……………147</p> <p>    4. おわりに ……………147</p> <p>VI. 分析鑑定 ……………165</p> <p>報告書抄録 ……………241</p> <p>職員一覧 ……………242</p>
--	--

## 〔図 版〕

<p>第 1 図 遺跡の位置 …………… 1</p> <p>第 2 図 調査区と周辺の地形 …………… 4</p> <p>第 3 図 地形分類 …………… 5</p> <p>第 4 図 調査区各地点の層序 …………… 7</p> <p>第 5 図 周辺の遺跡 …………… 9</p> <p>第 6 図 グリッド配置図 …………… 12</p> <p>第 7 図 凡例 …………… 15</p> <p>第 8 図 台太郎遺跡・第44次 遺構配置図 (1) …………… 16</p> <p>第 9 図 台太郎遺跡・第44次 遺構配置図 (2) …………… 17</p> <p>第 10 図 RA185竪穴住居跡 …………… 53</p> <p>第 11 図 RA185・393竪穴住居跡 過年度分合成図 …………… 54</p> <p>第 12 図 RA396竪穴住居跡 …………… 55</p>	<p>第 13 図 RA393竪穴住居跡 …………… 56</p> <p>第 14 図 RA547 (1) 竪穴住居跡 …………… 57</p> <p>第 15 図 RA547 (2) 竪穴住居跡 …………… 58</p> <p>第 16 図 RA549竪穴住居跡 …………… 59</p> <p>第 17 図 RA550竪穴住居跡 …………… 60</p> <p>第 18 図 RA551 (1) 竪穴住居跡 …………… 61</p> <p>第 19 図 RA551 (2)・RA552 竪穴住居跡 …………… 62</p> <p>第 20 図 RA553 (1) 竪穴住居跡 …………… 63</p> <p>第 21 図 RA553 (2)・RA554・555 (1) 竪穴住居跡 …………… 64</p> <p>第 22 図 RA554・555 (2) 竪穴住居跡 …… 65</p> <p>第 23 図 RA556 (1) 竪穴住居跡 …………… 66</p> <p>第 24 図 RA556 (2) 竪穴住居跡 …………… 67</p> <p>第 25 図 RA557・558・559竪穴住居跡 …… 68</p>
--	--

第 26 図	RA560 竪穴住居跡	69	第 54 図	RA393 (1) 出土遺物	99
第 27 図	RA561・562 竪穴住居跡	70	第 55 図	RA393 (2)・547 (1) 出土遺物	100
第 28 図	RA563 竪穴住居跡	71	第 56 図	RA547 (2) 出土遺物	101
第 29 図	RA564 竪穴住居跡	72	第 57 図	RA547 (3) 出土遺物	102
第 30 図	RB044 掘立柱建物跡	73	第 58 図	RA549 (1) 出土遺物	103
第 31 図	RB045 掘立柱建物跡	74	第 59 図	RA549 (2)・550 (1) 出土遺物	104
第 32 図	RB046 掘立柱建物跡	75	第 60 図	RA550 (2)・551 出土遺物	105
第 33 図	RB047 掘立柱建物跡	76	第 61 図	RA553・554・555 (1) 出土遺物	106
第 34 図	RB048 掘立柱建物跡	77	第 62 図	RA555 (2) 出土遺物	107
第 35 図	RD1039・1040 土坑	78	第 63 図	RA556 (1) 出土遺物	108
第 36 図	RD1041~1047 土坑	79	第 64 図	RA556 (2) 出土遺物	109
第 37 図	RD1048~1057 土坑	80	第 65 図	RA556 (3) 出土遺物	110
第 38 図	RD1058・1059・1060・1061・1062 1063・1068・1072 土坑	81	第 66 図	RA556 (4) 出土遺物	111
第 39 図	RD1064・1066・1067・1069・1070 1071・1073 土坑	82	第 67 図	RA556 (5) 出土遺物	112
第 40 図	RD1074・1075・1076 土坑	83	第 68 図	RA556 (6) 出土遺物	113
第 41 図	RE055 (1) 竪穴状遺構	84	第 69 図	RA557・559・560・561 出土遺物	114
第 42 図	RE055 (2) 竪穴状遺構	85	第 70 図	RA562 (1) 出土遺物	115
第 43 図	RE056 竪穴状遺構	86	第 71 図	RA562 (2)・563 (1) 出土遺物	116
第 44 図	RF063・064 焼土遺構・ RI016 井戸跡	87	第 72 図	RA563 (2) 出土遺物	117
第 45 図	RG464・465・466 溝跡 (西区)	88	第 73 図	RA563 (3) 出土遺物	118
第 46 図	RG457・458・459・460・462・463 溝跡・RG461 堀跡 (東区)	89	第 74 図	RA564 (1) 出土遺物	119
第 47 図	RG453・454・455・456 溝跡 (北東区)	90	第 75 図	RA564 (2) 出土遺物	120
第 48 図	RG442~452 溝跡 (北 I 区)	91・92	第 76 図	RD1060 (1) 出土遺物	121
第 49 図	RZ031 (1) (北 I 区) 柱穴状土坑	93・94	第 77 図	RD1060 (2) 出土遺物	122
第 50 図	RZ031 (2) (北 II 区)・032 (西区) 柱穴状土坑	95	第 78 図	RD1039・1066・1071・1072・1073 1074・1075 出土遺物	123
第 51 図	RZ033 (東区) 柱穴状土坑	96	第 79 図	RE055・056 出土遺物	124
第 52 図	RA185 (1) 出土遺物	97	第 80 図	RG446・447 出土遺物	125
第 53 図	RA185 (2) 出土遺物	98	第 81 図	RG448・449・450 出土遺物	126
			第 82 図	RG453・454 (1) 出土遺物	127

第 83 図	RG454 (2)・456・457・464 出土遺物……………128
第 84 図	北 I・北 II 遺構外 出土遺物……………129
第 85 図	西・東・北東・不明・RE005 攪乱 遺構外 出土遺物……………130
第 86 図	遺構外 出土遺物……………131
第 87 図	住居跡床面積・軸方向分布図……………149
第 88 図	不掲載遺物 遺構別口縁・ 体部数 (1) ……………158

第 89 図	不掲載遺物 遺構別口縁・ 体部数 (2) ……………159
第 90 図	不掲載遺物 器種別口縁・ 体部数……………160
第 91 図	出土土器集成図 (1)……………161・162
第 92 図	出土土器集成図 (2) ……………163
第 93 図	台太郎遺跡・遺構配置図……………164

### 〔写真 図 版〕

写真図版 1	遺物 ……………169
写真図版 2	RG461 堀跡 ……………170
写真図版 3	RB045 掘立柱建物跡・ 東区作業風景 ……………171
写真図版 4	盛南地区の変遷 ……………172
写真図版 5	空中写真 ……………173
写真図版 6	空中写真 ……………174
写真図版 7	空中写真・北 II 区全景 ……………175
写真図版 8	RA185 竪穴住居跡 ……………176
写真図版 9	RA393 竪穴住居跡 ……………177
写真図版 10	RA396 竪穴住居跡 ……………178
写真図版 11	RA547 竪穴住居跡 ……………179
写真図版 12	RA549 竪穴住居跡 ……………180
写真図版 13	RA550 竪穴住居跡 ……………181
写真図版 14	RA551 竪穴住居跡 ……………182
写真図版 15	RA552 竪穴住居跡 ……………183
写真図版 16	RA553 竪穴住居跡 ……………184
写真図版 17	RA554・555 竪穴住居跡 ……185
写真図版 18	RA556 竪穴住居跡 ……………186
写真図版 19	RA557・558 竪穴住居跡 ……187
写真図版 20	RA559 竪穴住居跡 ……………188
写真図版 21	RA560 竪穴住居跡 ……………189
写真図版 22	RA561 竪穴住居跡 ……………190
写真図版 23	RA562 竪穴住居跡 ……………191

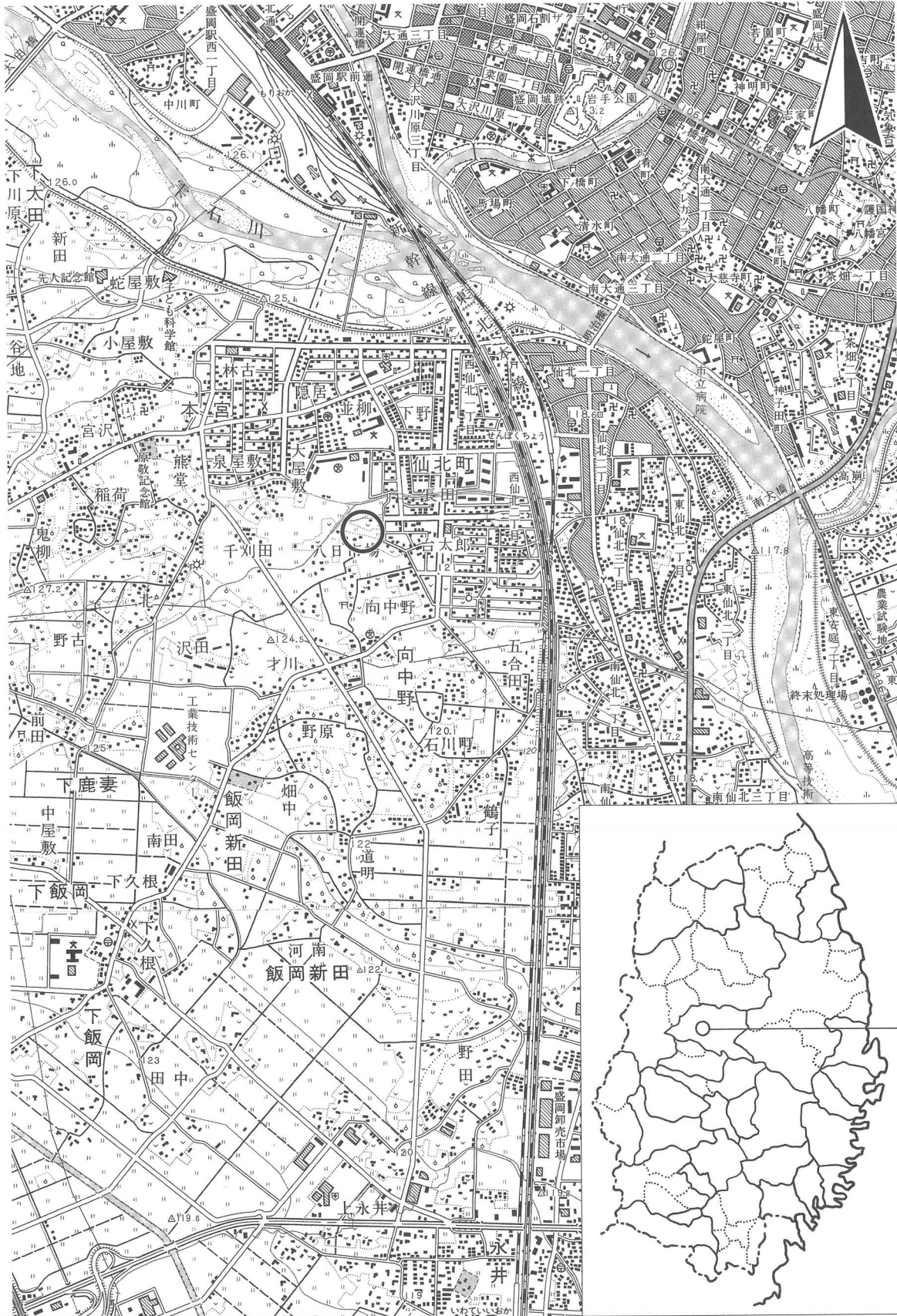
写真図版 24	RA563 竪穴住居跡 ……………192
写真図版 25	RA564 竪穴住居跡 ……………193
写真図版 26	RB044・045 掘立柱建物跡……………194
写真図版 27	RB046・047・048 掘立柱建物跡 ……………195
写真図版 28	RD1039～1042 土坑 ……………196
写真図版 29	RD1043・1045～1047 土坑 ……197
写真図版 30	RD1048～1051 土坑 ……………198
写真図版 31	RD1052～1055 土坑 ……………199
写真図版 32	RD1056～1060 土坑 ……………200
写真図版 33	RD1060～1063 土坑 ……………201
写真図版 34	RD1064・1066～1068 土坑 ……202
写真図版 35	RD1069～1072 土坑 ……………203
写真図版 36	RD1073～1076 土坑 ……………204
写真図版 37	RE055 (1) 竪穴状遺構 ……205
写真図版 38	RE055 (2) 竪穴状遺構 ……206
写真図版 39	RE056 竪穴状遺構 ……………207
写真図版 40	RF063・064 焼土遺構・ RG442 溝跡 ……………208
写真図版 41	RG442～449 溝跡 ……………209
写真図版 42	RG444・446～450 溝跡 ……210
写真図版 43	RG445・451・452 溝跡 ……211
写真図版 44	RG453・454 溝跡 ……………212
写真図版 45	RG455～457 溝跡 ……………213

写真図版46	RG458溝跡 ……………	214	写真図版61	RA556 (3) 出土遺物 ……………	229
写真図版47	RG459・460溝跡 RG461堀跡 ……………	215	写真図版62	RA556 (4) 出土遺物 ……………	230
写真図版48	RG462~465溝跡 ……………	216	写真図版63	RA557・559・560・561 出土遺物 ……………	231
写真図版49	RG463~465溝跡・ RI016井戸跡 ……………	217	写真図版64	RA562 出土遺物 ……………	232
写真図版50	RZ031・RZ033 柱穴状土坑 ……………	218	写真図版65	RA563 出土遺物 ……………	233
写真図版51	RA185 出土遺物 ……………	219	写真図版66	RA564 出土遺物 ……………	234
写真図版52	RA393 出土遺物 ……………	220	写真図版67	RD1060 出土遺物 ……………	235
写真図版53	RA547 (1) 出土遺物 ……………	221	写真図版68	RD1074・1075 RE055・056 (1) 出土遺物 ……………	236
写真図版54	RA547 (2) 出土遺物 ……………	222	写真図版69	RE056 (2) RG444・446・447 出土遺物 ……………	237
写真図版55	RA549 出土遺物 ……………	223	写真図版70	RG448・449・450・453・454 出土遺物 ……………	238
写真図版56	RA550・551 出土遺物 ……………	224	写真図版71	RG456・457・464・北I外・ 北II外 出土遺物 ……………	239
写真図版57	RA553・554・555 (1) 出土遺物 ……………	225	写真図版72	西外・東外・北東外・-2-A・ RE055・出土地点不明 出土遺物 ……………	240
写真図版58	RA555 (2) 出土遺物 ……………	226			
写真図版59	RA556 (1) 出土遺物 ……………	227			
写真図版60	RA556 (2) 出土遺物 ……………	228			

〔表〕

表1	周辺の遺跡……………	10・11	表9	台太郎遺跡不掲載土器一覧 (2)……………	151
表2	北I区柱穴状土坑一覧……………	93・94	表10	台太郎遺跡不掲載土器一覧 (3)……………	152
表3	北II区・西区柱穴状土坑一覧 ……………	95	表11	台太郎遺跡不掲載土器一覧 (4)……………	153
表4	東区柱穴状土坑一覧 ……………	96	表12	台太郎遺跡不掲載土器一覧 (5)……………	154
表5	北I区竪穴住居跡一覧 ……………	132	表13	台太郎遺跡不掲載土器一覧 (6)……………	155
表6	北東区竪穴住居跡一覧 ……………	134	表14	台太郎遺跡不掲載土器一覧 (7)……………	156
表7	西区竪穴住居跡一覧 ……………	136	表15	台太郎遺跡不掲載土器一覧 (8)……………	157
表8	台太郎遺跡不掲載土器一覧 (1)……………	150			





盛岡・矢幅 1 : 25,000

第1図 遺跡の位置

# I 調査に至る過程

## 1 調査に至る過程

盛岡南新都市開発計画は、盛岡市が21世紀に向けて、経済・文化などに対する各機能を兼ね備えた北東北の拠点都市として発展していくことをめざし、現在の既成市街地の他に南部地域を新市街地として開発し、両者が有機的に結びついた軸状都市を形成するために策定された土地区画整理事業である。

この事業は、平成2年9月に岩手県、盛岡市、都南村（現盛岡市）の三者が地域振興整備公団に対して事業要請を行い、これを受けて公団が実施計画を作成した。平成3年12月に建設大臣と国土庁長官から事業の実施許可が下り、平成3年度から平成17年度までの15年間に事業予定期間とし、面積約313haを対象とした土地区画整理事業が実施されることとなった。

この間、事業の対象地域に係わる埋蔵文化財の取り扱いについても協議が重ねられた。その結果、本調査に関しては盛岡市教育委員会が試掘調査を行い、調査を必要とする範囲を確定し、(財)岩手県文化振興事業団の受諾事業とすることとなった。

当遺跡44次調査については、岩手県教育委員会が盛岡市と協議の結果、平成14年度の事業として確定した。これを受け、平成14年4月1日に、(財)岩手県文化振興事業団理事長と盛岡市長との間で委託契約を締結し発掘調査を実施するはこびとなった。野外調査は平成14年4月9日～8月5日迄、室内整理は同年11月1日～翌15年3月31日迄行われた。

## 2 過去の調査

台太郎遺跡は昭和60年に第1次調査が始まる。当初は遺跡として把握されておらず、土地区画整理事業の進行に伴い新たに発見された。以降、平成14年度末までに49次の調査が行われ、調査面積は合計12万㎡にも及ぶ。調査開始以来、竪穴住居跡は合計500棟以上も発見され、古代を中心にした一大集落であることが判明している。今回はそのうち第44次調査についての報告である。

次数	所在地	面積 (㎡)	期間	調査原因	調査期間
1	向中野1丁目地内		85,05,24～06,25	仙北西地区区画整理	盛岡市教育委員会
2	向中野1丁目地内	515	85,07,01～07,31	仙北西地区区画整理	盛岡市教育委員会
3	向中野2丁目3番地内	125	85,11,13～11,30	倉庫改築	盛岡市教育委員会
4	向中野2丁目3番地内	100		共同住宅新築	盛岡市教育委員会
5	向中野1丁目地内	50	89,05,10～05,11	個人	盛岡市教育委員会
6	向中野1丁目地内	302	90,05,07～05,26	個人	盛岡市教育委員会
7	向中野字向中野36-3	138	91,04,25～05,08	新築住宅	盛岡市教育委員会
8	向中野2丁目7番	830	91,06,17～06,27	タクシー会館新築	盛岡市教育委員会
9	向中野字向中野40	50	93,05,11	農作業小屋新築	盛岡市教育委員会
10	向中野字八日市場地内	12,00	95,04,04～04,06	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
11	向中野1丁目9番地内	320	95,06,19～06,27	倉庫新築	盛岡市教育委員会
12	向中野字八日市場地内	5,176	95,09,01～11,30	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
13	向中野字八日市場地内	4,064	96,10,14～10,25	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
14	向中野2丁目3番地内	25	96,11,25～11,29	下水道引込管工事	盛岡市教育委員会
15	向中野字八日市場地内	12,906	97,04,04～11,26	盛南開発関連	県埋文センター
16	向中野字八日市場地内	790	97,08,10～08,29	盛南開発関連	県埋文センター
17	向中野字向中野地内	10	97,08,23	個人下水配管工事	盛岡市教育委員会

18	向中野字八日市場地内	26,404	98,04,15~11,20	盛南開発関連	県埋文センター
19	向中野字八日市場地内	4,755	98,07,02~08,31	盛南開発関連	県埋文センター
20	向中野字向中野地内	1,400	98,09,17~12,21	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
21	向中野 2 丁目 4 番地内	324	98,09,25	車庫新築	盛岡市教育委員会
22	向中野字向中野地内	2,500	99,09,01~11,02	盛南開発関連(県警待機宿舎)	県埋文センター
23	向中野字八日市場地内	27,800	99,04,16~11,15	盛南開発関連	県埋文センター
24	向中野字中野地内	3,425	99,05,06~07,16	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
25	向中野字八日市場地内	2,141	99,07,07~12,15	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
26	向中野字向中野地内	14,229	00,04,19~10,31	盛南開発関連	県埋文センター
27	向中野字八日市場地内	2,513	00,06,12~11,14	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
28	向中野字八日市場地内	460	00,06,29~09,08	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
29	向中野字向中野	125	00,07,19~08,25	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
30	向中野字八日市場	35	00,07,25~07,31	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
31	向中野字八日市場	128	00,08,01~08,08	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
32	向中野字八日市場地内	1,030	00,09,18~10,20	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
33	向中野字八日市場地内	694	00,09,22~10,13	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
34	向中野 2 丁目	156	00,11,20~11,22	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
35	向中野字向中野地内	4,394	01,04,17~08,02	盛南開発関連	県埋文センター
36	向中野字向中野地内	290	01,05,22~06,05	盛南開発関連	県埋文センター
37	向中野字向中野20他	872	01,05,28~06,22	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
38	向中野字向中野	309	01,06,01~06,15	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
39	向中野字八日市場地内	1,096	01,08,01~11,02	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
40	向中野字八日市場	300	01,08,01~09,19	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
41	向中野字八日市場	220	01,08,02~09,19	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
42	向中野字八日市場	123	01,11,26~12,12	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
43	向中野字向中野	112	01,11,26~12,12	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
44	向中野字八日市場地内	2,907	02,04,09~08,05	盛南開発関連	県埋文センター

## II 遺跡の位置

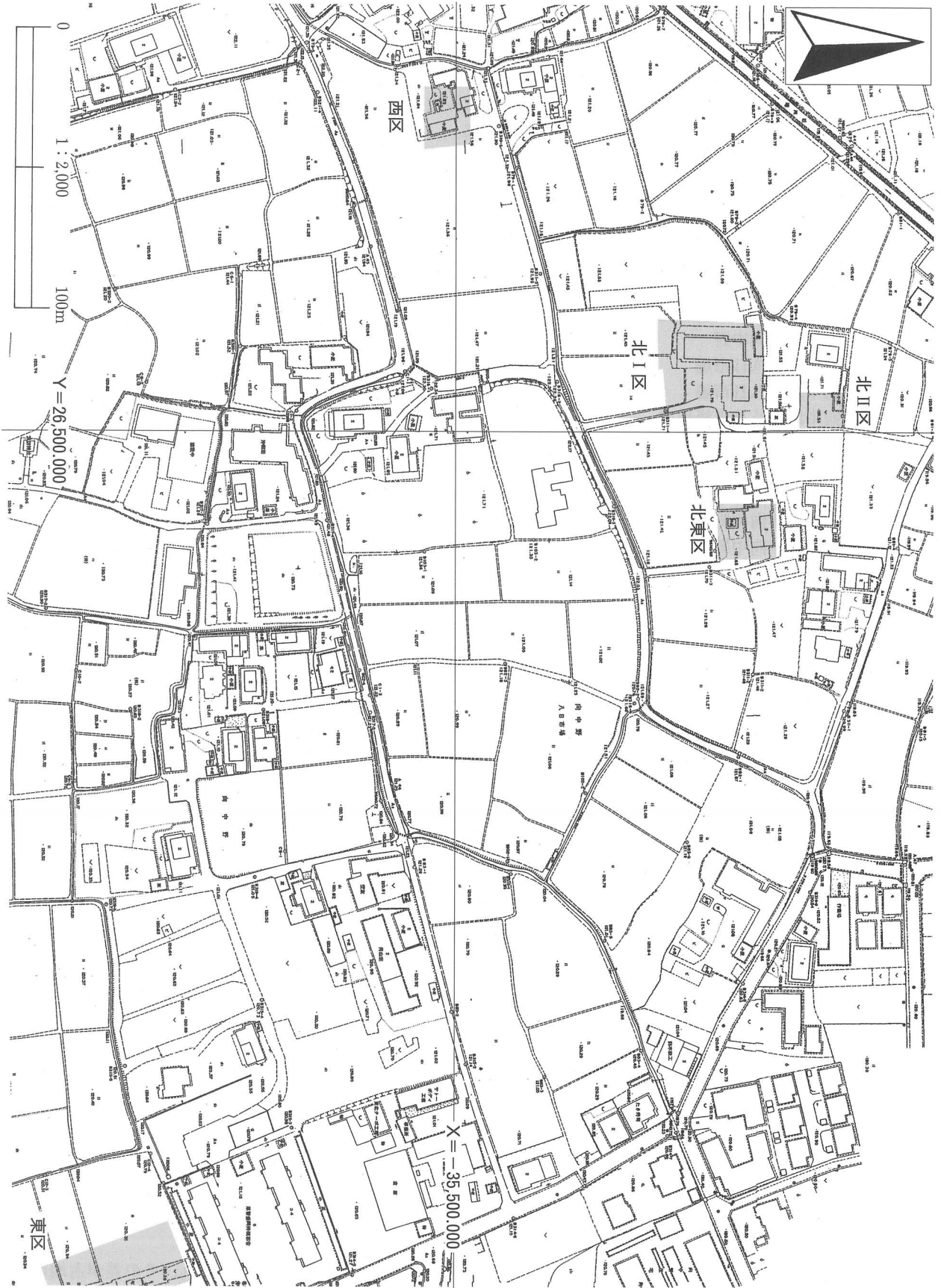
### 1 遺跡の位置

台太郎遺跡の所在する盛岡市は、岩手県の中央部に位置している。総面積は489.15km<sup>2</sup>、人口288,318人(平成15年2月1日現在)、東側は下閉伊郡岩泉町と川井村、西側が岩手郡雫石町、南側が紫波郡矢巾町と紫波町及び稗貫郡大迫町、北側が岩手郡滝沢村と玉山村の5町3村に隣接する。南部藩主南部重直公による盛岡城完成の1633年より経ること370年、現在岩手県の県庁所在地であり、北東北における中核都市として発展を続けている。

台太郎遺跡は、岩手県盛岡市向中野字八日市場41-1他に所在し、国土地理院発行の2万5000分の1の地図「盛岡」NJ-54-13-14-2(盛岡新庄14号-2)の図幅に含まれ、北緯39度40分47秒、東経141度8分40秒付近、JR東北本線仙北町駅の西約900m、奥羽山脈より東流する雫石川右岸の微高地上に位置する。

第44次調査は、宅地間の5区からなる。畑地であった東区を除き、建物の基礎や配水管工事の影響で遺構の残存状態はよくなかった。東区は昨年度行われた第35次、北区は当センター第18次と盛岡市教委調査区、西区は当センター第23次、北東区は盛岡市教委調査区に隣接している。

調査区の標高値は123m前後と概ね平坦であるが、その中でも若干の高低差がみられ、その差が占地の状況を微妙に左右する。



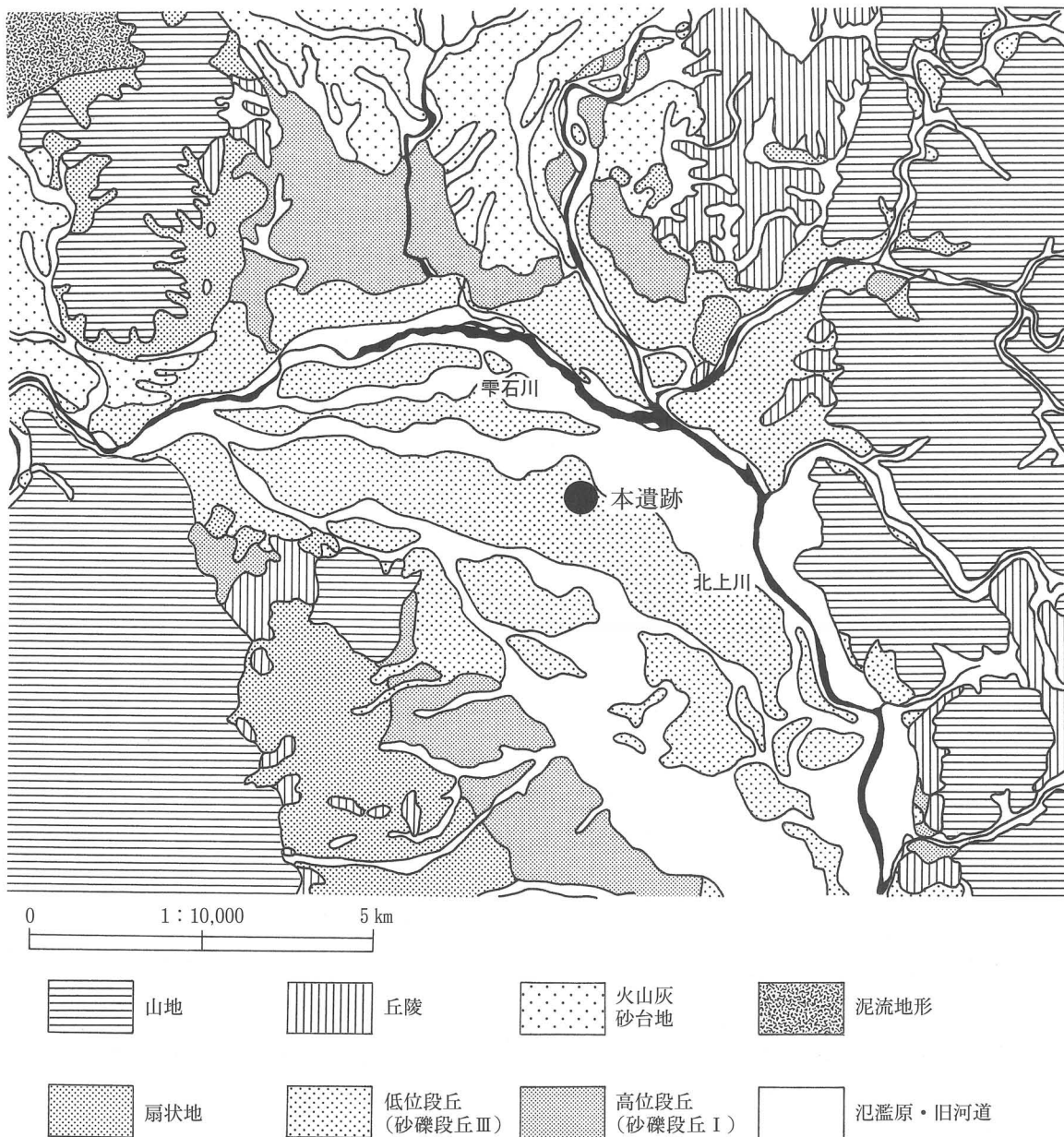
第2図 調査区と周辺の地形

## 2 遺跡周辺の地形と地質

盛岡市は東西に迫る山々に挟まれた盆地を中心に広がる緑と水の街である。市街地からは北西にコニーデ火山特有の裾野を東側に広げる岩手山（標高2038.2m）、北東側に姫神山（1124.5m）、南東側に霊峰早池峰山（標高1917m）を望むことができる。いずれも、歌人石川啄木が遠い異郷からその姿を詠み、詩人宮澤賢治が自らの中の宇宙を見つめながら生命の輝きを讃えた山々である。

また、盛岡市は水の街でもある。東北新幹線が盛岡駅に近づきスピードを落とす頃、まず目にはいるのは白鳥が羽根を休める緩やかな北上川の流れである。急峻な山々に囲まれた盆地は、また、北上川とその支流中津川・梁川・雫石川が合流し、力強く南下を始める地点である。

北上川は東北地方最大の1級河川で、主流部の延長294km、流域面積10,250km<sup>2</sup>、支流数216を有し、西側に



第3図 地形分類

連なる奥羽脊梁山脈と東側に広がる北上山地の間の底地帯を涵養し、宮城県石巻湾に注いでいる。古代より人と物の流れは北上川により司られ、時には荒れ狂う自然の恐ろしさを人間に知らしめ、またある時にはその豊かな恵みを人々に分け与えてきた大河である。流域は、盛岡市北部の四十四田峡谷と一関市弧禅寺峡谷を境にして上・中・下流に分けられており、盛岡市は中流域北部にあたる。

中流域の地形は、背後に控える山地構造の違いにより対照的な様相を呈している。新第三系及び火山岩類を主体とする褶曲山地である奥羽山脈は、各支流に多量の土砂を供給し、西岸に大小の扇状地が複合する広い平野部を作り出している。これらの扇状地は更新世中・後期に形成されたもので、支流によって開析され段丘化している。これに対して老年期山地がその後の地殻変動によって隆起準平原化した北上山地側では、山地に続く丘陵縁辺部に小規模な段丘と沖積地が観察されるにすぎない。

北上川流域の第四系及び地形の研究は中川久夫ほかの業績が大きく、中流域の段丘を上部から西根段丘、村崎野段丘、金ヶ崎段丘に分類した。中流域北部ではこれらに相当するものとして石鳥谷段丘、二枚橋段丘、都南段丘が設定されている。

本遺跡の所在する北上川中流域北部右岸では、大規模な平野と奥羽脊梁山脈から供給される多量の堆積物による扇状地が形成されており、雫石川以南北上川以西には雫石川の下刻・堆積作用により高位から順に「砂礫段丘Ⅰ」「砂礫段丘Ⅱ」「砂礫段丘Ⅲ」の沖積段丘面が形成されている。低位の「砂礫段丘Ⅲ」面には雫石川の河道変遷に伴う4期にわたる旧河道が確認されている。文献史料によれば、志波城は雫石川の水害が原因で廃絶したとされており、発掘の結果からも志波城北辺部分は雫石川の旧河道によりきられて消失していることが確認されている。さらに小河川の河道痕跡が網目状に入り組んでおり、小規模な自然堤防状の微高地を形成する。本遺構を含めた古代遺跡の多くは「砂礫段丘Ⅲ」面の微高地や扇状地の縁辺部に位置している。

### 3 基本層序

調査区内の現状の地形はほぼ平坦であるが、宅地化、道路整備、耕地整理等による削平で旧地表面の改変も見られ、表土下位の地層は一様ではない。

北区・北東区・西区は調査区が宅地及び畑地であったため、攪乱が地山付近まで至り、遺構が壊れている場合が多かった。このような状態の中、地表面下の薄いⅢ層下面（主に漸移層）～Ⅳ層上面（主に地山層）で遺構を検出した。ただ、攪乱部分の下に遺構が全部または一部が残っている場合が多く、不用意に掘り進めない状態であった。西区の南側は旧河道へ続き、古代の遺構は検出されなかった。

それに対して、東区は水田と畑地に利用されていた時期が長いいためか、部分的にⅢ層が厚く、Ⅲ層下面において残存状態の良好な形で遺構プランを検出することが出来た。東区南西部分においてはⅢ層下位より礫層に至り西側に続く。

### 4 周辺の遺跡

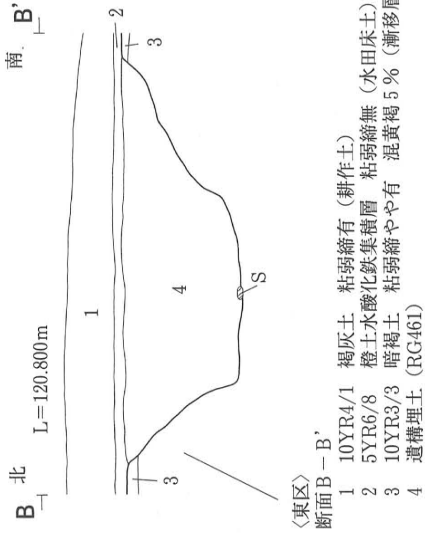
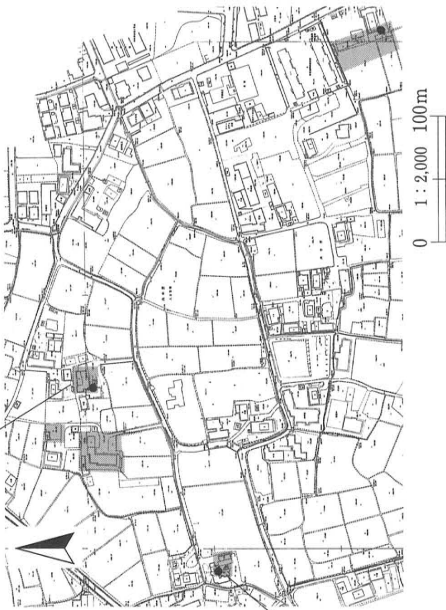
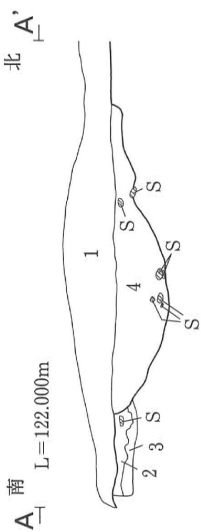
盛岡市内における遺跡は、岩手県遺跡台帳平成7年度によれば、521箇所余が登録されている。第5図は台太郎遺跡周辺の主な遺跡の分布を雫石川右岸を中心に図示したものである。これらの遺跡分布状況を見ると、雫石川左岸（北岸）と右岸（南岸）では対照的な様相を示している。

左岸の台地上には、大館遺跡群をはじめとする縄文時代の集落群が数多く分布している。それに対し右岸の低位段丘面上には、縄文時代の遺構は陥し穴状遺構が散在する程度となり、僅かに熊堂A遺跡から縄文時

<北東区>

断面 A-A'

- 1 10YR3/2 黒褐土 粘中締やや有 混拳大礫若干 (宅地造成時盛土)
- 2 10YR2/2 黒褐土 粘弱締有 混小礫若干 (自然堆積層)
- 3 10YR3/3 暗褐土 粘弱締やや有 混黄褐3% (漸移層Ⅲ層)
- 4 遺構埋土 (RG453)



<東区>

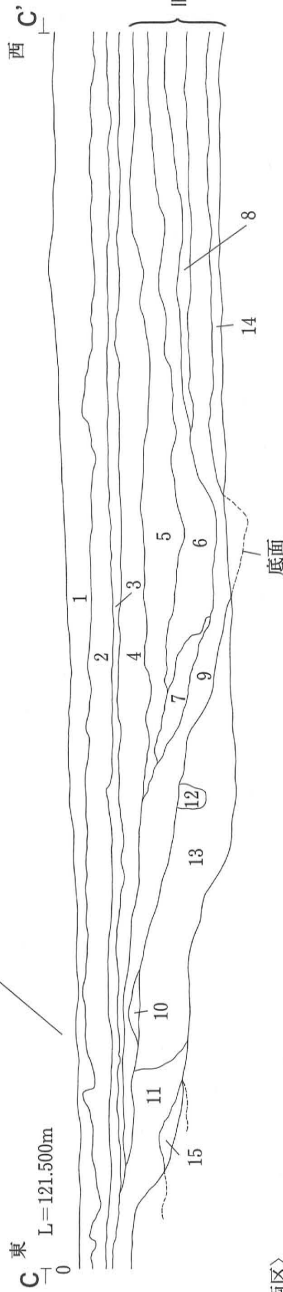
断面 B-B'

- 1 10YR4/1 褐灰土 粘弱締有 (耕作土)
- 2 5YR6/8 橙土水酸化鉄集積層 粘弱締無 (水田床土)
- 3 10YR3/3 暗褐土 粘弱締やや有 混黄褐5% (漸移層Ⅲ層)
- 4 遺構埋土 (RG461)

<西区>

断面 C-C'

- 1 10YR5/1 褐灰土 粘弱締有 (盛土層)
- 2 10YR4/2 褐黄褐土 粘弱締有 混水酸化鉄5% (盛土層)
- 3 5YR6/8 暗褐土 粘弱締有 混黄褐50% 水平に集積 (水田床土)
- 4 10YR2/3 黒褐土 粘弱締有 混水酸化鉄10%と土師器片 (耕作土)
- 5 10YR2/2 黒褐土 粘中締やや有 混にぶい黄橙砂5%水酸化鉄3% (旧河道埋土)
- 6 7.5YR4/1 褐灰土 粘強締やや有 混水酸化鉄5%やややグラライ化の様相 (旧河道埋土)
- 7 7.5YR4/2 灰褐土 粘強締やや有 混水酸化鉄5%やややグラライ化の様相 (旧河道埋土)
- 8 10YR2/1 黒土 粘強締やや有 混水酸化鉄3%やややグラライ化の様相 (旧河道埋土)
- 9 10YR2/2 黒褐土 粘強締やや有 混水酸化鉄3% (旧河道埋土)
- 10 10YR3/2 黒褐土 粘やや有締有 混水酸化鉄3%小礫 (1~3cm大) 50% (旧河道埋土)
- 11 10YR4/2 灰黄褐砂礫層 粘無締有 混水酸化鉄3%
- 12 2.5GY2/1 黒土 粘強締やや有 混水酸化鉄3% 柱穴状土坑かグラライ化の様相
- 13 10YR5/2 灰黄褐土 粘強締やや有 混水酸化鉄3%・層厚不明 (地山層)
- 14 10YR4/1 褐灰土 粘強締やや有 混水酸化鉄3%グラライ化の様相・層厚不明 (旧河道埋土)
- 15 10YR5/3 にぶい黄褐砂 粘無締やや有 混水酸化鉄3% (河岸の砂)



第4図 調査区各地点の順序

代晩期の竪穴住居跡が1棟発見されたにすぎない。しかし、古代の遺跡は多く、八掛遺跡などの8世紀時代の集落跡や太田蝦夷森古墳群、延暦22年(803)に造営された古代城柵である志波城や林崎遺跡などの集落跡も数多く分布している。このような遺跡の分布域の相違は立地する地形面と大きく係わるものと考えられる。以下は近年周辺で調査された志波城跡、熊堂B遺跡、野古A遺跡、飯岡沢田遺跡の調査概要である。

#### (14) 志波城跡

本遺跡の北西約2kmに位置する太田方八丁遺跡は、昭和51・52年に東北縦貫自動車道建設に伴う調査が行われた。その後に盛岡市教育委員会による範囲確認調査を経て、所在地が不明であった古代城柵『志波城跡』と認定された。昭和55年度から59年度に亘る5カ年計画による発掘調査によって、陸奥の国最北端の城柵跡としての独自性が明らかになるに至り、昭和59年に国指定史跡となった。

発掘調査は昭和55年から毎年継続して行われており、平成14年度迄に第93次調査を数えている。平成5年度からは史跡保存整備事業も着手され、櫓および築地塀の復元工事が行われている。

#### (30) 熊堂B遺跡

JR仙北町駅の西約1.5kmに位置し、雫石川右岸の標高123m前後の河岸段丘上に立地している。調査区の現況は休耕田と畑地である。盛岡市教委と当センターで第13次までの調査が行われ、奈良～平安時代の集落跡が確認されている。平成14年度の第14・15次調査の結果、検出した遺構は竪穴住居跡13棟、土坑52基、溝跡19条、竪穴状遺構1基、柱穴状土坑、出土遺物は土師器(坏・高台付坏・甕)須恵器、土製品(勾玉)、鉄製品(刀子等)と縄文土器片である。

#### (34) 野古A遺跡

JR仙北町駅の西約1.5kmに位置し、雫石川右岸の河岸段丘上に立地している。調査区の現況は畑地と果樹園である。段丘縁下から北50mの位置には熊堂B遺跡が、南側には幅約5mの「鹿妻堰」を隔てて飯岡沢田遺跡が隣接する。

平成13年度と同14年度の2ヶ年にわたる当センターによる約10,000㎡の調査の結果、検出した遺構は竪穴住居跡40棟(古墳時代末期1棟、奈良時代18棟、平安時代21棟)、掘立柱建物跡1棟、陥し穴状土坑5基、墓壇8基、土坑54基、溝跡14条、焼土遺構1基、柱穴状小土坑などである。主な出土遺物は、土師器(坏・高坏・高台付坏・甕・耳皿・小型壺)、須恵器(坏・甕・壺)、土製品(紡錘車・円盤状土製品)、石製品(硯・砥石)、鉄製品(刀子)、陶磁器である。残りの良い竪穴住居跡が多数検出され、当遺跡が段丘縁辺部に立地した、主に奈良～平安時代の集落跡であったことを確認した。

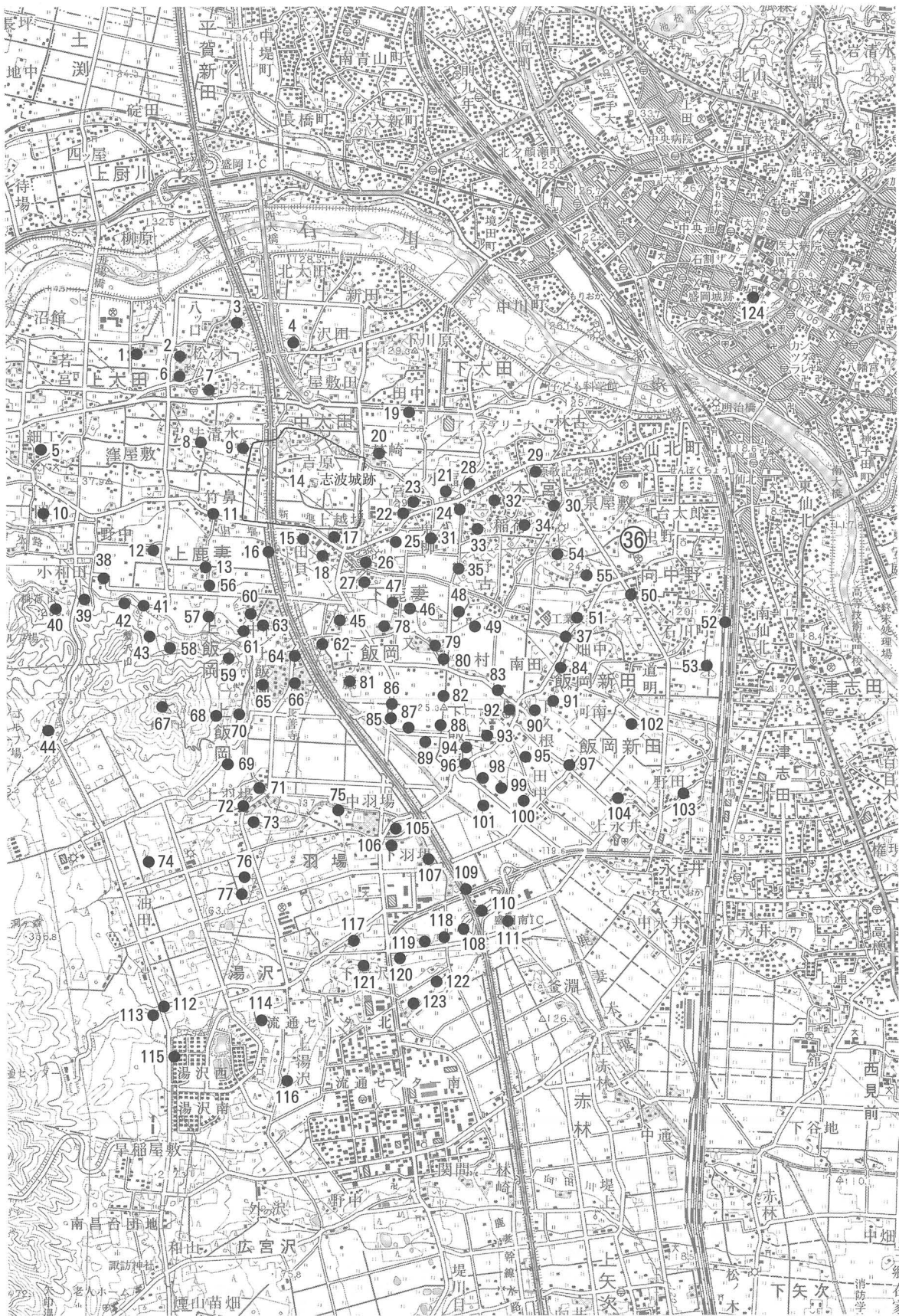
#### (54) 飯岡沢田遺跡

JR仙北町駅の西約1.5kmに位置し、雫石川南岸の河岸段丘上に立地している。調査区の現況は畑地、果樹園と休耕地である。本遺跡の西側に「鹿妻堰」を隔てて野古A遺跡が隣接する。

平成13年度と同14年度の2ヶ年にわたる当センターによる約13,400㎡の調査の結果、主に奈良～平安時代の古墳及び円形・方形周溝が45基、中世のものと考えられる大形の方形周溝が1基、古代の竪穴住居跡が20棟(古墳時代末期2棟、奈良時代11棟、平安時代7棟)、掘立柱建物跡2棟、土坑86基、溝跡12条、竪穴状遺構5棟、及び縄文時代の陥し穴状土坑を検出した。多くの古墳及び円形・方形周溝群を多数検出したことから、当遺跡は奈良～平安時代を中心にした墓域であったことを確認した。

((30)(34)(54)の内容は、『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第423集：岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成14年度)』による。)





第5図 周辺の遺跡

表1 周辺の遺跡(1)

No.	遺跡名	種別	時代 / 備考
1	細田	散布地	平安/土師器
2	松ノ木	集落跡	平安/土師器
3	八ツ口	散布地	古代/土師器/住居跡
4	八掛	集落跡	古代/土師器/住居跡/土坑
5	太田蝦夷森古墳	古墳	奈良/土師器/刀・玉/和同開珎
6	館	集落跡	平安/土師器/住居跡/城館跡/堀
7	上野屋敷	散布地	古代/土師器
8	畑中	集落跡	古代/土師器
9	小沼	集落跡	平安/土師器・緑釉陶器/住居跡
10	一本木	集落跡	平安/土師器/住居跡
11	五兵衛新田	集落跡	古代/土師器
12	天沼	集落跡	古代/土師器
13	竹鼻	集落跡	古代/土師器
14	志波城	城柵跡	平安/土師器/掘立柱建物跡/門跡
15	田貝	集落跡	古代/土師器/住居跡
16	竹花前	集落跡	平安/土師器・緑釉陶器/住居跡
17	新堀端	城柵跡	縄文・古代/縄文土器(晩)・土師器
18	石仏	集落跡	古代/土師器
19	田中	散布地	平安/土師器
20	林崎	集落跡	平安/土師器/掘立柱建物跡
21	小幅	集落跡	平安/土師器/住居跡/掘立柱建物跡
22	大宮	集落跡	古代・中世/土師器/住居跡
23	大宮北	散布地	平安/土師器/住居跡/土坑/溝跡
24	鬼柳A	集落跡	古代/土師器
25	小林	集落跡	古代/土師器
26	水門	集落跡	古代/土師器
27	上越場	集落跡	古代/土師器
28	宮沢	散布地	平安/溝状遺構
29	熊堂A	散布地	縄文/縄文土器(晩)/住居跡等
30	熊堂B	集落跡	奈良～近世/土師器/住居跡/土坑/掘立柱建物跡
31	鬼柳B	集落跡	古代/土師器
32	稲荷	集落跡	平安/土師器・須恵器/溝跡
33	鬼柳C	集落跡	古代/土師器
34	野古A	集落跡	古墳末～平安/土師器・須恵器/住居/溝跡/土坑
35	野古B	散布地	古代/土師器
36	台太郎	集落跡	奈良～近世/土師器/住居跡/溝跡/掘立柱建物跡
37	矢盛	集落跡	平安/土師器/住居跡/土坑/溝跡
38	蟹沢下	散布地	古代/土師器
39	二ツ沢	散布地	縄文・古代/土器(中・後)/土師器
40	小和田館	城柵跡	中世/堀/郭
41	蟹沢	散布地	縄文・古代/縄文土器・土師器
42	へび堂	散布地	縄文・古代/縄文土器・土師器
43	オミ坂	散布地	縄文・平安/縄文土器・土師器
44	大ヶ森	散布地	縄文・古代/縄文土器・土師器
45	辻屋敷	集落跡	古代/土師器
46	西田A	集落跡	古代/土師器
47	上越場B	集落跡	古代/土師器
48	西田B	集落跡	古代/土師器・須恵器
49	前田	集落跡	古代/土師器
50	向中野館	城柵跡	中世/堀/土塁
51	細谷地	集落跡	平安/土師器/住居跡・陥穴状土坑/溝
52	南仙北	集落跡	縄文・古代/縄文土器・土師器
53	向中野幅	集落跡	古代/土師器
54	飯岡沢田	集落跡	古墳末～中世/土師器・須恵器/古墳/周溝/環濠/住居
55	飯岡才川	集落跡	平安/土師須恵/円形周溝/掘立柱建物跡/住居
56	中村	散布地	平安/土師器・須恵器
57	月見山	散布地	縄文・古代/土師器
58	山中	散布地	縄文・古代/縄文土器・土師器
59	飯岡館	城柵跡	中世/縄文/縄文土器(中)/空堀
60	飯岡堤	散布地	縄文・古代/縄文土器・土師器
61	高館古墳群	古墳	奈良～平安/土師器・蕨手刀
62	藤島II	散布地	平安?/土師器

No.	遺 跡 名	種別	時代 / 備考
63	高 館	集落跡	縄文/縄文土器(中)・石器
64	大 柳 I	散布地	古代/土師器・須恵器
65	大 柳 II	散布地	古代?/土師器
66	館 野 前	散布地	縄文/縄文土器(後)
67	飯 岡 山 館	城館跡	中世
68	飯 岡 赤 坂	散布地	古代
69	い た こ 塚	祭祀跡	近世
70	赤 坂 II	散布地	平安?/土師器
71	羽 場 館	城館跡	中世/空堀
72	羽 場 百 目 木	散布地	縄文/縄文土器(中)
73	砂 子 塚	散布地	古代/小塚
74	ア イ ノ 野	散布地	縄文/縄文土器(晩)
75	因 幡	散布地	縄文・古代/縄文土器・土師器
76	木 節	集落跡	平安
77	福 千 代	集落跡	奈良
78	二 又	散布地	古代/土師器・須恵器
79	内 村	集落跡	平安/土師器・常滑
80	中 屋 敷	散布地	古代/土師器
81	藤 島 I	集落跡	縄文・古代/縄文土器・土師器
82	深 淵 I	集落跡	平安/住居跡
83	高 屋 敷	散布地	古代/住居跡
84	法 領 権 現 塚	祭祀跡	時代不明
85	飯 岡 林 崎 II	集落跡	古代/土師器・須恵器・硯/住居跡
86	飯 岡 林 崎 I	集落跡	平安/土師器
87	上 新 田	集落跡	平安/土師器/住居跡
88	深 淵 II	集落跡	平安/住居跡
89	上 新 田 I	集落跡	平安/住居跡/上新田と重複
90	下 久 根 I	散布地	縄文・古代/縄文土器・土師器
91	石 持	散布地	古代/土師器・須恵器
92	高 屋 敷 II	散布地	平安/土師器・須恵器
93	西	集落跡	平安/土師器/住居跡
94	西 田	集落跡	平安/須恵器
95	下 久 根 II	散布地	縄文・古代/縄文土器
96	熊 堂 I	集落跡	縄文・古代/縄文土器・土師器
97	松 島	集落跡	古代/土師器・須恵器
98	熊 堂 III	集落跡	平安/土師器・須恵器/住居跡
99	熊 堂 II	集落跡	平安/土師器・須恵器/住居跡
100	田 中	集落跡	平安/土師器・須恵器・石器
101	南 谷 地	集落跡	平安/土師器・須恵器/住居跡
102	夕 覚	散布地	古代/土師器
103	横 屋	集落跡	古代/土師器・須恵器
104	葛 本	散布地	古代/土師器・石器
105	新 井 田 I	散布地	古代/土師器・須恵器
106	新 井 田 II	散布地	古代/土師器・須恵器
107	新 井 田	集落跡	平安/土師器・須恵器
108	間 渡 I	散布地	古代/土師器
109	下 羽 場	集落跡	平安/土師器・須恵器・緑釉陶器
110	下 湯 沢	散布地	古代/土師器・須恵器
111	大 湯 島	散布地	古代/土師器・須恵器
112	湯 壺	散布地	縄文/縄文土器(晩)・石器
113	湯 壺 経 塚	経 塚	中世/常滑
114	後 湯 島	散布地	縄文/縄文土器・石器
115	湯 沢	散布地	縄文/縄文土器(前・中・後)
116	島	墳 墓	時代不明/小塚
117	小 田 I	散布地	古代/土師器
118	間 渡 II	散布地	古代/土師器・須恵器
119	間 渡 III	散布地	古代/土師器・須恵器
120	森 子	散布地	古代/土師器
121	小 田 II	散布地	平安/土師器
122	湯 沢 大 館	城館跡	古代～中世/土師器・須恵器
123	猪 沢	散布地	古代/土師器
124	盛 岡 城	城館跡	中世～近世/瓦・陶磁器・その他

### Ⅲ 調査の方法と室内整理

#### 1 野外調査

##### (1) 調査の過程

平成14年4月9日 台太郎遺跡第44次調査開始（調査員2名作業員19名）

4月上旬～下旬にかけ、北区→東区→西区試掘の後重機による表土掘削と遺構検出。

4月30日～5月1日 北区のグリッド設営

5月2日 北区検出と精査開始

5月13日～17日 新任者研修（東区中心に検出と精査）

7月3日 北区（Ⅰ・Ⅱ区）の精査終了 北東区の精査に着手

7月11日～7月12日 台風による降雨のため野外調査出来ず。被害少。

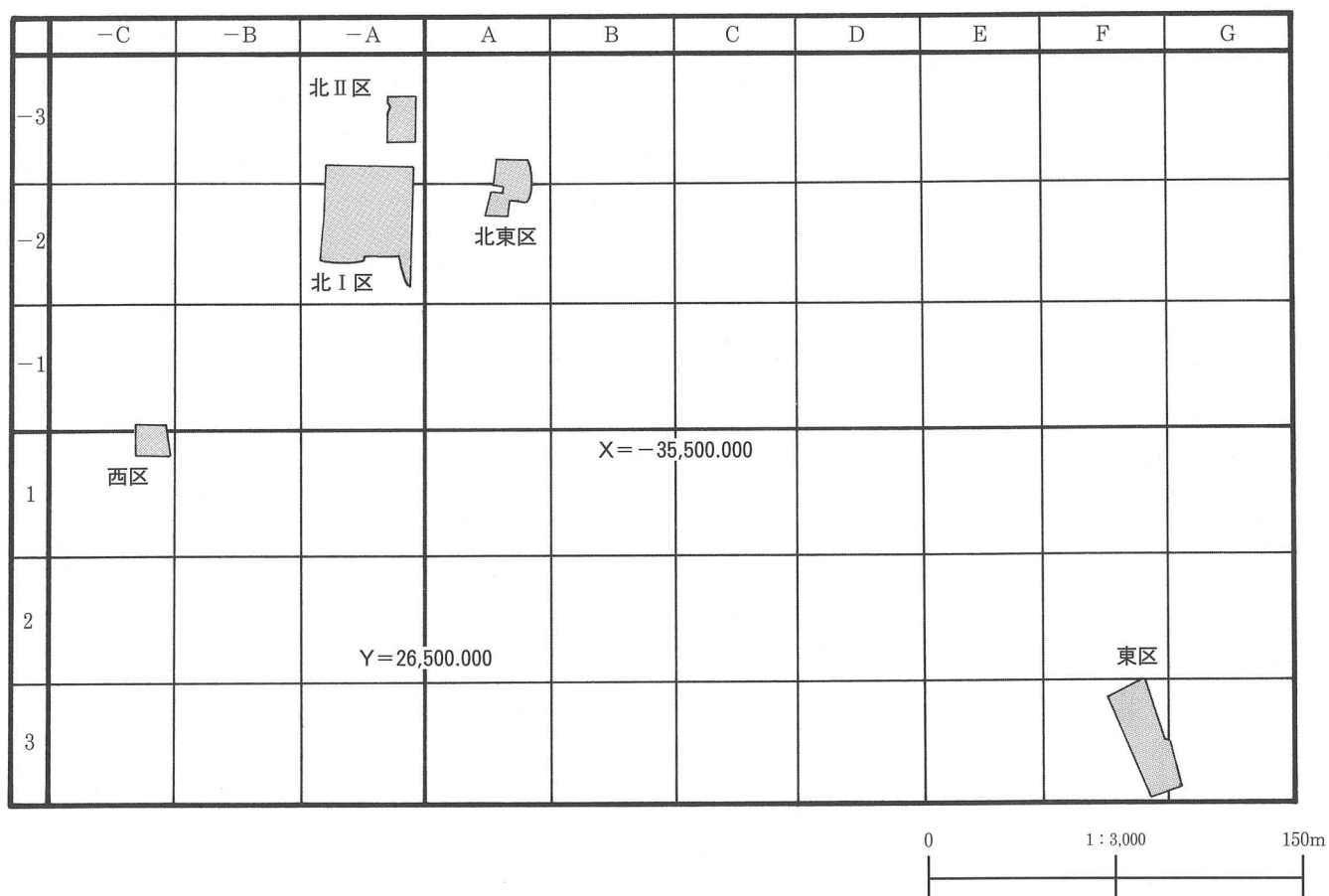
7月15日 北東区の精査終了 東区の精査開始

7月16日 再び台風による降雨のため野外調査出来ず。西区冠水

7月25日 西区精査開始 同日終了確認

7月27日 午後現地説明会 約40人の参加者有り。

7月31日 航空写真撮影 遺構配置図と同じ写真がモニターに映った。



第6図 グリッド配置図

8月1日 予定していた調査を終え、午後現場撤収、野古A遺跡へ移動する。

8月5日 埋戻し終了

暑く長い初夏の日々であった。

## (2) グリッドの設定

グリッドの設定にあたっては、盛岡市教育委員会の方針に準じ、平面直角座標第X系を座標変換した調査座標を用いた。台太郎遺跡の調査座標原点は、 $X = -35,500.000$ 、 $Y = +26,500.000$ である。この座標原点を基点として、遺跡全体を一辺50mの大グリッドに区画した。北西隅を基点に、東方向へはアルファベットの大文字でA～Y、南方向へは1～25の数字を付して、これを組み合わせて1A、2B、24X、25Yというように表示した。小グリッドは大グリッドを25等分して $2 \times 2$  mに区画し、北西隅を基点に東方向へはa～y、南方向へは1～25をつけて1a、1b、25yというような設定にした。

報告書への掲載には、過去の台太郎遺跡報告書に準じ、-3-A25b、3F24g というように表示している。

## (3) 粗掘りと遺構検出

今次調査に先立ち、盛岡市教育委員会および当センターの過去の調査結果から、今次調査対象区域のほぼ全面について遺構と遺物の状況がある程度把握されていた。このため、層序が比較的単純でしかも地形が水平であること、灰黄褐色土（I層）中には遺物が僅少であることから、粗掘りには重機（パワーショベル）を使用し、その後人力によって遺構の検出を行った。

## (4) 遺構の命名

検出した遺構の命名については盛岡市教育委員会の方法に準じ、下記の通りに行った。各種遺構の遺構番号は、第3次調査からの通し番号で付しており、欠番となっているものについては調査進行中、または整理作業の過程で遺構としての認定から除外したものである。

竪穴住居跡・RA 掘立柱建物跡・RB 柱穴列・RC 土坑・RD 竪穴状遺構・RE  
炉・焼土遺構・RF 溝跡・RG 井戸跡・RI その他・RZ

調査途中で種別を決めかねた遺構については、全てその他として扱った。

## (5) 遺構の精査と実測・遺物の取り上げ

検出された遺構は、竪穴住居跡・竪穴状遺構および土坑類を除く遺構は4分法、土坑については2分法を原則とし精査を行った。ただし、必要に応じてはその他の方法も併用した。記録として必要な図面及び写真撮影は、精査の各段階で適宜これを行った。溝跡については一部平板測量で平面図を作成した。

実測図の縮尺は1/20を基本とし、平面図と断面図を作成した。

遺構内出土遺物は、埋土の場合上層・中層・下層に分けて取り上げた。遺構外出土遺物については、調査区毎に出土位置または層位を記して取り上げた。

## (6) 写真撮影

野外調査での写真撮影は、 $6 \times 7$  cm判カメラ（モノクロ）と35mm判カメラ（モノクロとりバーサルフィルム）を使用し、この他にポラロイドカメラ1台とデジタルカメラ1台をメモ的な用途として使用した。撮影にあたっては、撮影内容を記載した「撮影カード」を事前に写し、整理時の混乱を防止した。また、調査終了間近に小型飛行機による空中写真の撮影を実施した。

## 2 室内整理と掲載方法

野外調査の終了後、平成14年11月1日～平成15年3月31日の期間に、調査記録及び出土遺物の整理を行った。整理作業の大きな内容は以下の通りである。

### (1) 遺構

遺構の実測図は遺構毎の分類・整理及び点検を行った後に、第二原図（修正図）を作成しトレースした。次に図版・写真図版を作成した。原図と第二原図には番号を付して、図面台帳を作成した。

遺構配置図は、発掘作業時に作成した原図をもとに1/100の第二原図を作成し、印刷仕上がり1/300で掲載した。各遺構図面は以下の縮尺を原則としたが、一部に変更もあり、図面にそれぞれスケール・縮尺率を付した。

竪穴住居跡	平面図1/60	断面図1/60	掘立柱建物跡	平面図1/100	断面図1/100
土坑	平面図1/60	断面図1/60	竪穴状遺構	平面図1/60	断面図1/60
溝跡	平面図1/150	断面図1/60	焼土・井戸跡	平面図1/40	断面図1/40

### (2) 遺物

野外調査の段階で出土遺物の洗浄を行っており、平成14年8月～9月にかけて当センター調査課室内作業員に遺物の注記・接合・一部登録を依頼することが出来た。土器については、遺構・グリッド別に注記・接合・復元・選別・登録を行った。登録については、出土遺物の多い遺構については立体として反転実測可能な状態まで接合した土器、出土遺物の少ない遺構についてはその基準を破片実測可能な土器まで下げた。

登録した遺物は、実測・拓影作成・写真撮影を行った後、図版・写真図版を作成した。

土器の実測は、原則として反転可能なものに限ったが、一部は破片実測して掲載した。掲載遺物の縮尺率は原則として、土師器・須恵器・縄文土器片・弥生土器片は1/3、石器は原寸・1/2又は1/3、鉄製品1/2、土製品1/2又は1/3である。

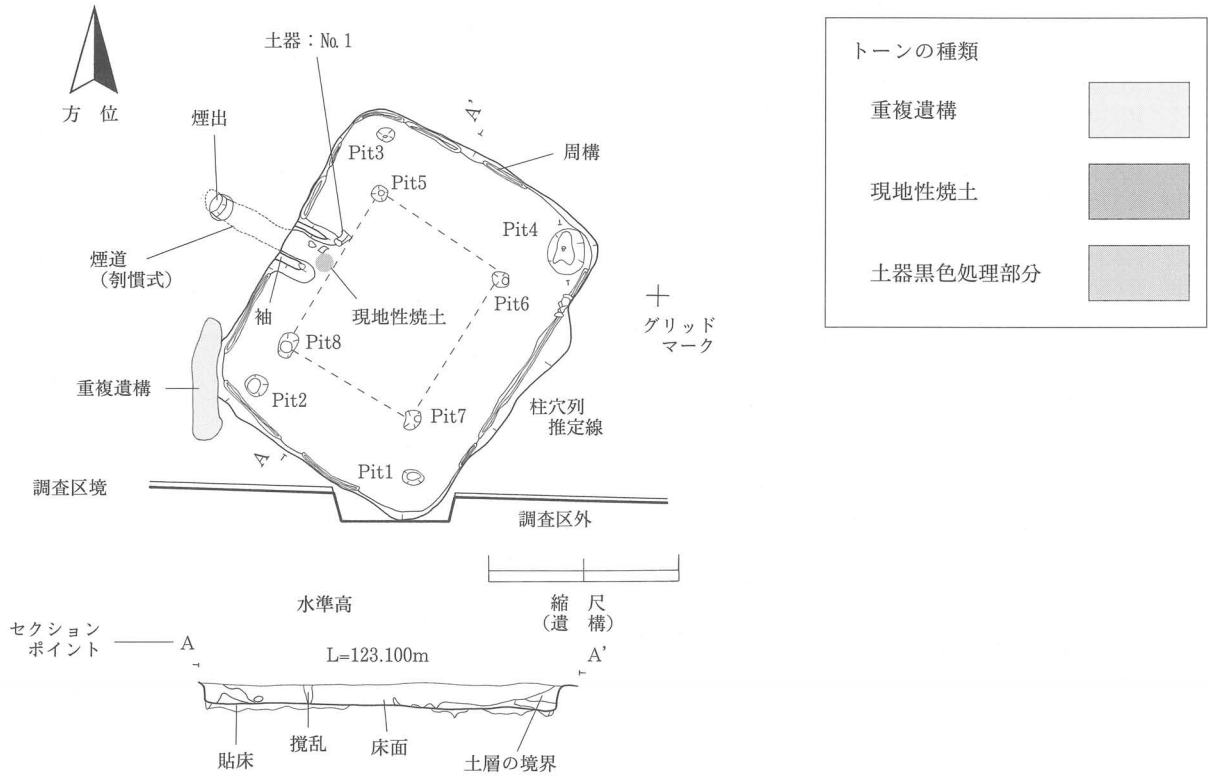
遺物写真の縮尺は原則として図版の縮尺と一致しているが、例外については縮尺率を付した。

(3) 実測図版中の土器の調整方法等は実測凡例図に記した。

(4) 遺物観察表中の記号や分類については、下記の報告書を参照した。

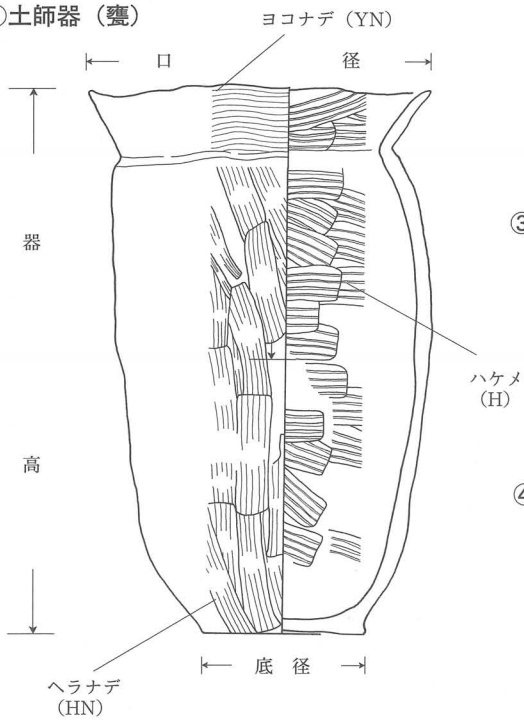
『小幅遺跡第4次発掘調査報告書』	(1966 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第265集)		
『台太郎遺跡第18次発掘調査報告書』	(2000	同	第369集)
『熊堂B遺跡第10次発掘調査報告書』	(2001	同	第377集)

〈遺構の表現方法〉

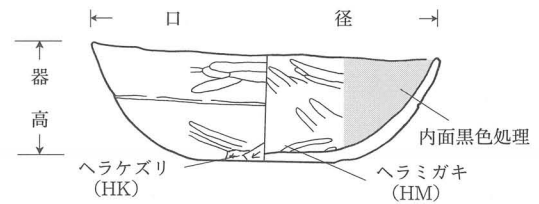


〈遺物の表現方法〉

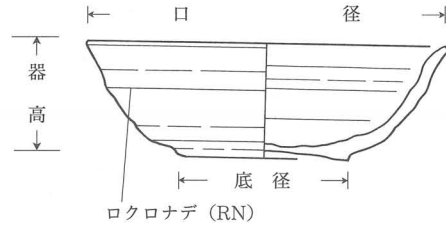
①土師器 (甕)



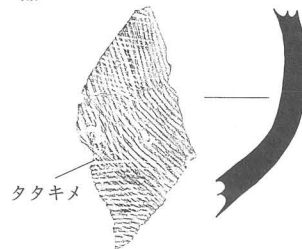
②土師器 (非ロクロ・坏)



③土師器 (ロクロ・坏)



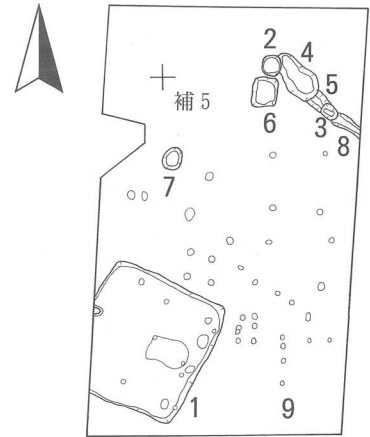
④須恵器



第7図 凡例

〈北区遺構名〉

1 RA549 竪穴住居跡	15 RA552 竪穴住居跡	29 RD1048 土坑
2 RD1058 土坑	16 RA553 竪穴住居跡	30 RD1049 土坑
3 RD1059 土坑	17 RA554 竪穴住居跡	31 RD1050 土坑
4 RD1060 土坑	18 RA555 竪穴住居跡	32 RD1051 土坑
5 RD1061 土坑	19 RB046 掘立柱建物跡	33 RD1052 土坑
6 RD1068 土坑	20 RB047 掘立柱建物跡	34 RD1053 土坑
7 RD1070 土坑	21 RE048 掘立柱建物跡	35 RD1054 土坑
8 RD1072 土坑	22 RD1041 土坑	36 RD1055 土坑
9 RZ031(2)柱穴状土坑	23 RD1042 土坑	37 RD1056 土坑
10 RA185 竪穴住居跡	24 RD1043 土坑	38 RD1057 土坑
11 RA393 竪穴住居跡	25 RD1044 土坑	39 RD1062 土坑
12 RA396 竪穴住居跡	26 RD1045 土坑	40 RD1063 土坑
13 RA550 竪穴住居跡	27 RD1046 土坑	
14 RA551 竪穴住居跡	28 RD1047 土坑	



北 II 区

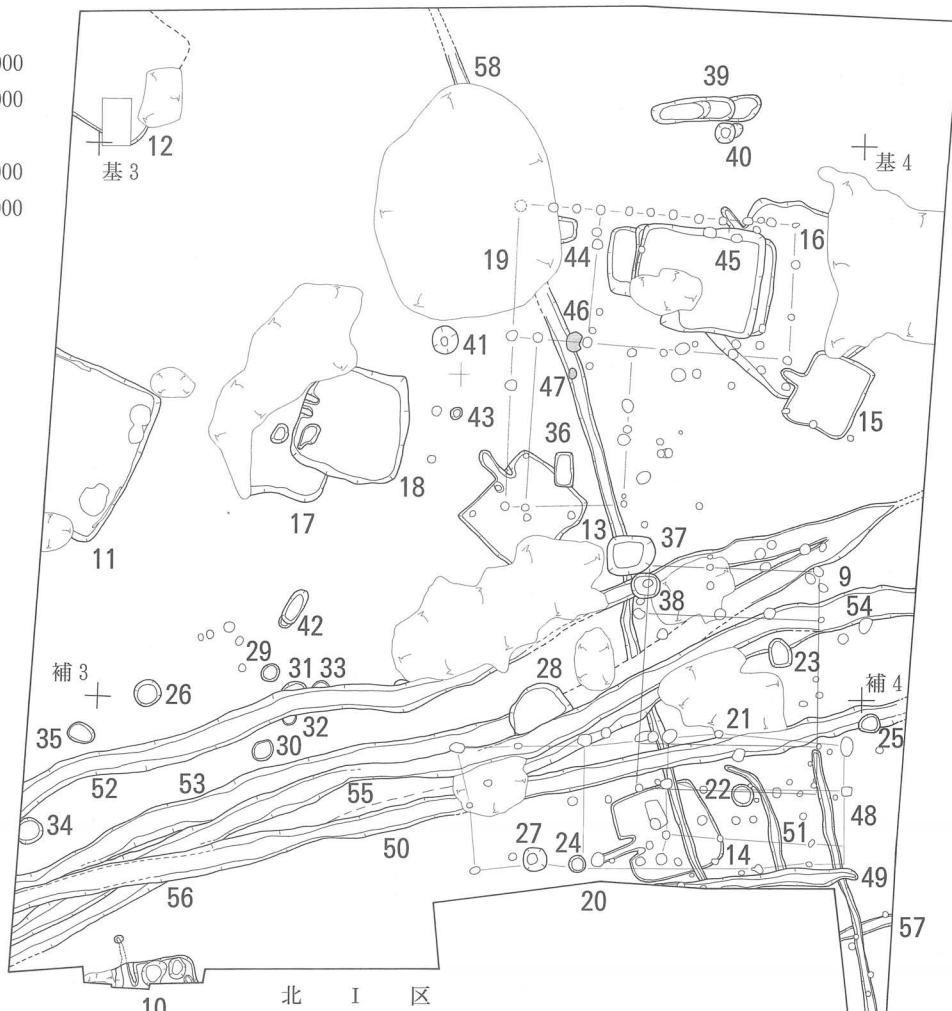
基 3 X = -35400.000  
Y = 26462.000  
(-2-A1g)

基 4 X = -35400.000  
Y = 26492.000  
(-2-A1v)

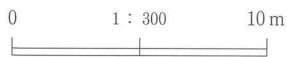
補 3 X = -35422.000  
Y = 26462.000  
(-2-A12g)

補 4 X = -35422.000  
Y = 26492.000  
(-2-A12v)

補 5 X = -35370.000  
Y = 26488.000  
(-3-A11t)  
(日本測地系)



41 RD1064 土坑	50 RG444 溝跡
42 RD1066 土坑	51 RG445 溝跡
43 RD1067 土坑	52 RG446 溝跡
44 RD1069 土坑	53 RG447 溝跡
45 RE055 竪穴状遺構	54 RG448 溝跡
46 RF063 焼土遺構	55 RG449 溝跡
47 RF064 焼土遺構	56 RG450 溝跡
48 RG442 溝跡	57 RG451 溝跡
49 RG443 溝跡	58 RG452 溝跡

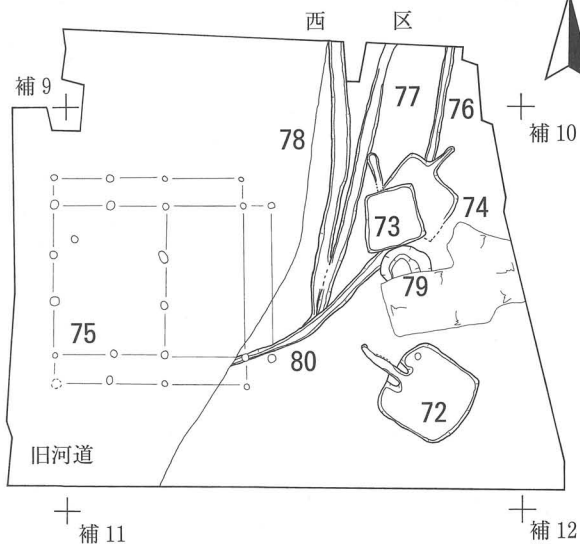
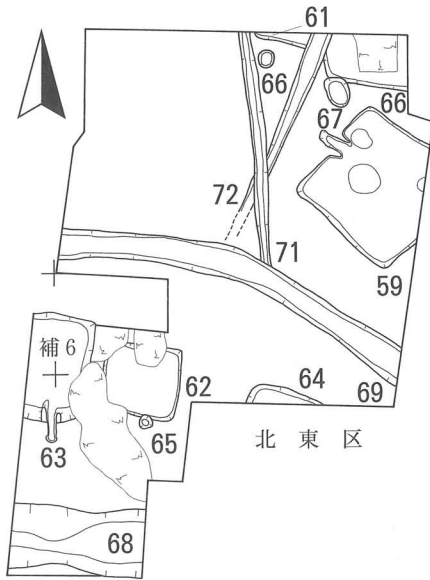


第 8 図 台太郎遺跡・第44次遺構配置図(1)



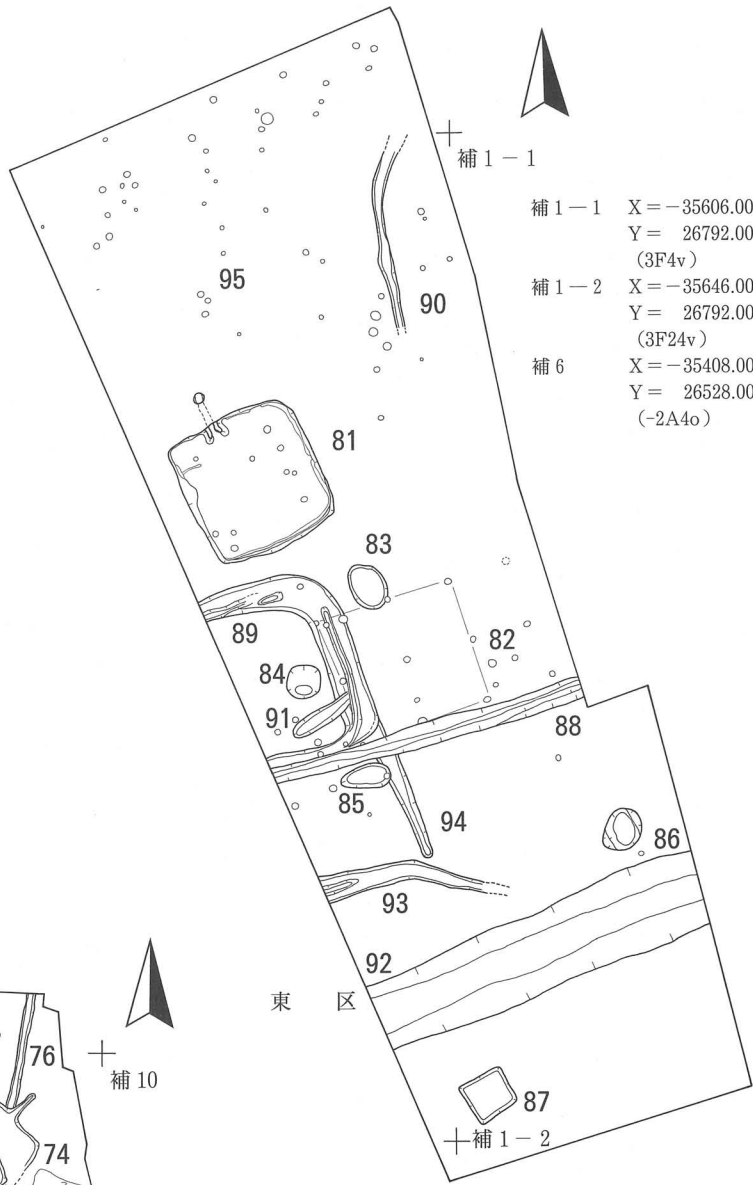
〈北東区遺構名〉

59	RA556	竪穴住居跡	66	RD1073	土坑
60	RA557	竪穴住居跡	67	RD1074	土坑
61	RA558	竪穴住居跡	68	RG453	溝跡
62	RA559	竪穴住居跡	69	RG454	溝跡
63	RA560	竪穴住居跡	70	RG455	溝跡
64	RA561	竪穴住居跡	71	RG456	溝跡
65	RD1071	土坑			



〈西区遺構名〉

72	RA562	竪穴住居跡	77	RG464	溝跡
73	RA563	竪穴住居跡	78	RG466	溝跡
74	RA564	竪穴住居跡	79	RI016	井戸跡
75	RB044	掘立柱建物跡	80	RZ032	柱穴状土坑
76	RG465	溝跡			

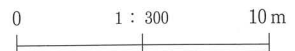


補 1-1	X = -35606.000
	Y = 26792.000
	(3F4v)
補 1-2	X = -35646.000
	Y = 26792.000
	(3F24v)
補 6	X = -35408.000
	Y = 26528.000
	(-2A4o)

〈東区遺構名〉

81	RA549	竪穴住居跡
82	RB045	掘立柱建物跡
83	RD1039	土坑
84	RD1040	土坑
85	RD1075	土坑
86	RD1076	土坑
87	RE056	竪穴状遺構
88	RG457	溝跡
89	RG458	溝跡
90	RG459	溝跡
91	RG460	溝跡
92	RG461	堀跡
93	RG462	溝跡
94	RG463	溝跡
95	RZ033	柱穴状土坑

補 9	X = -35500.000
	Y = 26378.000
	(1-C1o)
補 10	X = -35500.000
	Y = 26396.000
	(1-C1x)
補 11	X = -35516.000
	Y = 26378.000
	(1-C9o)
補 12	X = -35516.000
	Y = 26396.000
	(1-C9x)
	(日本測地系)



第9図 台太郎遺跡・第44次遺構配置図(2)

## IV 検出された遺構と遺物

### 1 竪穴住居跡

#### RA185 竪穴住居跡

遺構（第10・11図 写真図版8）

〈位置〉①北I区南端 ②-2-A17g～17i グリッド付近

〈重複関係〉①有 RA184より古い。南側2/3は調査区外に延びる。

〈平面形〉検出部分は隅丸方形 西側部分に攪乱と礫層有 〈規模〉4.4×(1.05) m

〈床面積〉(4.62) m<sup>2</sup> 〈主軸方向〉N-9°-W

〈埋土〉黒褐色土主体の3層に分層、褐色土粒と黄褐色土粒が混じり層状に堆積。東壁際に Pit 1 に関わる焼土有り。

〈壁高残存値〉北壁22cm 東壁22cm 南壁と西壁調査区外へ

〈床面〉①東部分に土師器・甕、口縁部を上へ潰れた状態で出土。カマド袖間に土師器片有り。

②床面に Pit 1～3 有り。西側部分は攪乱と礫層に入るため、壁やコーナー部分是不明瞭である。

〈土坑〉① Pit 1 - 長径40×短径(22) cm 深さ14cm

埋土灰黄褐色土主体にふい赤褐焼土と黒色土わずかに混じる。

② Pit 2 - 平面楕円形 長径85×短径75cm 深さ20cm

③ Pit 3 - 平面不正楕円形 長径120×短径80cm 深さ22cm

埋土灰黄褐色土主体、にふい赤褐色焼土混じり、上層に土師器片・甕有り。床面上で検出、焼土混の埋土より貯蔵穴として利用されたか。

〈貼床〉構築土は粘性と締弱い灰黄褐色土が主体、東側にみられる。

〈カマド〉①位置 北壁中央やや西寄り、煙道方向はN-11°-W、作り方は割貫式である。

②袖 構成土は締まりの有る黒褐色土が主体、明赤褐焼土混じる。一部に土師器片混じる。

③燃焼部 中心は袖間半円の赤褐色焼土で焼成は弱い。袖間にふい赤褐焼土は天井崩落土か。支脚に礫が使用されている。(断面E-E') 埋土と Pit 3 埋土から獣骨片(ニホンジカ)の焼骨が出土した。

④煙道・煙出 長さ約0.85m、やや上昇しながら先端に掘り込まれた径40cm深さ12cmの煙出に至る。埋土は黒褐色土主体、1層南側に焼土が混じる。

出土遺物（第52・53図 写真図版51）

〈土師器〉①不掲載遺物に関しては、住居内カマド付近からの出土が大部分を占める。これは今次調査が住居跡の北側3分の1であることにも関係している。器種は非ロクロ・甕体部の割合が多い。

②登録数は14点、うち9点について図化し掲載した。器種は非ロクロ・甕(長胴・球胴・小型)と環、出土場所はカマド袖付近と Pit 2・3 上である。

③RA185-3は Pit 3 上層に口縁部を上へ潰れた状態で出土した。RA185-1・2は同住居跡では数少ない環で、内面に黒色処理が施され、外面に段が認められる。

〈その他〉①石器：RA185-10は支脚として使用された礫である。

②鉄製品：RA185-11・釘について写真のみの掲載とした。

時期 出土遺物の形態とカマドの向きより奈良時代(8世紀代)に属する。

### RA396 竪穴住居跡

#### 遺構（第12図 写真図版10）

〈位置〉①北Ⅰ区北西端 ②-3-A24i ~ -2-A1i グリッド付近

〈重複関係〉無 北西コーナーと南西コーナーは調査区外へ延びる。

〈平面形〉検出部分は隅丸方形、南西壁と南東壁の一部に攪乱有り。

〈規模〉4.85×(4) m 〈床面積〉(19.4) m<sup>2</sup> 〈主軸方向〉N-36°-E

〈埋土〉検出可能部分で暗褐色土主体の4層に区分、南壁際に地山を含む黒褐色土~黄褐色土の層有り。

〈壁高残存値〉南壁20cm

〈床面〉①検出時に於いて攪乱部分が広がり、プラン検出は困難であった。床面の焼成部分、南壁と東壁の立ち上がり状況、過年度の調査結果の4点より竪穴住居跡として登録した。

②床面焼土部分は径50cm層厚12cm、不整楕円形に広がり上層に炭化物を含む赤褐色焼土が主体である。

出土遺物 無 時期 過年度の調査と総合し奈良時代に属すると推測される。

### RA393 竪穴住居跡

#### 遺構（第11・13図 写真図版9）

〈位置〉①北Ⅰ区西中央端 ②-2-A5g ~ 9g 付近

〈重複関係〉無 西側2分の1は調査区外に延びる。

〈平面形〉検出部分は隅丸方形 〈規模〉5.6×(4.3) m 〈床面積〉(24) m<sup>2</sup>

〈主軸方向〉N-24°-E 〈埋土〉黒褐色土~暗褐色土主体の6層に区分、黄褐色ブロックと炭化物粒混じる。埋土は粘性に富み、締まり有り~やや有りである。

〈壁高残存値〉北壁35cm 東壁35cm 南壁35cm 西壁調査区外

〈床面〉①締まり有 ②北東コーナー、東壁中央、Pit 2上に土師器片有り。Pit 1~8有り。

〈貼床〉①全体に有 ②構築土はにぶい黄褐色土~褐色シルトで締まり有。

〈周溝〉①一部に有り。 ②北壁沿長さ2m幅10cm、東壁沿長さ2.05m幅14cm深さ6cm前後である。

〈土坑〉① Pit 1 - 平面円連結 長径1.6×短径0.4m 深さ33cm 埋土はにぶい黄褐色土主体 層状堆積で埋土下層まで炭化物混

② Pit 2 - 平面不正形 長径1.35×短径0.65m 深さ33cm 黒褐色土~暗褐色土主体 一部層状一部レンズ状堆積 埋土下層まで土師器片混

③ Pit 6 - 平面円形 長径0.3×短径0.2m 深さ27cm I期主柱穴

④ Pit 7 - 平面円形 長径0.32×短径0.3m 深さ50cm II期主柱穴

⑤ Pit 8 - 平面円形 径0.3m 深さ60cm II期主柱穴

⑥ Pit 3 - 平面楕円形 長径0.9×短径0.6m 深さ67cm 貼床下で検出 埋土暗褐色土と黒褐色土と黄褐色土 炭化物と焼土粒混 下層層状堆積 I期住居 Pit か 骨片混（ニホンジカの上腕骨片や鼓室部骨片を含む獣骨片）

⑦ Pit 4 - 平面楕円形 長径1.1×短径0.8m 深さ30cm 貼床下で検出 埋土貼床と同じ締まり有る黄褐色土主体 I期住居 Pit か

⑧ Pit 5 - 平面楕円形 長径1.75×短径0.1m 深さ23cm 貼床下で検出 埋土は Pit 4 に同じ

〈カマド〉盛岡市教委過年度調査分に有り。

〈その他〉①増改築有か。Pit がⅠ・Ⅱ期に分かれることと貼床下から Pit を検出したことから可能性あり。  
すなわち旧住居の主柱穴が Pit 7. 8、住居内土坑が Pit 3. 4. 5 と考えられる。

#### 出土遺物 (第54・55図 写真図版52)

〈土師器〉①不掲載遺物に関して、非ロクロの甕・体部破片と坏が多い。出土場所は埋土中、床面と Pit 1～3 埋土中である。

②登録数は13点、うち4点について実測・図化した。すべて非ロクロの甕である。出土場所は床面と Pit である。

③RA393-2・4は小型甕で、北と南のコーナーより出土、RA393-1・3も同じコーナー付近より出土、胎土は砂質傾向である。

〈その他〉様々な遺物が出土している。

①縄文・弥生土器-RA393-5・6は貼床層と床面より出土

②石鏃-RA393-8・9は Pit 4 埋土中より出土

③釘・刀子の先端No.RA393-11・12・13は、写真のみ掲載

④土製紡錘車-RA393-7は Pit 2 埋土中より出土

時期 出土遺物の傾向とカマドの向きより、奈良時代(8世紀後半)に属する。

#### RA547 竪穴住居跡

##### 遺構 (第14・15図 写真図版11)

〈位置〉①東区中央 ②3F9t~12t グリッド付近 〈重複関係〉無

〈平面形〉隅丸方形 〈規模〉5.7×5.3m 〈床面積〉30.2㎡ 〈主軸方向〉N-24°-W

〈埋土〉黒褐色土~黒色土を主体にした12層に区分

〈壁高残存値〉北壁42cm 東壁36cm 南壁33cm 西壁30cm

〈床面〉①四壁沿いに土師器片有り。②北西コーナーと南西コーナーの一部は礫層に至り小礫多い。

③ Pit 1~9 まで検出する。

〈周溝〉①有 ②北壁の一部、東壁、南壁に沿って巡る。礫層に至る西壁沿いには無い。

③長さ計10.2m、深さ北壁沿い4cm、東壁沿い5~11cm、南壁沿い7~12cmを測る。

④埋土は粘性無締まり弱のふい黒褐色土が主体である。

⑥北西コーナー南に間仕切り様の溝、長さ1.5m幅5cm、先端東側に径10cmの小土坑有り。

〈貼床〉①住居跡西側は粘性弱の暗褐色土主体、東側は締まり有る黒褐色土主体、東側の床面に一部硬化部分が認められる。

〈土坑〉① Pit 1 - 平面円形 長径20×短径15cm 深さ12cm 埋土黒褐色土主体焼土混 主柱穴

② Pit 2 - 平面円形 径20cm 深さ28cm 埋土黒褐色土主体 炭混?

③ Pit 3 - 平面円形 径20cm 深さ28cm 埋土黒褐色土主体 主柱穴

④ Pit 4 - 平面円形 長径32×短径23cm 深さ14cm 埋土黒褐色土主体

⑤ Pit 5 - 平面円形 長径22×短径20cm 深さ23cm 埋土黒褐色土主体

⑥ Pit 6 - 平面円形 長径34×短径30cm 深さ53cm 埋土黒褐色土主体 主柱穴

⑦ Pit 7 - 平面円形 長径28×短径26cm 深さ13cm 埋土黒褐色土主体

⑧ Pit 8 - 平面円形 長径22×短径20cm 深さ13cm 埋土黒褐色土主体

⑨ Pit 9 - 平面円形 長径30×短径26cm 深さ27cm 埋土黒褐色土主体 主柱穴

〈カマド〉①位置 北壁中央やや西寄り、煙道方向N-21°-W、作り方は刳貫式である。

②袖 構成土はやや締まりの有る黄褐色土主体、一部被熱により赤変する。

③燃焼部 中心は袖先端長径0.5×短径0.3m層厚5cmの赤褐色焼土部分、焼成は中である。

④煙道・煙出 燃焼部中心より長さ約1.5m、5°程に緩やかに下降しながら先端の径30cm深さ45cmの煙出に至る。埋土は褐色土～黒褐色土主体、煙道中程まで明赤褐色焼土が混じる。

〈その他〉①増改築を行った住居跡か、床面東側と西側に柱穴多くみられる。

#### 出土遺物 (第55・56・57図 写真図版53・54)

〈土師器〉①全体の傾向として、住居跡全体からの出土破片数が多い。不掲載遺物の分析より、非ロクロ・甕・口縁～体部破片、非ロクロ・坏(内黒)の割合が多い。

②①のうち形をなすもの15点について登録、うち10点について図化・掲載した。すべて非ロクロ、器種は甕、鉢?、高坏と坏、出土場所は床面北西部分埋土、南ベルトと南壁沿いである。

③RA547-8・10はAIT1に属する(後述の分類参照)、RA547-1は丸底、RA547-2は丸底に近い平底で内外に段を有する坏である。RA547-4・5の鉢?は口縁が内湾するボール状の形、RA547-3高坏は外面有段、ヘラミガキが明瞭であり、いずれも台太郎遺跡奈良時代の住居跡にみられる土師器の形である。

〈その他〉①石器:4点を登録した。RA547-11(奥羽山脈起源の安山岩)は支脚として使われ、熱により赤変した部分が認められる。RA547-12は砥石として使用された痕跡が残る安山岩である。

時期 出土遺物とカマドの向きより奈良時代(8世紀中葉～後半)に属する。

#### RA549 竪穴住居跡

##### 遺構 (第16図 写真図版12)

〈位置〉①北Ⅱ区南側 ②-3-A14s~18s グリッド付近 〈重複関係〉無 南西コーナー部分は西側の調査区外に延びる。

〈平面形〉検出部分方形 〈規模〉5.4×(5.0)m 〈床面積〉27㎡ 〈主軸方向〉N-26°-E

〈埋土〉締まりやや有る黒褐色土～暗褐色土の3層に区分、黄褐色土ブロックの混じる層状堆積である。

〈壁高残存値〉北壁23cm 東壁50cm 南壁40cm 西壁(15)cm

〈床面〉①硬く締まるが砂質傾向である。②床面にPit1~9有り。西壁沿いにカマド袖?、南側に焼土部分、南東コーナーに土師器片有り。③南側床面焼土部分については、2カ所について記録する。

〈土坑〉①Pit1 - 平面円形 長径50×短径50cm 深さ10cm 埋土暗褐色土主体炭粒と焼土混

②Pit2 - 平面楕円形 長径50×短径35cm 深さ10cm 埋土灰黄褐色土主体

③Pit3 - 平面隅丸方形 長径170×90cm 深さ7cm にぶい黄褐色土主体 深くなる状況でRA393の貼床下Pit(Pit3~5)に似る。

④Pit4 - 平面方形 長径28×短径20cm 深さ8cm 主柱穴? 抜き取り痕を含め方形?

⑤Pit5 - 平面円形 径20cm 深さ16cm 主柱穴?

⑥Pit6 - 平面楕円形 長径32×短径30cm 深さ17cm 主柱穴?

⑦Pit7 - 平面楕円形 長径30×短径20cm 深さ21cm

⑧ Pit 8 - 平面方形 長径38×短径30cm 深さ20cm 支柱穴? 抜き取り痕を含め方形?

⑨ Pit 9 - 平面円形 長径26×短径16cm 深さ16cm 支柱穴?

〈貼床〉①全体に有り、締まりのある褐色土が主体である。

〈カマド〉①位置 一部推定西壁部分 ②作り方 不明

③袖 残りとして推定される部分を平面図に記録(断面F-F')、6層の締まりの有るにふい黄褐色土が構成土主体か。

④燃焼部 ③の南側に径50cmにふい赤褐色焼土部分(断面F-F')、焼成は中である。

⑤煙道・煙出 調査区外にあり不明

#### 出土遺物(第58・59図 写真図版55)

〈土師器〉①登録数8点、うち7点について図化・掲載した。器種は非ロクロの甕4点と坏3点である。出土場所は床面、Pit 3埋土中と貼床下土坑構築土である。甕はAITに属するものがみられ、RA549-5のように胎土は粗、作りも粗い。坏はAIに属し、平底と平底に近い丸底が認められる。(一部推定)RA549-1・2は内外面に段が認められる。やはりヘラミガキは明瞭である。

〈その他〉埋土上層から陶磁器、埋土中層から器種不明の鉄製品が出土した。両者は写真のみの掲載とした。また埋土中からRA549-8縄文土器1片が出土、図化・掲載した。

時期 出土遺物の特徴より奈良時代(8世紀中葉～後半)に属する。付近に非ロクロの土師器を多く出土するRD1060が有り、両者の関係についても注目したい。

#### RA550 竪穴住居跡

##### 遺構(第17図 写真図版13)

〈位置〉①北I区 ②-2-A7n～9nグリッド付近

〈重複関係〉有 RD1055・北I区柱穴状土坑より古い。南西コーナー付近が攪乱にきられる。

〈平面形〉方形 〈規模〉3.9×3.6m 〈床面積〉14m<sup>2</sup> 〈主軸方向〉N-40°-W

〈埋土〉粘性と締まりのやや有る黒褐色土が主体、全体に褐色土粒～ブロックが混じる。東西壁際にくっつくように暗褐色土部分がわずかに認められる。

〈壁高残存値〉北壁27cm 東壁15cm 南壁10cm 西壁17cm

〈床面〉①中央部と北東コーナー付近に土器片が散乱する。また南東コーナー寄南壁際に2.5YR7/6明黄褐色粘土、北東コーナーと北西コーナーにPitが有る。

〈土坑〉①Pit 1 - 平面円形 径20cm 深さ35cm

②Pit 2 - 平面楕円形 長径20×短径18cm 深さ14cm

③Pit 3 - 平面円形 長径40×短径30cm 深さ15cm 袖を作る前に掘り込んだPitか。

④①②とも支柱穴の位置だが他の支柱穴について南東方向に確認は出来ない。

〈貼床〉①全体に均一に有り、構築土はにふい黄褐色土主体、一部赤褐色焼土が混じる。

〈カマド〉①位置 北壁の概ね中央、北壁にはほぼ直交する。煙道方向はN-40°-W、作り方は掘込式ある。

②袖 東側のみ残る。構成土主体は締まりの有るにふい黄褐色土、内側の一部は被熱により赤変する。

④燃焼部 東袖南側の平面円形の暗赤褐色焼土部分で、焼成は中である。

⑤煙道・煙出 燃焼部中心よりいったん下降し後はまっすぐに北西に延びる。埋土は締まり有る黒

色土～黒褐色土が主体、焼土はみられない。

#### 出土遺物（第59・60図 写真図版56）

〈土師器〉①不掲載遺物の分析による全体傾向は、非ロクロの甕と坏の出土である。不掲載遺物に関しては甕の口縁部～体部が主である。

②登録数11点、そのうち9点について図化・掲載した。器種は非ロクロの甕・小型甕・鉢？と坏、出土場所は床面と埋土中である。

③甕についてはAITはRA550-6の1点のみ、他は小型甕、鉢？、器種不明である。RA550-9・10とも鉢か、口縁部内湾し器高は低い。坏はAIに属する。RA550-9・10は平底と丸底の中間の器形である。甕も坏も形式的に、中間型が集まっている。

〈その他〉①土製品：Pit 1埋土より、RA550-8土玉が出土、図化・掲載した。

時期 出土遺物の特徴とカマドの位置より奈良時代（8世紀後半）に属する。ロクロ成形土器に影響されたような遺物がみられることが特徴であろうか。

#### RA551 竪穴住居跡

##### 遺構（第18・19図 写真図版14）

〈位置〉北I区の南、調査区境に近い ②-2-A13s～16s グリッド付近

〈重複関係〉有 RG452・北I区柱穴状土坑より古い 〈平面形〉隅丸方形 〈規模〉3.5×3.7m

〈床面積〉13㎡ 〈主軸方向〉N-25°-W 〈埋土〉粘性・縮まりのやや有る黒褐色土の単層、炭化物粒や褐色土が混じる。 〈壁高残存値〉北壁11cm 東壁10cm 南壁10cm 西壁8cm

〈床面〉住居床面は平坦、カマド袖南側、東壁沿いと北側にPitが有る。床面にRZ031（2）に属する柱穴状土坑が多くみられる。

〈土坑〉①Pit 1 - 平面円形 径25cm 深さ12cm 位置的にみてカマドに関係した土坑か

②Pit 2 - 平面円形 径44cm 深さ12cm 位置的にみてカマドに関係した土坑か

③Pit 3 - 平面円形 径20cm 深さ29cm 位置的にみてカマドに関係した土坑か

④Pit 4 - 平面円形 径20cm 深さ7cm

⑤Pit 5 - 平面方形 長径110×短径65cm 深さ20cm 貼床のやや厚い部分か

〈貼床〉粗密はあるが、粘性縮まりやや有る黒褐色土が構築土主体、住居跡全体に施される。

〈カマド〉①位置 西壁中央南寄り、煙道方向S-74°-Wである。

②作り方 検出においては掘込式と判断されるが、住居埋土の様子から煙道地山部分が削平された刳貫式の可能性もある。

③袖 縮まりのやや有る黒褐色土主体でにぶい黄褐色土混じる。南側袖断面のように（断面F-F'）わずかであるが芯材に礫を使用している。

④燃焼部 袖間の径40cm層厚5cm、暗赤褐色焼土部分が中心部で焼成は良。

⑤煙道・煙出 燃焼部中心より多少上下し、長さ1.4mの先端に向けて約10度で下降する。先端部分は柱穴状土坑との重複のため全容は不明。埋土は暗褐色土主体、カマド燃焼部埋土部分にのみぶい赤褐色焼土が有る。

##### 出土遺物（第60図・写真図版56）

〈土師器〉①不掲載遺物の分析より、非ロクロの甕体部、ロクロ坏（内黒）とあかやき坏の口縁部～体部破

片がみられる。

②登録数は5点、うち4点について図化・掲載した。器種はロクロ使用の小型甕、非ロクロの甕とロクロ使用の坏、出土場所はカマドと貼床構築土である。

③相対的に数は少ないが甕が減り坏の割合が多くなっている。RA551-3は小型甕でカマドの支脚（断面E-E'）として使用されていた様子である。RA551-1はロクロ使用内黒の坏である。

時期 カマドの向き及び出土遺物の形態より平安時代（9世紀後半）に属する。

### RA552 竪穴住居跡

遺構（第19図 写真図版15）

〈位置〉①北Ⅰ区北東 ②-2-A5v～7v グリッド付近

〈重複関係〉有 東壁の一部に攪乱有り。またRA552はRA553より新しく、柱穴状土坑より古い。

〈平面形〉方形 〈規模〉2.8×2.5m

〈床面積〉7㎡ 〈主軸方向〉N-63°-W

〈埋土〉①黒褐色土～暗褐色土主体、褐色土粒・炭化物・焼土粒混じる。

②南壁際1・2層は水酸化鉄含む攪乱の土混じる。

〈壁高残存値〉北壁20cm 東壁15cm 南壁30cm 西壁13cm

〈床面〉締まりが有り平坦である。南東コーナー付近にPit1有り。

〈土坑〉Pit1 - 平面円形 長径86×短径80cm 深さ22cm 埋土暗褐色砂質土主体 用途不明

〈カマド〉①位置 西壁概ね中央に埋土に焼土を含む煙出プランを検出し精査を行ったが、袖部分の確認ができなかった。煙道方向はN-63°-Wである。

②作り方 掘込式であるが、地山が削平されていることも考えられる。15層部分を地山とするなら刳貫式の可能性も有り。11層は天井部焼成部分、13層と14層は焼土を含む煙道埋土である。

③袖 無

④燃焼部 中心は楕円形、径40cm層厚10cmの赤褐色焼土部分で焼成は良好である。

⑤煙道・煙出 長さ約70cmにまっすぐに掘り込まれ、埋土下層に炭化物と焼土が混じる。

### 出土遺物

〈土師器〉不掲載遺物の整理より非ロクロ・甕・口縁部～体部破片、ロクロ・あかやき土器体部破片が出土している。数的に少なく破片も小さかったので、不掲載とした。

時期 RA553より新しい。

### RA553 竪穴住居跡

遺構（第20・21図 写真図版16）

〈位置〉①北Ⅰ区北東 ②-2-A2v～6v グリッド付近

〈重複関係〉有 RA552、RE055、柱穴状土坑より古い。

〈平面形〉ほぼ方形 〈規模〉推定（6.8×6.5）m

〈床面積〉12㎡ 〈主軸方向〉N-30°-W

〈埋土〉5～8層は褐色土ブロック混じる黒褐色土～にぶい黄褐色土主体、自然堆積の様相を呈する。他層には攪乱の土が混じる。



〈壁高残存値〉北壁23cm 東壁26cm 西壁38cm 東壁の大部分と南壁については攪乱とRA552との重複のため大部分が不明である。

〈床面〉硬く締まりがあるが攪乱の土（N3/暗灰土）混入のため汚れた様子である。 〈貼床〉無

〈カマド〉①位置 北壁中央部分、煙道方向はN-32°-Wである。

②作り方 掘込式、1層黒色土（断面D-D'）は天井崩落土、2層暗褐色砂質土は焼土は含まないが煙道埋土である。

③袖 検出しない。RE055に破壊されている。

④燃焼部 RE055床面に長径50×短径40cm層厚5cmの不整形赤褐色焼土部分が焼成良好の状態が残る。この部分が中心とみられる。

⑤煙道・煙出 北壁より1m延び、底面は緩やかに上昇する。

〈その他〉重複部分が多く、攪乱の影響で全体プランが不明瞭だが、一辺が6m規模の竪穴住居跡であろう。

#### 出土遺物（第61図 写真図版57）

〈土師器〉①不掲載遺物の整理より、遺物は非ロクロ・甕の体部～底部が主であり、ロクロ使用の坏（内黒）の体部、あかやき土器の口縁部～体部、須恵器・甕の体部がみられる。

②登録数6点、うち3点について図化・掲載した。器種は非ロクロの甕、出土場所は埋土下層と床面である。

③甕は3点あり。RA553-1についてはユビナデ、ハケメ、ヘラナデ等の調整技法が用いられている。RA553-2に関しては、底部にかすかではあるが刳痕が認められる。乾かす時点でついたものであろうか。

時期 煙道の向きと一部遺物より、奈良時代の住居跡（8世紀代）と推定される。一部遺物にはロクロ使用のものも含まれることも記しておく。

#### RA554竪穴住居跡

##### 遺構（第21・22図 写真図版17）

〈位置〉①北I区北西 ②-2-A5l～8lグリッド 〈重複関係〉有 RA555より古い。

〈検出状況〉①壁高残存値南壁24cm東壁26cm、南東コーナー検出により竪穴住居跡として登録した。

②規模（4.5×3.6）m ③RA555より浅く、埋土下層はにぶい黄褐色土である。

④床面は平坦で砂質、床面ほぼ中央にPit1有り。平面楕円形 長径1.8×短径1.5m 深さ10cm

##### 出土遺物（第61図 写真図版57）

〈土師器〉①不掲載遺物の整理より、非ロクロ・甕の体部36片、非ロクロ坏（内黒）破片が出土している。

②登録数は5点、うち2点の非ロクロ・甕RA554-1・2について図化・掲載した。出土場所は埋土中層である。調整はハケメとヘラナデ、小片であるので全容は不明であるが、AIに属するとみられる。

時期 出土遺物の傾向とRA555との関係より奈良時代に属すると推定される。

## RA555 竪穴住居跡

### 遺構 (第21・22図 写真図版17)

〈位置〉①北Ⅰ区北西 ②-2-A5l～8l グリッド付近 〈重複関係〉有 RA554より新しい。

〈平面形〉方形 〈規模〉4.55×4 m

〈床面積〉18.2㎡ 〈主軸方向〉N-55°-W

〈埋土〉①12層に区分したが、黒色土～灰黄褐色土～にふい黄褐色土～暗褐色土が主体である。5・6層の自然堆積の後、層状に堆積した可能性有り。

〈壁高残存値〉北壁33cm 東壁47cm 南壁47cm 西壁重複のため不明

〈床面〉概ね平坦、砂質傾向、北東コーナー付近中層～下層に土師器・甕片が散乱する。

〈土坑〉Pit 1 - 平面不正形 長径120×短径50cm 深さ5 cm 埋土やや締まり有る黒色土主体  
貼床の厚い部分か？

〈貼床〉全体に有り。構築土は黒褐色土主体、一部厚くなる。

〈カマド〉①位置 西壁南寄り、煙道方向はN-58°-Wである。

②作り方 重複のため一部不明瞭だが、断面B-B'より地山部分が確認できることから刳貫式とみられる。

③袖 やや締まりの有る褐色土と黒褐色土が主体、内側は被熱のため赤変している。

④燃焼部 袖間の円形部分に径33cm層厚約10cmの赤褐色焼土が認められる。焼成は中である。

⑤煙道・煙出 燃焼部中心より北西方向へ緩やかに上昇しながら延びる。埋土は黒褐色土～灰黄褐色土主体でにふい赤褐色焼土が混じる。

⑥カマド燃焼部中心と南袖下に支脚抜き取り痕有り。径10cm深さ15cmで1カ所確認した。埋土は黒褐色中に焼土と黒色土が混じる。

### 出土遺物 (第61・62図 写真図版57・58)

〈土師器〉①不掲載遺物の整理より、非ロクロ・甕が主であり、非ロクロ・坏(内黒)口縁部～体部、ロクロ使用あかやき土器体部と須恵器・甕口縁破片が出土している。

②登録数13、うち8点について図化・掲載した。出土場所は埋土中層～下層、北東コーナー部分貼床埋土であり、器種は甕、小型甕と小型手づくね土器である。

③RA555掲載遺物については非ロクロ・甕が中心であり、北東コーナーからまとまって出土したものである。RA555-1・2・3はAITに属しハケメ・ヘラナデ・ヨコナデの調整が明瞭である。また、RA555-6・7は小型甕、RA555-8は小型手捏ね土器でつくりも粗い。この住居跡の土師器は、胎土に砂が多く混じる傾向にある。

〈その他〉①石器：3点を登録、RA555-9は削搔器、埋土下層より出土している。1点のみ図化・掲載した。

時期 カマドの向きと出土遺物の傾向より奈良時代(8世紀前半～中葉)に属する。

## RA556 竪穴住居跡

### 遺構 (第23・24図 写真図版18)

〈位置〉①北東区東側 ②-3A24t～-2A2t 付近 〈重複関係〉無 〈平面形〉方形

〈規模〉4.9×4.8m 〈床面積〉23.5㎡ 〈主軸方向〉N-43°-E

〈埋土〉①黒褐色土～にぶい黄褐色土～褐色土主体の5層に区分した。

②4層のみ自然堆積、他は層状堆積である。

〈壁高残存値〉北東壁15cm 南西壁22cm 北西壁21cm 東壁の一部分が調査区外へ延びる。

〈床面〉①硬く締まる。北東に向けやや低くなる。

②Pit 2 周辺に炭片と暗赤褐色焼土とにぶい赤褐色焼土分布する。貼床の広がる部分か。

〈土坑〉①Pit 1 - 平面形 長径130×短径120cm 深さ34cm 埋土黒褐色土～暗褐色土主体 自然堆積  
3層に土師器片多数混入 用途不明

②Pit 2 - 平面楕円形 長径90×短径65cm 深さ35cm 埋土黒色土主体で黄褐色土と上層に暗赤褐色焼土とにぶい赤褐色焼土混じる 主に層状堆積 位置的にみてカマドに係わる Pit か

③Pit 3 - 平面楕円形 (推定 一部調査区外へ延びる) 径50cm 深さ10cm 埋土上層下層とも明赤褐色焼土と赤褐色焼土混じる 用途と全容不明

〈貼床〉黒褐色土主体で全体にみられ、一部厚くなる。

〈カマド〉①位置 西壁中央部、煙道方向はN-50°-Wである。②作り方は掘込式である。

③袖 芯材に石を使用、その周囲を土で固めた。S-1とS-2を、地山を掘り込んで10層黒褐色土を置いた上に据え、4・5・6層で固める。その際S-1の安定を考え、小礫で支える。S-7は天井石に使用されたものか。(断面D-D')

④燃焼部 袖間中央部やや東側袖寄りにあり、径20cm層厚10cm、焼成は中である。

〈煙道・煙出〉長さ1.2m、平坦又はやや上昇するように掘り込まれ、主な埋土は粘性も締まりも無い褐色土である。須恵器・甕(RA556-33)の下にある支脚の後ろには赤褐色焼土がみられるが他には無い。第44次の他の住居跡に比して煙道は短い。最初から短いのか、または削平等で不明瞭になったものであろうか。

#### 出土遺物 (第63～68図 写真図版59～62)

〈土師器・須恵器〉①不掲載遺物の整理より、出土場所は埋土、検出面、Pit 中が大部分で床面には遺物はほとんど無い。土師器は非ロクロ・甕・体部、ロクロ・坏・内黒とあかやき土器の体部が主で、甕と坏の割合はほぼ半々。また須恵器は、甕・体部と坏・口縁部～体部～底部がみられる。

②登録数は土師器25点、うち20点について図化・掲載した。出土場所は検出面と埋土である。須恵器は17点について図化・掲載、出土場所は埋土、床面、カマド部分である。

③土師器：甕2点坏17点で坏が多い。RA556-1・2・3・4・5・7・8・9は内面にミガキ、底部には回転糸切痕が認められる内黒坏、RA556-10・11・12・13・14はあかやき土器、他に高台付坏・台部分1点が出土した。

須恵器：RA556-33の甕の他に床面からもRA556-32が出土した。坏はおもに埋土中から出土、回転糸切痕が明瞭な残りの良いものもみられる。(詳しくはまとめにあり。)

〈その他〉①石器：RA556-38の安山岩はカマド須恵器下の支脚であるが、砥石として使用された形跡がある。

②土製品：ベルト中よりRA556-37羽口(30%残)が出土、図化・掲載した。

時期 あかやき土器の割合と須恵器の出土及び形態により平安時代(9世紀中葉～後半)と推定される。

## RA557・558 竪穴住居跡

### 遺構 (第25図 写真図版19)

〈位置〉①北東区北側 ②-3 A24s ~24v 付近 北側と東側を宅地フェンスに囲まれる。

〈重複関係〉有 新旧関係は RG455 (新) - RA557・558 (旧)、RA557とRA558の新旧関係は不明、RD1073 (新) - RA557 (旧) である。

〈平面形・壁高残存値〉①RA557 平面方形 (3.6×2.0) m 南壁18cm 西壁18cm

②RA558 平面不整形 (2.7×0.5) m 南壁6cm

③検出は黄褐色土面に黒褐色土の広がり、断面B-B'、Pit 1 断面の焼土及び検出面の土師器片出土による。

〈埋土〉RA557は黒褐色土～にぶい黄褐色土～暗褐色土主体、4層は他と比べやや締まり有るが床面は締まり無し。RA558は黒褐色土～暗褐色土、床面褐色土で締まりが無くかなり砂質である。

〈カマド〉無 Pit 1 埋土はにぶい黄褐色土主体で、赤褐色焼土が混じる。RA556の Pit 3 に似る。

〈その他〉RA557は埋土と Pit の状況により住居跡の可能性はあるが、RA558は疑わしい。ただし北東区の遺構密度からすると住居跡の可能性はある。

### 出土遺物 (第69図 写真図版63)

①RA557-不掲載遺物を整理すると、埋土下層より土師器は非ロクロ・甕・体部1片、ロクロ・坏(内黒)・体部と口縁各1片、須恵器は甕・口縁～体部1片が出土している。登録は、土師器ロクロ・甕・口縁部～体部1点であるが、小片のため全容は不明である。須恵器はRA557-2坏・体部～底部を図化・掲載した。

②RA558-遺物は無い。

時期 少量の遺物と北東区の他の住居跡との関係から平安時代の住居跡と推定される。

## RA559 竪穴住居跡

### 遺構 (第25図 写真図版20)

〈位置〉①北東区南西 ②-2A3q ~5q グリッド付近

〈重複関係〉有 攪乱と重複のため北東コーナーと南西コーナーのプラン不明、RD1071より古い。

〈平面形〉方形 〈規模〉2.9×2.8m 〈床面積〉8.1㎡ 〈主軸方向〉N-15°-E

〈埋土〉黒褐色土～褐色土主体の5層に区分、大部分は黒褐色土である。

〈壁高残存値〉北壁15cm 東壁13cm 南壁15cm 西壁11cm わずかではあるが壁の立ち上がりが確認でき、住居跡とする。

〈床面〉締まりが有る。西側の一部で小礫混じる。 〈貼床〉無

〈土坑〉① Pit 1 - 平面円形 径24cm 深さ15cm 埋土黒色土主体 用途不明

② Pit 2 - 平面円形 径30cm 深さ10cm 埋土黒色土主体 用途不明

### 出土遺物 (第69図 写真図版63)

①不掲載遺物の整理より、非ロクロの甕・体部11片、ロクロの坏(内黒)4片出土。立体にはならなかったが、須恵器・甕・口縁部の一部を図化・掲載した。

時期 周囲の住居跡と同じ平安時代に属するとみられる。

## RA560 竪穴住居跡

### 遺構 (第26図 写真図版21)

〈位置〉①北東区 ②-2A3o～6o グリッド付近 攪乱のため南東コーナープラン不明 〈重複関係〉無

〈平面形〉方形 (一部推定) 〈規模〉4.2×(2.4) m

〈床面積〉(10) m<sup>2</sup> 〈主軸方向〉N-5°-E

〈埋土〉黒色土～黒褐色土～暗褐色土主体、上層に土師器片、北壁と東壁際に一部炭片混じる。

〈壁高残存値〉北壁28cm 東壁12cm 南壁13cm 西壁調査区外へ延び、南壁部分緩傾斜をなす。

〈床面〉硬く締まるが小礫散乱 〈土坑〉無 〈貼床〉無

〈カマド〉一部推定 ①位置 南壁の中央部分 煙道方向南北

②作り方 掘込式であるが上部削平の可能性が大きい。

③袖 位置と作り方は不明、南壁緩傾斜部分の少し高い部分を袖と考え平面図には残した。精査を行ったが袖構成土・芯材・埋土部分焼土等も認められない。

④燃焼部 緩傾斜の先に不整形の焼土が認められるが、焼成が弱く燃焼部中心とは断言できない。

〈煙道・煙出〉①南東壁より0.8m南へ延びる。

②埋土は黒褐色土～暗褐色土主体、1層北側にのみ赤褐色焼土有り。

③燃焼部 約3°緩やかに上昇するように南に向けて掘り込まれている。

### 出土遺物 (第69図 写真図版63)

〈土師器・須恵器〉①不掲載遺物の整理より、出土位置は埋土上層が中心で床面は無い。甕は非ロクロ・口縁部～体部中心、坏は非ロクロとロクロが混在、非ロクロでは内黒坏が、ロクロではあかやき土器が目立つ。

②土師器は7点を登録、うち甕2点と坏2点について図化・掲載した。RA560-1・4の甕は非ロクロ、ヘラナデ中心の調整、RA560-2・3の坏はロクロを使用している。

③須恵器は1点を登録、図化・掲載した。RA560-5はロクロ使用、底部糸切り痕が明確な坏である。

〈鉄製品〉①RA560-6が埋土中より出土、器種は不明、写真のみの掲載とした。

時期 カマドの向きと僅かの出土遺物の傾向より平安時代(9世紀後半以降)に属する。

## RA561 竪穴住居跡

### 遺構 (第27図 写真図版22)

〈位置〉①北東区南 ②-2A4s～4u グリッド付近、遺構の大部分が調査区外へ延びる。 〈重複関係〉無

〈平面形〉隅丸方形 〈主軸方向〉N-15°-E 〈規模〉(2.7×0.8) m 〈床面積〉(21.6) m<sup>2</sup>

〈埋土〉黒褐色土主体 径1cm～拳大の礫多数混じる。北西コーナー1層中位より土師器・甕が出土した。

〈その他〉最初は土坑として精査、後に北東壁の広がり住居跡として登録した。

### 出土遺物 (第69図 写真図版63)

〈土師器〉①RA561-1は北西コーナー埋土中層から出土、ハケメ調整が明瞭な非ロクロの甕1点である。

②住居跡全体の様相が不明であることから分類をAIT3としたが、北東区の他の住居跡との関係からIBとしてもよいかとも考えられる。

時期 住居跡の全容が不明のため断定できないが、北東区の他の遺構と同じ、平安時代に属する。

## RA562 竪穴住居跡

### 遺構 (第27図 写真図版23)

- 〈位置〉①西区南東側 ②1-C6w～8w グリッド付近 〈重複関係〉無
- 〈平面形〉隅丸方形 〈規模〉3.3×3.3m 〈床面積〉10.8㎡ 〈主軸方向〉N-41°-W
- 〈埋土〉黒褐色土～灰黄褐色土主体の4層に区分、一部に攪乱の土と水酸化鉄混じる。
- 〈壁高残存値〉北壁10cm 東壁12cm 南壁8cm 西壁11cm
- 〈床面〉締まりはあるが砂質、北コーナー付近に土師器片散乱する。 〈土坑〉無 〈貼床〉無
- 〈カマド〉①位置 北壁中央部、煙道方向はN-50°-Wである。
- ②作り方は掘込式である。ただし削平が多いこと、煙道埋土の様子、煙出部分に向け下降する煙道の角度から刳貫式の可能性もあることを記しておく。
- ③袖 構成土は締まりの有るにふい黄褐色土主体である。
- ④燃焼部 中心は袖間の径40cm層厚8cmの焼土部分、平面は円形である。
- ⑤煙道・煙出 燃焼部中心から北西方向に長さ1.8m、約10°に緩やかに下降しながら先端まで掘り込まれている。埋土は黒色土～黒褐色土主体、5・6層において中央過ぎまで焼土が混じる。2層は褐色土主体、天井部分の崩落土であろう。

### 出土遺物 (第70・71図 写真図版64)

- 〈土師器〉①不掲載遺物の整理より、床面より非ロクロ・甕口縁1片、体部12片出土している。
- ②登録数7点、うち6点について図化・掲載した。非ロクロの甕4点、非ロクロの坏2点、いずれも北コーナー付近の床面からの出土である。甕はAIに属しハケメとヘラナデの調整が明瞭である。RA562-3・4は胎土のためか全体が赤い傾向に有る。坏は非ロクロ、AIに属し、RA562-1・2は段が認められる。

時期 カマドの向きと出土遺物の傾向より奈良時代(8世紀中葉～後半)に属する。

## RA563 竪穴住居跡

### 遺構 (第28図 写真図版24)

- 〈位置〉①西区北側 ②1-C4u～4v グリッド付近 〈重複関係〉①有 ②RA564より新しい。
- 〈平面形〉菱形に近い方形 〈規模〉2.4×2.2m
- 〈床面積〉5.3㎡ 〈主軸方向〉N-11°-W
- 〈埋土〉①黒褐色土主体、炭化物と褐色土混じる。②残存状況が悪く検出面から床面までは8～10cmである。
- 〈カマド〉①位置 北壁やや西より、煙道方向はN-18°-Wである。
- ②作り方 検出時点で煙道が明確であるので掘り込み式、ただし上部削平のため全容は不明である。
- ③袖 無
- ④煙道 煙出 北壁より長さ1.56m北西方向へ延びる。約4°緩やかに下降しながら掘り込まれている。埋土は黒褐色土～黒色土主体、北端部分にわずかに焼土が混じる。

### 出土遺物 (第71～73図 写真図版65)

- 〈土師器〉①不掲載遺物の整理より、非ロクロ・甕体部、非ロクロ・内黒の坏体部、ロクロのあかやき土器体部が床面とカマド付近から出土している。
- ②登録数は11点、うち6点について図化・掲載した。器種は甕・高台付坏・坏・鉢?である。

③甕についてはRA563-5の1点で胎土に砂を多く含む非ロクロである。坏は3点、RA563-4の高台付坏と併せてロクロ使用が明瞭で口径が広い傾向にある。RA563-6は器種不明である。

〈その他〉①石器：砥石として使用されたRA563-9・10について図化・掲載した。

時期 平安時代の住居跡 あかやき土器の出土がみられ、坏・口径が広くなる傾向より9世紀後半に属する。

#### RA564 竪穴住居跡

##### 遺構（第29図 写真図版25）

〈位置〉①西区北 ②1-C4u～4v グリッド付近 〈重複関係〉有 RA563より古く、RG465より新しい。

〈平面形〉菱形に近い方形 重複のため南西コーナーと南壁一部プラン不明

〈規模〉2.8×(2.5) m 〈床面積〉(7 m<sup>2</sup>) 〈主軸方向〉N-40°-E

〈埋土〉①締まりのある黒褐色土～黒色土～暗褐色土主体、東側に焼土を含む層(6層)有り。

②埋土自体の締まりは全体として良くない。

〈床面〉締まりやや有り。全体に平坦で砂質傾向にある。

〈土坑〉無 〈貼床〉無

〈カマド〉①位置 北東壁やや北寄り、煙道方向はN-45°-Eである。

②作り方 検出時点で煙道が明確であるため掘込式とした。ただし、RA563同様上部削平のため全容は不明である。

③袖 無 ④燃焼部 検出しない

⑤煙道・煙出 北東壁より1.2m北に延びる。最初0.7mは一旦掘り込まれ平坦に戻る。0.8m付近から10°傾きながらゆるやかに下降する。埋土は黒色土主体、1・2層に焼土が混じる。

##### 出土遺物（第74・75図 写真図版66）

〈土師器〉①不掲載遺物の整理より、非ロクロ・甕・体部、非ロクロ・坏(内黒)、僅かにロクロ・あかやき土器・口縁部～体部破片が出土している。出土地点は埋土中と煙道である。

②12点について登録、うち6点について図化・掲載した。ロクロ使用の甕と坏3点である。出土位置は煙道埋土と床面である。

③甕についてはRA564-4はロクロ使用、RA564-5・6とも残り少ない。坏についてはRA564-1・2・3ともロクロ使用の内黒である。RA564-1については、体部下半から底部にかけてヘラケズリ調整が認められる。

〈その他〉①RA564-7・8は検出面と埋土から出土した縄文土器片である。またRA564-9は埋土から出土した削搔器、いずれも図化・掲載した。またRA564-10刀子は、写真のみの掲載である。

時期 平安時代に属する。重複の状況と出土遺物の傾向よりRA563よりも僅かに古い時期の住居跡である。

## 2 掘立柱建物跡

### RB0 4 4 掘立柱建物跡

#### 遺構（第30図 写真図版26）

〈位置・重複関係〉①西区西側 1-C7n～7t グリッド北側に位置する。旧河道とみられる部分にある。

②重複 無

〈規模・方向〉桁行3間（7.5m）梁行3間（6m）で、一部欠けるものの北側と南側の2面に、縁か庇、東側に入り口とみられる柱穴配置がある。棟方向は東西にあてはまる。

〈身舎・庇〉①身舎の桁行柱間寸法は、断面B-B'で2.2m+2.3m+3.0m E-E'で2.2m+2.0m+3.2mを測る。梁行柱間寸法は、断面G-G'で2.0m+2.0m+2.0m H-H'で2.2m+1.9m+2.1mを測る。

②庇の2面については、断面A-A'で2.2m+2.2m+3.05m F-F'で2.1m+3.35mを測る。

③入り口部分1間はJ-J' 6.0m'である。柱間寸法については2.0～2.3mが意識されている。

〈掘り方〉①掘り方の規模は径30～34cm、深さ20～60cmを測る。平面形は円形を基調にしている。

②柱痕は確認されていない。

出土遺物 時期 ①遺物の出土は無い。②時期については不明であるが、旧河道上での検出であり、付近の住居跡よりは新しい時代の掘立柱建物跡とみられる。

### RB0 4 5 掘立柱建物跡

#### 遺構（第31図 写真図版3・26）

〈位置 重複関係〉①東区中央、3F16t～16w 北側に位置する。②RG454・458と重複する。そのいずれよりも古い。Ⅲ層黒褐色土下面、暗褐色土とより濃いめの黒褐色土の存在で検出した。

〈規模 方向〉①2間×2間の方形、主軸方向はN-16°-Wである。②東西方向 断面A-A' 2.6m+2.5m 断面C-C' 2.5m+2.8m 南北方向 断面D-D' 2.3m+2.6m 断面E-E' 2.6m+2.4m

〈掘り方〉①掘り方の規模は径20～60cm、深さ20～72cmを測る。平面形は円形を基調にしている。

②柱痕は認められない。埋土はにぶい黄褐色土混の暗褐色土～黒褐色土が主体、締まりは弱い。

出土遺物 時期 ①遺物の出土は無い。②時期については不明であるが、重複する溝より古いことから、RA549と同時期古代の倉庫と考えられる。

### RB0 4 6 掘立柱建物跡

#### 遺構（第32図 写真図版27）

〈位置 重複関係〉①北I区中央部分、-2-A5u グリッドの西側に位置する。②RE055と重複する。この竪穴状遺構が馬屋となる曲屋と考えられる。

②北側の攪乱、RA553との重複のため、すべての柱穴を精査することはできなかった。

〈規模 方向〉①馬屋と作業場部分は桁行6間（10.9m）梁行3間（5.4m）である。北側には1間の間に柱がみられる。また一部南側に入り口部分と庇に係わる柱穴配置がみられる。棟方向は東西方向に対して5°北に寄る。②①に対して、直角に3間×2間の身舎が交わる。棟方向はN-6°-Eである。西側の一部に縁・庇に係わる柱配置がみられる。

〈身舎 庇〉①馬屋部分の桁行寸法は、断面B-B'で1m+2m+3.8m+2m+2m、梁行寸法は断面G-



G' 1.5m + 2 m + 1.8m、南側に張り出した底部分は断面 I - I' 2 m + 2.2m、柱の中心から中心まで 1 m が意識されている様子である。

②身舎部分の桁行寸法は、断面 F - F' で 2 m + 1.4m + 2 m、梁行寸法は 2 m + (1.8) m、西側底部分は 2 m + 2 m + 2 m + 1 m、南に折れて 1 m + 1.8m である。

〈掘り方〉①掘り方の規模は、径40~50cm深さ20~58cmを測る。平面形は円形を基調にする。

②柱痕は断面 A - A' のように一部に認められる。柱痕座標は、締まりの無い黒色土主体、掘り方は黄褐色土の混じる黒褐色土である。

出土遺物 時期 ①遺物の出土は無い。②時期は近世以降か。

#### RB0 4 7 掘立柱建物跡

遺構 (第33図 写真図版27)

〈位置 重複関係〉①北 I 区南側部分 -2-A15n ~ 15v グリッド付近に位置する。RA551・RG454と重複しそのいずれよりも新しい。

②攪乱と重複のため柱穴全てについて調査することはできなかった。

〈規模 方向〉①棟方向は東西、東西に細長い建物であろう。桁行 7 間 (約15m) 梁行 3 間 (約 5 m)。

〈身舎〉①桁行寸法は、断面 A - A' 5 m + 2 m + 1 m + 1.5m + 1 m + 2.5m + 2.5m である。プランが曲がっているため、桁行と桁行寸法の間には差が生じている。梁行寸法は断面 H - H' 2 m + 2 m + 1 m (一部推定) である。柱の間が 1 m を意識している点が RB046 と類似している。

〈掘り方・埋土〉①掘り方の規模は、径36~80cm深さ16~52cmを測る。平面形は円形を基調にしている。

②柱痕については確定できないが、柱穴中層~下層に角礫が入るものがみられる。

出土遺物 時期 ①遺物の出土は無い。②時期は近世以降か。柱間の間隔に対する感覚の類似が読みとれる。柱穴中に角礫が入ることが特徴か。

#### RB0 4 8 掘立柱建物跡

遺構 (第34図 写真図版27)

〈位置 重複関係〉①北 I 区南側部分 -2-A12v グリッド西側に位置する。②直接には RB047 と重複しそれより古い。(柱穴の重複より判断する)

〈規模 方向〉①棟方向は南北である。南北に細長い建物で、RB047 と 90° に交わる。

②桁行 5 間 (約8.8m) 梁行 3 間 (約 7 m)

〈身舎〉①桁行寸法は、断面 A - A' 6 m + 2 m、B - B' 0.6m + 1.2m + 3.3m + 2 m + (2) m、梁行寸法は C - C' で 3 m + 2 m + 2 m (一部推定) である。

〈掘り方・埋土〉①掘り方の規模は径40~60cm深さ30~50cmを測る。上部の削平のため実際はより深いものであろう。②柱痕については確定できないが、柱穴中層~下層に角礫が入るものがみられる。

出土遺物 時期 ①遺物の出土は無い。②時期は不明。ただし、RB047 より古い、梁行と桁行寸法より RB047 より僅かに古いとみられる。

### 3 土坑

#### RD1039土坑

遺構（第35図 写真図版28）

- (1) 位置 東区3F13u グリッドの西 (2) 重複 有 Pit53より古い。
- (3) ①平面楕円形 ②長軸方向 N-40°-W ③開口部長径1.9×短径1.4m ④深さ32cm  
⑤断面皿状 ⑥埋土 黒褐色土～褐色土主体黄褐色土と褐色土混
- (4) ①用途不明 RG456（方形周溝）の東側にあり。

出土遺物（第78図）

- (1) 不掲載遺物の整理より、検出面と埋土中から出土した非ロクロの甕と坏・体部破片が主体である。坏に関しては内外黒色処理が施されている破片がみられる。
- (2) 非ロクロ甕・口縁～体部破片2点を登録、うち1点を図化・掲載した。RD1039-1は小片であるがハケメとヨコナデが明瞭な甕・口縁部である。

時期 古代（奈良時代）に属する。

#### RD1040土坑

遺構（第35図 写真図版28）

- (1) 位置 東区3F14s グリッド南 (2) 重複 無
- (3) ①平面隅丸方形 ②長軸方向N-62°-W ③開口部径1.2m 内側に長径1.1×短径0.9mのより深い部分有り ④深さ40cm ⑤断面不整形 ⑥埋土黒褐色土～暗褐色土～にぶい黄褐色土主体、1・2層で焼骨とにぶい赤褐色焼土検出、上層から西側にかけて径10～15cmの礫散見、礫間にも焼骨有り。
- (4) RG456（方形周溝）の内側に位置し、平面は隅丸方形、焼骨の出土より墓壇である。

出土遺物

- (1) 不掲載遺物の整理から検出面で非ロクロ・甕体部破片と坏（内黒・内外黒）・口縁～体部破片が出土している。
- (2) 登録数は1点、外面有段の坏・口縁～体部破片である。小片のため登録のみとした。
- (3) 出土した焼骨は火葬された30代男性の頭骨という鑑定の結果である。この頭骨は800°以上の高温で焼かれたことまで判明した。墓壇に埋葬された人骨であり、付近にもまだ墓壇のある可能性はある。

時期 古代（付近の遺構と同じ奈良時代）に属する。

#### RD1041土坑

遺構（第36図 写真図版28）

- (1) 位置 北I区 -2-A14s グリッドの東 (2) 重複 無
- (3) ①平面円形 ②開口部径0.9m ③深さ 12cm ④断面 皿状 ⑤埋土 褐灰土主体の単層

出土遺物 無 時期 不明

#### RD1042土坑

遺構（第36図 写真図版28）

- (1) 位置 北I区 -2-A11u グリッドの西 (2) 重複 有 RG449より新しい。

(3) ①平面隅丸方形 ②長軸方向 南北 ③開口部長径1.2×短径0.9m ④深さ 14cm ⑤断面逆台形  
⑥埋土1・2層灰赤色と暗赤褐色焼土層

(4) 形状は隅丸方形であるが、下に溝が有る。穴を掘りその中でものを焼いた跡の可能性も有る。

出土遺物 無 時期 不明

#### RD1043土坑

遺構(第36図 写真図版29)

(1) 位置 北I区 -2-A15q グリッドの東 (2) 重複 無

(3) ①平面円形 ②開口部径0.7m ③深さ46cm ④断面不整形 ⑤埋土黒褐色土主体

出土遺物 無 時期 不明

#### RD1044土坑

遺構(第36図)

(1) 位置 北I区 -2-A13v グリッドの北 (2) 重複 有 RG444より新しい。

(3) ①平面楕円形 ②長軸方向N-50°-E ③開口部長径0.9×短径0.75m ④深さ 不明

出土遺物 無 時期 不明

#### RD1045土坑

遺構(第36図 写真図版29)

(1) 位置 北I区 -2-A12h グリッド (2) 重複 無

(3) ①平面円形 ②開口部径1.1m ③深さ 18cm ④断面皿状 ⑤埋土暗赤褐色焼土主体

(4) 穴を掘り物を焼いた跡か

出土遺物 無 時期 不明

#### RD1046土坑

遺構(第36図 写真図版29)

(1) 位置 北I区 -2-A15o グリッドの東 (2) 重複 無

(3) ①平面円形 ②開口部径1m ③深さ20cm ④断面皿状 ⑤埋土黒褐色土主体2層目ほどブロック多

出土遺物 無 時期 不明

#### RD1047土坑

遺構(第36図 写真図版29)

(1) 位置 北I区 -2-A12o グリッドの東 (2) 重複 有 RG448よりも古く、RG447よりも新しい。

(3) ①平面円? (全容不明) ②開口部径2.45m ③深さ20cm ④断面浅い皿状 ⑤埋土黒色シルト主体

出土遺物 無 時期 不明

#### RD1048土坑

遺構(第37図 写真図版30)

(1) 位置 北I区 -2-A11j グリッドの南東 (2) 重複 無 (3) ①平面円 ②開口部径0.8m  
③深さ12cm ④断面皿状 ⑤埋土 水酸化鉄と炭化物混じる黒褐色土主体  
出土遺物 無 時期 不明

#### RD1049土坑

遺構 (第37図 写真図版30)

(1) 位置 北I区 -2-A13j グリッド付近 (2) 重複 無  
(3) ①平面円 ②開口部径0.8m ③深さ10cm ④断面浅い皿状 ⑤埋土炭化物混じる暗褐色土主体  
(4) 埋土中にごく僅か炭化物混じる。(RD1045・1048・1050・1051も同じ)

出土遺物 無 時期 不明

#### RD1050土坑

遺構 (第37図 写真図版30)

(1) 位置 北I区 -2-A12k グリッド (2) 重複 有 RG446より新しい。  
(3) ①平面円? (全容不明) ②開口部径 (1) m ③深さ10cm ④断面皿状  
⑤埋土 酸化鉄と炭化物混じる暗褐色土主体

出土遺物 無 時期 不明

#### RD1051土坑

遺構 (第37図 写真図版30)

(1) 位置 北I区 -2-A12k グリッド (2) 重複 有 RG446より新しい (3) ①平面円? (全容不明) ②開口部径 (0.5) m ③深さ10cm ④断面皿状 ⑤埋土 酸化鉄と炭化物混じる暗褐色土主体

出土遺物 無 時期 不明

#### RD1052土坑

遺構 (第37図 写真図版31)

(1) 位置 北I区 -2-A12l グリッドの西 (2) 重複 有 RG446より古い  
(3) ①平面円? (全容不明) ②開口部径0.8m ③深さ12cm ④断面皿状 ⑤埋土 暗褐色土主体  
出土遺物 (1) 不掲載遺物の整理より、出土遺物は埋土中層からの非ロクロ・甕体部破片5点である。  
(2) 登録は1点、非ロクロ・甕体部破片1点、小片であるために、登録のみとした。  
(3) 近接するRD1050・1051からも出土遺物は無い。RD1052はRG446との重複があり、非ロクロ・甕体部破片も出土していることから、溝に関係した遺物ともみられる。

時期 出土遺物と付近の遺構との関係から古代に属する。

#### RD1053土坑

遺構 (第37図 写真図版31)

(1) 位置 北I区 -2-A15f グリッドの北西 (2) 重複 無 (3) ①平面円 ②開口部径1.1m

③深さ15cm ④断面皿状 ⑤埋土は黒褐色土主体で炭化物混じる。

出土遺物 無 時期 不明

#### RD1054土坑

遺構(第37図 写真図版31)

- (1) 位置 北I区 -2-A13g グリッドの北西 (2) 重複 無  
(3) ①平面楕円形 ②長軸方向N-80°-W ③開口部長径1.1×短径0.8m ④深さ10cm  
⑤断面皿状 ⑥埋土は黒褐色土主体で炭化物混じる。

出土遺物 無 時期 不明

#### RD1055土坑

遺構(第37図 写真図版31)

- (1) 位置 北I区 -2-A7p グリッドの西 (2) 重複 有 RA550より新しい。  
(3) ①平面方形 ②長軸方向南北 ③開口部長径1.3×短径0.75m ④深さ30cm ⑤断面逆台形  
⑥埋土は暗褐色土～黒褐色土主体、全体に炭化と焼土混じる。底面付近に灰の層有り。  
(4) 穴を掘りその底面でものを焼いた跡か。

出土遺物 無 時期 不明

#### RD1056土坑

遺構(第37図 写真図版32)

- (1) 位置 北I区 -2-A9r グリッドの西 (2) 重複 有 RG452より新しい。  
(3) ①平面方形(一部推定) ②長軸方向N-82°-E ③開口部長径2×1.5m  
④深さ55cm ⑤断面逆台形 ⑥埋土記無

出土遺物 無 時期 不明

#### RD1057土坑

遺構(第37図 写真図版32)

- (1) 位置 北I区 -2-A10r グリッドの西 (2) 重複 有 RG446より新しい。  
(3) ①平面楕円形 ②長軸方向東西 ③開口部長径1.05×短径0.8m ④深さ20cm ⑤断面逆台形  
⑥埋土黒褐色土主体の単層

出土遺物 不掲載遺物の整理より、非ロクロ・甕と坏の口縁破片と須恵器・甕体部破片出土。小片のため登録せず。

時期 不明

#### RD1058土坑

遺構(第38図 写真図版32)

- (1) 位置 北II区 -3-A11v グリッドの北 (2) 重複 有 RD1060より新しい。  
(3) ①平面楕円形 ②長軸方向 N-32°-W ③開口部長径0.9×短径0.7m ④深さ20cm

⑤断面形皿状 ⑥埋土暗褐色土単層

出土遺物 無 時期 不明

#### RD1059土坑

遺構 (第38図 写真図版32)

(1) 位置 北Ⅱ区 -3-A12w グリッドの東 (2) 重複 有 RD1061・1072より新しい。

(3) ①平面隅丸方形 ②長軸方向N-55°-W ③開口部長径0.5×短径0.42m ④深さ32cm

⑤断面U字形 ⑥埋土黒褐色土単層

出土遺物 無 時期 不明

#### RD1060土坑

遺構 (第38図 写真図版32・33)

(1) 位置 北Ⅱ区 -3-A11w グリッドの西 (2) 重複 有 RD1061より新しい。RD1068より古い。

(3) ①平面楕円形 ②長軸方向N-40°-W ③開口部長径2.3×1.2m ④深さ60cm ⑤断面形開いたU字 ⑥埋土黒褐色土～暗褐色土主体の7層に区分 層状に堆積 上層～中層に焼土と土師器片混

(4) 土坑であるが土師器片多量出土する。

出土遺物 (第76・77図 写真図版67)

(1) 不掲載遺物の整理より、非ロクロの甕体部と坏(内黒)の口縁部～体部が主体である。

(2) 登録数は19点、器種は甕10点、坏5点を図化・掲載した。3点が小型甕、他はAIの長胴甕が多く、RD1060-11・12のように口縁の開きの大きい甕もみられる。坏は5点、いずれも外面又は内外面に段があり黒色処理されている。RD1060-1は大型の坏であることが予想されるが全容は不明である。

(3) 今次調査の土坑中、最も遺物量が多い。

時期 出土遺物の傾向より、奈良時代に属し、RA549と同時期の遺構とみられる。

#### RD1061土坑

遺構 (第38図 写真図版33)

(1) 位置 北Ⅱ区 -3-A12w グリッドの北 (2) 重複 有 RD1059・1060より古い。

(3) ①平面楕円形(重複のため全容不明) ②長軸方向N-40°-W ③開口部長径(1)×短径(0.6)m ④深さ44cm ⑤断面開いたU字形 ⑥埋土は黒褐色土～暗褐色土主体で上層～中層に焼土と炭化物混じり、層状堆積である。

出土遺物 無 時期 奈良時代。RD1060より古い。

#### RD1062土坑

遺構 (第38図 写真図版33)

(1) 位置 北Ⅰ区 -2-A1r グリッドの北 (2) 重複 無

(3) ①平面西側が深い横長の楕円形 ②長軸方向東西 ③開口部長径4.4×短径1m ④深さ34cm

⑤断面皿状 ⑥埋土黒褐色土主体

出土遺物 無 時期 不明

RD1063土坑

遺構（第38図 写真図版33）

- （1）位置 北Ⅰ区 RD1062の南 （2）重複 無  
（3）①平面東側に緩やかな張出部分あるが円形 ②開口部径1m

出土遺物 無 時期 不明

RD1064土坑

遺構（第39図 写真図版34）

- （1）位置 北Ⅰ区 -2-A5m グリッドの東 （2）重複 無  
（3）①平面楕円形 ②長軸方向N-14°-E ③開口部長径1.2×短径1m ④深さ40cm  
⑤断面開いたU字形 ⑥埋土黒褐色土～黄褐色土主体の4層

出土遺物 無 時期 不明

RD1066土坑

遺構（第39図 写真図版34）

- （1）位置 北Ⅰ区 -2-A10m グリッドの西 （2）重複 無  
（3）①平面楕円形（小判型） ②長軸方向N-35°-E ③開口部長径1.4×短径0.8m ④深さ26cm  
⑤断面皿状 ⑥埋土暗褐色単層

出土遺物（第78図 写真図版68） 埋土中より非ロクロ・甕3片出土。小片のため不掲載とした。また、埋土中より、RD1066-11弥生土器？が出土、図化・掲載した

時期 不明

RD1067土坑

遺構（第39図 写真図版34）

- （1）位置 北Ⅰ区 -2-A6n グリッドの南 （2）重複 無  
（3）①平面円形 ②開口部径0.5m ③深さ50cm ④断面U字形 ⑤埋土黒褐色土主体で層状堆積、1層部分に炭化物混じる。

出土遺物 無 時期 不明

RD1068土坑

遺構（第38図 写真図版34）

- （1）位置 北Ⅱ区 -3-A12v グリッドの北 （2）重複 無  
（3）①平面隅丸方形 ②長軸方向N-7°-E ③開口部長径1.12×0.9m ④深さ30cm ⑤断面逆台形

出土遺物 無 時期 不明

RD1069土坑

遺構（第39図 写真図版35）

- （1）位置 北Ⅰ区 -2-A2p グリッドの南 （2）重複 無

(3) ①平面方形 半分は攪乱の下(一部プラン点線で表示) ②長軸方向東西 ③開口部長径1.3×短径1 m ④深さ34cm ⑤断面開いたU字形 ⑥埋土黒褐色土～暗褐色土主体、層状堆積である。

出土遺物 無 時期 不明

#### RD1070土坑

遺構(第39図 写真図版35)

(1) 位置 北Ⅱ区 -3-A13t グリッドの北 (2) 重複 無

(3) ①平面円形 ②開口部径0.8m ③深さ20cm ④断面皿状 ⑤埋土黒褐色土単層

出土遺物 無 時期 不明

#### RD1071土坑

遺構(第39図 写真図版35)

(1) 位置 北東区 -2A5q グリッド (2) 重複 有 RA559より新しい。

(3) ①平面円形 ②長軸方向南北 ③開口部径0.62m ④深さ28cm ⑤断面開いたU字形

⑥埋土黒褐色土単層 礫層は北東区の一般的傾向である。

出土遺物(第78図)

(1) 小規模の土坑であるが、不掲載遺物の整理より、非ロクロの甕・体部、ロクロ使用の坏(あかやき・内黒)が出土している。

(2) 登録数1点、ロクロ使用のRD1071-1・坏について図化・掲載した。

時期 北東区の他の遺構同様平安時代に属する。

#### RD1072土坑

遺構(第38図 写真図版35)

(1) 位置 北Ⅱ区 -3-A12w グリッドの東 (2) 重複 有 RD1059より古い。

(3) ①平面楕円形 ②長軸方向N-50°-W ③開口部長径(1.0)×短径(0.4)m ④深さ25cm

⑤断面開いたU字 ⑥埋土黒褐色土主体の3層に区分、中～下層に焼土混の層状堆積。

(4) 焼土を含むことと埋土が層状に堆積することから他遺構の続きともみられる。

出土遺物(第78図 写真図版68)

(1) 非ロクロ・甕口縁～体部2点を登録、うちRD1072-1・甕1点と埋土から出土したRD1072-2縄文土器を図化・掲載した。

(2) 遺物の出土が多いRD1060に近接する。

時期 周囲の遺構同様古代(奈良)に属するか。

#### RD1073土坑

遺構(第39図 写真図版36)

(1) 位置 北東区 -3A24u グリッドの西 (2) 重複 有 RA557より新しい。

(3) ①平面不整形 ②長軸方向N-40°-W ③開口部長径1.3×短径0.85m ④深さ28cm

⑤断面開いたU字形 ⑥埋土灰黄褐色土～暗褐色土主体 上層は攪乱の土で根痕の可能性もある。



#### 出土遺物（第78図）

- （1）不掲載遺物を整理すると、土師器・甕体部破片 3 点、須恵器・甕体部破片 2 点、埋土中より出土する。
- （2）登録はRD1073-1 非ロクロ・甕 1 点、底部に木葉痕が認められる。図化・掲載した。

時期 周囲の遺構同様古代（平安）に属する。

#### RD1074 土坑

##### 遺構（第40図 写真図版36）

- （1）位置 北東区 -3A23s グリッド （2）重複 無
- （3）①平面楕円形 ②長軸方向N-45°-E ③開口部長径0.74×短径0.64m ④深さ14cm
- ⑤断面逆台形 ⑥埋土黒褐色土～にぶい黄褐色土主体 上層に炭と焼土混じる

##### 出土遺物（第78図 写真図版68）

- （1）不掲載遺物はロクロ・坏（あかやき・内黒）口縁部～体部破片、須恵器・坏口縁部 1 片である。小片であるため登録は行わなかった。
- （2）残りの様子は良くないが、埋土下層から回転糸切痕が明瞭なRD1074-1・2 と須恵器・坏が出土、図化・掲載した。RD1074-1 は、体部下半に丸味をおびるが、RD1074-2 は丸味は目立たず、やや直線的に口縁部に至る。RA556の出土遺物に似るか。

時期 周囲の遺構同様古代（平安）に属する。

#### RD1075 土坑

##### 遺構（第40図 写真図版36）

- （1）位置 東区 3F17u グリッドの西 （2）重複 有 RG463よりも古い
- （3）①平面楕円形 ②長軸方向N-80°-E ③開口部長径2×短径0.9m ④深さ18cm ⑤断面皿状
- ⑥埋土黒褐色土単層
- （4）方形周溝の南側に有 骨片や焼土無

##### 出土遺物（第78図 写真図版68）

- （1）不掲載遺物の整理より、埋土上層より非ロクロ・甕と坏体部片出土する。登録数 1 点、残りの様子は良くないが、RD1075-1 非ロクロ・甕について図化・掲載した。

時期 周囲の遺構同様古代（奈良）に属する。

#### RD1076 土坑

##### 遺構（第40図 写真図版36）

- （1）位置 東区 3G17d グリッドの南西 （2）重複 無
- （3）①平面楕円形 ②長軸方向N-32°-E ③開口部長径2×短径1.56m ④深さ50cm
- ⑤断面不整形 ⑥埋土黒褐色土～にぶい黄褐色土～褐色土主体 層状堆積 7層部分に焼土集中
- （4）焼土混の埋土を積み重ねた形跡あり または土坑を掘り中層で火を焚いたかとも考えられる。

出土遺物 無 時期 遺物は無いが周囲の遺構同様古代（奈良）に属する。

## 4 竪穴状遺構

### RE055 竪穴状遺構（馬屋）

遺構（第41・42図 写真図版37・38）

〈位置〉①北Ⅰ区 北東隅

②-2-A5q～5s グリッド付近に位置する。

③Ⅳ層地山面で長方形の黒褐色土の広がりとして検出した。RA553竪穴住居跡と重複し、これより新しい。南西隅部分は底面より深くまで攪乱を受け、損なわれていた。

〈平面形・規模〉①平面 隅丸長方形 ②主軸方向 N-6°-E

③規模 Ⅲ時期の変遷を確認した。

・Ⅰ期は本体部が東西5.5m×南北4.3m深さ40cmで、その西に東西1.1m×南北2.8m深さ23cmの浅い掘り込みを伴う。

・Ⅱ期は、西側の浅い掘り込み部分が埋め戻されて規模が縮小する。本体部東西5.5m×南北4.3m深さ40cmで、本体部の大きさに変化は無い。

・Ⅲ期は更に小さくなる。本体部の東西壁側が部分的に埋め戻されて東西方向に縮小し、東西4.8m×南北4.3m深さ40cmの規模となる。なお、Ⅲ期・東壁ならびに西壁側床面において南北に並ぶ小規模な杭穴状小土坑が検出されている（第42図）。そのうち東壁側の1基は、杭状の木材がささったままの状態を検出された。またⅢ期・東壁においては杉材が壁面に貼り付く状態で確認されている。これらはⅡ期からⅢ期への規模縮小過程において埋め戻した部分の崩落を防ぐよう、いわば土留めの役割があったものと考えられる。

〈埋土〉時期別に明瞭に分層される。第10層はⅠ期～Ⅱ期移行期に埋め戻された部分である。第9層はⅡ期からⅢ期移行時に埋め戻された部分である。第6層はⅢ期の埋土で黄褐色を呈し、その様相から人為的埋め戻しと判断される。

〈壁・床面〉壁はいずれの時期も床面より若干外傾して立ち上がる。床面はよく締まっていた堅く、若干の凹凸があるものの概して平坦である。

出土遺物（第79図 写真図版68・72）

埋土中から古代の遺物が出土しているが、当遺構に伴うものではない。

時期 当遺構は埋土中に腐蝕しきらぬ木材が残存するなど、ごく新しい時期（近世）のものともみてよい。おそらくは当遺構を取り囲むようにして検出されたRB046掘立柱建物跡（南部曲家）に伴う馬屋跡と考えられる。当遺跡の東側攪乱中より北Ⅰ外-12蹄鉄（第85図 写真図版72）が出土しているのもこの推定を助ける。

### RE056 竪穴状遺構

遺構（第43図 写真図版39）

〈位置〉①東区 南東端 RG561の南側 ②3F24v～24w グリッドの北側に位置する。

③黒褐色土下層により濃い黒褐色土（黒色土に近い）と北壁沿いの土師器片の存在により検出した。最初は住居跡として精査したが、カマド部分及び煙道が検出できず、竪穴状遺構とする。

〈平面形・規模〉平面方形 主軸方向N-26°-W 規模東西2.4×南北2.25m

〈埋土〉①黒褐色土～暗褐色土を主体にした4層に区分した。

②褐色土細粒を含む締まりの有る黒褐色土が中心であり、上層に土師器片を含む。この部分が検出の目安になった。

〈壁・床〉①床は埋土の続きにより平坦である。

②壁は床面より約50°で垂直に立ち上がる。立ち上がりは明瞭である。

出土遺物（第79図 写真図版68・69）

①不掲載遺物の整理により、北壁沿い埋土と住居跡埋土1層から非ロクロの甕・口縁部～体部破片が出土している。

②登録数は6点、うち非ロクロ・甕3点、坏2点について図化・掲載した。甕はRE056-4・5の如く、長胴甕、調整はハケメとヘラケズリが明瞭である。RE056-2・坏は内黒・丸底で段が認められず、調整には丁寧なヘラミガキが施されている。RE056-I・坏は平底に近いが不安定である。

時期 RA547や他の遺構と関わりがあり、古代（奈良・8世紀後半以降）に属する。

## 5 焼土遺構

RF063・064焼土遺構

遺構（第44図 写真図版40）

〈位置〉①北I区 中央部分

②2-A5p～6p グリッド東に位置する。RF063が北側、RF064が南側である。

〈平面形・規模〉①RF063 平面不整形 長径70cm 焼成の厚さ黒褐色土の下8cm 焼成良好の赤褐色焼土である。

②RF064 平面楕円形 長径42×短径30cm 焼成の厚さは6cm 焼成良好の赤褐色焼土である。

出土遺物・時期 無 不明

## 6 溝跡・堀跡

RG442溝跡

遺構（第48図 写真図版41）

（1）位置 北I区南東端 南東調査区外から北I区南端にあり。

（2）重複 有 RG443より古く、RG451より新しい。

（3）規模 検出部分の全長約12.2m 幅開口部上端28～42cm下端10～30cm 深さベルト部分で4cm 断面は浅い皿状 底面は多少東側高い。

（4）埋土 褐灰色土主体、水酸化鉄が混じる。 （5）流路方向 N-13°-W

出土遺物 無 時期 古代に属する。

RG443溝跡

遺構（第48図 写真図版41）

（1）位置 北I区南東端 南東調査区外から北I区にあり。

（2）重複 有 RG442・445・452より新しい。（RG452は一部推定）

（3）規模 検出部分の全長約6.65m 幅開口部上端40～70cm下端18～32cm 深さベルト部分で14cm 断面は開いたU字 底面は平坦

(4) 埋土 灰黄褐色土主体で攪乱、水酸化物と炭化物混じる。 (5) 流路方向 N-86°-E

#### 出土遺物

(1) 不掲載遺物の整理より、埋土中より非ロクロ・甕体部～底部破片各3点、坏・あかやき土器体部破片9点が出土している。

(2) 登録は底部糸切りが認められる坏、小片のため登録のみである。

時期 古代に属する。

#### RG444 溝跡

##### 遺構 (第48図 写真図版41・42)

(1) 位置 北I区南 調査区を東西に横切る。

(2) 重複 有 RD1044より古い。RG447・448・449より新しい。

(3) 規模 検出部分の全長約35.5m 幅開口部上端5～12cm下端30～60cm 深さベルト部分で26～36cm  
断面はU字 壁はやや傾きながら立ち上がる 深さは全体に一樣

(4) 埋土 黒褐色土主体で水酸化鉄混じる。 (5) 流路方向 N-88°-E

##### 出土遺物 (写真図版69)

(1) 不掲載遺物の整理より、非ロクロ・甕と坏の口縁～体部、西側埋土中よりロクロ・坏が出土している。破片が多いが、なかなか立体にならない。

(2) 登録は回転糸切りが認められる坏・体部下半～底部、小片のため登録のみとする。他に埋土中より、RG444-1・鉋の刃とRG444-2・釘の出土した。写真による掲載のみとした。

時期 古代に属する。

#### RG445 溝跡

##### 遺構 (第48図 写真図版41・43)

(1) 位置 北I区南東 南東調査区外から調査区内にあり。

(2) 重複 有 RG443より新しい。

(3) 規模 検出部分の全長は約5m 幅開口部上端12～48cm下端10～40cm 深さベルト部分で4～7cmと浅い 底面は平坦 (4) 埋土 黒褐色土主体で水酸化鉄は無い。

(5) 流路方向 主にN-15°-W 北西部分約1/3はN-64°-W

出土遺物 無 時期 古代に属する。

#### RG446 溝跡

##### 遺構 (第48図 写真図版41・42)

(1) 位置 北I区南 調査区を東西に横断する。

(2) 重複 有 RD1057より古い。東側でRG447と合流、RG446が新しい可能性がある。

(3) 規模 検出部分の全長は約37.4m 幅開口部上端66～110cm下端40～60cm 深さ西側で32cm東側で14cm

(4) 埋土 黒褐色土主体で水酸化鉄無い。 (5) 流路方向 N-68°-E

##### 出土遺物 (第80図 写真図版69)

(1) 不掲載遺物の整理より、非ロクロ・体部破片44点、非ロクロ・坏の口縁～体部破片5点、ロクロ・あ

かやき土器、埋土中より出土した。

(2) 登録数は4点、うち小片であるがRG446-1 非ロクロ・甕口縁～体部を図化・掲載した。

時期 遺物は不掲載のものも含めて出土しているが、重複と攪乱が多く、時期を特定することはできない。

#### RG447 溝跡

遺構 (第48図 写真図版41・42)

(1) 位置 北I区南 調査区を東西に横断する。

(2) 重複 有 RD1047・RG448より古い。東側でRG446と合流する。RG446との新旧は不明。

(3) 規模 検出部分の全長は約39m 幅開口部上端85～110cm下端60～90cm 深さ10～14cm

(4) 埋土 黒色土主体で砂礫が部分的に混じる。水酸化鉄無し。

(5) 流路方向 N-85°-E RG446とほぼ平行に走る。

出土遺物 (第80図 写真図版69)

(1) 非ロクロ・甕と非ロクロ・内黒と糸切痕が認められる坏を登録、うちRG447-3・甕1点、RG447-5 小型甕1点、RG447-1・2・坏2点を図化・掲載した。甕の残りは良くないが、坏については焼成良のロクロ使用のものと、内外有段で内黒のものである。また、須恵器はRA447-4・6・7・甕・体部について3点図化・掲載した。

時期 古代に属する。掲載した遺物は数と種類は多いが攪乱や他遺構との重複が多いため、RG447だけの遺物とは断言出来ず時期の特定はできない。

#### RG448 溝跡

遺構 (第48図 写真図版41・42)

(1) 位置 北I区南 調査区を東西に横断する。

(2) 重複 有 RG447・449・RD1047より新しくRG444より古い。RG444との合流点で消滅する。

(3) 規模 検出部分の全長は約31m 幅開口部上端60～120cm下端40～100cm 深さ14～22cm

底面一部平坦、一部で傾斜有り。 (4) 埋土 黒褐色土主体で砂礫混じる。

(5) 流路方向 西側N-65°-E 東側N-60°-E

出土遺物 (第81図 写真図版70)

(1) 不掲載遺物の整理より、遺物数は西側埋土を中心に非常に多い。かつ、土師器は非ロクロ・甕と坏(内外黒色処理)、ロクロ・坏(内外黒色処理・あかやき土器)、須恵器と多種にわたる。

(2) 登録数は10点、非ロクロ・甕7点、坏3点、うちAIの甕と坏2点を図化・掲載した。RA448-2は内外黒色処理及び底部に再調整がなされているロクロ使用の坏である。須恵器はRG448-4・5の甕と壺、口縁部の2点掲載、いずれも残存状況は良くない。

時期 古代に属する。RG447と同じ理由で時期の特定はさける。

#### RG449 溝跡

遺構 (第48図 写真図版41・42)

(1) 位置 北I区南 調査区を東西に横断する。

(2) 重複 有 RG450より新しく、RG448・444より古い。

(3) 規模 検出部分の全長は34m 幅開口部上端80~120cm下端30~110cm 重複のため北側壁立ち上がり  
が一部不明 深さ10~18cm

(4) 埋土 黒褐色土主体である。 (5) 流路方向 東側部分N-63°-E、RG448とほぼ平行である。

#### 出土遺物 (第81図 写真図版70)

(1) 不掲載遺物の整理より、西端部分より非ロクロ・甕と坏の体部破片が出土している。

(2) 土師器の甕2点と坏1点を登録したが、小片であったため図化・掲載はしなかった。須恵器はRG  
449-1・甕・体部下半~底部1点を図化・掲載した。

時期 古代に属する。

#### RG450 溝跡

##### 遺構 (第48図 写真図版42)

(1) 位置 北I区 (2) 重複 有 RG449より古い。

(3) 規模 検出部分の全長6m 幅開口部上端68cm下端40cm 深さ24cm 重複のため全容不明  
北I調査区西端のみに見られるが深い

(4) 埋土 黒褐色土主体である。 (5) 流路方向 N-61°-E

#### 出土遺物 (第81図 写真図版70)

(1) 不掲載遺物の整理より、西端埋土より非ロクロの甕・口縁~体部破片、坏・体部破片、非ロクロの坏・  
体部破片が出土している。

(2) 甕1点と坏2点を登録、RG450-1・甕とRG450-2・坏それぞれ1点を図化・掲載した。いずれ  
も残りの状態は良くない。

時期 古代に属する。

#### RG451 溝跡

##### 遺構 (第48図 写真図版43)

(1) 位置 北I区南東端 東西に於いてそれぞれ調査区外へ延びる。

(2) 重複 有 Pit231・232より古い。

(3) 規模 検出部分の全長2.2m 幅開口部上端40~50cm下端20~40cm 深さ14cm  
断面形は開いたU字 底面に凹凸有

(4) 埋土 黒褐色土主体で下位に水酸化鉄混じる。 (5) 流路方向 N-70°-E

出土遺物 無 時期 古代に属する。

#### RG452 溝跡

##### 遺構 (第48図 写真図版43)

(1) 位置 北I区 北I区を南北に縦断、北と南の調査区外に延びる。

(2) 重複 有 RG444・446・447・448・449、RD1056、RF063・064より古く、RA551より新しい。

(3) 規模 検出部分の全長36.7m 幅開口部上端30~60cm下端10~40cm ベルト部分深さ10cm  
断面形は開いたU字 底は丸い。

(4) 埋土 黒褐色土主体、水酸化鉄無し。

(5) 流路方向 -2-A11q 付近で横にずれるがN-17°-W (6) 攪乱との重複のため全容不明  
出土遺物 無 時期 古代に属する。過年度調査区の溝に続く。

#### RG453 溝跡

遺構 (第47図 写真図版44)

- (1) 位置 北東区の南端、-2A6n ~ -2A6q 付近、調査区外西側から調査区外東側にあり。
- (2) 重複 無
- (3) 規模 検出部分の全長5.3m 幅開口部上端240~305cm 下端50~162cm 深さベルト部分で44cm  
断面は皿状で底面はU字 自然堆積
- (4) 埋土 黒褐色土主体、5層下位に水酸化鉄、底面に礫多数混じる。 (5) 流路方向 東西

出土遺物 (第82図 写真図版70)

- (1) 遺物量が多い。不掲載遺物の整理より、主に検出面・底面・埋土から土師器・非ロクロ・甕口縁部～体部、非ロクロ・坏 (内黒) 体部～底部、ロクロ使用・坏 (あかやき) ・口縁部～底部、坏 (内黒) 口縁部～体部が出土している。加えて、須恵器・甕と坏の破片と多種にわたる。(あかやきの割合が多少多くなっている) 意図的に投げ込まれた遺物が多いのではないかと考えたが、出土状況について細かい記録をとることができなかつたため、その可能性のみ記しておく。
- (2) 登録数は10点、うち小型甕1点、高台付坏3点、あかやき土器2点、内黒坏1点について図化・掲載した。RG453-2・3・6・坏と高台付坏は胎土が粗であり、また5YR6/6~6/8橙のあかやき土器が多くみられる。

時期 遺物の傾向と付近の遺構の年代より、平安時代 (9世紀後半~10世紀初め) の溝とみられる。

#### RG454 溝跡

遺構 (第47図 写真図版44)

- (1) 位置 北東区の中央 -2A1o ~ 1q グリッド付近 (2) 重複 有 RG456より新しい。
- (3) 規模 検出部分の全長14.8m 幅開口部上端100~140cm 下端60~100cm 深さベルト部分で16~28cm  
断面は西側やや箱状で底は平 東側はU字形
- (4) 埋土 黒褐色主体、埋土上層~下層まで水酸化鉄混じる。
- (5) 流路方向 -2A1o ~ 2r までは東西 -2A2r から東はN-60°-W

出土遺物 (第82・83図 写真図版70)

- (1) 不掲載遺物の整理から、非ロクロ・甕体部破片、ロクロ使用・坏 (あかやき=内黒) の割合が多い。少数だが須恵器・甕と坏の破片もみられる。
- (2) 登録数は甕2点、坏3点、うち土師器：甕1点と坏2点、須恵器4点を図化・掲載した。RG454-1は内外面黒色処理が施されており、RG454-2は内黒で糸切痕が明確である。

時期 RG453と比べ、少し古いか同時期である。

#### RG455 溝跡

遺構 (第47図 写真図版45)

- (1) 位置 北東区の北側 -3A22t ~ -2A1s グリッド

- (2) 重複 有 RG456より古い。RA557・558より新しい。
- (3) 規模 検出部分の全長8.6m 幅開口部上端30～180cm下端25～50cm 深さ北東端ベルト部分35cm  
断面はU字形一部の底は平である。
- (4) 埋土 にぶい黄褐色土～灰褐色土～褐色土主体、底面に水酸化鉄混じる。 (5) 流路方向 N-20°-E

#### 出土遺物

- (1) 埋土中より非ロクロ・甕体部破片出土、小片のため登録無し。

時期 出土遺物数少なく時期について積極的に判断できない。周辺の遺構と同時期とする。

#### RG456溝跡

##### 遺構 (第47図 写真図版45)

- (1) 位置 北東区の北側 -3A22t ~-2A2s グリッド
- (2) 重複 有 RG455より新しく、RG454より古い。
- (3) 規模 検出部分の全長9.2m 幅開口部上端30～65cm下端15～20cm 深さ東西ベルト部分20cm  
底面は上が開いたU字形で一部の底は平
- (4) 埋土 にぶい黄褐色土主体、上層～下層まで水酸化鉄混じる。 (5) 流路方向 N-10°-W

##### 出土遺物 (第83図 写真図版71)

- (1) 不掲載遺物の整理より、非ロクロの甕・坏 (内黒) 口縁～体部、ロクロ使用の坏 (あかやき土器) 埋土中より出土している。
- (2) 登録は坏2点、うち1点糸切痕が認められるRG456-1・坏について、図化・掲載した。

時期 周辺の遺跡と同時期の古代 (平安) とする。

#### RG457溝跡

##### 遺構 (第46図 写真図版45)

- (1) 位置 東区南側 3F16r ~3F15x グリッド (2) 重複 有 RG458・463より新しい。
- (3) 規模 検出部分の全長12.7cm幅開口部上端40～100cm下端8～20cm深さ24～48cm 東側V字中央U字
- (4) 埋土 黒褐色土 (5) 流路方向 N-76°-E

##### 出土遺物 (第83図 写真図版71)

- (1) 不掲載遺物の整理より、埋土中より非ロクロ・甕と坏破片あり。
- (2) 残りは悪いが、RG457-1の坏について、図化・掲載した。

時期 周辺の遺構と同じ古代 (奈良) に属する

#### RG458溝跡

##### 遺構 (第46図 写真図版46)

- (1) 位置 東区南西 3F13q ~13t ~16t ~16r グリッド付近  
焼土と焼骨片が出土するRD1040の外側を囲むように巡る。
- (2) 重複 有 RB045・RG463よりも新しく、RG460よりも古い。
- (3) 規模 検出部分の全長14.5m 幅開口部上端130～175cm下端70～110cm 深さ22～34cm  
底面は平坦 部分的に深く掘り込まれている場所あり。溝自体が枝分かれしたりII時期に分かれてい



る可能性もある。断面は箱形

(4) 埋土 黒褐色土～褐色土主体の5層に区分、溝本体とより深い掘り込み部分に焼土混じる。

(5) 流路方向 東西部分N-80°-E 南北部分N-20°-W

(6) 形態と内側にある焼骨の出土が認められたRD1040の存在より、方形周溝である。

#### 出土遺物

(1) 不掲載遺物の整理より、非ロクロ・甕体部破片が著しく多い。他に非ロクロ・坏底部破片が埋土上層より出土している。しかし、立体になる遺物は少なく、甕破片を1点登録したのみである。

(2) 遺構としてはRD1040の外側を囲むように巡る断面が箱形の溝であるが、より積極的に方形周溝という遺構の性格を示すような遺物の出土について確認することはできない。(1)のように、他の遺構に比べて非ロクロ・甕体部破片が多いことは言えるが、出土状況の詳しい観察が行われてない状態であったため、遺構の性格と結びつけることは出来ない。事実を記すのみである。

時期 古代に属するか。

#### RG459 溝跡

##### 遺構 (第46図 写真図版47)

(1) 位置 東区東側 3F4t～8t グリッド (2) 重複 無

(3) 規模 検出部分の全長7.7m 幅開口部上端40～60cm 下端40～80cm 深さ10cm 断面箱形の浅い溝壁の立ち上がり確認できない部分もある。

(4) 流路方向 3F4t～5t グリッドは、N-18°-E 3F5t～8t グリッドは、N-7°-W

(5) 調査区北東～南東へ至る。

出土遺物 無 時期 不明

#### RG460 溝跡

##### 遺構 (第46図 写真図版47)

(1) 位置 東区の3F15t グリッド (2) 重複 有 RG458よりも新しい。

(3) 規模 検出部分の全長2.6m 幅開口部上端68cm 下端40cm

(4) 流路方向 N-62°-W

(5) 性格は不明

#### 出土遺物

(1) 非ロクロ・甕体部破片2点出土、小片のため不掲載とする。

時期 古代(奈良)に属する。

#### RG461 堀跡

##### 遺構 (第46図 写真図版2・47)

(1) 位置 東区南側 3F22u～3G20a グリッド (2) 重複 無

(3) 規模 全長13.8m 幅開口部上端270～340cm 下端76～132cm 深さ78～96cm

断面は箱形(逆等脚台形) 3F22vより西は礫層に至る。

(4) 埋土 暗褐色土～にぶい黄褐色土、褐色土混じりで壁際に褐色土多い。底中央部分湧水有り。

(5) 流路方向 東西

(6) 堀の行方について①このまま東西方向で直進するものか、曲がるものか②区画溝ならば何と何を区画するのか、今後の東区の調査を待ちたい。

#### 出土遺物

(1) 埋土中層より非ロクロ・甕口縁部1点のみの出土、小片のため不掲載とする。

時期 古代～中世に属するか。時期を特定する遺物は少ない。

#### RG462 溝跡

##### 遺構 (第46図 写真図版48)

(1) 位置 東区南側 3F19t 西～19w グリッド (2) 重複 無

(3) 規模 全長7.3m 幅開口部上端55～90cm 下端22～60cm 深さ24cm

断面は開いたU字形底は平坦、西側に少し高い(中端)部分あり。

(4) 埋土 暗褐色土～黒褐色土主体 層状堆積

(5) 流路方向 西調査区境～3F18u グリッドはN-75°-E

3F18u～19w グリッドはS-74°-E 3Fを境に『へ』の字に折れる。

#### 出土遺物 無

時期 不明 古代に属するか。

#### RG463 溝跡

##### 遺構 (第46図 写真図版48・49)

(1) 位置 東区 3F15t～18v グリッド (2) 重複 有 RG457 RD1075より古い。

(3) 規模 検出部分の全長6.6m 幅上端30～70cm 下端10～50cm 深さ20cm

(4) 流路方向 N-23°-w (5) RG458より古い溝といえよう。形態としてみた場合は、RG463を用いてRG548を作っていたものであろうか。

#### 出土遺物 無

時期 不明 古代に属するか。

#### RG464 溝跡

##### 遺構 (第45図 写真図版48・49)

(1) 位置 西区東側 -1-C25t～1-C5t グリッド

(2) 重複 有 RG463・465より古い。

(3) 規模 検出部分の全長11.2m 幅上端50～70cm 下端35～60cm 深さベルト部分で6cm

断面は浅い皿状 底は平坦

(4) 埋土 黒褐色土主体で褐色土の他に水酸化鉄粒混じる。

(5) 流路方向 1-C2tより北N-5°-W 南N-10°-E

#### 出土遺物 (第83図 写真図版71)

(1) RG464とRG466との検出部分より、非ロクロ・甕、埋土中より須恵器・坏底部1片出土、小片のため登録のみとする。埋土中から出土したRG464-1・縄文土器を掲載した。

## RG465 溝跡

### 遺構 (第45図 写真図版48・49)

- (1) 位置 西区東側 -1-C25v ~ 1-C6s グリッド
- (2) 重複 有 RA563・564・RI003よりも古く、RG463・464より新しい。
- (3) 規模 検出部分の全長16.5m 幅上端30~50cm 下端25~30cm 深さ10~18cm 南側が深い  
断面形はU字
- (4) 埋土 黒褐色土~暗褐色土~黄褐色土主体
- (5) 流路方向 北~1-C2v グリッドはN-6°-W 1-C4u ~ 5t グリッドはN-43°-W  
1-C5t ~ 1-C6s グリッドはN-72°-W

出土遺物 (1) 土師器・甕体部破片6点出土、小片のため登録のみとする。

## RG466 溝跡

### 遺構 (第45図 写真図版48・49)

- (1) 位置 西区東側 -1-C25t ~ 1-C5t グリッド
- (2) 重複 有 RG464より新しく、RG465より古い。
- (3) 規模 検出部分の全長11.8m 幅上端40~50cm 下端30~40cm 深さは6~10cm  
北側部分は壁が緩やかに立ち上がるが、南側は底が平坦で壁も僅かである。
- (4) 埋土 暗褐色土主体、一部北東壁際に水酸化鉄の層有り。 (5) 流路方向 N-12°-E

出土遺物 無

時期 (1) 積極的に時期を断定する遺物は出土していない。

- (2) 遺構の新旧関係から考えると、(旧) RG464-466-465-RA564-563 (新) となり、RA563・564の時期(9世紀中~後半)より僅かに古いと考えられる。

## 7 井戸跡

### RI016 井戸跡

#### 遺構 (第44図 写真図版49)

- 〈位置〉①西区 東側部分 ②1-C04u グリッド東に位置する。 ③RG465より新、且つRA563に接する。南側が攪乱にさらされる。 ④黄褐色土上面で黒褐色土の広がりで見出。
- 〈平面形 規模 埋土等〉①平面楕円形 長径2.1×短径1.2m 検出面より1m掘りすすむが、攪乱(コンクリート)に入り掘り進むことができない状況であった。
- ②埋土は狭雑物の無いきれいな黒褐色土主体である。断面は上が広いロート形である。
  - ③湧水や井戸枠等遺物が無く井戸跡とは断言できないが、埋土の状況と断面形より井戸跡として登録した。

出土遺物・時期 無 不明

## 8 その他の遺構

### (1) R Z O 3 1 (北 I・II 区柱穴群) (第49・50図 写真図版50)

①遺構図版第49図の北 I 区分は最終的にはかなりの柱穴がRB046・047・048に属する。残っている柱穴に關しても埋土傾向や平面形においては上述の掘立柱建物跡に等しい。ただし、RB047・048付近の柱穴については建て替えなど、まだ掘立柱建物跡を構成する可能性がある。②北 II 区の柱穴群の平面形は楕円形、埋土は黒褐色土が主体である。径25～40cm深さ16～30cm前後、数が多いが掘立柱建物跡は構成できなかった。

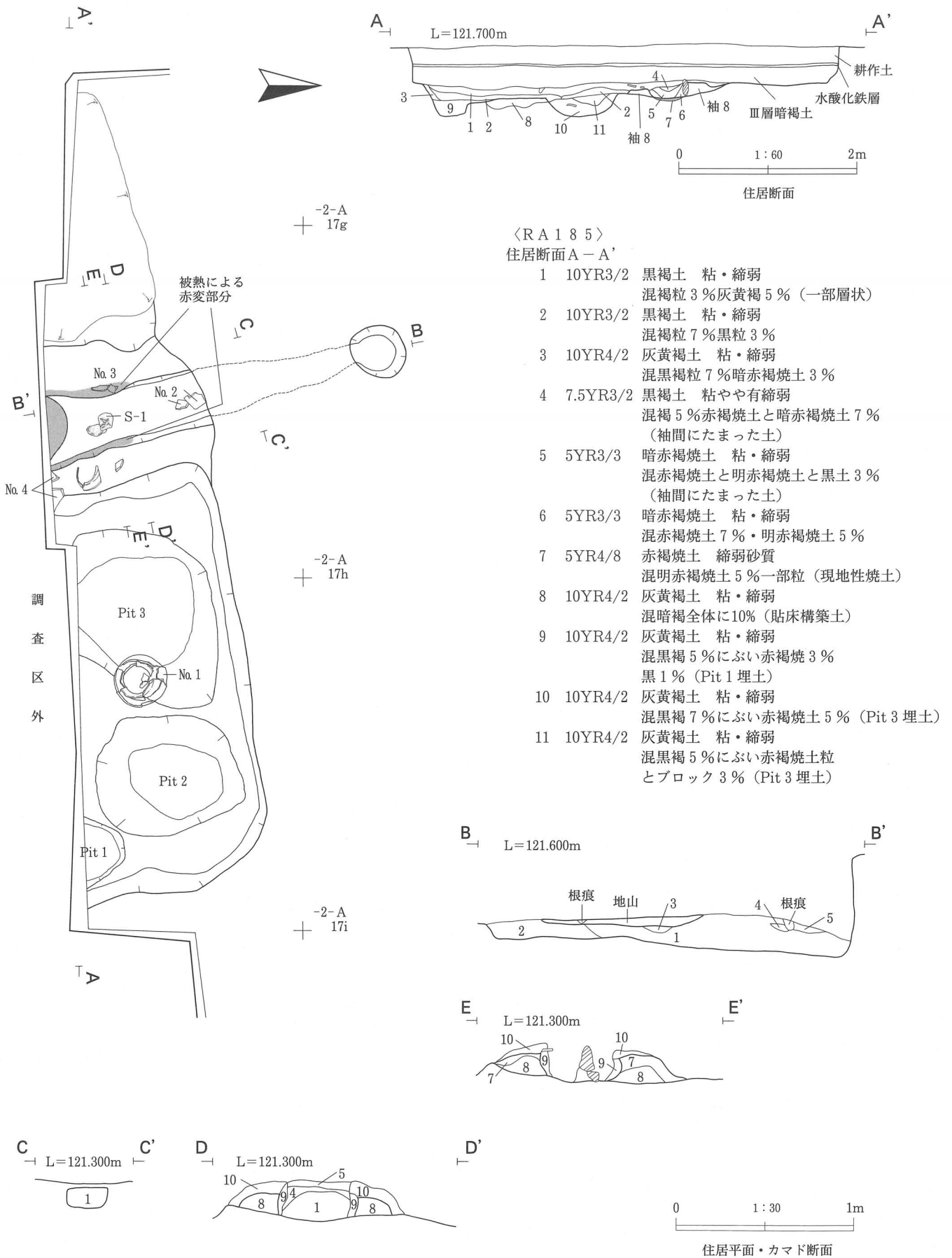
### (2) R Z O 3 2 (西区柱穴群) (第50図) ほぼ全てがRB044に属する。

### (3) R Z O 3 3 (東区柱穴群) (第51図 写真図版50)

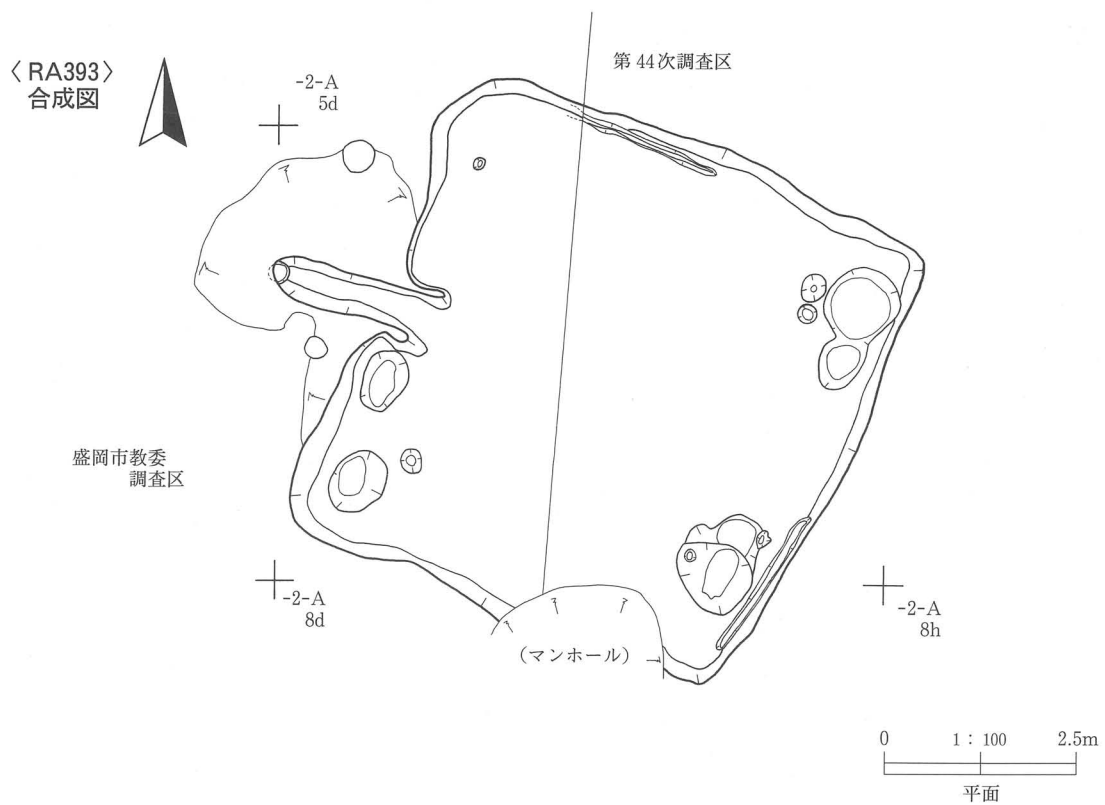
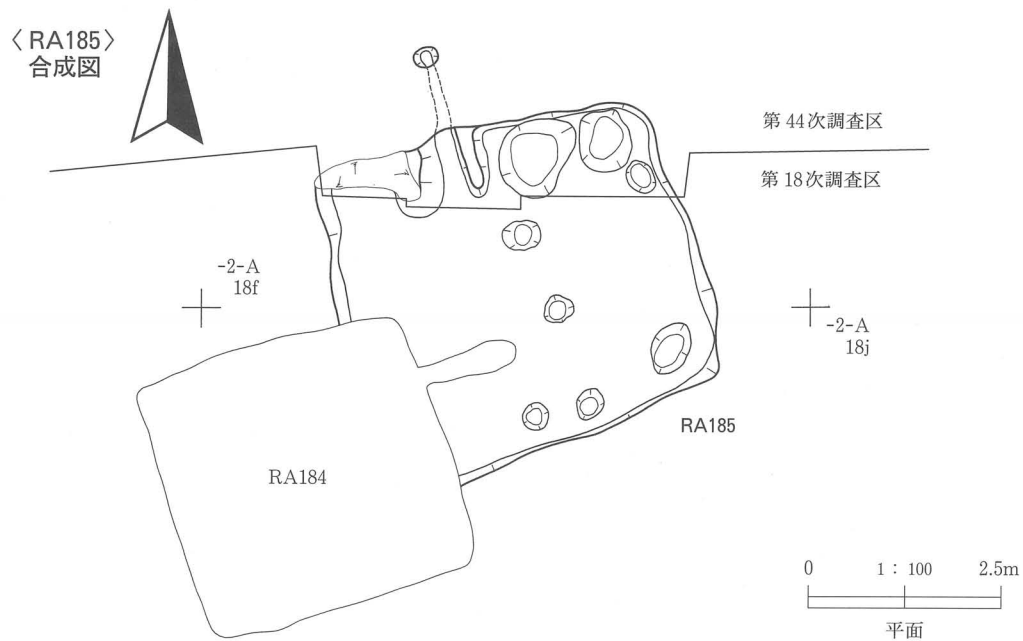
①東区 3F4v～3F10v グリッドとRB045付近に位置する。前者は径18～40cm深さ 9～40cm、平面形は円形、埋土は暗褐色土～黒褐色土が主体である。数が多いが建物を構成するには至らない。東区の柱穴群には畑地等に使われた杭痕も含まれるものとみられる。

## 9 遺構外出土遺物 (第84・85・86図 写真図版71・72)

- (1) 北 I 区で7点 (土師器・甕1点 坏3点 縄文土器片1点 鉄製品1点 甑底部1点) について図化・掲載した。内北 I 外-12は蹄鉄でありRE055と重複する攪乱より出土し、RE055の性格を考える資料となった。また北 I 外-6は、出土位置は明確にできなかったが甑の底部である。
- (2) 北 II 区では、非ロクロ・甕・口縁部を図化・掲載、非ロクロであり、調整痕が明瞭であるという同区の遺構内出土遺物と同じ傾向を示す。
- (3) 西区からは6点 (ロクロ・坏4点 甕底部1点 縄文土器1点) を図化・掲載した。甕と坏については西区西側に位置する旧河道トレンチから出土した回転糸切痕が明確な坏である。流れ込んで入ったものとみられる。
- (4) 北東区と東区からは各1点図化・掲載した。同区の遺構内出土遺物と同じ傾向を示し、東外-1は外面に段を有する内黒坏体部破片、北東外-1は内面にヘラミガキが施され体部下半の丸味を帯びているロクロ使用の坏である。
- (5) 遺構外の陶磁器片の出土は東外-2と-2-A-1～-2-A-3の4点である。写真のみの掲載とした。-2-A グリッドは北 I 区にあたり、攪乱や検出面から出土している。



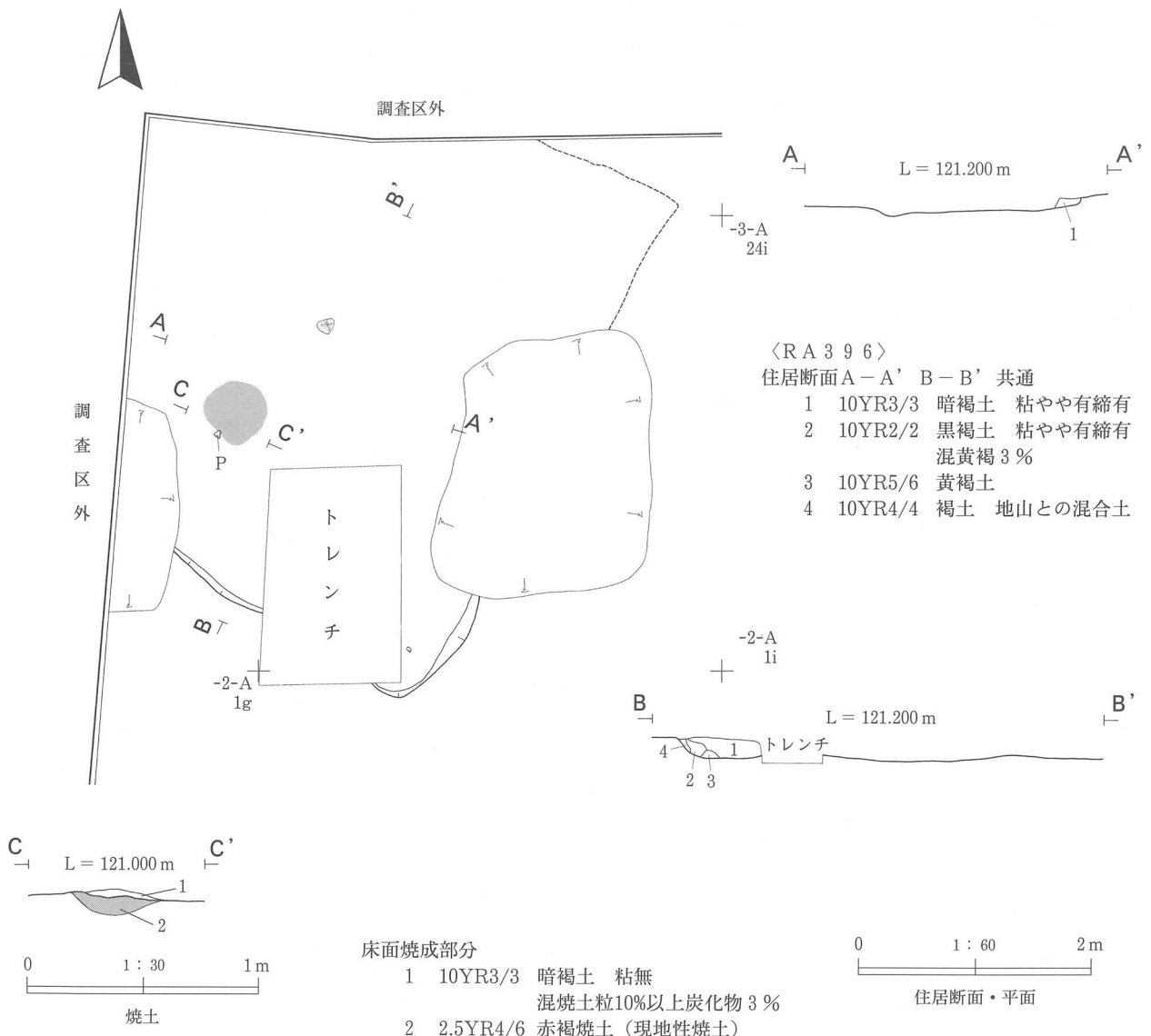
第10図 RA185竪穴住居跡



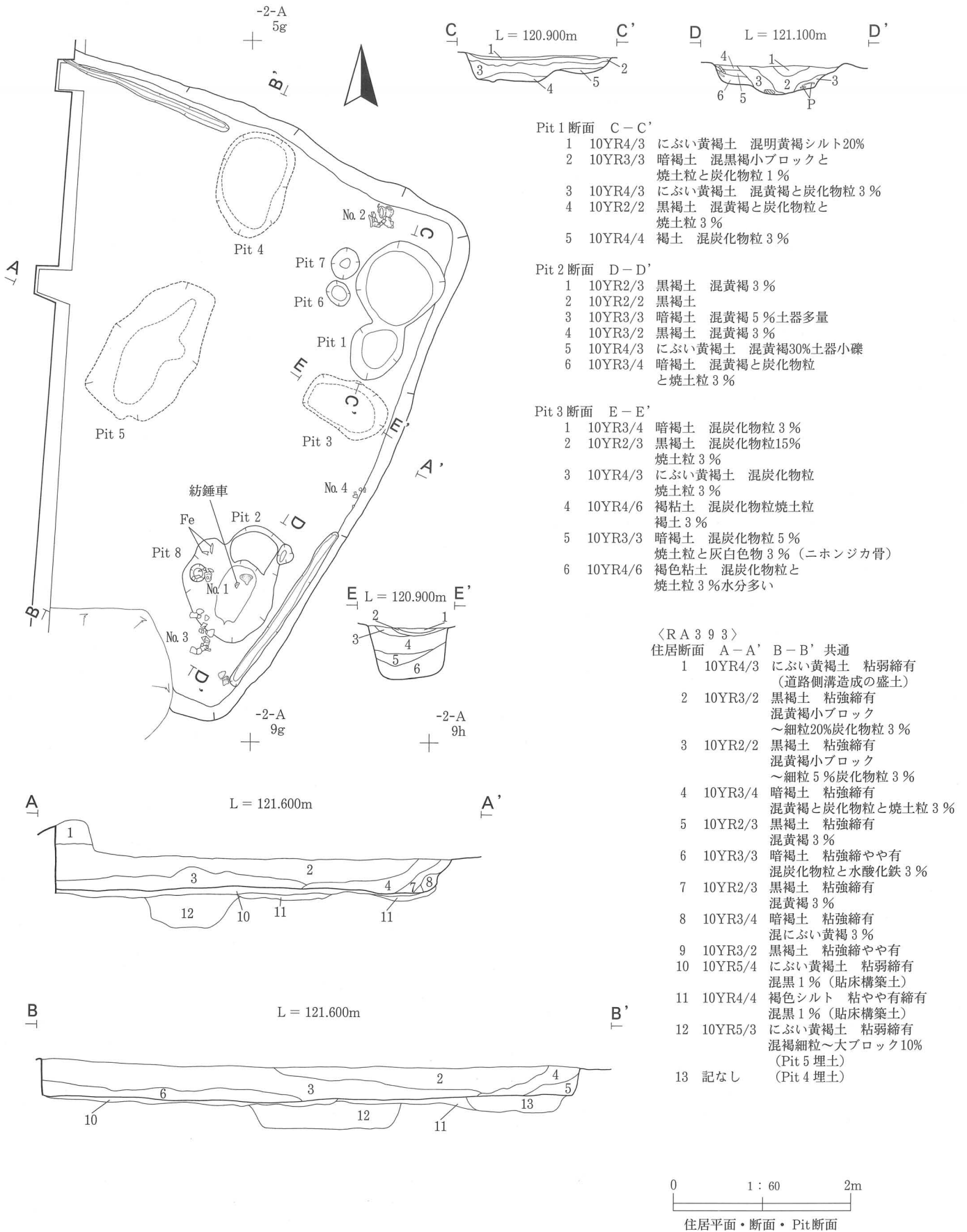
第11図 RA185・393竪穴住居跡 過年度分合成図

カマド断面 B-B' C-C' D-D' E-E' 共通

- |   |         |  |    |          |                                      |
|---|---------|--|----|----------|--------------------------------------|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐土 粘無締やや有<br>混炭片5%赤褐焼土粒南10%中3% (煙道埋土) | 6  | 10YR3/2  | 黒褐土 砂質締やや有<br>混黄褐10%                 |
| 2 | 10YR2/2 | 黒褐土 粘無締やや有<br>混褐5%黒褐3% (煙道埋土)          | 7  | 7.5YR3/2 | 黒褐土 粘無締有<br>混黒と明赤褐焼土3% (袖構成土)        |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐土 粘無締やや有<br>混黒3%                     | 8  | 7.5YR3/2 | 黒褐土 粘無締有<br>混黒3%・明赤褐焼土1% (袖構成土)      |
| 4 | 10YR5/4 | にぶい黄褐土 粘無締やや有<br>混黒と黒褐3%               | 9  | 5YR4/4   | にぶい赤褐焼土 粘無締有<br>混黒5%橙と赤褐焼土3% (袖間の埋土) |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐土 粘無締やや有<br>混黒10%赤褐焼土15%             | 10 | 10YR4/3  | にぶい黄褐土 粘無締有<br>混黒褐3%                 |

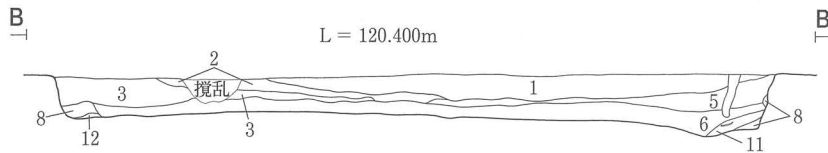
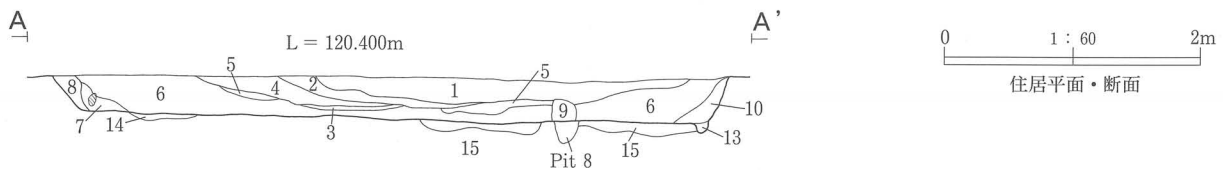
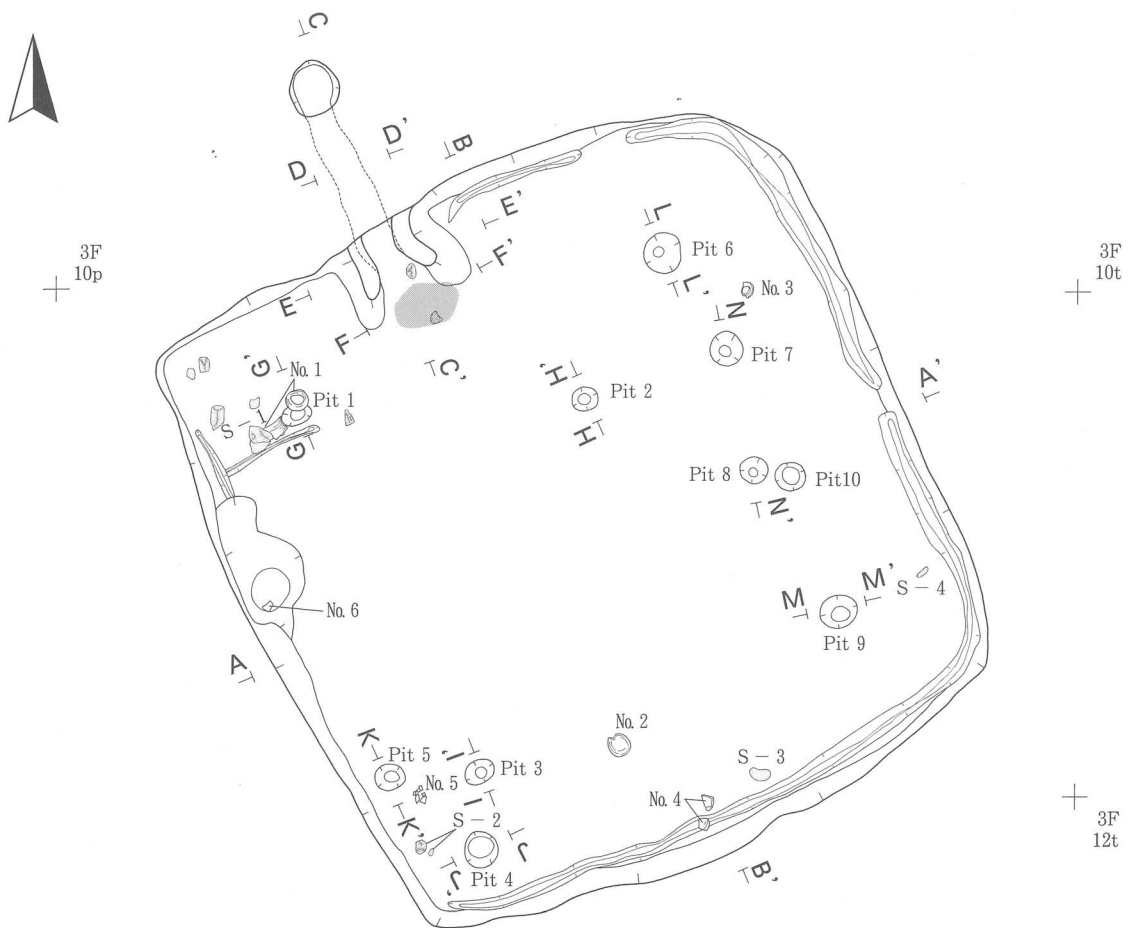


第12図 RA396竪穴住居跡



第13図 RA393竪穴住居跡





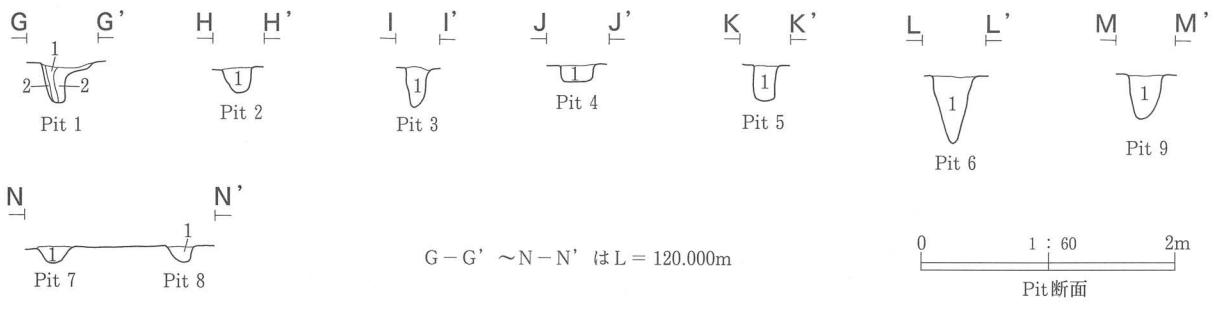
<RA 5 4 7>

住居断面 A-A' B-B' 共通

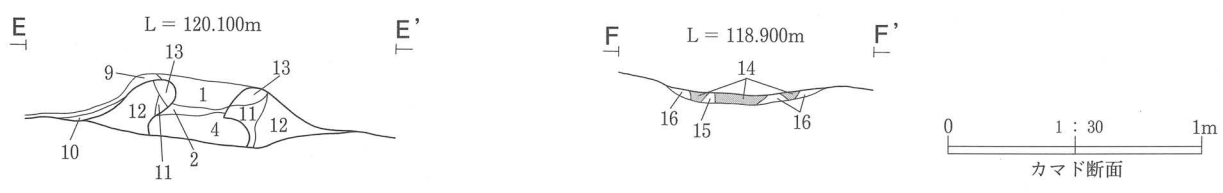
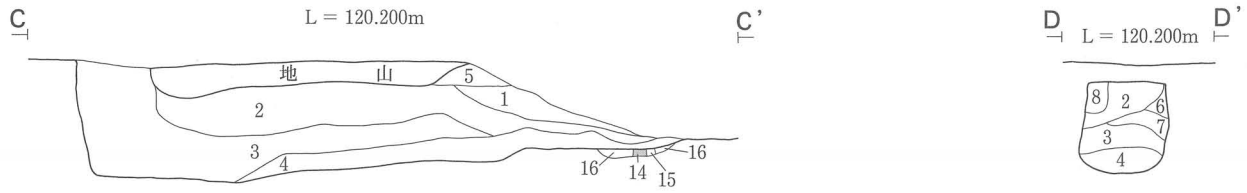
- 1 10YR2/2 黒褐土 粘無締有  
(自然堆積層)
- 2 10YR2/2 黒褐土 粘無締やや有  
混褐ブロック
- 3 10YR2/1 黒土 粘有締やや有  
混南北断面の8層近く褐3%
- 4 10YR2/2 黒褐土 粘・締やや有
- 5 10YR2/1 黒土 粘有締無
- 6 10YR2/3 黒褐土 粘有締無  
混褐10%以上

- 7 10YR2/3 黒褐土 粘有締無  
混褐ブロックと粒
- 8 10YR3/4 暗褐土 粘有締無
- 9 10YR2/1 黒土 粘有締無
- 10 10YR2/1 黒土 粘有締無  
赤サビ含(自然層)
- 11 10YR2/3 黒褐土 粘・締やや有  
混炭ごく少量褐少量
- 12 10YR3/2 黒褐土 粘有締やや有  
混炭微量
- 13 10YR4/3 にぶい黄褐土 粘無締弱  
混褐3% (周溝埋土)
- 14 10YR3/3 暗褐土 粘・締弱  
混黒3%褐3% (西側貼床)
- 15 10YR3/2 黒褐土 粘無締有  
混黄褐10%黒5%褐5%  
東半分にあり硬化(東側貼床)

第14図 RA547 (1) 竪穴住居跡

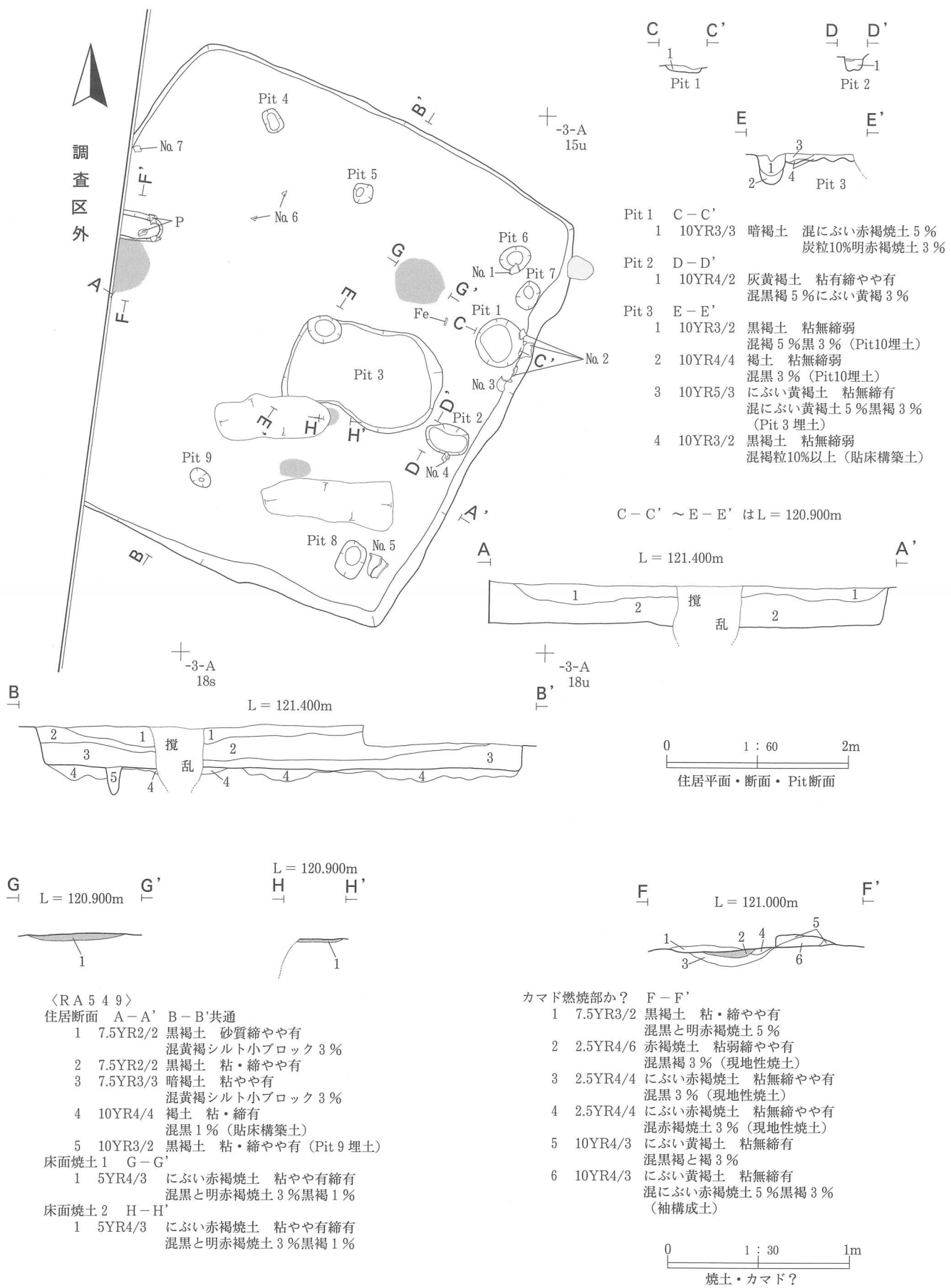


- |                               |                            |
|-------------------------------|----------------------------|
| Pit 1 G-G'                    | Pit 5 K-K'                 |
| 1 10YR3/2 黒褐土 混黒(炭)と明赤褐3%(焼土) | 1 10YR2/2 黒褐土 混褐3%         |
| 2 10YR3/2 黒褐土                 | Pit 6 L-L'                 |
| Pit 2 H-H'                    | 1 10YR3/2 黒褐土 混黒褐と暗赤褐3%    |
| 1 10YR3/2 黒褐土 混黒褐土5%(炭?)      | Pit 7 N-N'                 |
| Pit 3 I-I'                    | 1 10YR3/2 黒褐土 混黒褐と暗赤褐3%    |
| 1 10YR3/2 黒褐土 混黒褐3%           | Pit 8 N-N'                 |
| Pit 4 J-J'                    | 1 10YR3/2 黒褐土 混黒褐3%明赤褐3%   |
| 1 10YR3/2 黒褐土 混褐5%            | Pit 9 M-M'                 |
|                               | 1 10YR3/2 黒褐土 混黒褐10%褐と黄褐3% |

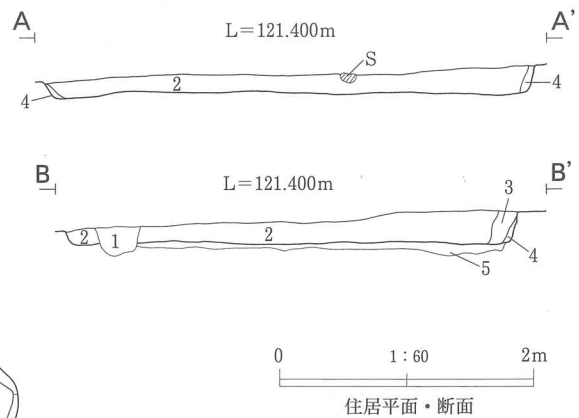
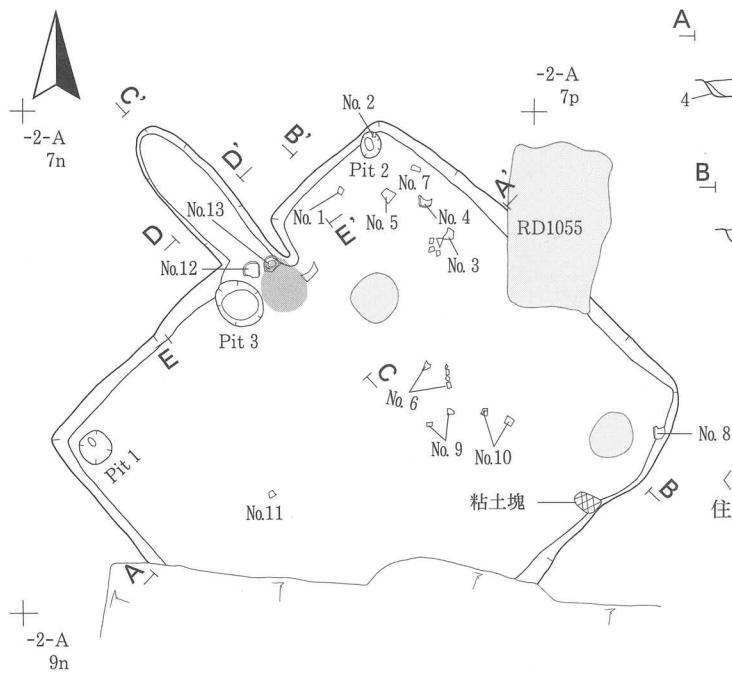


- カマド断面 C-C' D-D' E-E' F-F' 共通
- |   |  |
|---|--|
| 1 10YR3/3 暗褐土 粘・締やや有<br>混にふい黄褐中粒5%黒褐3%                  | 9 10YR5/6 黄褐土 粘無締やや有<br>混黒褐5%黒3%                   |
| 2 10YR4/4 褐土 粘・締無<br>混明赤褐焼土と黒3%(煙道埋土)                   | 10 10YR4/2 灰黄褐土 粘弱締やや有<br>混褐5%                     |
| 3 10YR3/2 黒褐土 粘無締弱<br>混暗褐3%黄褐小ブロック5%(煙道埋土)              | 11 5YR4/4 にふい赤褐土 粘無締弱<br>混黒褐とにふい黄褐3%<br>褐75%(袖構成土) |
| 4 10YR3/2 黒褐土 粘無締無<br>混明赤褐焼土と明褐3%(煙道埋土)                 | 12 10YR4/6 褐土 粘無締やや有<br>混黒褐と黄褐3%(袖構成土)             |
| 5 10YR4/3 にふい黄褐土 粘・締やや有<br>地山に近い                        | 13 10YR5/6 黄褐土 粘無締やや有<br>混黒褐5%(袖構成土)               |
| 6 10YR4/4 褐土 粘無締やや有<br>混明赤褐とにふい赤褐5%                     | 14 5YR4/6 赤褐焼土 粘無締やや有<br>混黒褐とにふい黄褐5%<br>(現地性焼土)    |
| 7 10YR4/4 褐土 粘無締やや有<br>混明赤褐5%にふい赤褐7%<br>(6・7層は2層に焼土多く混) | 15 10YR4/2 灰黄褐土 粘無締やや有<br>混赤褐3%と褐3%                |
| 8 10YR4/4 褐土 粘無締やや有<br>混黒と黒褐3%<br>(8層は2層に近く焼土無し)        | 16 10YR5/6 黄褐土 粘無締弱<br>混にふい黄褐3%                    |

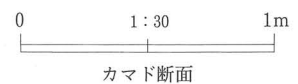
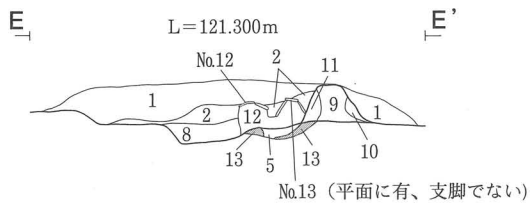
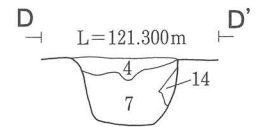
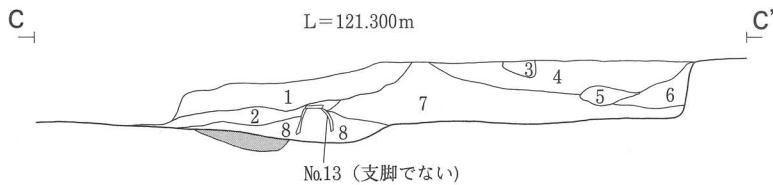
第15図 RA547(2) 竪穴住居跡



第16図 RA549竪穴住居跡



- 〈RA550〉  
 住居断面 A-A' B-B' 共通
- 1 10YR2/3 黒褐土 粘やや有締有 (新しい柱穴)
  - 2 10YR3/2 黒褐土 粘やや有締有  
混褐細～小ブロック20%  
焼土粒と炭化物粒と土器片1%
  - 3 10YR2/2 黒褐土 粘・締やや有
  - 4 10YR3/3 暗褐土 粘・締やや有 混褐1%
  - 5 10YR4/3 にふい黄褐土 粘無締やや有  
混黄褐5%  
明褐と赤褐焼土3% (貼床構築土)

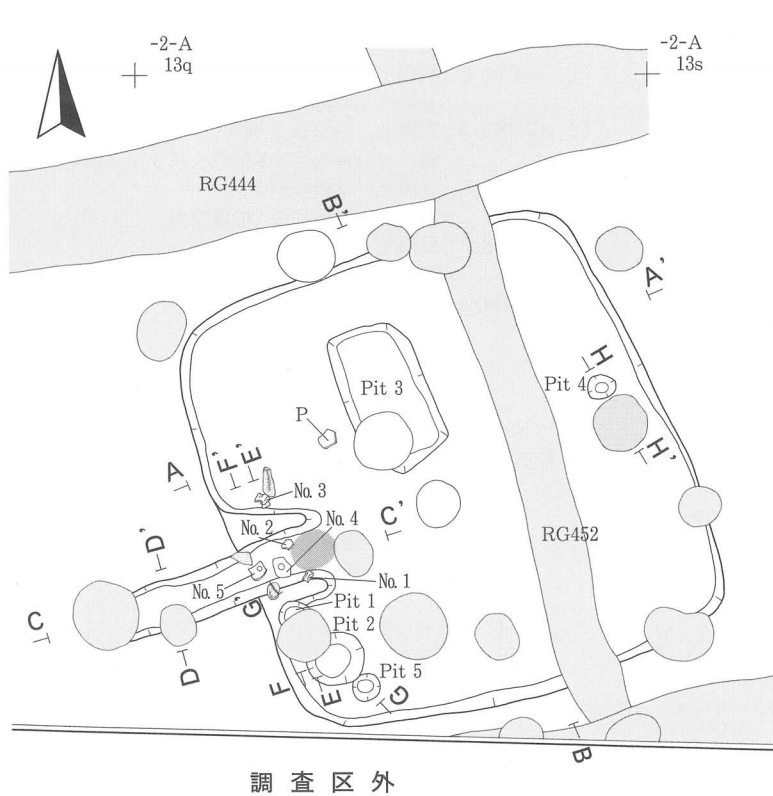


カマド煙道縦断 C-C' D-D' E-E' 共通

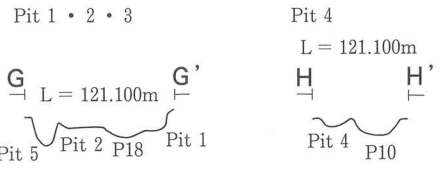
- 1 10YR2/3 黒褐土 粘・締有  
混褐10%
- 2 10YR3/4 暗褐土 粘・締有  
混褐3%
- 3 10YR4/6 褐土 粘・締有
- 4 10YR2/2 黒褐土 粘・締有  
混褐3% (煙道埋土)
- 5 10YR2/1 黒土 粘・締有 (煙道埋土)
- 6 10YR2/3 黒褐土 粘・締有  
混褐3% (煙道埋土)
- 7 10YR3/3 暗褐土 粘・締有  
混黒褐3% (煙道埋土)

- 8 10YR4/4 褐土 粘弱締やや有  
混褐と炭化物粒と焼土粒3%
- 9 10YR4/3 にふい黄褐土 粘無締有  
混褐と黒褐3% (袖構成土)
- 10 10YR4/3 にふい黄褐土 粘無締有  
混黒褐5% (袖構成土)
- 11 5YR4/6 赤褐土 粘無締有  
混褐5%  
(袖構成土・被熱により赤変)
- 12 10YR3/2 黒褐土 粘弱締やや有  
混黒褐と暗赤褐焼土3%  
赤褐焼土粒(5mm四方)5%
- 13 5YR3/6 暗赤褐焼土 粘無締弱  
混暗赤褐焼土粒3% (現地性焼土)
- 14 10YR4/4 褐土 粘弱締有  
混黒褐3%

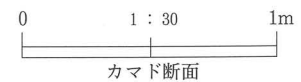
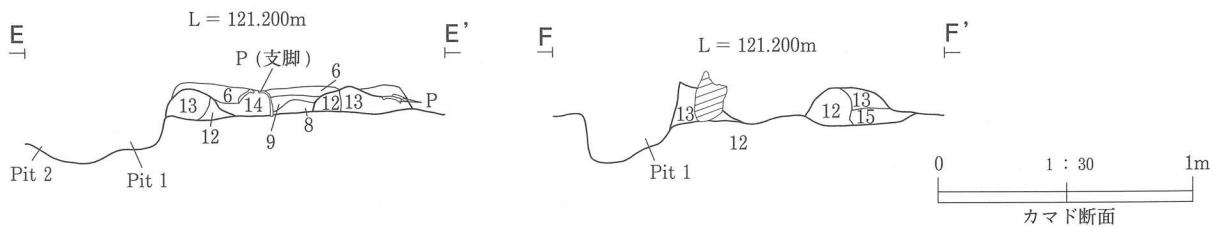
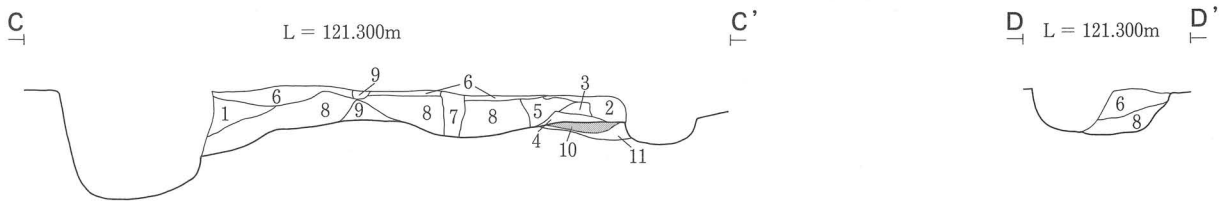
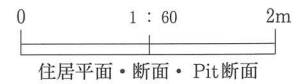
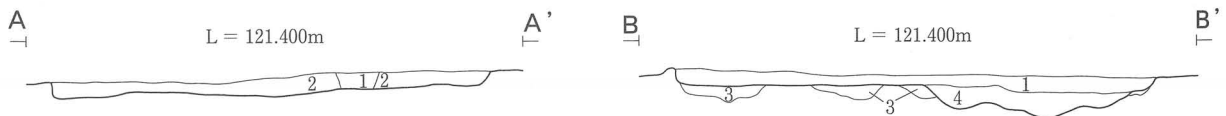
第17図 RA550竈穴住居跡



- 〈RA551〉  
住居断面 A-A' B-B' 共通
- 10YR2/3 黒褐土 粘・縮やや有  
混褐土1% (RG452埋土)
  - 10YR3/2 黒褐土 粘・縮やや有  
混褐土1%・炭化物粒3%
  - 10YR3/2 黒褐土 粘・縮やや有  
混褐土ブロック10% (貼床埋土)
  - 10YR3/2 黒褐土 粘・縮やや有  
混褐土粒10%  
(Pit 3 埋土)



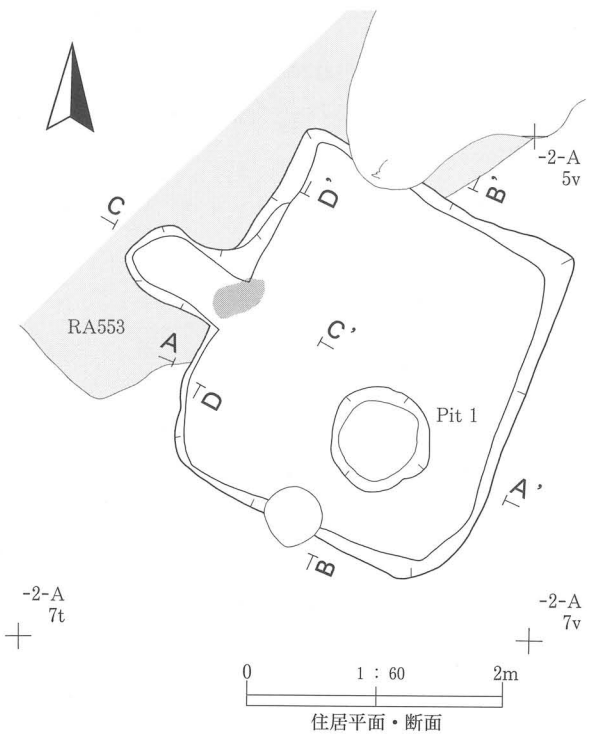
Pit 1, 2, 4, 5, 土層注記無



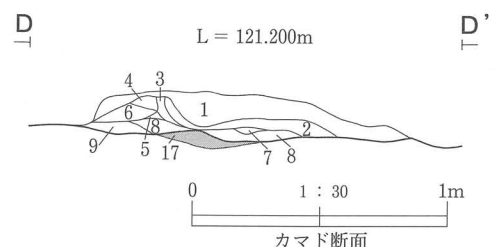
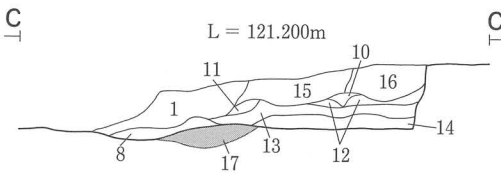
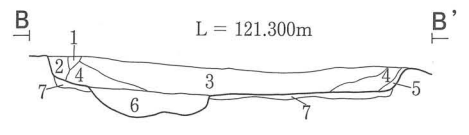
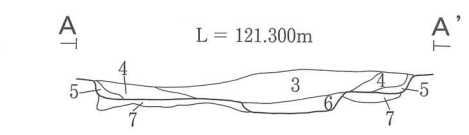
- カマド断面 C-C' D-D' E-E' F-F' 共通
- 10YR3/2 黒褐土 粘・縮やや有 混にふい黄褐5%
  - 10YR3/2 黒褐土 粘無縮やや有 混にふい黄褐5%  
にふい赤褐焼土3%  
暗赤褐焼土7%
  - 10YR3/2 黒褐土 粘弱縮やや有  
混黒褐とにふい赤褐焼土と明赤褐焼土3%
  - 5YR4/4 にふい赤褐焼土 粘弱縮やや有  
混黒褐土と明赤褐焼土5%  
(一部天井崩落土)
  - 10YR3/2 黒褐土 粘弱縮やや有 混明赤褐焼土粒3%

第18図 RA551 (1) 竪穴住居跡

- 6 10YR3/2 黒褐土 粘弱締やや有  
混褐とにふい黄橙 3%  
東側にふい赤褐焼土と黒 3%
- 7 10YR3/4 暗褐土 粘無締弱 混にふい黄橙 3%
- 8 10YR3/4 暗褐土 粘無締弱  
混にふい黄褐土 5%  
一部ブロック (煙道埋土)
- 8-a 10YR3/4 暗褐土 粘無締弱  
混にふい赤褐焼土粒 7%  
明赤褐焼土粒 3% 黒 3% (カマド埋土)
- 9 10YR5/4 にふい黄褐土 粘無締弱  
混暗褐 5% (煙道埋土)
- 10 5YR3/6 暗赤褐焼土 粘無締有  
混黒 5% にふい黄褐 3% (現地性焼土)
- 11 10YR3/3 暗褐土 粘弱締有  
混褐 3% 暗赤褐焼土 1%
- 12 10YR2/3 黒褐土 粘無締やや有  
混にふい黄褐10%赤褐焼土粒 3% (袖構成土)
- 13 10YR2/3 黒褐土 粘無締やや有  
混にふい黄褐10% (袖構成土)
- 14 10YR2/3 黒褐土 粘無締やや有  
混赤褐焼土粒 5% 明赤褐焼土粒 3%
- 15 10YR4/4 褐土 粘・締無 混黒褐 3%



- <RA 5 5 2>  
住居断面 A-A' B-B' 共通
- 1 10YR2/2 黒褐土 粘弱締有  
混水酸化鉄 3% (攪乱の土)
  - 2 10YR3/3 暗褐土 粘弱締無 混水酸化鉄 3%
  - 3 10YR2/3 黒褐土 粘弱締有  
混褐粒と炭化物と焼土粒 3%
  - 4 10YR2/2 黒褐土 粘弱締有 混褐 3%
  - 5 10YR3/3 暗褐土 粘弱締やや有 混褐 5%
  - 6 10YR3/3 暗褐砂質土 粘弱締やや有  
混褐 1% (Pit 1 埋土)
  - 7 10YR4/4 褐砂質土 粘弱締有  
混黒 1% (貼床構築土)



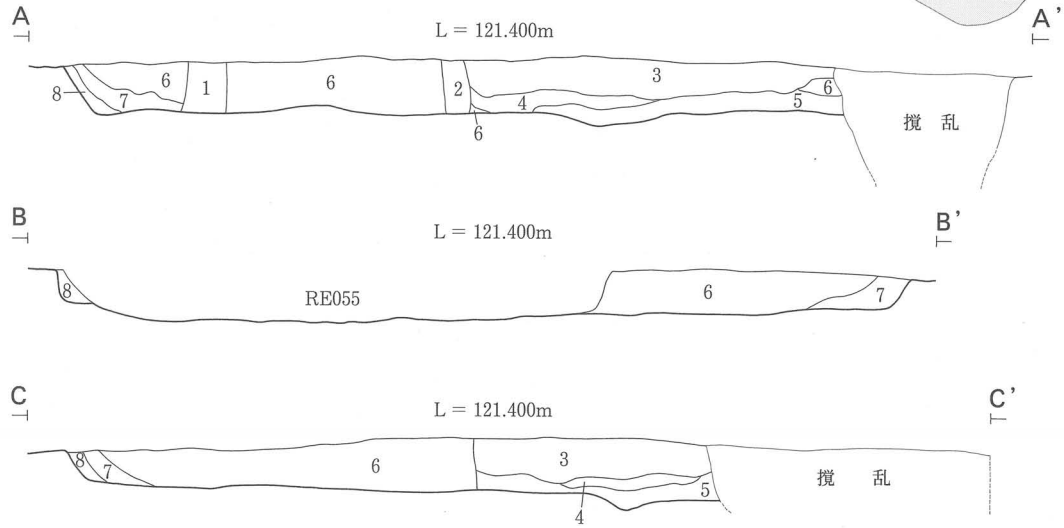
- カマド断面 C-C' D-D' 共通
- 1 10YR2/3 黒褐土 粘・締やや有  
混褐と焼土粒と炭化物 3%
  - 2 10YR5/4 にふい黄褐土 粘弱締やや有 混焼土粒 3%
  - 3 2.5YR3/3 暗赤褐焼土 粘弱締やや有
  - 4 10YR2/2 黒褐土 粘やや有締有  
混褐 3% (袖構成土か?)
  - 5 5YR3/4 暗赤褐焼土 粘・締やや有  
混褐 3% (被熱による袖変部分)
  - 6 10YR5/4 にふい黄褐土 粘弱締やや有 混黒褐 1%
  - 7 2.5YR3/3 暗赤褐焼土 粘弱締やや有
  - 8 10YR3/3 暗褐土 粘・締やや有  
混炭化物 2% 褐と焼土粒 1%

- 9 10YR2/3 黒褐土 粘・締やや有  
混焼土粒と炭化物 3% 褐 1%
- 10 10YR2/3 黒褐土 粘弱締やや有 50%焼土化
- 11 2.5YR3/4 暗赤褐焼土 粘弱締やや有 混褐 3%
- 12 10YR2/2 黒褐土 粘弱締有 焼土粒 3%
- 13 10YR3/4 暗褐土 粘・締やや有  
混焼土粒と炭化物 3% (煙道埋土?)
- 14 10YR2/3 黒褐土 粘・締やや有  
混褐 3% (煙道埋土?)
- 15 10YR4/3 にふい黄褐土 粘やや有締有  
混黒褐20%炭化物 3%
- 16 10YR2/3 黒褐土 粘弱締有
- 17 2.5YR4/6 赤褐焼土 焼成良好 (現地性焼土)

第19図 RA551 (2)・RA552竪穴住居跡



0 1 : 60 2m  
住居平面・断面

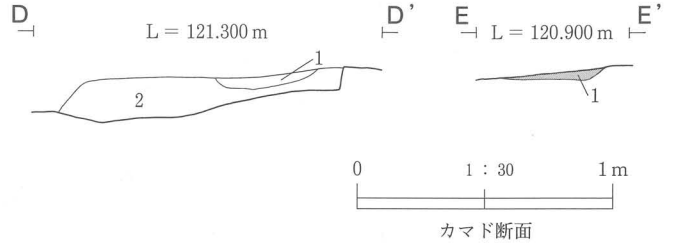


第20図 RA553 (1) 竪穴住居跡

<RA553>

住居断面 A-A' B-B' C-C' 共通

- 1 10YR2/3 黒褐土 粘弱締やや有 (新しい柱穴埋土)
- 2 10YR3/1 黒褐土 粘弱締有 (新しい柱穴埋土)
- 3 10YR3/4 暗褐砂質土 粘弱締有  
混褐粒~極大ブロック50%・  
水酸化鉄1%と攪乱の土入
- 4 10YR4/1 褐灰土 粘・締やや有  
混褐ブロック20%水酸化鉄1%
- 5 10YR3/1 黒褐土 粘・締やや有  
混褐ブロック10%
- 6 10YR2/3 黒褐土 粘弱締有  
混褐ブロック1%
- 7 10YR2/2 黒褐土 粘・締やや有  
混褐ブロック3%
- 8 10YR4/3 にぶい黄褐砂質土 粘弱締有  
混黒褐30%

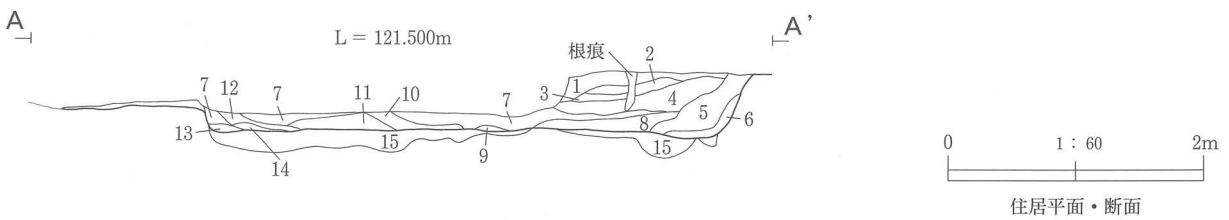
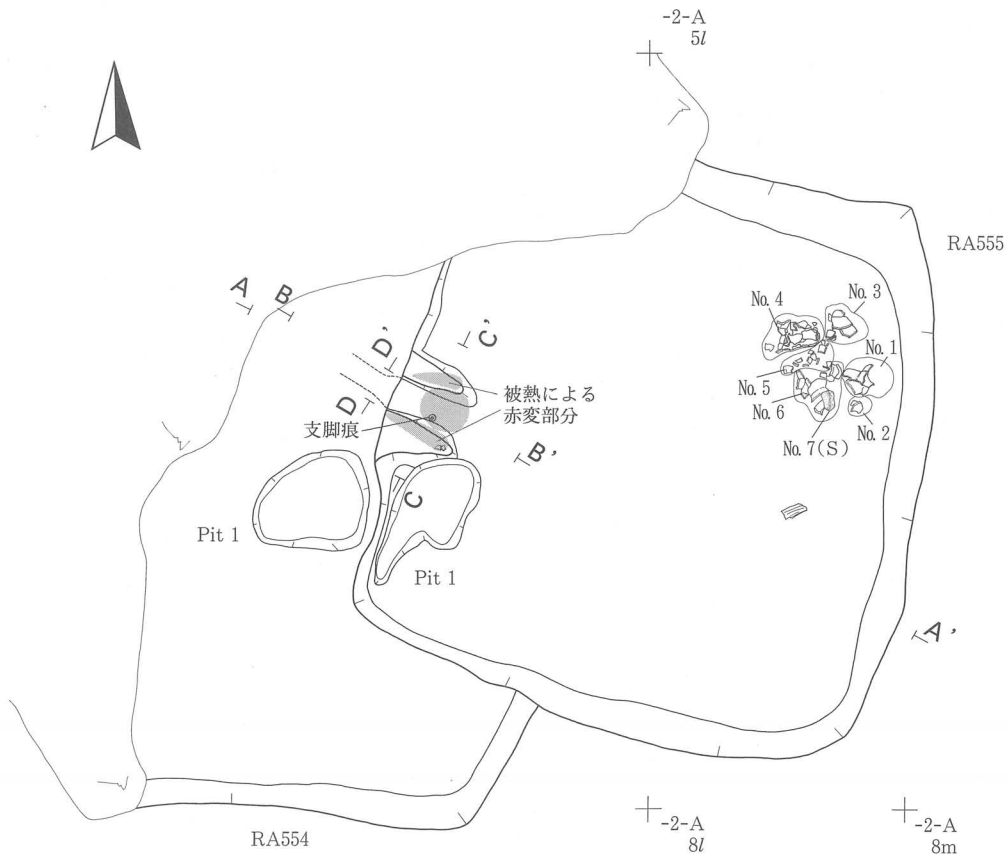


カマド断面 D-D'

- 1 10YR2/3 黒褐土 粘弱締有  
混焼土粒2%褐1% (天井崩落土?)
- 2 10YR3/3 暗褐砂質土 粘弱締有 混褐5%

カマド焼部断面 E-E'

- 1 2.5YR4/6 赤褐焼土 焼成良好 (現地性焼土)



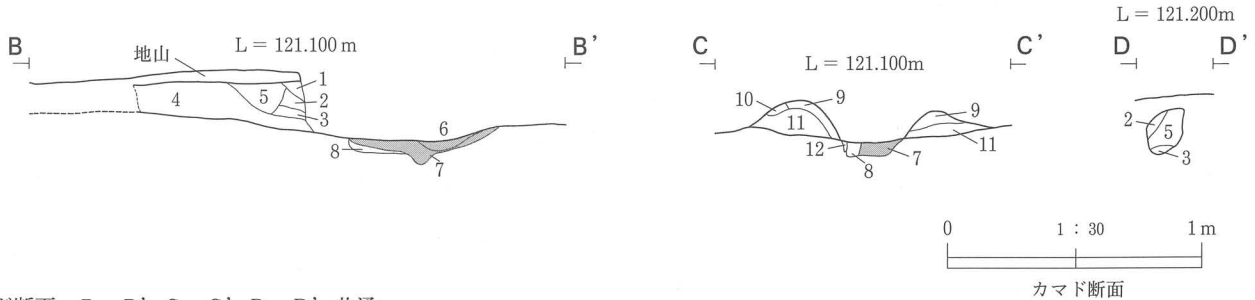
第21図 RA553 (2)・RA554・555 (1) 竪穴住居跡



〈RA554・555〉

住居断面 A-A'

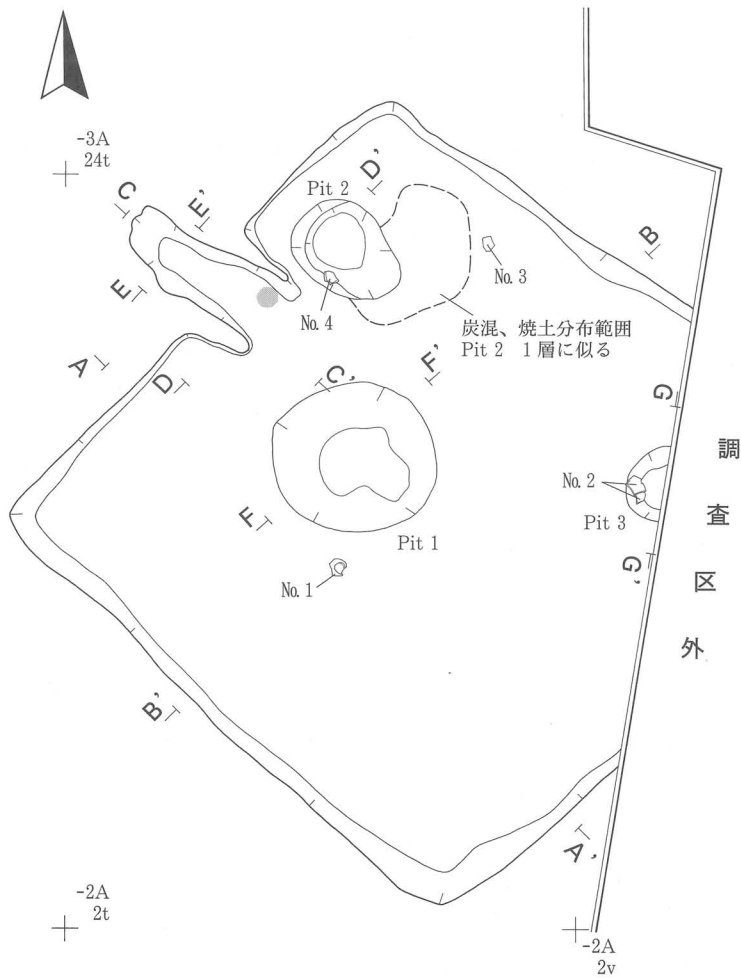
- |   |         |   |    |         |  |
|---|---------|---|----|---------|--|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐土 粘無締有<br>混褐3%と攪乱の土 (RA555埋土)           | 10 | 10YR3/2 | 黒褐土 粘無締有<br>混褐3% (RA555埋土)                             |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐土 粘無締有<br>混褐土10%黄褐7% (RA555埋土)          | 11 | 10YR3/3 | 暗褐土 粘無締有<br>混明褐3% (RA555埋土)                            |
| 3 | 10YR2/3 | 黒褐土 粘無締有<br>混褐7%黒5% (RA555埋土)             | 12 | 10YR3/2 | 黒褐土 粘無締やや有<br>混にふい赤褐5%黒3% (RA555埋土)                    |
| 4 | 10YR4/2 | 灰黄褐土 粘弱締有<br>混褐と明褐5% (RA555埋土)            | 13 | 10YR2/1 | 黒土 粘無締弱<br>混にふい赤褐焼土ブロック5%<br>明赤褐焼土小ブロック3% (RA555カマド埋土) |
| 5 | 10YR2/2 | 黒褐土 粘弱締有<br>混暗褐3%床面近く7% (RA555埋土)         | 14 | 5YR4/4  | にふい赤褐焼土 粘無締弱<br>混黒10%暗赤褐焼土7% (RA555カマド埋土)              |
| 6 | 10YR4/6 | にふい黄褐土 粘弱締有<br>混黒褐7% (RA555埋土)            | 15 | 10YR3/2 | 黒褐土 粘無締やや有<br>混褐10% (RA555貼床構築土)                       |
| 7 | 10YR3/3 | 暗褐土 粘無締やや有<br>混褐5%黒3% (RA555埋土)           | 16 | 10YR4/3 | にふい黄褐土<br>混褐5% (全体的に砂質傾向) (RA554埋土)                    |
| 8 | 10YR4/2 | 灰黄褐土 粘弱締有<br>混褐細粒10% (4層類似) (RA555埋土)     |    |         |  |
| 9 | 10YR4/2 | 灰黄褐土 粘弱締有<br>混褐10%以上明褐7% (4層類似) (RA555埋土) |    |         |  |



カマド断面 B-B' C-C' D-D' 共通

- |    |          |   |
|----|----------|---|
| 1  | 10YR4/2  | 灰黄褐土 粘無締やや有<br>混黒褐5%にふい赤褐焼土3%                     |
| 2  | 10YR4/2  | 灰黄褐土 粘やや有締弱<br>混にふい赤褐焼土ブロック5%黒褐3%                 |
| 3  | 10YR3/2  | 黒褐土 粘やや有締弱<br>混黒と明褐とにふい赤褐焼土ブロック3%                 |
| 4  | 10YR3/2  | 黒褐土 粘無締弱砂質 (煙道埋土)                                 |
| 5  | 10YR4/2  | 灰黄褐土 粘やや有締弱<br>混にふい赤褐焼土5%黒褐3%<br>明褐1% (煙道埋土)      |
| 6  | 5YR4/4   | にふい赤褐焼土 粘無締弱<br>混黒と橙5% (現地性焼土)                    |
| 7  | 5YR4/4   | にふい赤褐焼土 粘無締弱<br>混橙3% (現地性焼土)                      |
| 8  | 7.5YR5/4 | にふい褐土 砂質<br>混にふい赤褐焼土1%                            |
| 9  | 5YR3/2   | 明赤褐焼土 粘・締弱<br>混赤褐焼土大粒と明赤褐焼土3%<br>(袖構成土・一部被熱により赤変) |
| 10 | 10YR4/4  | 褐土 粘無締弱<br>混黒3% (袖構成土)                            |
| 11 | 10YR3/2  | 黒褐土 粘無締やや有<br>混にふい赤褐焼土と褐3% (袖構成土)                 |
| 12 | 10YR3/2  | 黒褐土 粘弱締無<br>混赤褐焼土と黒3% (支脚拔取痕)                     |

第22図 RA554・555 (2) 竪穴住居跡

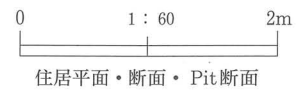
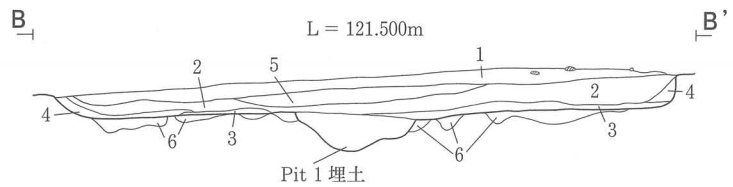
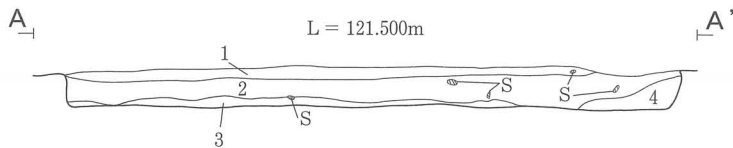
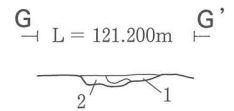
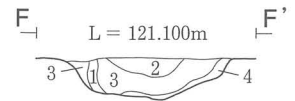


Pit 1 断面 F-F'

- 1 10YR4/4 褐土  
混黒褐 3%・根痕
- 2 10YR2/3 黒褐土 混褐 5%
- 3 10YR2/2 黒褐土  
混褐細粒 3%土器片多量含
- 4 10YR3/3 暗褐土  
混下位に水酸化鉄 1%

Pit 3 断面 G-G'

- 1 5YR4/6 赤褐土 粘弱締やや有  
混黒と明赤褐焼土 5%
- 2 10YR5/6 黄褐土 粘弱締やや有  
混明赤褐焼土と赤褐焼土  
10%以上黒 5%



〈RA 5 5 6〉

住居断面 A-A' B-B' 共通

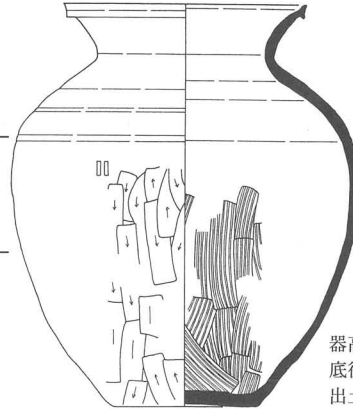
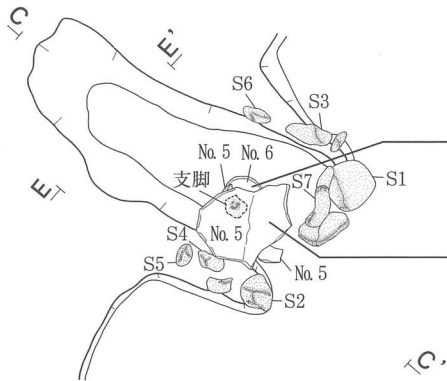
- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1 10YR3/2 黒褐土 粘弱締やや有<br/>混褐 3%黒 3%水酸化鉄 1%</li> <li>2 10YR3/2 黒褐土 粘弱締やや有<br/>混褐 3%黒 5%にふい赤褐粒 5%<br/>北東側礫 (径 3~5 cm) 多数混</li> <li>3 10YR4/3 にふい黄褐土 粘やや有締弱<br/>混褐ブロック 7%にふい黄褐<br/>とにふい赤褐 3%</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>4 10YR4/6 褐土 均質砂質<br/>混黒褐 3%</li> <li>5 10YR3/2 黒褐土 粘弱締やや有<br/>混褐灰 5%黒とにふい赤褐 3%</li> <li>6 10YR2/3 黒褐土 粘無締やや有<br/>混褐10%以上 (貼床構築土)</li> </ul> |
|--|---|

第23図 RA556 (1) 竪穴住居跡

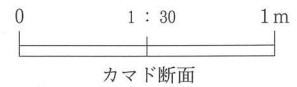
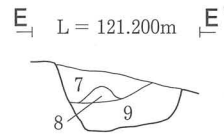
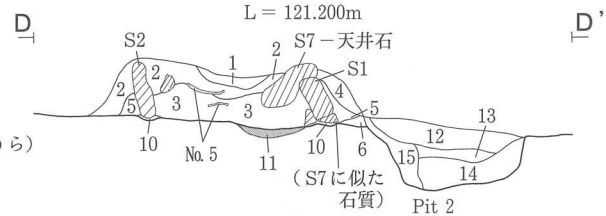
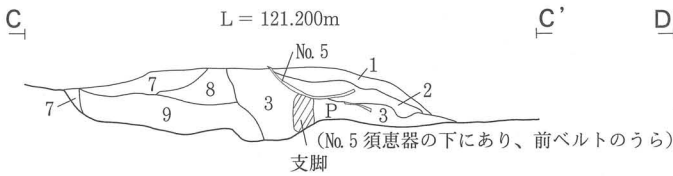


-3A  
24u

掲載 RA556 - 33 (登録 281 と 282)



器高：(32.1) cm  
底径：(11.2) cm  
出土場所：No. 5、6  
Q2埋土下層  
Q1、Q3埋土

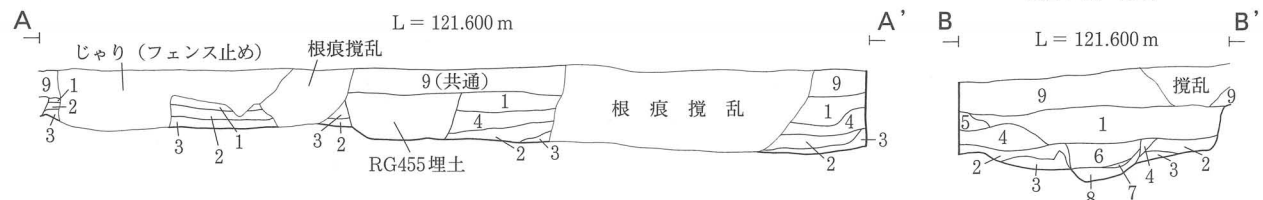
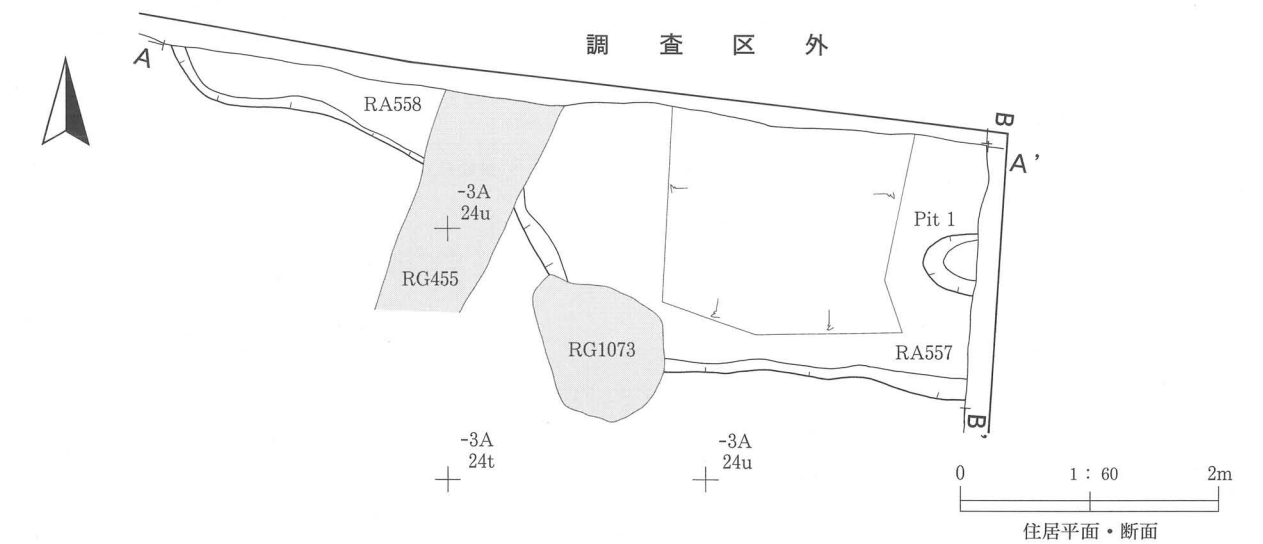


カマド断面

カマド横断 C-C' D-D' E-E' 共通

- |   |   |
|---|---|
| <p>1 10YR3/2 黒褐土 粘無締やや有<br/>混褐3%明赤褐焼土粒1% (カマド埋土)</p> <p>2 10YR3/2 黒褐土 粘無締やや有<br/>混明赤褐焼土粒3%褐1% (カマド埋土)</p> <p>3 7.5YR3/2 黒褐土 粘無締弱<br/>混にふい赤褐焼土7%明赤褐焼土5%黒3%<br/>(煙道埋土下部・12層に似る?)</p> <p>4 10YR3/2 黒褐土 粘無締やや有<br/>混褐3% (袖外側の土)</p> <p>5 10YR3/2 黒褐土 粘無締やや有 (袖外側の土)</p> <p>6 10YR4/4 褐土 粘無締無 (袖外側の土)</p> <p>7 10YR3/2 黒褐土 粘・締弱<br/>混にふい黄褐10%以上 (煙道埋土上部)</p> <p>8 10YR4/3 にふい黄褐土 粘・締弱<br/>混黒褐5% (煙道埋土下部)</p> | <p>9 10YR4/4 褐土 粘・締無</p> <p>10 10YR3/2 黒褐土 粘・締弱 (袖構成礫を支える土)</p> <p>11 5YR4/6 赤褐土 粘無締やや有 (現地性焼土)</p> <p>12 10YR3/2 黒褐土 粘やや有締弱<br/>混暗赤褐焼土10%<br/>にふい赤褐焼土ブロック<br/>と橙と炭片5% (Pit 2埋土)</p> <p>13 10YR3/2 黒褐土 粘やや有締弱<br/>混黄褐土3% (Pit 2埋土)</p> <p>14 10YR3/2 黒褐土 粘やや有締弱<br/>混黄褐土7%・下部ほどブロック状 (Pit 2埋土)</p> <p>15 10YR3/2 黒褐土 粘やや有締弱<br/>混黄褐土5%・褐土3% (Pit 2埋土)</p> |
|---|---|

第24図 RA556 (2) 竪穴住居跡

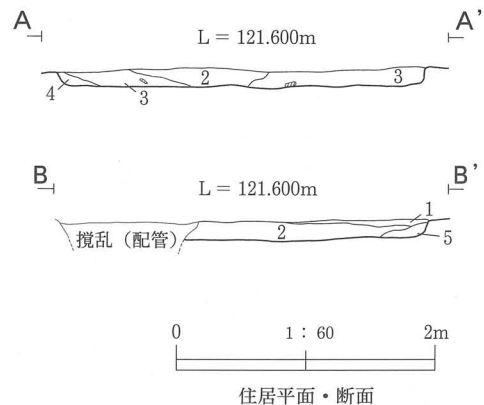
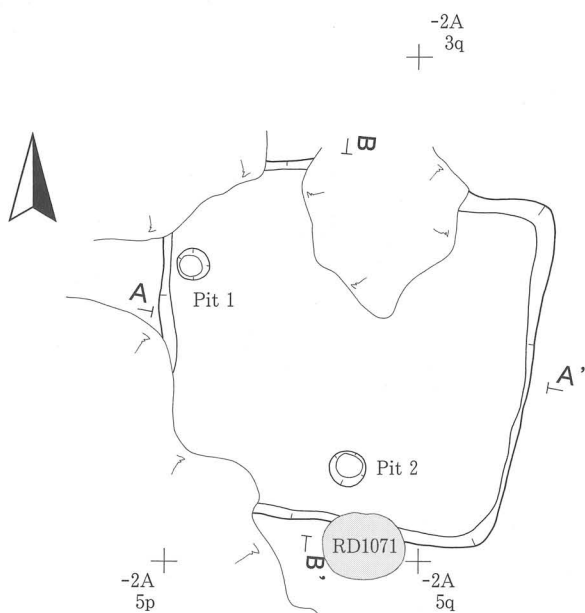


<RA557・558>

住居断面 A-A' B-B' 共通

- 1 10YR2/2 黒褐土 粘・縮やや有  
混褐5%黒褐と暗赤褐3%
- 2 10YR3/3 暗褐土 粘弱縮やや有  
混褐10% (ブロックと粒)
- 3 10YR4/6 褐土 粘有縮やや有  
混暗褐5%
- 4 10YR4/3 にふい黄褐土 粘弱縮やや有  
混暗褐5% (他より少し硬い)
- 5 10YR3/2 黒褐土 粘・縮弱  
混黒5%赤褐焼土粒3%

- 6 10YR4/3 にふい黄褐土 粘弱縮やや有  
混褐10%黒と赤褐焼土粒3% (Pit 1埋土)
- 7 10YR4/3 にふい黄褐土  
混にふい黄褐5% (Pit 1埋土)
- 8 10YR4/3 にふい黄褐土  
混褐7%赤褐焼土粒3% (Pit 1埋土)
- 9 10YR2/2 黒褐土 粘・縮やや有  
混褐5%黒褐と暗赤褐3% (盛土層)

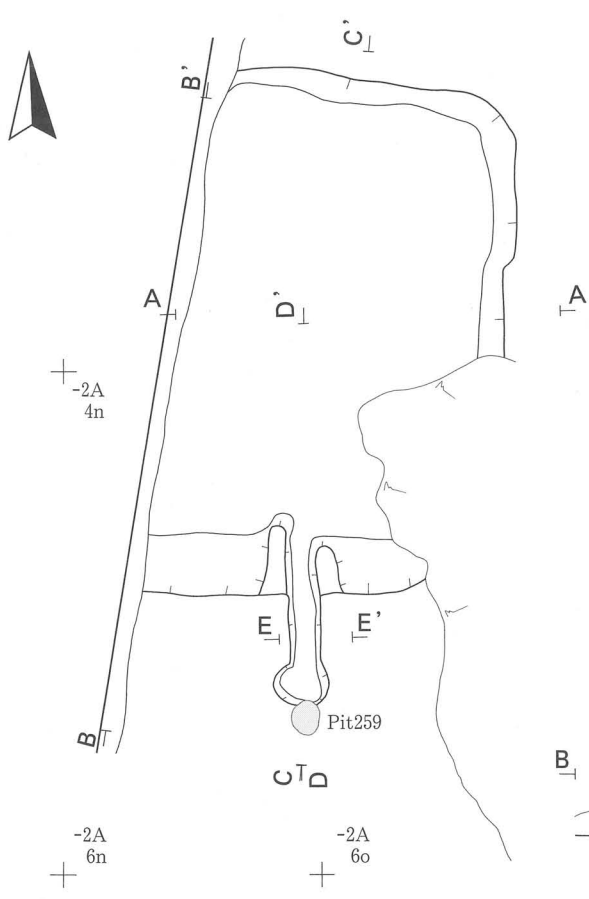


<RA559>

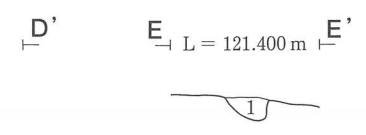
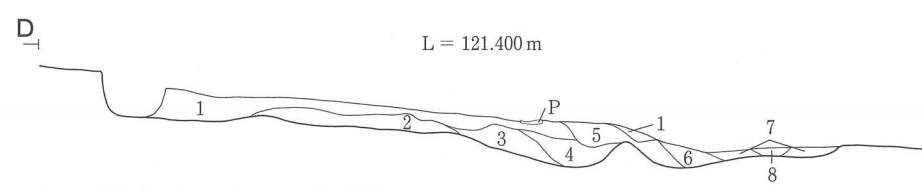
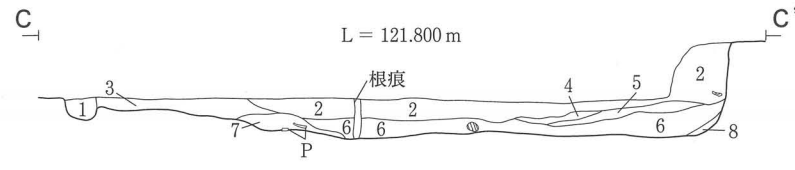
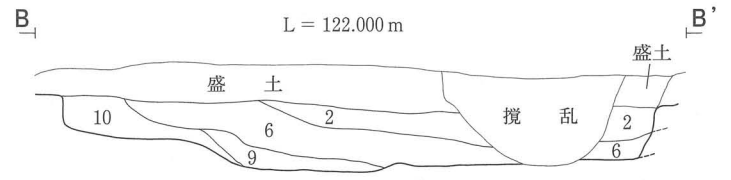
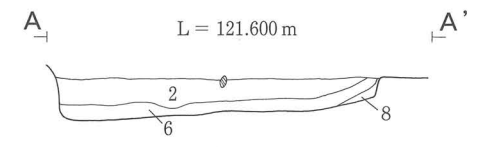
住居断面 A-A' B-B' 共通

- 1 10YR2/2 黒褐土 粘弱縮やや有
- 2 10YR3/2 黒褐土 粘弱縮やや有
- 3 10YR2/3 黒褐土 粘弱縮有 混小礫若干
- 4 10YR4/4 褐土 粘・縮やや有
- 5 10YR2/2 黒褐土 粘・縮やや有 混地山砂若干

第25図 RA557・558・559竪穴住居跡



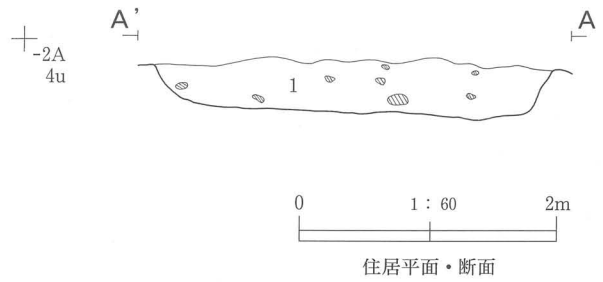
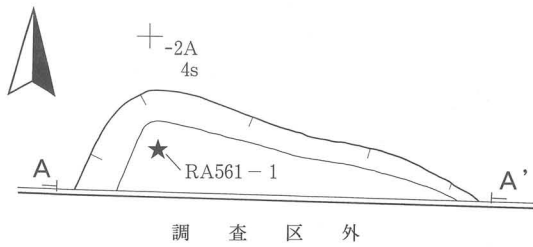
- 〈RA560〉  
 住居断面 A-A' B-B' C-C' 共通
- |    |         |        |                                   |
|----|---------|--------|-----------------------------------|
| 1  | 10YR2/2 | 黒褐土    | 粘弱締有 (Pit259埋土)                   |
| 2  | 10YR2/3 | 黒褐土    | 粘弱締有<br>混炭化物粒・焼土粒3%・土器片           |
| 3  | 10YR3/2 | 黒褐土    | 粘弱締有                              |
| 4  | 10YR2/2 | 黒褐土    | 粘弱締やや有                            |
| 5  | 10YR2/1 | 黒土     | 粘弱締やや有                            |
| 6  | 10YR3/2 | 黒褐土    | 粘・締やや有<br>混褐土細粒と炭化物粒と焼土粒3%        |
| 7  | 10YR4/3 | にぶい黄褐土 | 粘・締やや有<br>混炭化物粒・焼土粒・土器片 (カマド上部か?) |
| 8  | 10YR3/4 | 暗褐土    | 粘・締やや有 混炭化物粒3%                    |
| 9  | 10YR2/3 | 黒褐土    | 粘・締やや有 混褐と炭化物粒3%                  |
| 10 | 10YR3/2 | 黒褐土    | 粘・締やや有 混褐と炭化物粒3%                  |



- カマド断面 D-D' E-E' 共通
- |   |         |        |                              |
|---|---------|--------|------------------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐土    | 粘・締弱やや砂質<br>混北側赤褐焼土3% (煙道埋土) |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐土    | 粘無締弱 混黒褐3% 小礫径3cm以下多数 (煙道埋土) |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐土    | 粘無締弱砂質 混黒3% (煙道埋土)           |
| 4 | 5YR4/6  | 赤褐焼土   | 粘締弱 混明赤褐色焼土5% 黒3% (カマド天井崩落土) |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐土    | 粘無締やや有 混黒と赤褐焼土3%             |
| 6 | 10YR3/2 | 黒褐土    | 粘・締弱砂質 混灰黄褐5%<br>にぶい黄褐3%     |
| 7 | 10YR4/3 | にぶい黄褐土 | 粘無締弱砂質 混褐5%<br>にぶい黄褐3%       |
| 8 | 10YR4/3 | にぶい黄褐土 | 粘無締弱砂質 混褐7%                  |

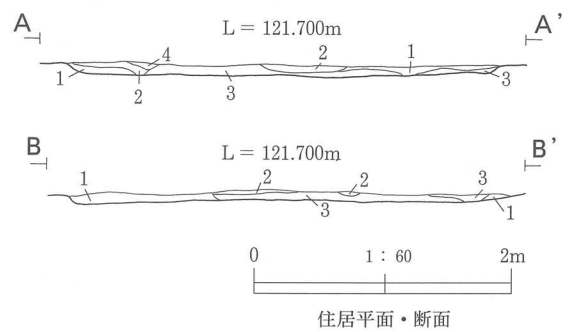
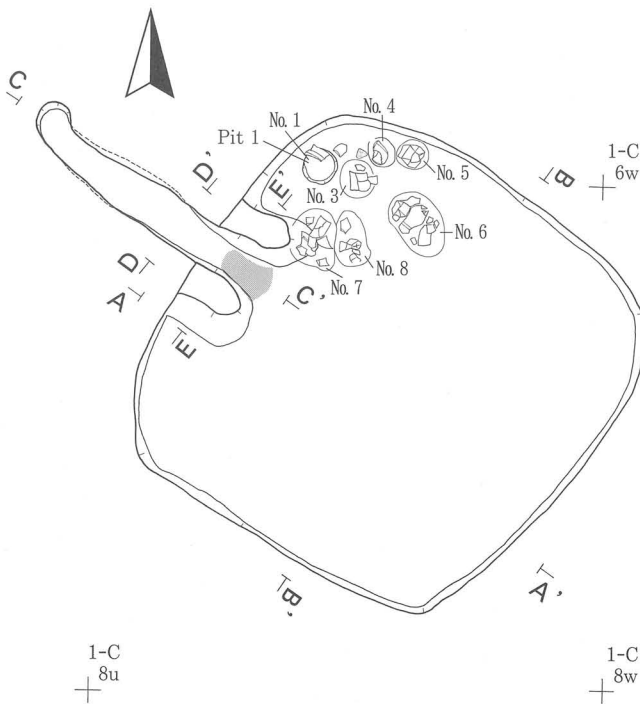


第26図 RA560竪穴住居跡



〈RA561〉  
住居断面 A-A'

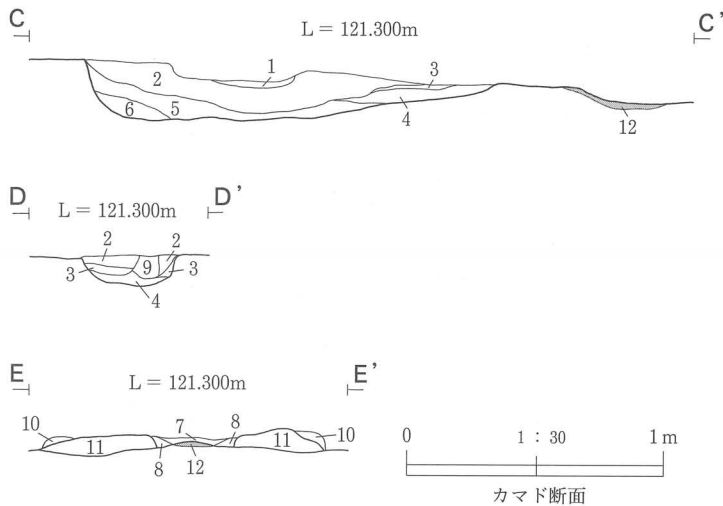
- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘中締やや有  
混土器小片若干1cm~拳大の礫多量



〈RA562〉

住居断面 A-A' B-B' 共通

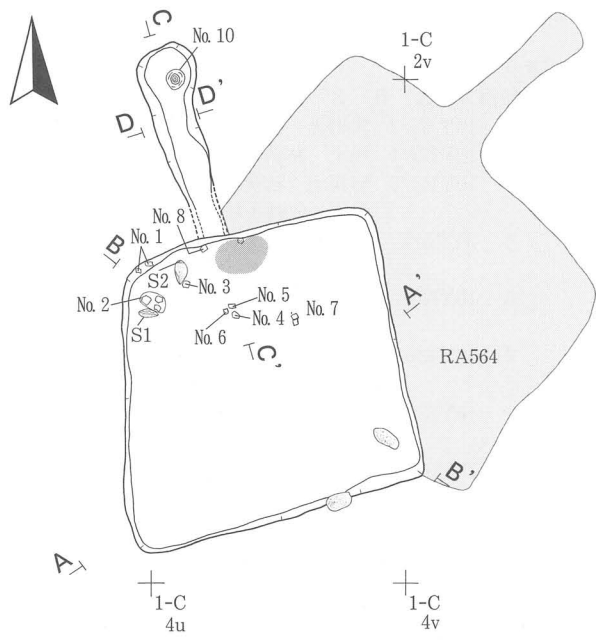
- 1 10YR4/2 灰黄褐色土 砂質  
混黒褐5% (攪乱の土混) 黒3%  
下位に水酸化鉄層有
- 2 10YR4/2 灰黄褐色土 砂質締やや有  
混黒褐とにふい黄褐3%
- 3 10YR4/2 灰黄褐色土 粘・締弱  
混黒褐7% 黒3% (攪乱の土少混)
- 4 10YR3/1 黒褐色土 粘無構成粗締弱  
混褐5% 黒3% (目立つ黒土)



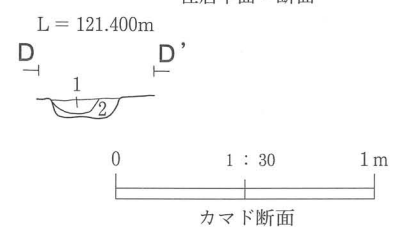
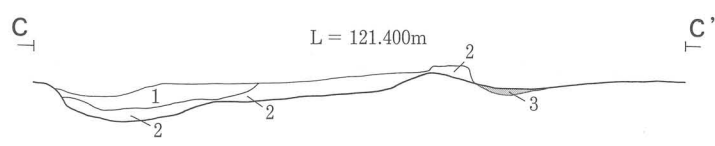
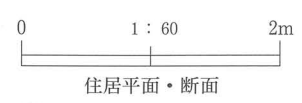
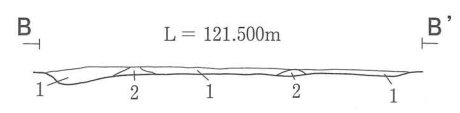
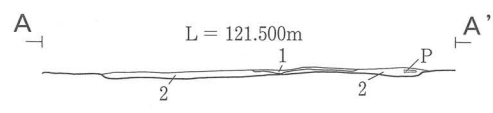
カマド断面 C-C' D-D' E-E' 共通

- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘弱締やや有 混褐5%
- 2 10YR4/4 褐土 粘無締やや有 (天井部崩落土)
- 3 10YR3/4 暗褐色土 粘弱締やや有  
混黒褐3%
- 4 10YR2/3 黒褐色土 粘中締やや有  
混焼土粒~極小ブロック3% (煙道埋土)
- 5 10YR2/1 黒土 粘中締弱  
混焼土粒と褐3% (煙道埋土)
- 6 10YR3/2 黒褐色土 粘中締弱 (煙道埋土)  
混褐3% (煙道埋土)
- 7 10YR3/3 暗褐色土 粘中締やや有 混焼土粒3%
- 8 10YR3/2 黒褐色土 粘中締やや有  
混焼土粒と黒土3%
- 9 10YR2/2 黒褐色土 粘弱締やや有 混褐3%
- 10 10YR3/2 黒褐色土 粘・締弱 (袖埋土)
- 11 10YR4/3 にふい黄褐色土 粘弱締有 (袖構成土)
- 12 5YR4/6 赤褐焼土 混暗褐3% 焼成中 (現地性焼土)

第27図 RA561・562竪穴住居跡

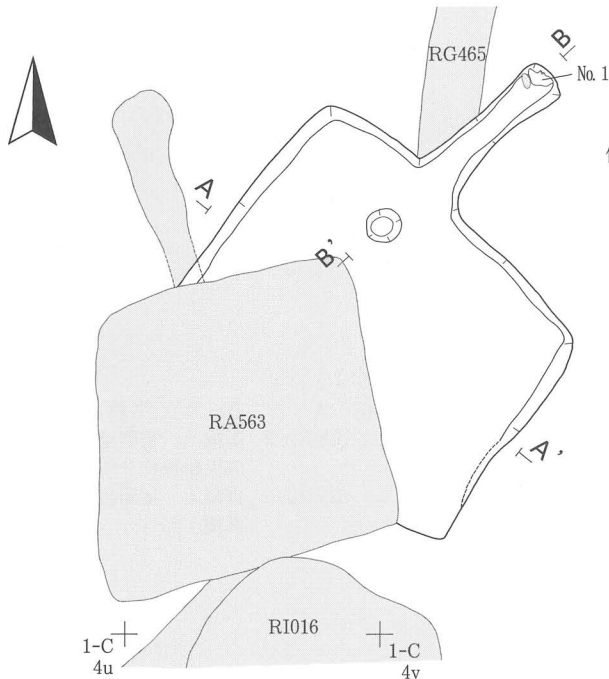


<RA563>  
 住居断面 A-A' B-B' 共通  
 1 10YR2/2 黒褐土 粘弱締有  
   混炭化物粒3% 褐土1%  
 2 10YR2/3 黒褐土 粘弱締有  
   混褐1%



カマド断面 C-C' D-D' 共通  
 1 10YR2/1 黒土 粘弱締やや有  
   混褐砂と焼土1%  
 2 10YR2/3 黒褐土 粘弱締やや有  
 3 5YR4/6 赤褐焼土  
   混暗褐5% 焼成不良  
   (現地性焼土)

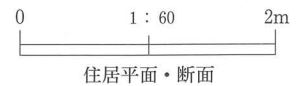
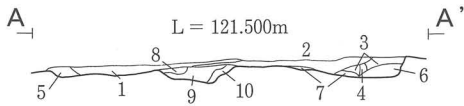
第28図 RA563竪穴住居跡



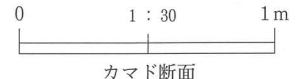
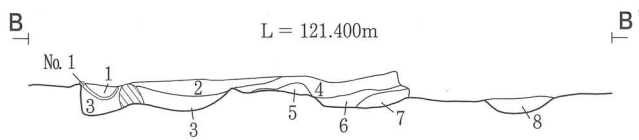
〈RA564〉

住居断面A-A' B-B' 共通

- 1 10YR2/2 黒褐土 粘弱締有 混褐と水酸化鉄 1%
- 2 10YR2/1 黒土 粘弱締有 混褐と炭化物粒 3%
- 3 10YR3/3 暗褐土 粘弱締有  
混褐 3% 焼土粒と炭化物粒 1% 土器片混入
- 4 5YR5/6 明赤褐焼土ブロック  
粘弱締やや有 混褐 1%
- 5 10YR2/3 黒褐土 粘弱締有  
混褐10%水酸化鉄 1%
- 6 10YR5/4 にぶい黄褐土 粘弱締有  
混褐と焼土粒 3%
- 7 10YR4/4 黄褐砂質土 粘無締有  
混にぶい黄褐 1%
- 8 10YR2/1 黒土 粘無締有 (RG465埋土)
- 9 10YR2/3 黒褐土 粘弱締やや有  
混褐砂質土と焼土粒と炭化物 1% (RG465埋土)
- 10 10YR3/3 暗褐土 粘弱締有  
混褐砂質土 5% (RG465埋土)



住居平面・断面



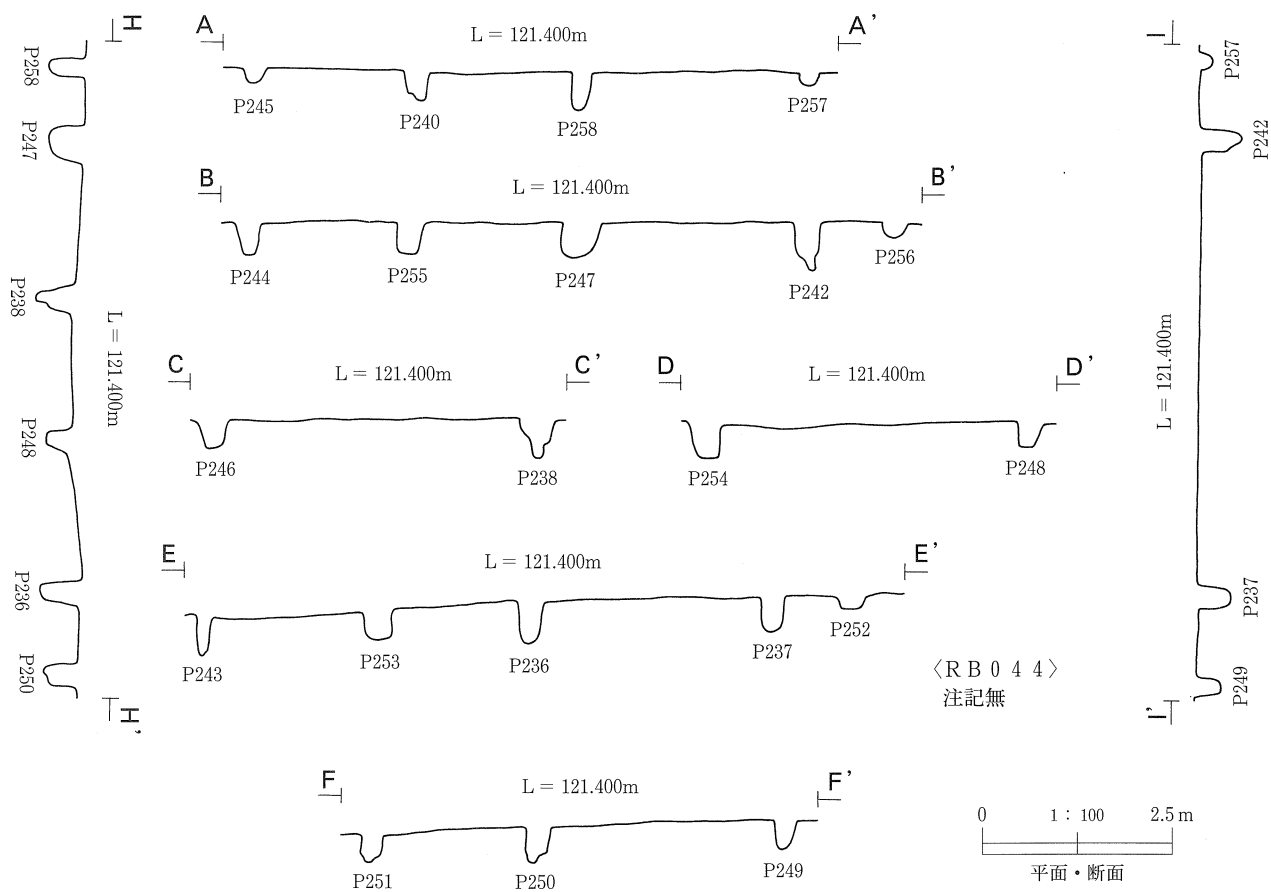
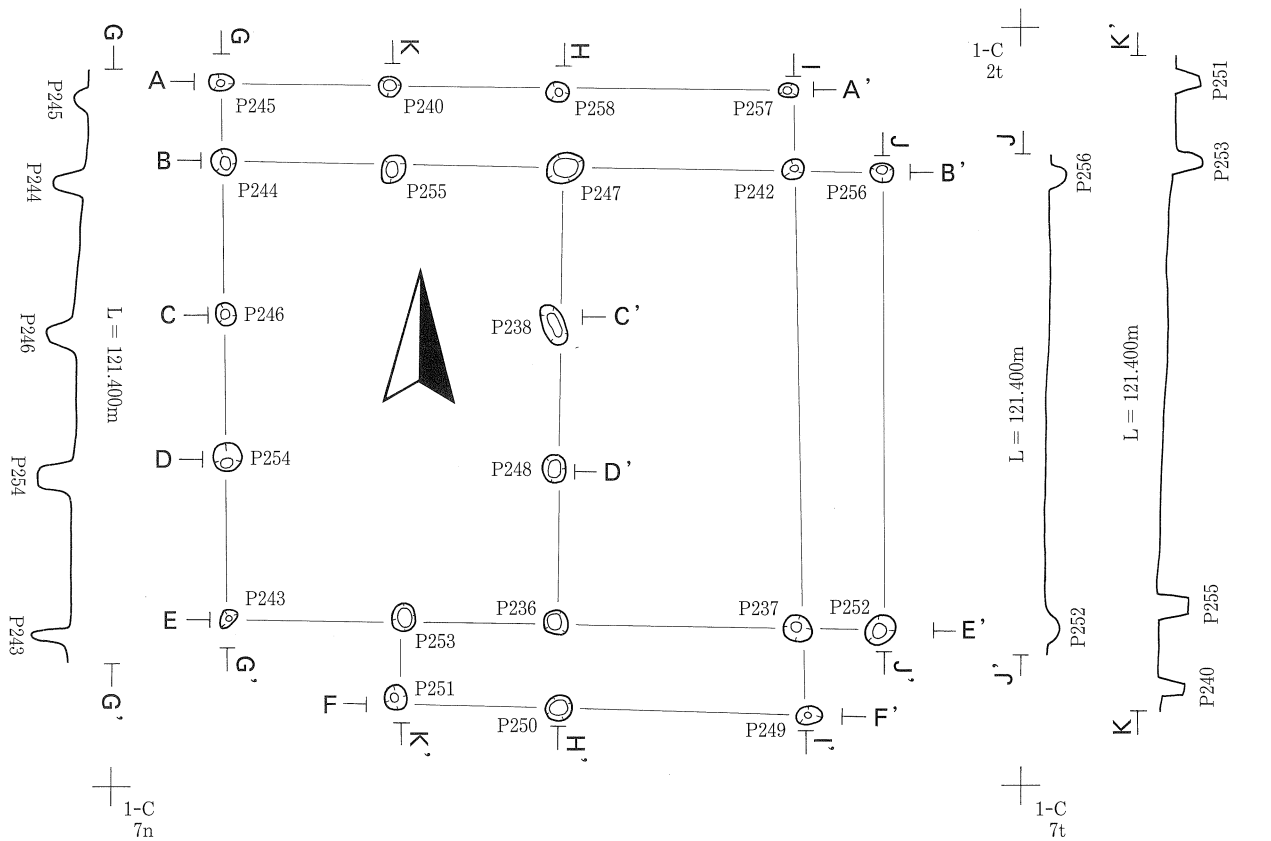
カマド断面

カマド煙道縦断 B-B'

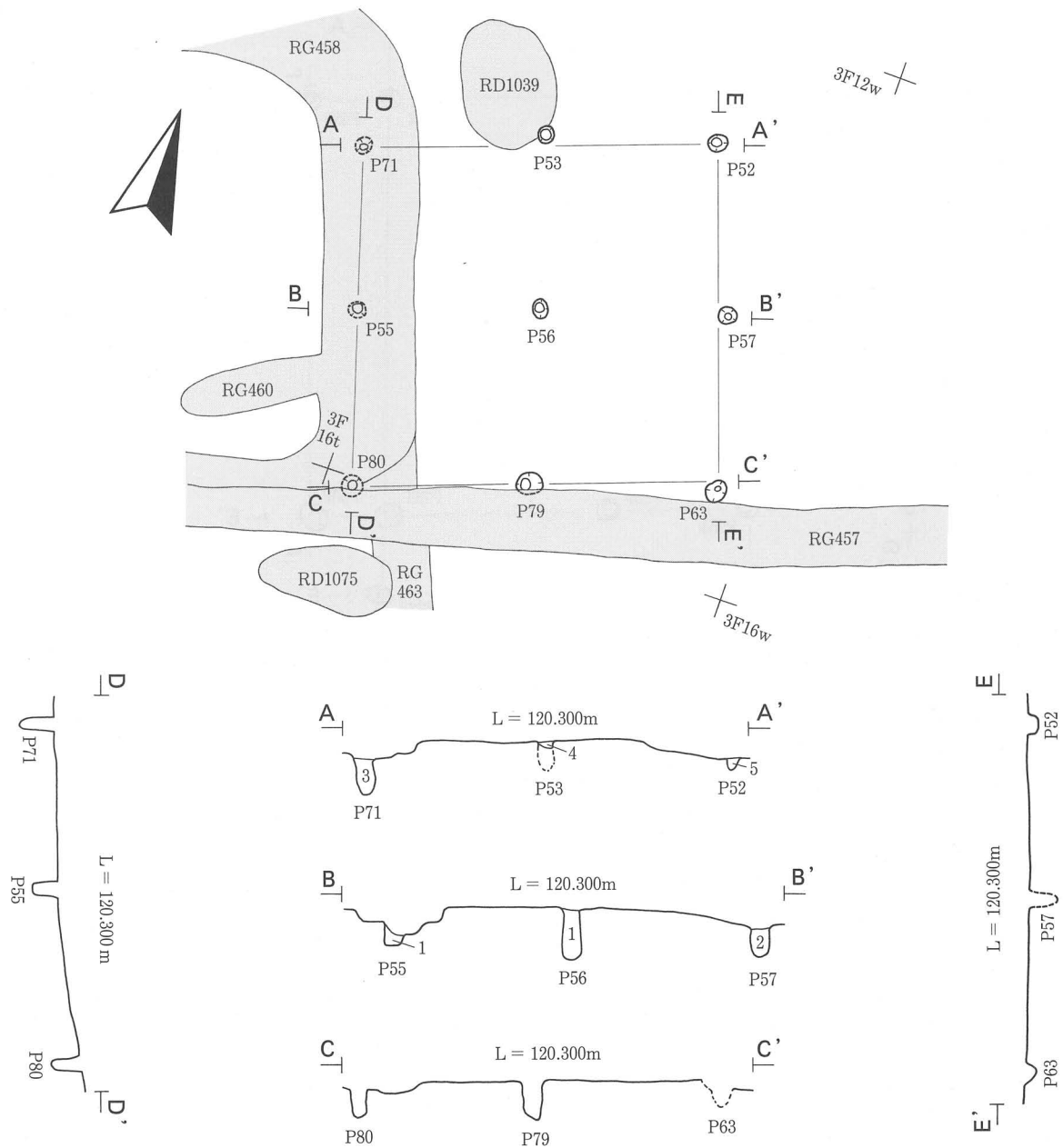
- |   |  |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1 10YR2/2 黒褐土 粘弱締やや有<br/>混焼土粒 3%</li> <li>2 10YR2/3 黒褐土 粘弱締やや有<br/>混焼土粒と褐砂質土 3%</li> <li>3 10YR3/2 黒褐土 粘弱締やや有<br/>混褐砂質土 1%</li> <li>4 10YR2/2 黒褐土 粘弱締やや有<br/>混炭化物粒と焼土粒 3%<br/>褐砂質土 1%</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>5 10YR4/3 にぶい黄褐土 粘弱締有<br/>混褐砂質土10%</li> <li>6 10YR2/3 黒褐土 粘弱締やや有<br/>混焼土粒 3%</li> <li>7 10YR3/3 暗褐土 粘弱締やや有<br/>混褐砂質土10%</li> <li>8 10YR2/3 黒褐土 粘弱締やや有<br/>混焼土粒と褐砂質土10%</li> </ol> |
|---|--|

第29図 RA564竪穴住居跡





第30図 RB044掘立柱建物跡

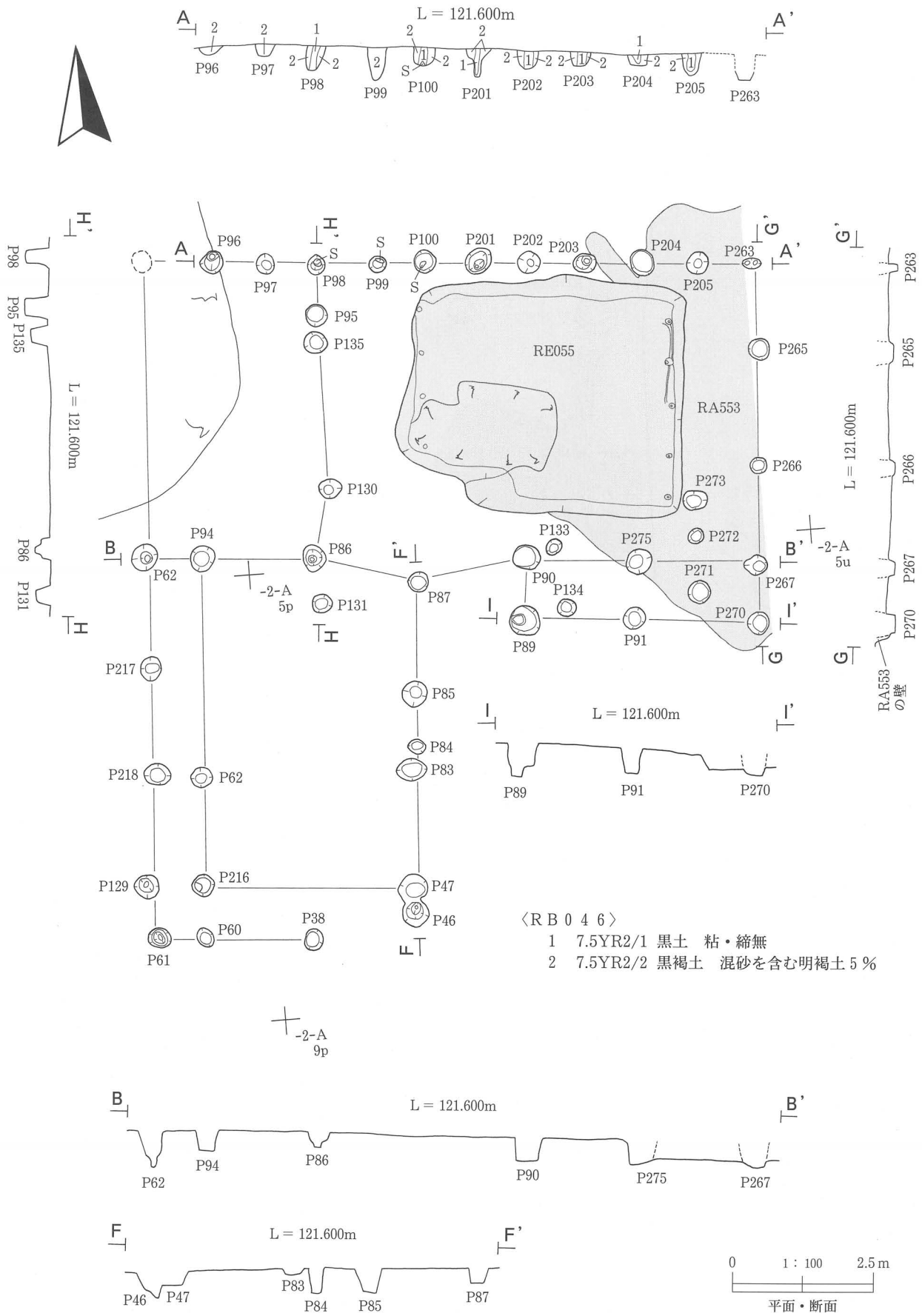


<RB045>

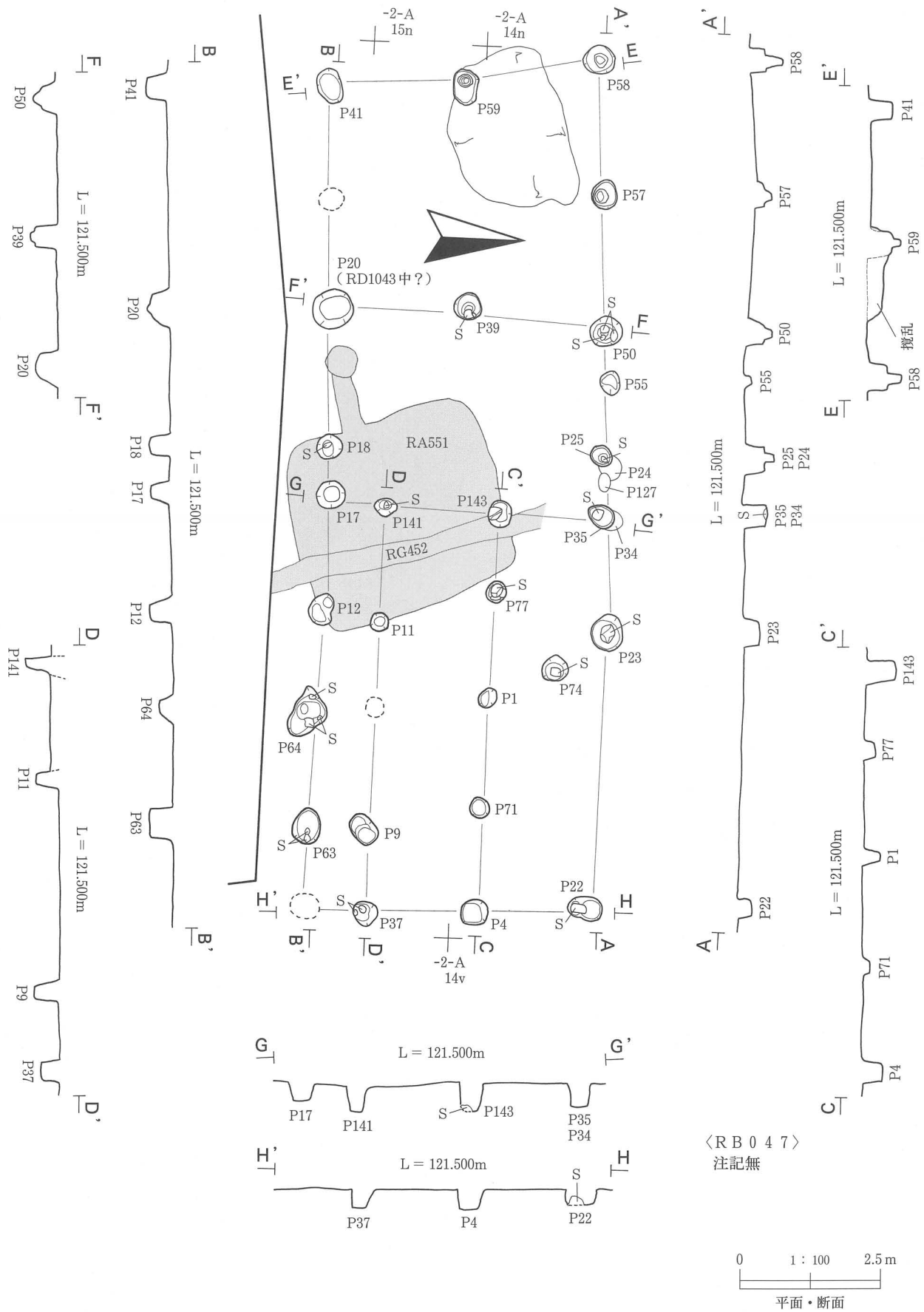
- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘・締やや有  
混にふい黄褐5%黒褐3%
- 2 10YR3/2 黒褐色土 粘・締やや有  
混にふい黄褐7%
- 3 10YR3/2 黒褐色土 粘弱締やや有
- 4 10YR3/4 暗褐色土 粘弱締やや有  
混にふい黄褐大粒7%
- 5 10YR3/2 黒褐色土 粘締やや有

0 1:100 2.5m  
平面・断面

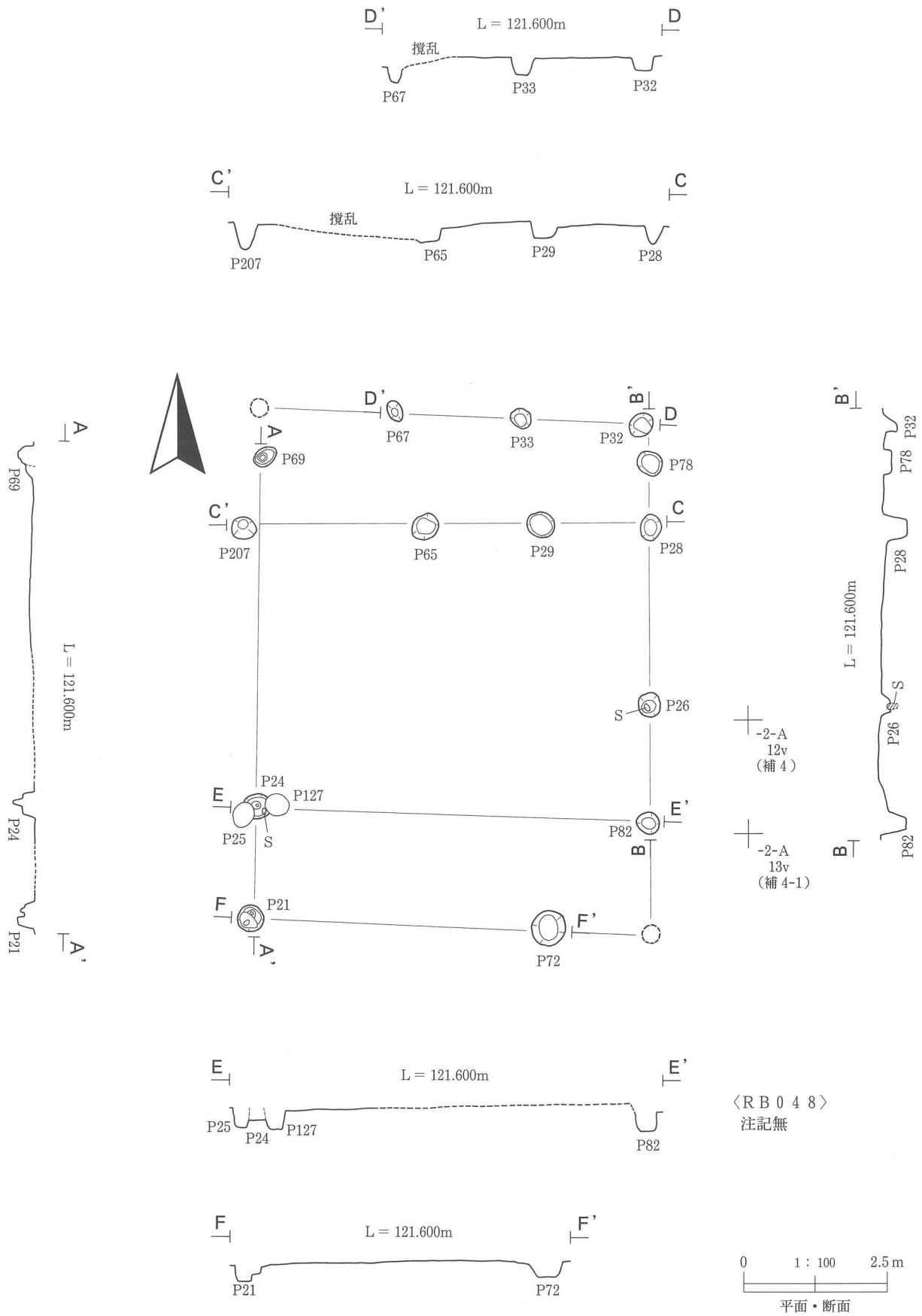
第31図 RB045掘立柱建物跡



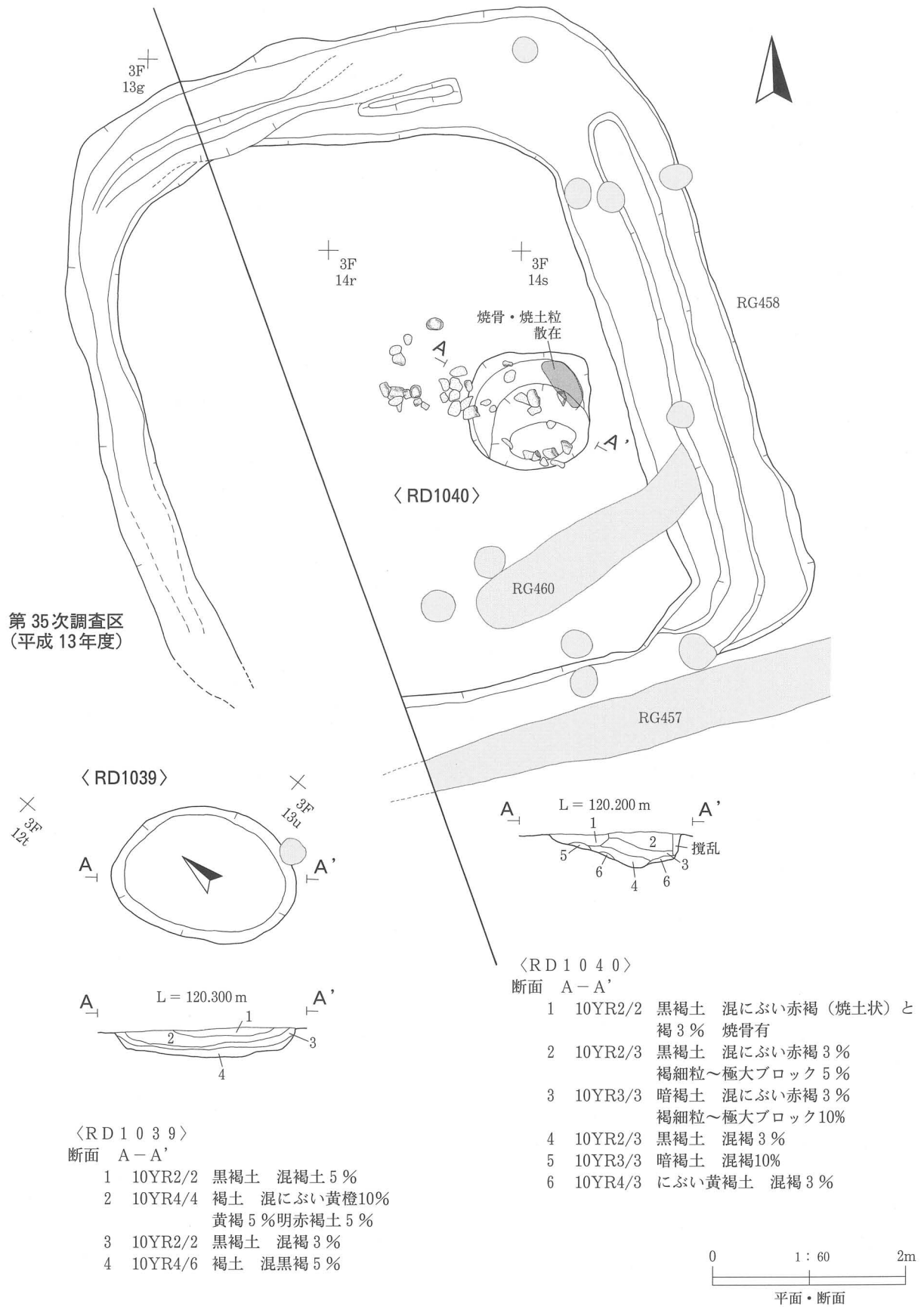
第32図 RB046掘立柱建物跡



第33図 RB047掘立柱建物跡

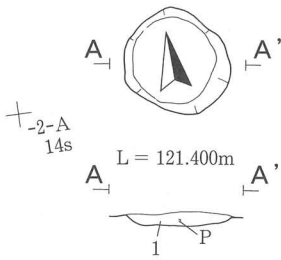


第34図 RB048掘立柱建物跡



第35図 RD1039・1040土坑

<RD1041>



<RD1041>

断面 A-A'

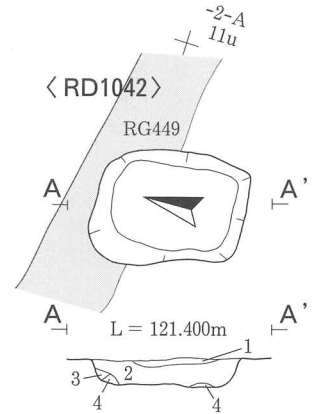
- 1 10YR4/1 褐灰土 混水酸化鉄

<RD1042>

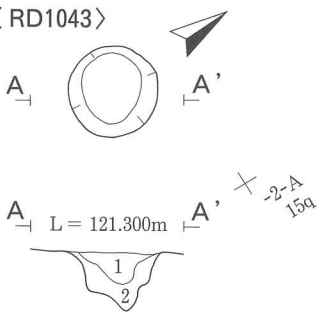
断面 A-A'

- 1 2.5YR4/2 灰赤焼土  
混水酸化鉄小礫 (1~3cm)  
炭化物微量  
2 2.5YR3/2 暗赤褐焼土 混1層に同  
3 10YR4/6 褐土 地山崩落土  
4 10YR2/3 黒褐土

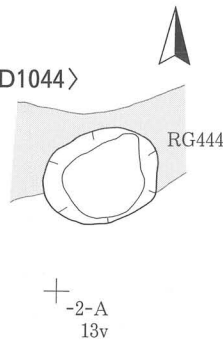
<RD1042>



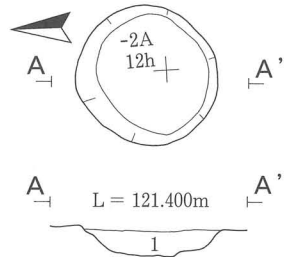
<RD1043>



<RD1044>



<RD1045>



<RD1043>

断面 A-A'

- 1 10YR3/2 黒褐土 混褐1%  
2 10YR3/2 黒褐土 混褐10%

<RD1044>

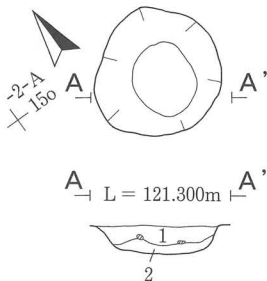
断面 注記無

<RD1045>

断面 A-A'

- 1 2.5YR3/2 暗赤褐焼土  
混褐砂質ブロック1%  
黒褐土ブロックと炭化物3%

<RD1046>

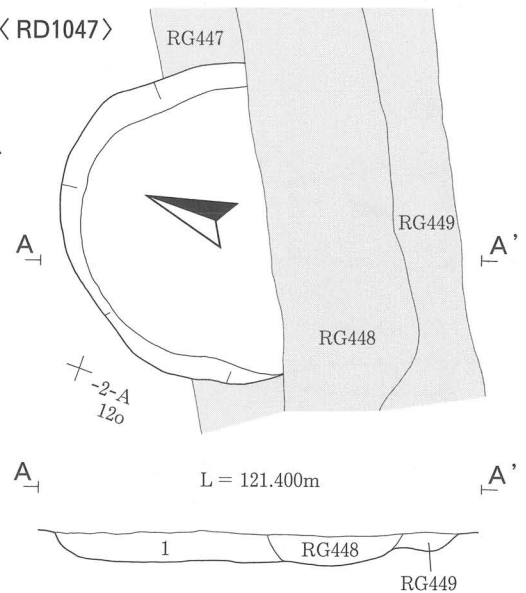


<RD1047>

断面 A-A'

- 1 7.5YR2/1 黒色土シルト

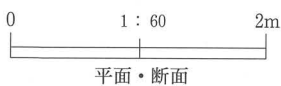
<RD1047>



<RD1046>

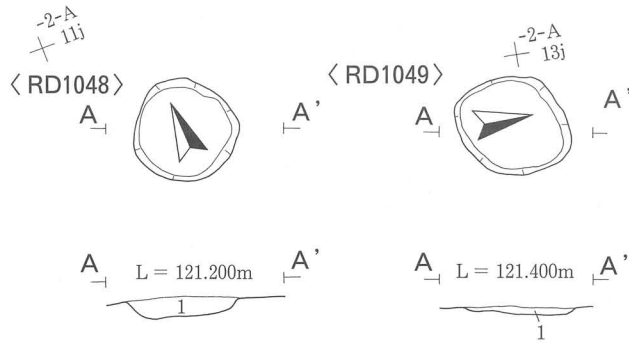
断面 A-A'

- 1 10YR3/2 黒褐土 混褐ブロック5%  
2 10YR3/2 黒褐土 褐ブロックとの混合土



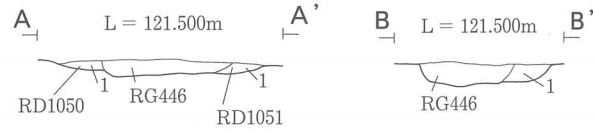
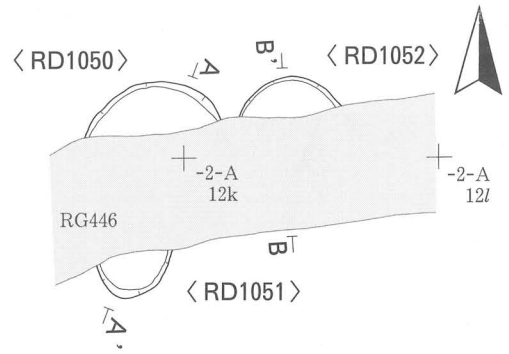
平面・断面

第36図 RD1041~1047土坑



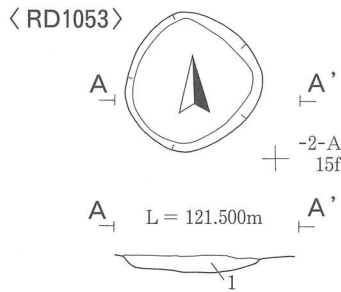
<RD1048>  
断面 A-A'  
1 7.5YR3/1 黒褐土 混水酸化鉄多量  
炭化物 3%

<RD1049>  
断面 A-A'  
1 10YR3/3 暗褐土 混炭化物 3%

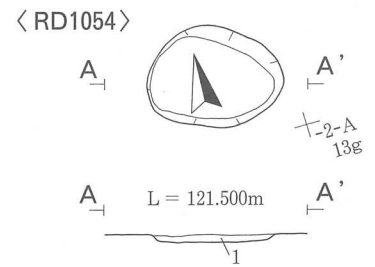


<RD1050・1051>  
断面 A-A'  
1 10YR3/3 暗褐土 混黒褐 3% 酸化鉄・炭化物

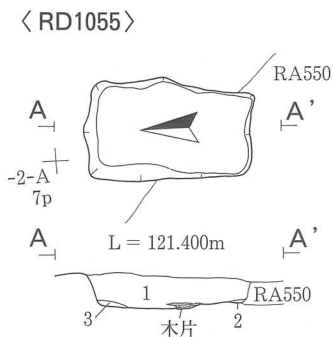
<RD1052>  
断面 B-B'  
1 10YR3/3 暗褐土 混黒ブロック (1~2cm) 5%  
小礫 3%



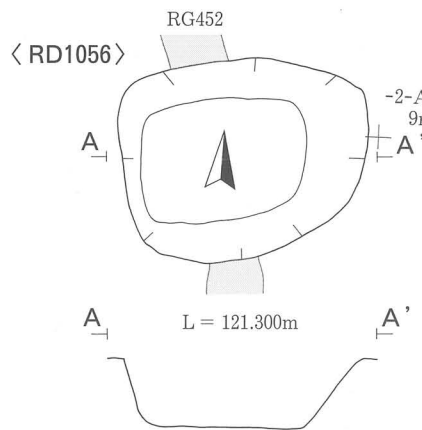
<RD1053>  
断面 A-A'  
1 10YR3/2 黒褐土 混褐ブロック 5% 炭化物 1%



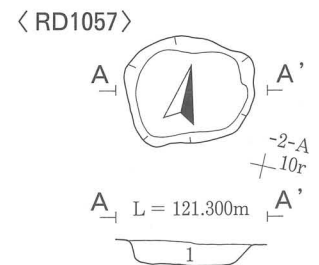
<RD1054>  
断面 A-A'  
1 10YR3/2 黒褐土 混褐ブロック 10%  
炭化物 1%



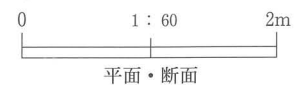
<RD1055>  
断面 A-A'  
1 10YR3/3 暗褐土 混褐 5%  
炭化物と焼土 3%  
2 10YR3/3 暗褐土 厚さ 2cm の灰の層  
3 10YR3/2 黒褐土 混褐 3%



<RD1056>  
断面 注記無



<RD1057>  
断面 A-A'  
1 7.5YR2/2 黒褐土 混黄シルト粒



第37図 RD1048~1057土坑



<RD1058>

断面 D-D'

- 1 10YR3/3 暗褐土  
黄褐土ブロック径1cm  
との混合土

<RD1059>

断面 A-A'

- 1 10YR2/3 黒褐土 黄土との混合土  
混炭化物3%

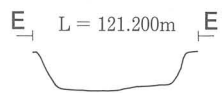
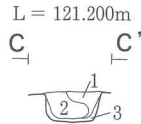
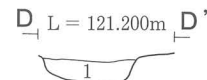
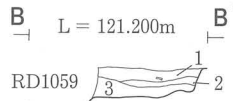
<RD1060>

断面 A-A'

- 1 柱
- 2 10YR2/2 黒褐土 黄褐土との混合土  
混炭化物と焼土3%
- 3 10YR3/4 暗褐土 混焼土粒と  
炭化物粒3%
- 4 10YR3/3 暗褐土 混焼土粒3%
- 5 10YR3/4 暗褐土 混焼土粒と  
炭化物粒7% 土器入
- 6 10YR3/3 暗褐土 4層より焼土粒少  
黄褐土との混合土
- 7 10YR3/3 暗褐土 黄褐ブロック  
との混合土
- 8 10YR2/2 黒褐土 混黄褐3%

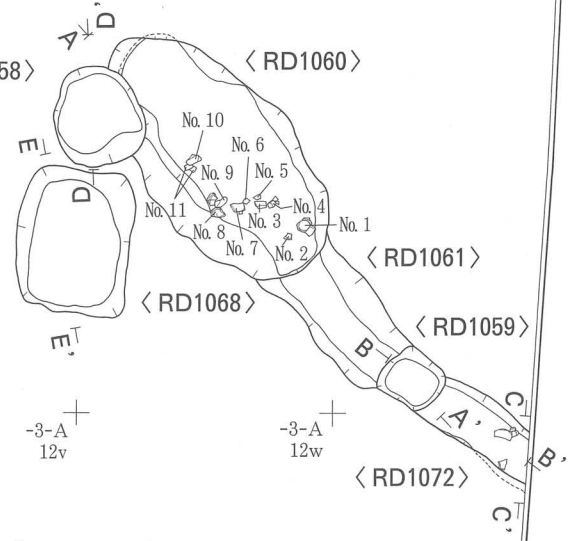
<RD1068>

断面 注記無



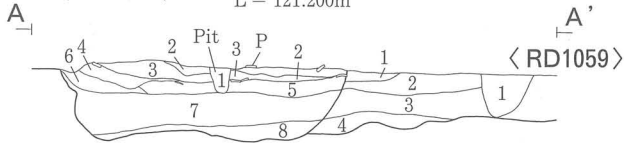
<RD1058>

<RD1060>



<RD1060>

L = 121.200m



<RD1061>

<RD1061>

断面 A-A'

- 1 10YR2/3 黒褐土 黄褐土との混合土  
炭化物と焼土微量混
- 2 10YR3/4 暗褐土 混焼土粒・炭化物7%  
土器入
- 3 10YR3/3 暗褐土 黄褐ブロックとの混合土
- 4 10YR2/2 黒褐土 混黄褐3%

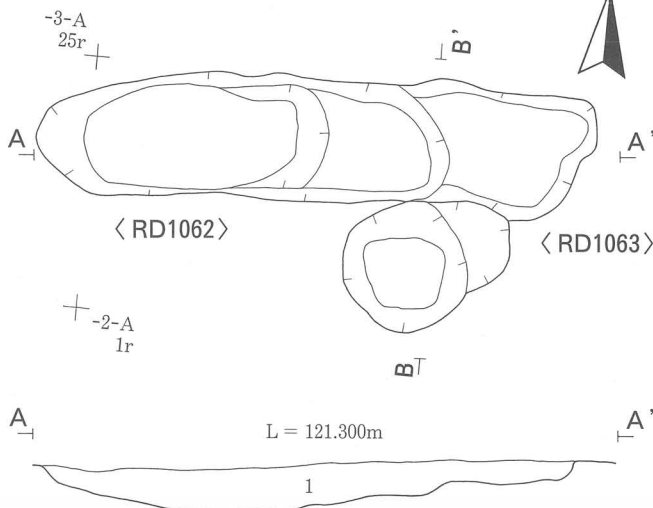
<RD1072>

断面 B-B'

- 1 10YR3/2 黒褐土 粘・締やや有  
混褐粒黒3%
- 2 10YR3/2 黒褐土 粘・締やや有  
混褐3%にふい赤褐焼土5×5cm  
ブロック5%  
土器師・甕口縁部含む層
- 3 10YR3/2 黒褐土 粘・締やや有  
混褐粒にふい赤褐焼土3%  
(下部に層状)

断面 C-C'

- 1 10YR3/2 黒褐土 混にふい黄褐10%
- 2 10YR3/2 黒褐土 混赤褐5%橙と黒3%
- 3 10YR4/2 灰黄褐土



<RD1062>

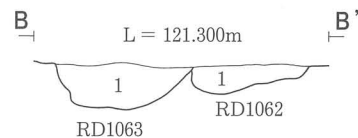
断面 A-A'

- 1 10YR3/2 黒褐土 混褐小ブロック  
~細粒5%

<RD1063>

断面 B-B'

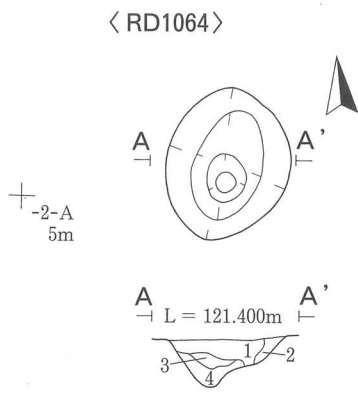
- 1 10YR2/3 黒褐土 混褐小ブロック  
~細粒5%



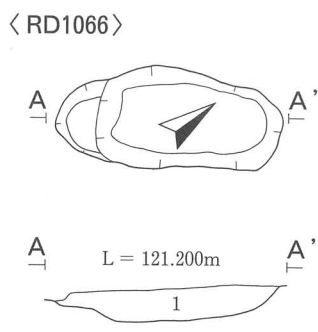
0 1:60 2m

平面・断面

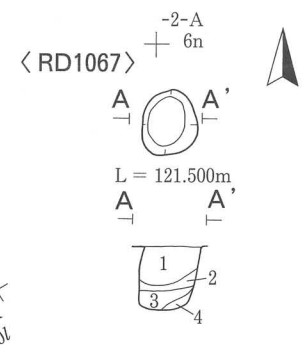
第38図 RD1058・1059・1060・1061・1062・1063・1068・1072土坑



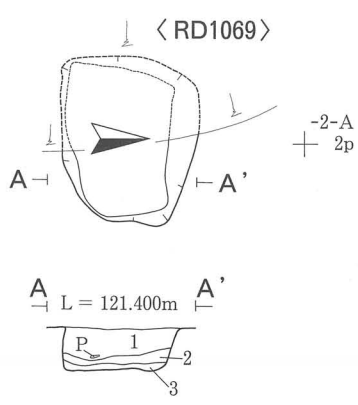
- < RD1064 >  
断面 A-A'
- 1 10YR2/2 黒褐土 混褐小ブロック 1%
  - 2 10YR3/4 暗褐土 混黒褐30%
  - 3 10YR3/2 黒褐土 混褐20%
  - 4 10YR4/3 にぶい黄褐土 混黒褐 1%



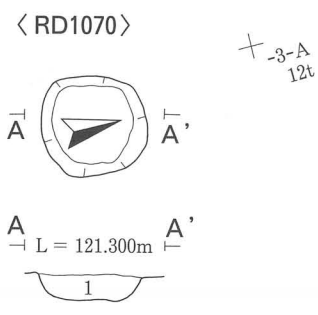
- < RD1066 >  
断面 A-A'
- 1 10YR3/3 暗褐土



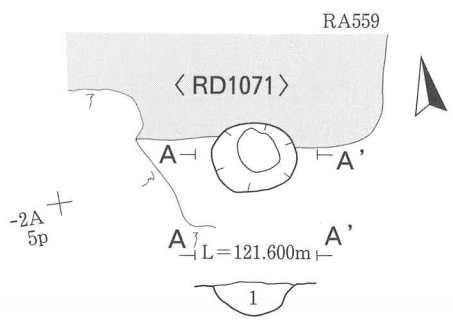
- < RD1067 >  
断面 A-A'
- 1 10YR2/3 黒褐土 混褐と炭化物 3%
  - 2 10YR3/3 暗褐土
  - 3 10YR2/2 黒褐土
  - 4 10YR4/4 褐土



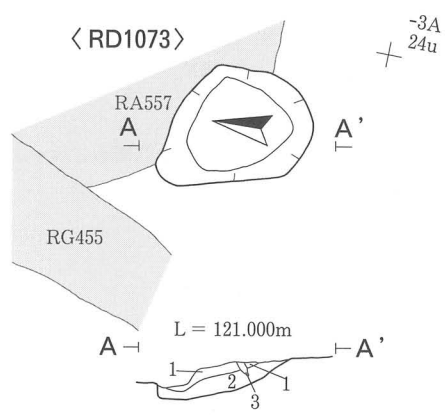
- < RD1069 >  
断面 A-A'
- 1 10YR2/3 黒褐土 混小礫若干
  - 2 10YR3/4 暗褐土
  - 3 10YR3/2 黒褐土



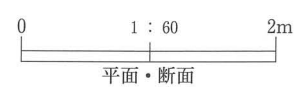
- < RD1070 >  
断面 A-A'
- 1 10YR4/3 にぶい黄褐土 混褐ブロック状 5%



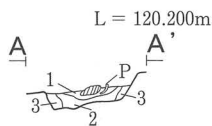
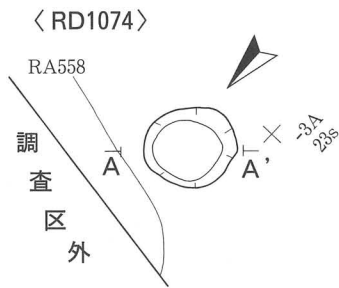
- < RD1071 >  
断面 A-A'
- 1 10YR2/3 黒褐土 混径 2 ~ 5 cm の小礫若干 褐 3% 埋土上位に土師杯混在



- < RD1073 >  
断面 A-A'
- 1 10YR5/2 灰黄褐土 攪乱の土? 混黒 5% (炭片)
  - 2 10YR3/3 暗褐土 混黄褐小ブロック 5%
  - 3 10YR3/3 暗褐土 混黒 5%

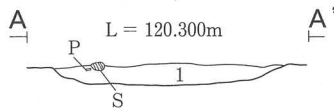
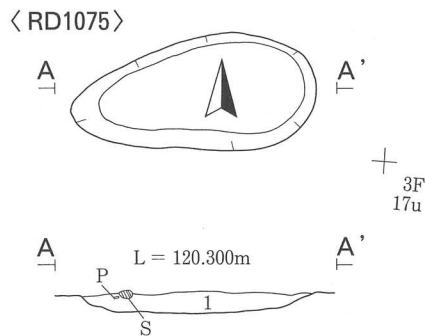


第39図 RD1064・1066・1067・1069・1070・1071・1073土坑



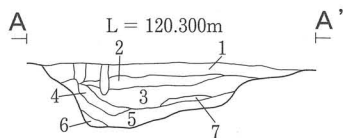
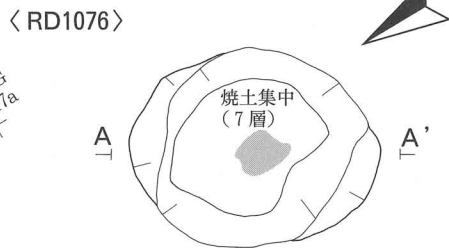
< RD1074 >  
断面 A-A'

- 1 10YR3/2 黒褐土 混褐粒 1% 黒 5% (炭) にふい赤褐 3% (混入?)
- 2 10YR3/2 黒褐土 混にふい黄褐粒 5% 褐 1%
- 3 10YR4/3 にふい黄褐土 砂質 混黒褐 5%



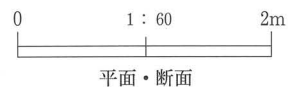
< RD1075 >  
断面 A-A'

- 1 10YR2/2 黒褐土 混褐細粒 3% 埋土上位土器片若干

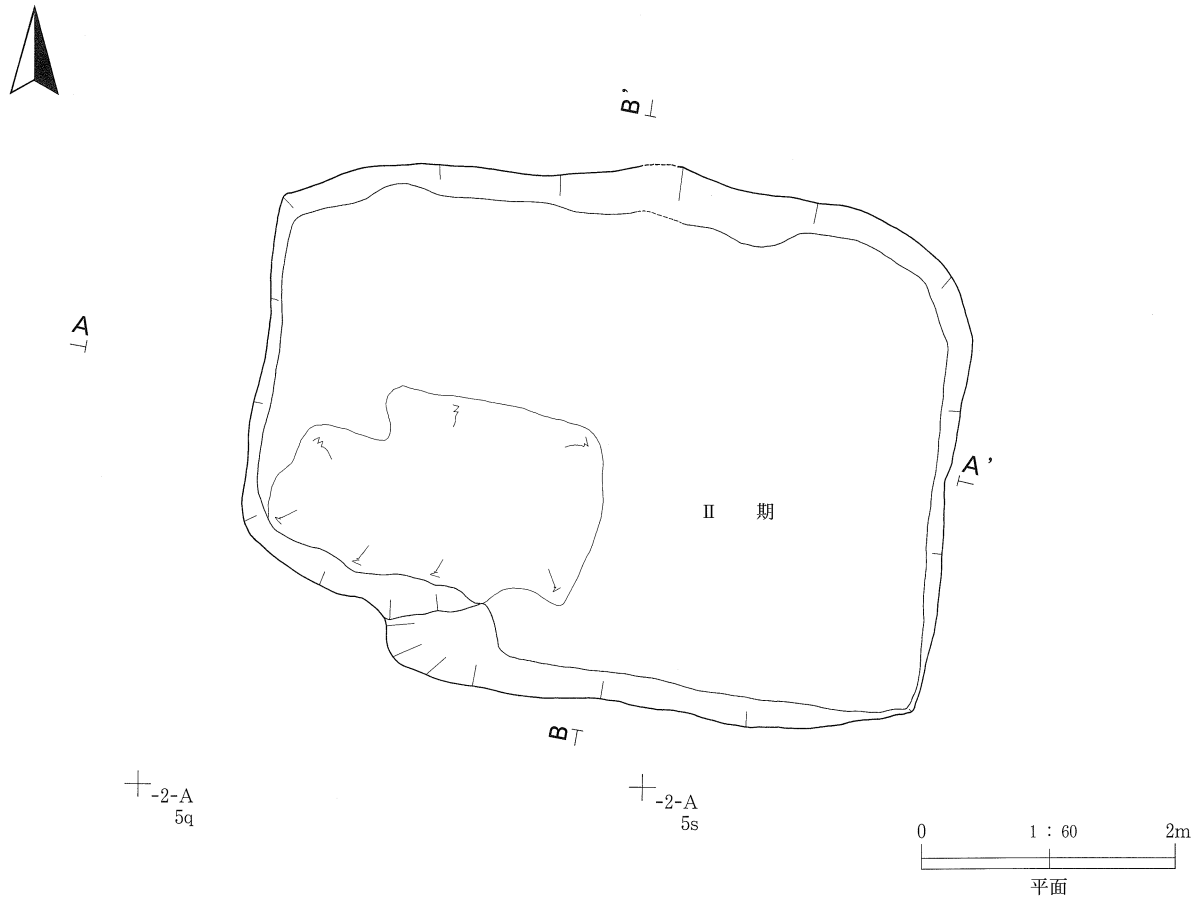
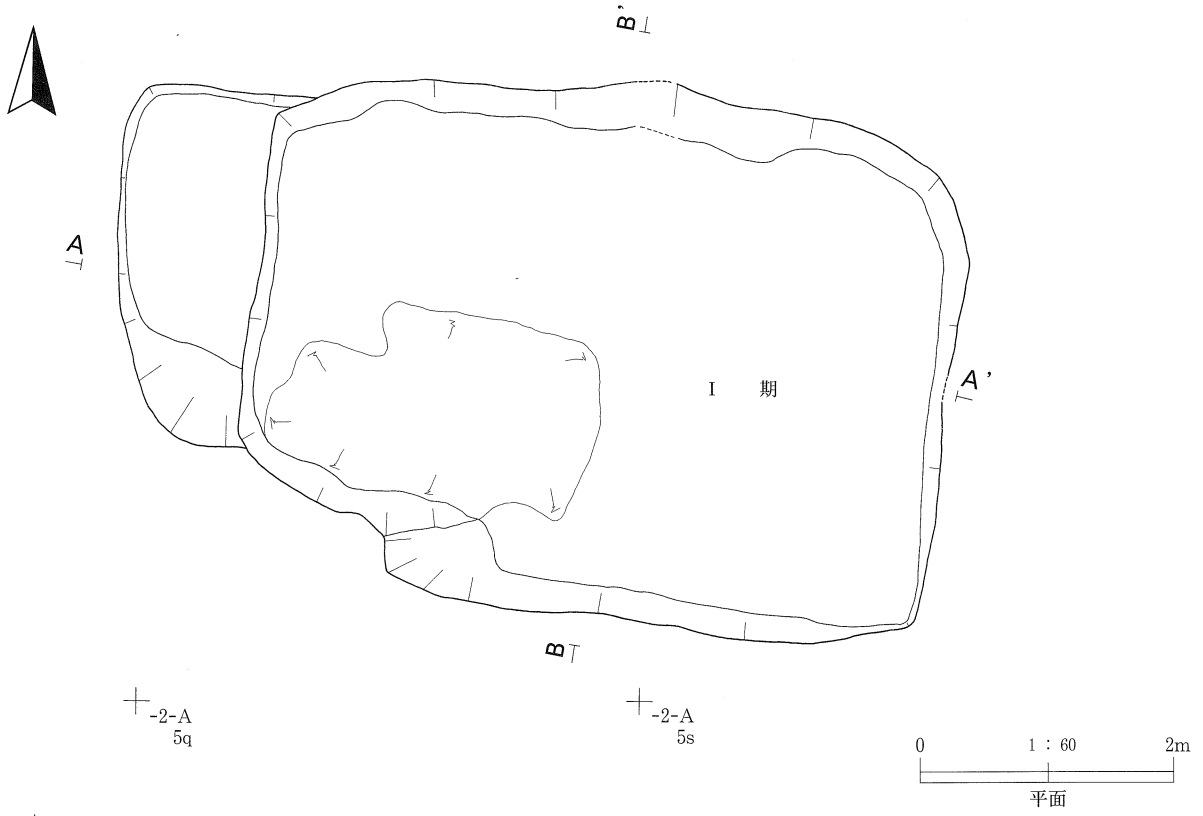


< RD1076 >  
断面 A-A'

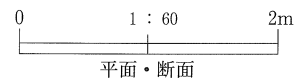
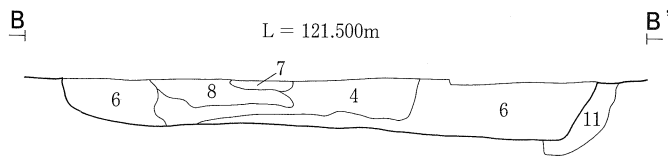
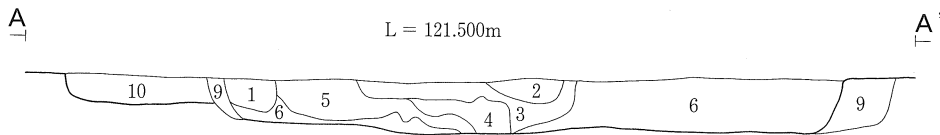
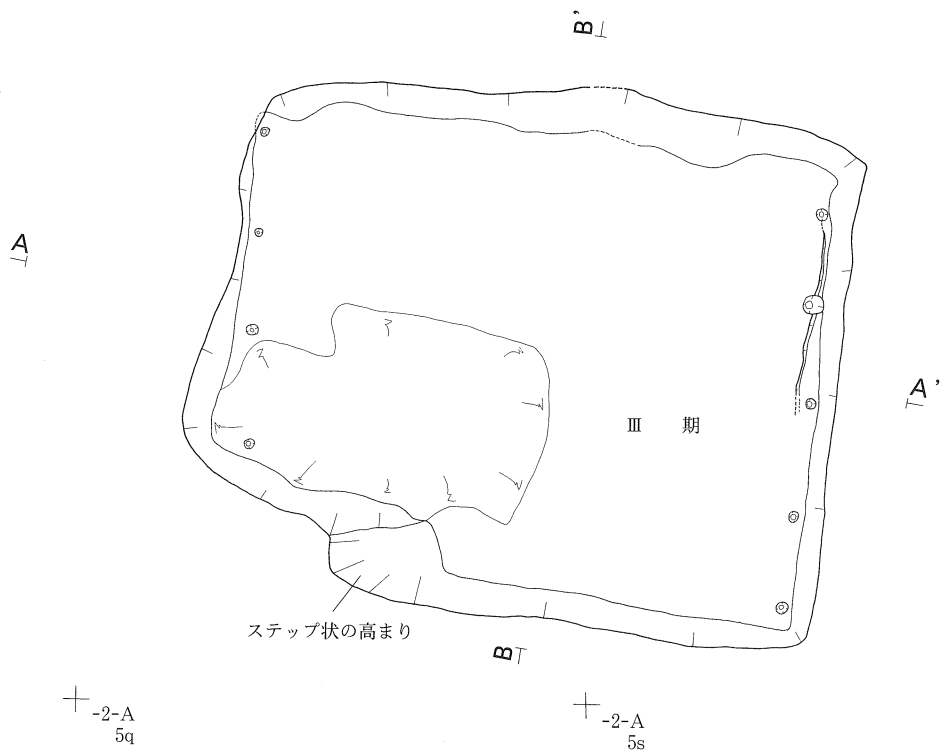
- 1 10YR3/2 黒褐土 混褐 3% 黒 3%
- 2 10YR4/3 にふい黄褐土 混にふい赤褐焼土粒 3%
- 3 10YR4/3 にふい黄褐土 混にふい赤褐焼土粒 5% 褐 3%
- 4 10YR4/3 にふい黄褐土 混にふい赤褐焼土粒 7% (小ブロック) 黒土 (炭混 5 × 3 cm · 2 × 3 cm ブロック)
- 5 10YR4/4 褐土 混黒褐 5%
- 6 10YR4/4 褐土 混にふい赤褐焼土 3% (3 × 2 cm ブロック)
- 7 2.5YR4/3 にふい赤褐焼土 混赤褐土 (焼土層)



第40図 RD1074・1075・1076土坑



第41图 RE055 (1) 竖穴状遺構

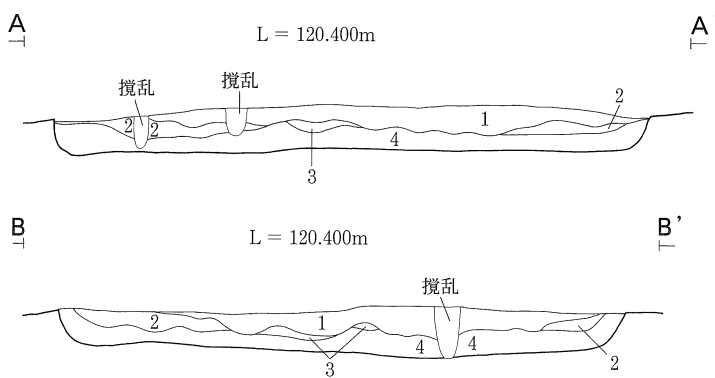
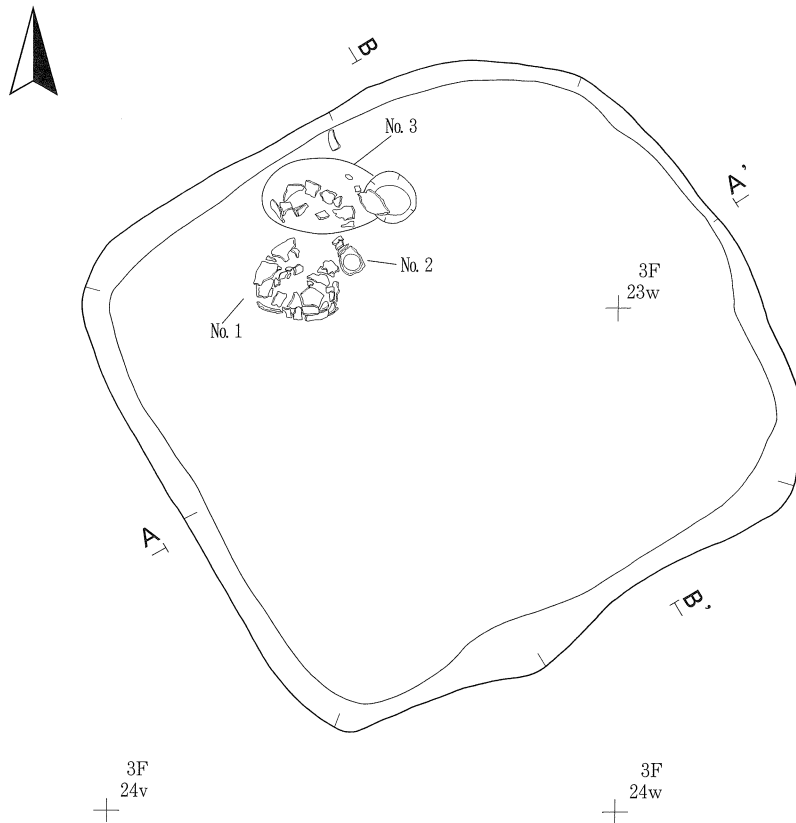


<RE055>

断面A-A' B-B' 共通

- 1 10YR7/1 黒色土 粘やや有締有 混炭多量ビニル (新しいゴミ穴)
- 2 10YR3/3 暗褐色土 粘・締やや有 混黄褐10% 粉殻小礫 (攪乱)
- 3 10YR3/2 黒褐色土 粘弱締無 混砂礫 (1~5cm) 多量粉殻 (攪乱)
- 4 10YR3/1 黒褐色土 粘やや有締有 混小礫と水酸化鉄3% (攪乱)
- 5 10YR5/2 灰黄褐色砂 粘無締やや有 混小礫30% 粉殻木片 (攪乱)
- 6 10YR2/2 黄褐色土 粘やや有締有 混小礫と水酸化鉄3% (RE055埋土)
- 7 10YR4/3 にぶい黄褐色砂 粘弱締有 混炭化物3% (攪乱)
- 8 10YR4/4 褐灰砂 粘弱締有 混上位に粉殻 (地山又は攪乱)
- 9 10YR3/2 黒褐色土 粘・締やや有混水酸化鉄と炭化物3%
- 10 10YR2/2 黒褐色土 粘やや有締有 混小礫と黄褐色土3%
- 11 10YR3/2 黒褐色土 粘・締やや有 (古い土坑埋土)

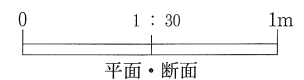
第42図 RE055 (2) 竪穴状遺構



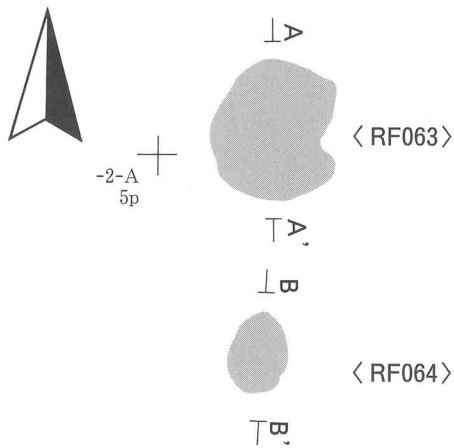
<RE056>

断面A-A' B-B' 共通

- 1 10YR2/2 黒褐土 粘弱締有  
混褐細粒 3%と土器片
- 2 10YR2/3 黒褐土 粘・締やや有  
混褐細粒 5%
- 3 10YR3/3 暗褐土 粘・締やや有  
混暗赤褐焼土細粒  
～極小ブロック30%
- 4 10YR3/2 黒褐土 粘やや有締有  
混褐細粒 3%



第43図 RE056竪穴状遺構



<RF063>

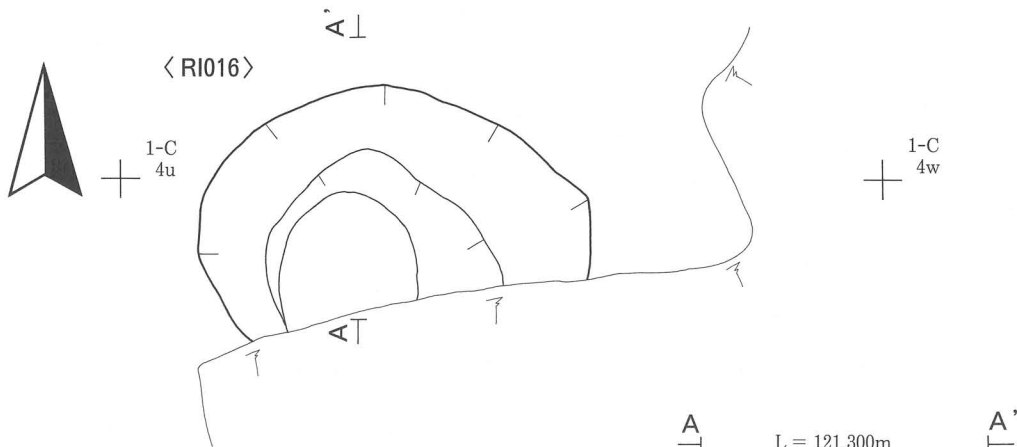
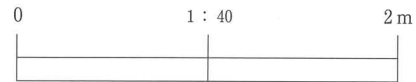
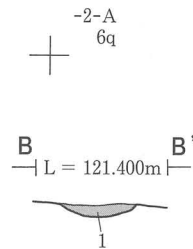
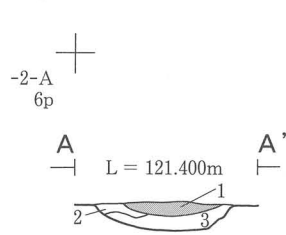
断面 A-A'

- 1 10YR2/3 黒褐土 粘弱縮有  
混焼土粒・炭化物 1%
- 2 2.5YR3/2 暗赤褐焼土 混黒褐10%
- 3 2.5YR4/6 赤褐焼土 焼成良好

<RF064>

断面 A-A'

- 1 2.5YR3/4 暗赤褐焼土 焼成良好

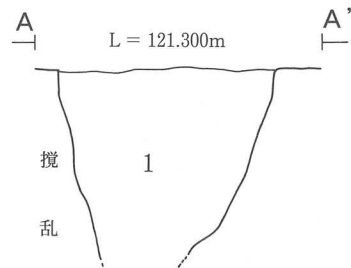


<RI016>

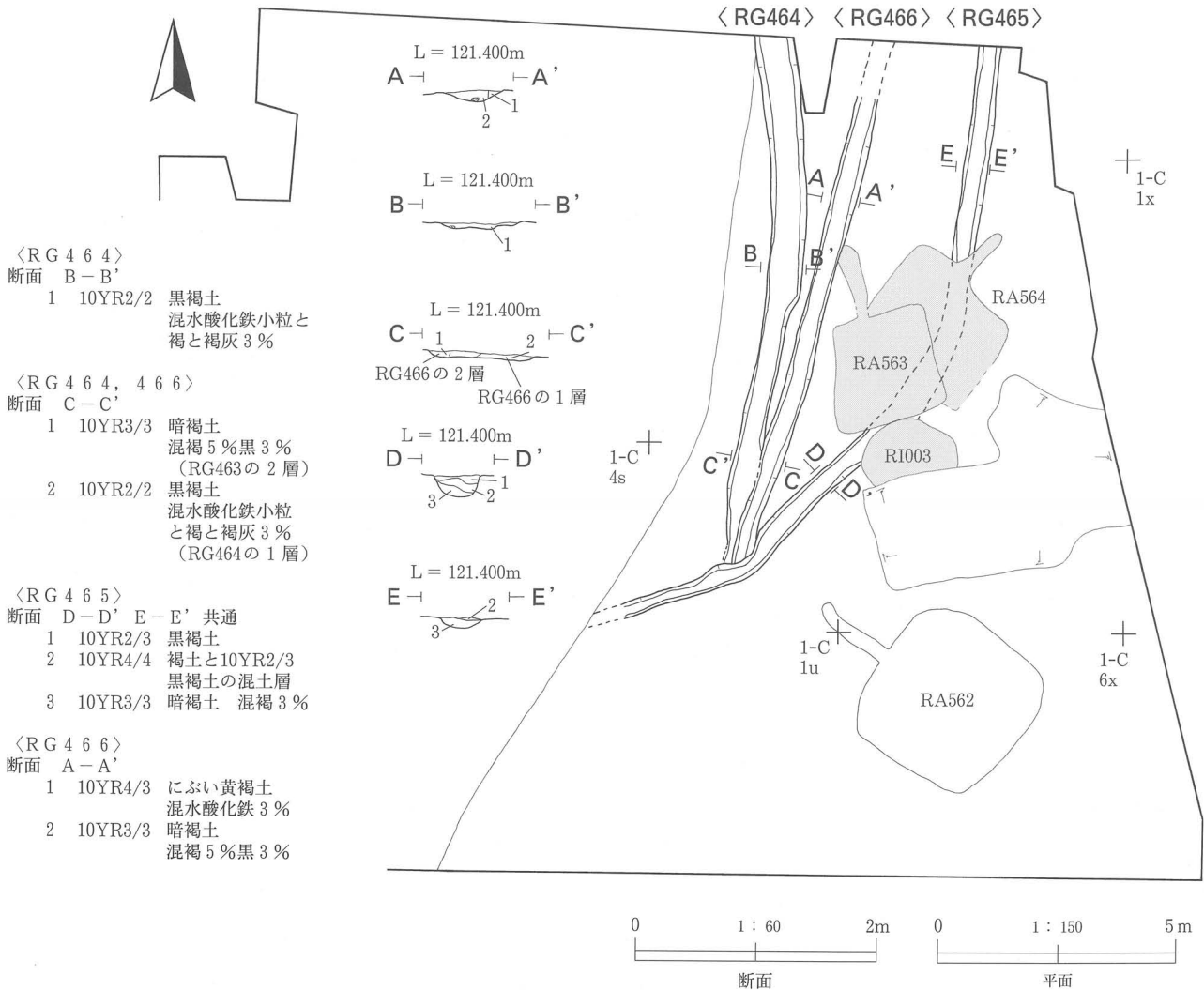
<RI016>

断面 A-A'

- 1 10YR2/2 黒褐土 粘中縮やや有  
混径 1~5 cm 大の小礫 5%



第44図 RF063・064焼土遺構 RI016井戸跡



<RG464>  
 断面 B-B'  
 1 10YR2/2 黒褐土  
 混水酸化鉄小粒と  
 褐と褐灰3%

<RG464, 466>  
 断面 C-C'  
 1 10YR3/3 暗褐土  
 混褐5%黒3%  
 (RG463の2層)  
 2 10YR2/2 黒褐土  
 混水酸化鉄小粒  
 と褐と褐灰3%  
 (RG464の1層)

<RG465>  
 断面 D-D' E-E' 共通  
 1 10YR2/3 黒褐土  
 2 10YR4/4 褐土と10YR2/3  
 黒褐土の混土層  
 3 10YR3/3 暗褐土 混褐3%

<RG466>  
 断面 A-A'  
 1 10YR4/3 にふい黄褐土  
 混水酸化鉄3%  
 2 10YR3/3 暗褐土  
 混褐5%黒3%

<RG457>  
 断面 A-A' B-B' 共通  
 1 10YR4/2 灰黄褐土(現耕作土)  
 2 7.5YR5/6 明褐土  
 水酸化鉄集積層混黒土3% (水田床土)  
 3 10YR2/2 黒褐土 (検出層)  
 4 10YR2/3 極暗褐土 (RG457埋土)  
 5 10YR3/3 暗褐土 (RG457埋土)

<RG458>  
 断面 C-C' D-D' 共通  
 1 10YR3/2 黒褐土 混黒と明赤褐3%  
 2 10YR3/2 黒褐土 混褐5%  
 3 10YR4/4 褐土 混黒褐5%  
 4 10YR3/2 黒褐土 混褐7%  
 5 10YR3/2 黒褐土 混褐と明赤褐3%  
 6 10YR3/2 黒褐土 混褐3% (Pit埋土)

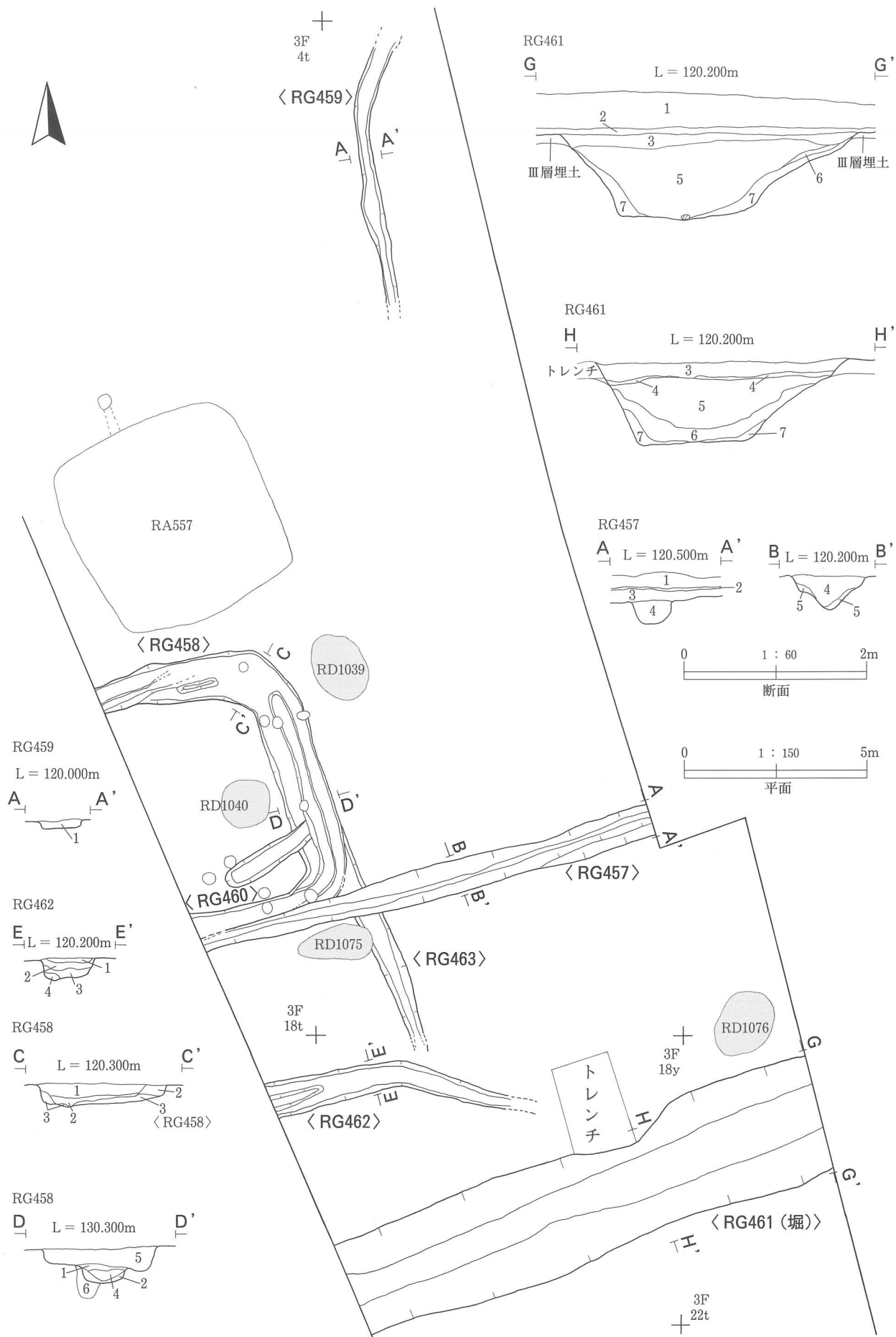
<RG459>  
 断面  
 1 10YR3/3 暗褐土

<RG461>  
 断面 H-H' G-G' 共通  
 1 10YR4/1 褐灰土 (現代耕作土)  
 2 5YR6/8 橙土 水酸化鉄集積層 (水田床土)  
 3 10YR4/3 にふい黄褐土  
 混褐土3%・3~5cm大礫1%  
 全体に一樣な色調 (RG461埋土)  
 4 10YR4/4 褐土 混にふい黄褐10% (R461埋土)  
 5 10YR3/3 暗褐土 混褐40%・西側湧水層 (RG461埋土)  
 6 10YR3/4 暗褐土 混褐20% (RG461埋土)  
 7 10YR3/2 黒褐土 混褐1%黒褐多褐ごく微量  
 (黒が強い層) (RG461埋土)

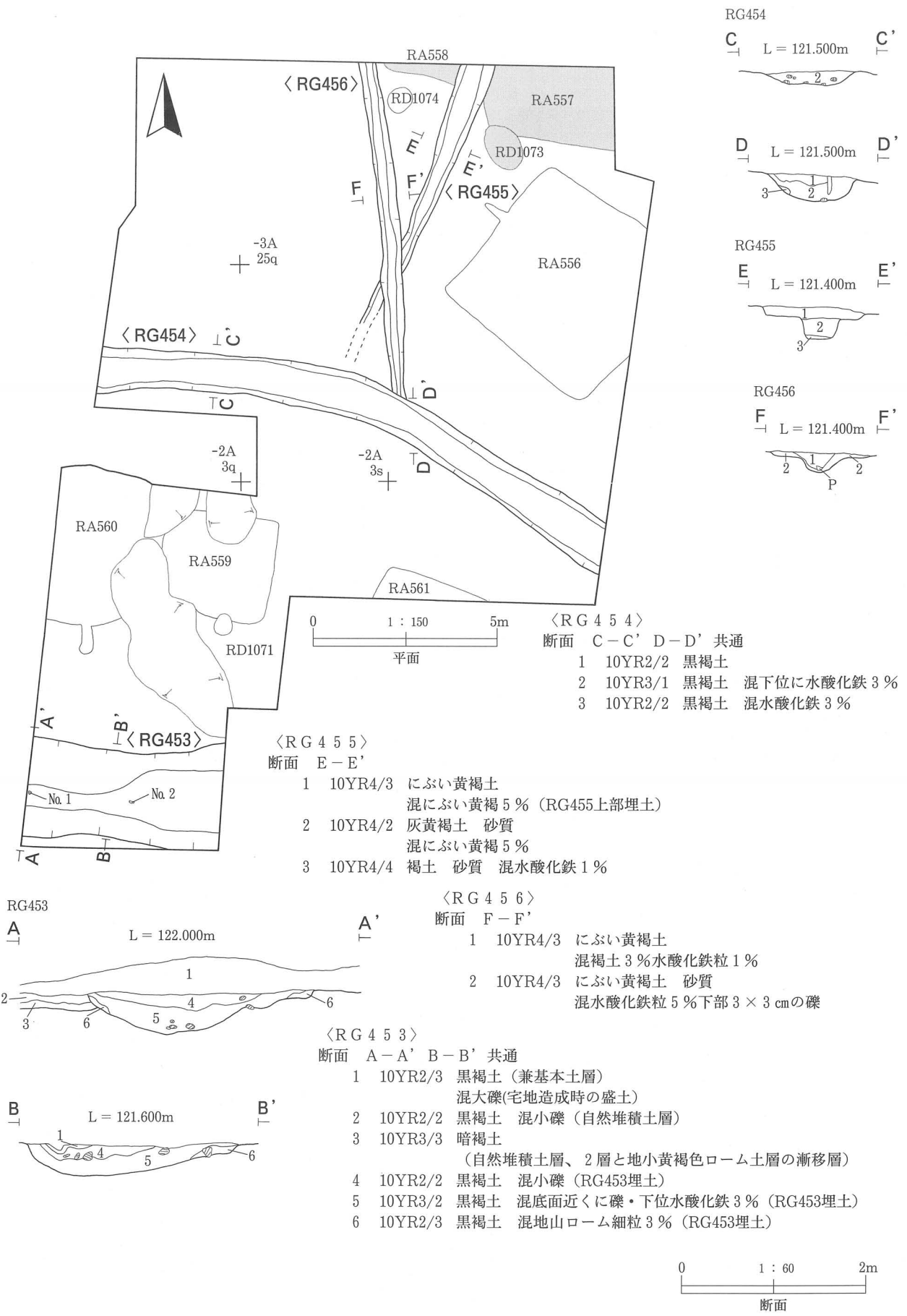
<RG462>  
 断面 E-E'  
 1 10YR3/3 暗褐土  
 2 10YR4/3 にふい黄褐土 混褐10%  
 3 10YR3/4 暗褐土  
 4 10YR3/2 黒褐土

第45図 RG464・465・466溝跡 (西区)

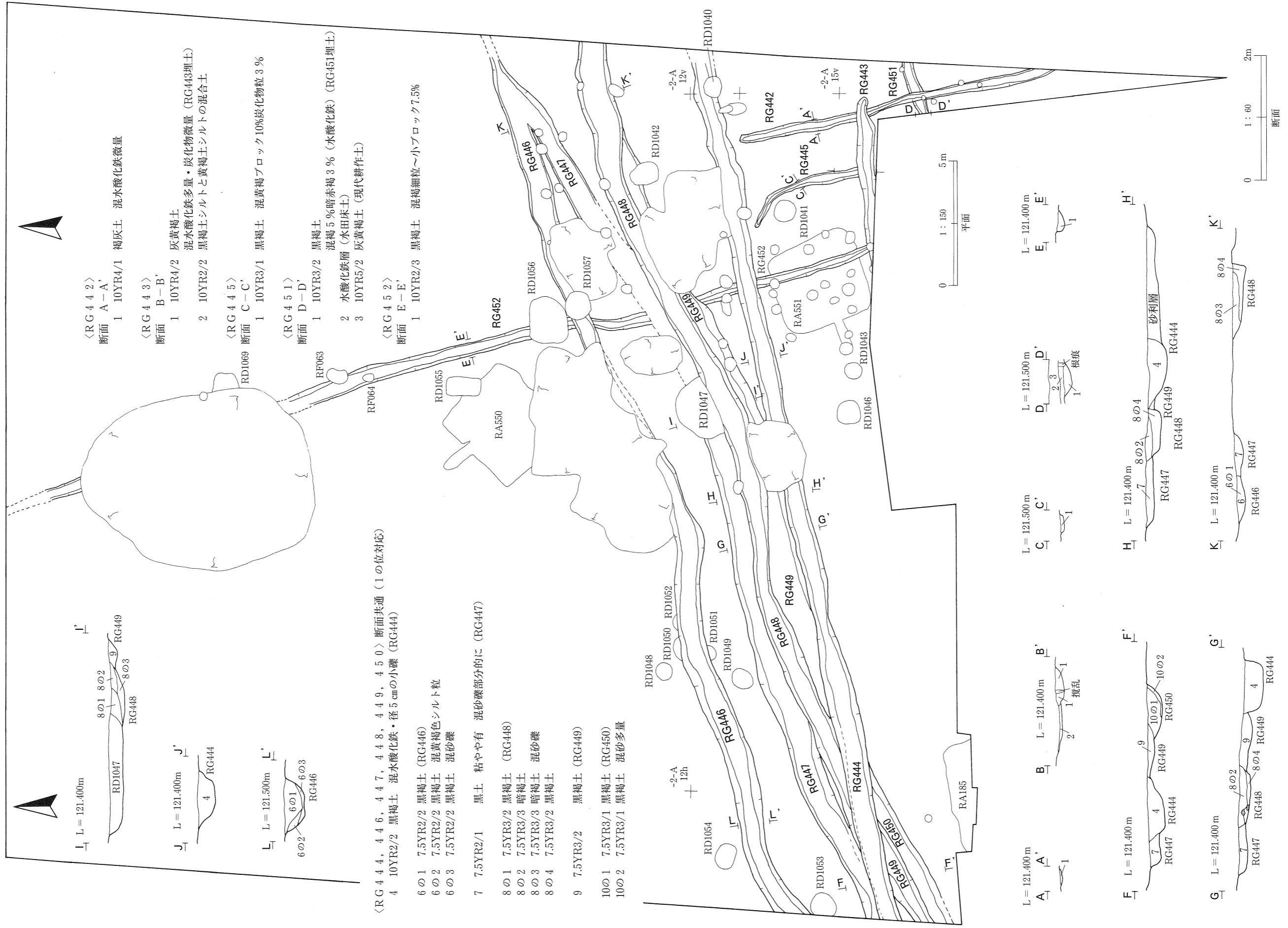




第46図 RG457・458・459・460・461・462・463溝跡（東区）



第47図 RG453・454・455・456溝跡 (北東区)



<RG442>  
 断面 A-A'  
 1 10YR4/1 褐灰土 混水酸化鉄微量  
  
 <RG443>  
 断面 B-B'  
 1 10YR4/2 灰黄褐土  
 混水酸化鉄多量・炭化物微量 (RG443埋土)  
 2 10YR2/2 黒褐土シルトと黄褐土シルトの混合土  
  
 <RG445>  
 断面 C-C'  
 1 10YR3/1 黒褐土 混黄褐ブロック10%炭化物粒3%  
  
 <RG451>  
 断面 D-D'  
 1 10YR3/2 黒褐土  
 混褐5%暗赤褐3% (水酸化鉄) (RG451埋土)  
 2 水酸化鉄層 (水田床土)  
 3 10YR5/2 灰黄褐土 (現代耕作土)  
  
 <RG452>  
 断面 E-E'  
 1 10YR2/3 黒褐土 混褐細粒~小ブロック7.5%

<RG444, 446, 447, 448, 449, 450> 断面共通 (1の位対応)  
 4 10YR2/2 黒褐土 混水酸化鉄・径5cmの小礫 (RG444)

6の1 7.5YR2/2 黒褐土 (RG446)  
 6の2 7.5YR2/2 黒褐土 混黄褐色シルト粒  
 6の3 7.5YR2/2 黒褐土 混砂礫  
  
 7 7.5YR2/1 黒土 粘やや有 混砂礫部分的に (RG447)

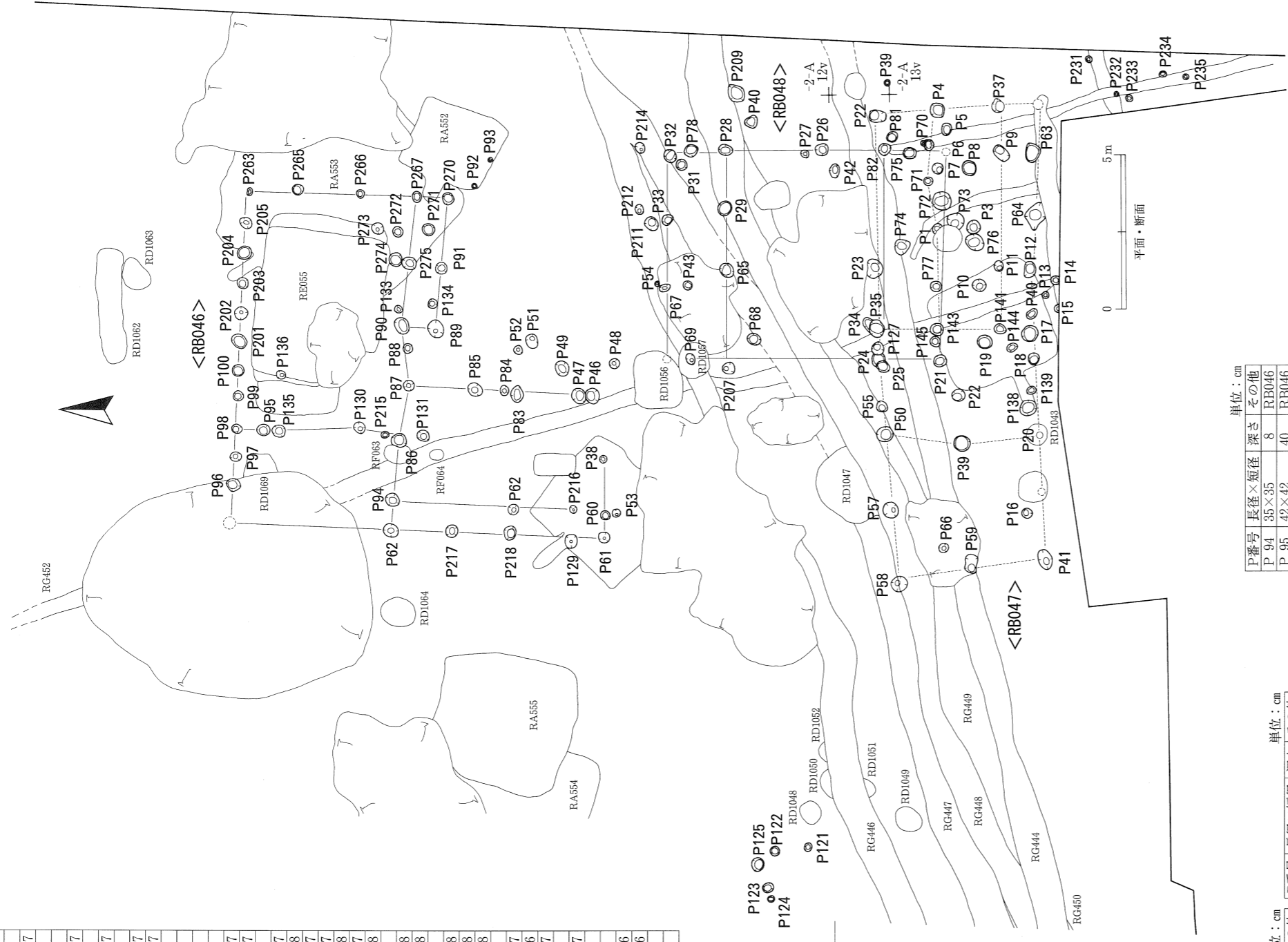
8の1 7.5YR3/2 黒褐土 (RG448)  
 8の2 7.5YR3/3 暗褐土  
 8の3 7.5YR3/3 暗褐土 混砂礫  
 8の4 7.5YR3/2 黒褐土

9 7.5YR3/2 黒褐土 (RG449)  
 10の1 7.5YR3/1 黒褐土 (RG450)  
 10の2 7.5YR3/1 黒褐土 混砂多量

第48図 RG442~452溝跡 (北I区)

表2 北I区柱穴状土坑一覧  
単位：cm

P番号	長径×短径	深さ	その他
P1	35×30	32	RB047
P2	50×50	49	
P3	43×45	30	RB047
P4	45×45	36	RB047
P5	43×35	24	
P6	35×34	37	
P7	36×35	26	RB047
P8	50×50	33	
P9	55×40	40	RB047
P10	50×50	40	
P11	35×35	41	RB047
P12	50×35	50	RB047
P13	35×30	21	
P14	40×(28)	44	
P15	40×(20)	37	
P16	30×30	33	RB047
P17	52×50	32	RB047
P18	44×40	36	RB047
P19	45×42	32	
P20	75×70	50	RB047
P21	48×45	32	RB048
P22	40×40	24	RB047
P23	62×65	(8)	RB047
P24	45×40	35	RB048
P25	40×35	34	RB047
P26	40×35	(9)	RB048
P27	22×22	12	
P28	38×38	37	RB048
P29	47×40	32	RB048
P31	40×40	33	
P32	42×42	23	RB048
P33	36×35	30	RB048
P34	35×30	28	RB048
P35	37×35	31	
P37	45×45	31	RB047
P38	40×32	22	RB046
P39	50×48	46	RB047
P40	45×43	18	
P41	60×45	40	RB047
P42	50×35	15	
P43	30×30	22	
P46	50×48	44	RB046
P47	50×50	28	RB046
P48	30×35	45	
P49	50×48	8	



第49図 RZ031 (1) (北I区) 柱穴状土坑

単位：cm

P番号	長径×短径	深さ	その他
P50	32×36	18	RB047
P51	68×36	23	
P52	20×18		
P53	30×30	21	
P54	29×20	15	
P55	45×32	12	RB047
P57	50×45	30	RB047
P58	50×50	55	RB047
P59	60×42	21	RB047
P60	40×30	20	RB046
P62	48×42	58	RB046
P63	60×48	32	RB047
P64	60×53	44	RB047
P65	46×40	23	RB048
P66	30×30	14	
P68	40×40	25	RB048
P69	40×22	11	RB048
P70	16×15	45	

単位：cm

P番号	長径×短径	深さ	その他
P71	34×27	10	RB048
P72	63×60	23	
P73	58×45	46	
P74	50×45	34	
P75	44×40	32	RB048
P76	50×50	19	
P77	40×35	(19)	RB047
P78	50×42	18	RB048
P81	40×32	17	
P82	35×40	33	RB048
P83	50×45	11	RB046
P84	30×30	47	RB046
P85	50×46	72	RB046
P86	45×40	16	RB046
P87	36×36	33	RB046
P88	29×27	25	
P89	55×50	52	RB046
P90	50×43	41	RB046
P91	40×40	48	RB046
P92	50×30	25	

単位：cm

P番号	長径×短径	深さ	その他
P94	35×35	8	RB046
P95	42×42	40	RB046
P96	45×40	19	RB046
P97	35×35	26	RB046
P98	35×35	48	RB046
P99	35×30	58	RB046
P100	40×40	31	RB046
P121	30×22	16	
P122	40×30	13	
P123	40×30	22	
P124	28×20	21	
P125	42×42	11	
P127	40×38	20	
P129	48×42	22	RB046
P130	40×38	31	RB046
P131	40×35	25	
P133	30×30	19	
P134	35×32	12	
P135	40×40	28	RB046
P136	30×30	8	
P138	55×55		
P139	20×15		
P141	35×35	42	RB047
P143	50×38	46	RB047
P144	40×30	13	
P145	35×30	31	
P201	50×48	35	RB046
P202	40×40	40	RB046
P203	40×32	26	RB046
P204	45×40	21	RB046
P205	42×38	47	RB046
P207	42×40	46	
P211	42×40	19	
P212	30×30	15	
P214	30×25	7	

単位：cm

P番号	長径×短径	深さ	その他
P215	55×45		
P216	35×35	30	RB046
P217	42×36	32	RB046
P218	46×32	37	RB046
P219	45×30	26	
P220	45×35	26	
P221	40×35	27	
P222	45×35	34	
P223	40×40	28	
P224	48×30	29	
P225	40×38	39	
P226	35×30	33	
P227	30×30	32	
P228	28×28	21	
P229	34×30	28	
P230	35×30	31	
P231	30×30	31	
P232	30×20	6	
P233	32×32	21	
P234	30×26	19	
P235	30×20	20	
P262	60×(30)	21	
P263	30×20	14	RB046
P265	40×36	8	RB046
P266	32×25	6	RB046
P267	38×30	11	RB046
P270	40×36	12	RB046
P271	40×40	5	
P272	35×35	7	
P273	35×32	4	
P274	45×43	19	
P275	40×(35)	33	RB046

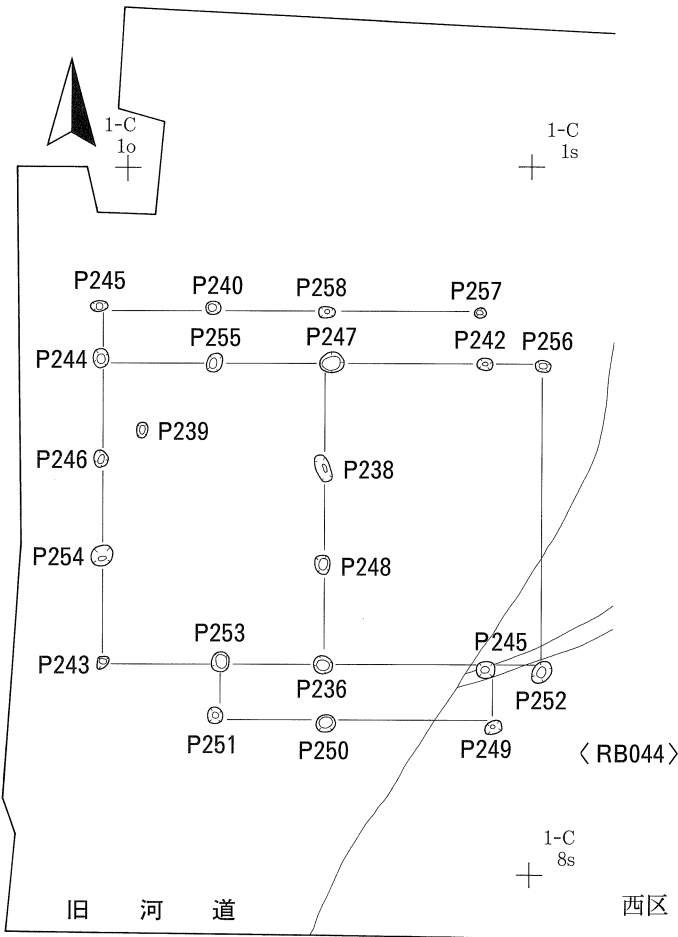
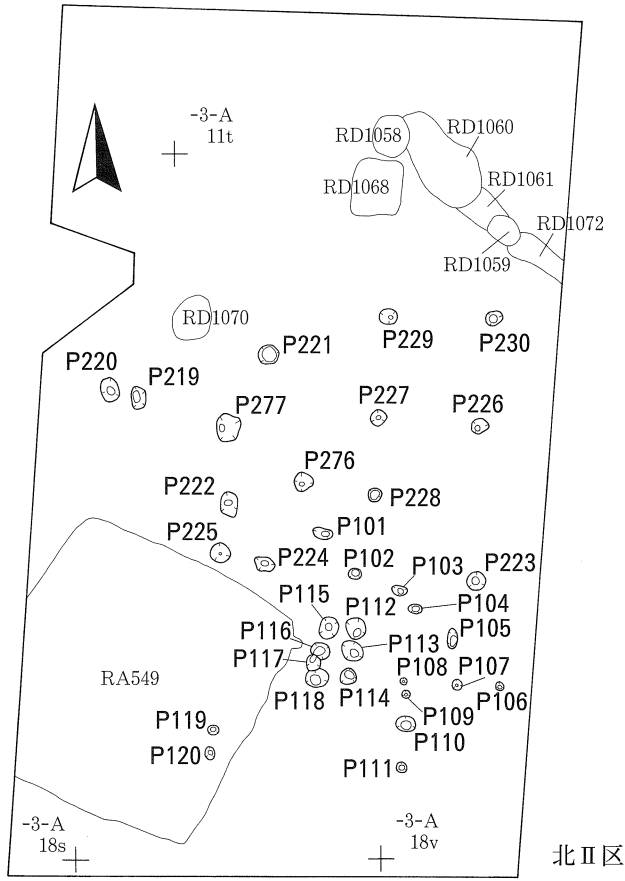


表3 北II区・西区柱穴状土坑一覧  
単位：cm

P番号	長径×短径	深さ	その他
P101	40×20	17	
P102	28×20	23	
P103	35×20	22	
P104	30×22	20	
P105	42×22	28	
P106	16×16	19	
P107	20×20	17	
P108	16×12	23	
P109	22×20	20	
P110	36×32	34	
P111	20×18	16	
P112	46×40	50	
P113	50×40	40	
P114	35×32	47	
P115	40×38	46	
P116	40×38	56	
P117	40×30	50	
P118	50×40	39	
P119	22×18	29	
P120	24×24	21	
P219	45×30	26	
P220	45×35	26	
P221	40×35	27	
P222	45×35	34	
P223	40×40	28	
P224	48×30	29	
P225	40×38	39	
P226	35×30	33	
P227	30×30	32	
P228	28×28	21	
P229	34×30	28	
P230	35×30	31	
P236	38×36	57	RB044
P237	40×40	46	RB044
P238	54×30	50	RB044
P239	30×20	11	
P240	30×30	41	RB044
P242	28×28	65	RB044
P243	32×20	25	RB044
P244	40×30	42	RB044
P245	32×24	17	RB044
P246	32×30	35	RB044
P247	46×46	42	RB044
P248	40×30	34	RB044
P249	32×28	36	RB044
P250	36×34	48	RB044
P251	38×35	35	RB044
P252	50×46	16	RB044
P253	40×38	21	RB044
P254	42×40	37	RB044
P255	40×30	40	RB044
P256	30×30	19	RB044
P257	22×22	20	RB044
P258	30×26	50	RB044
P259	30×24	18	北東区
P276	40×35	32	
P277	55×48	37	

第50図 RZ031 (2) (北II区)・032 (西区) 柱穴状土坑

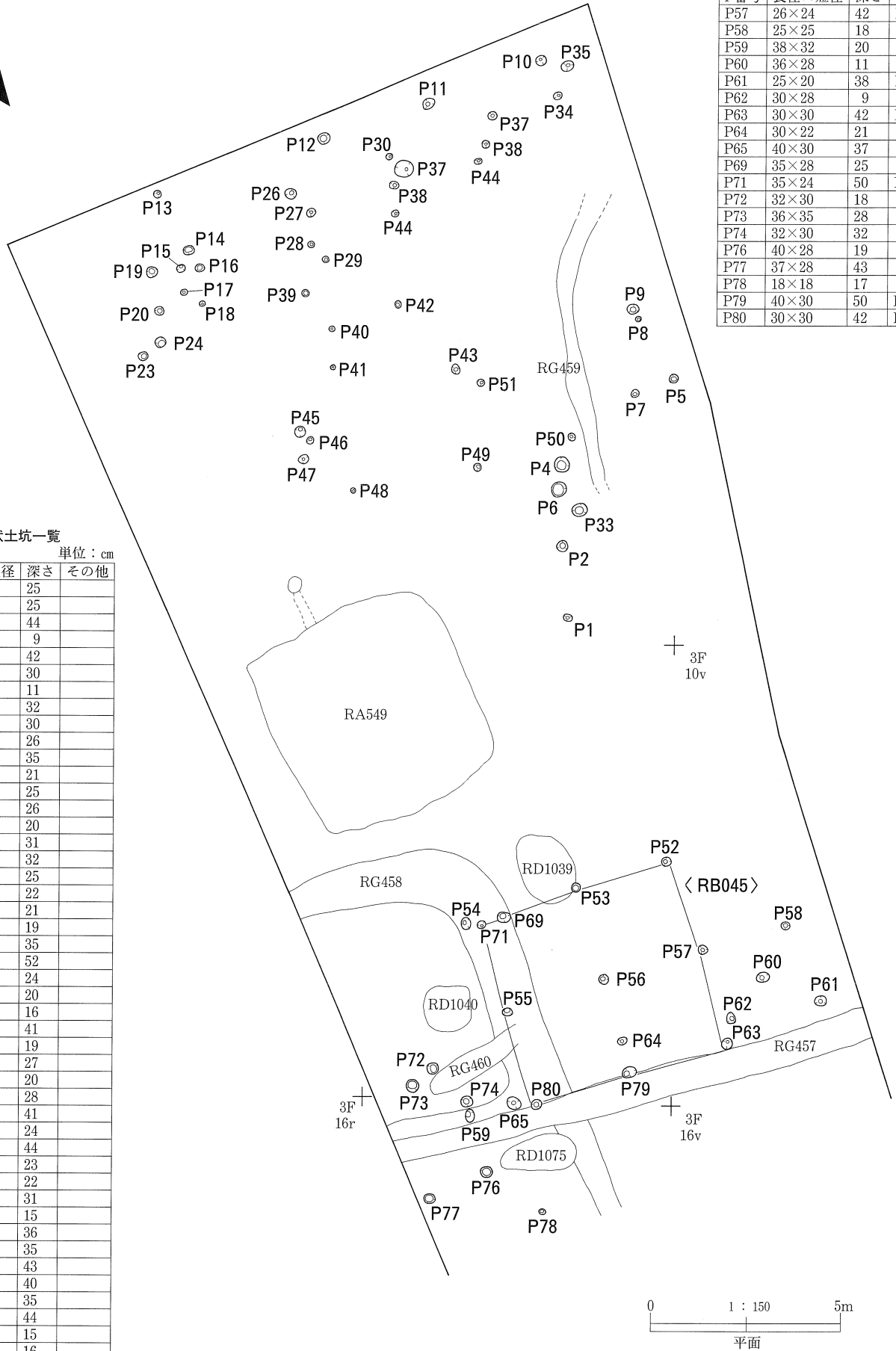


P番号	長径×短径	深さ	その他
P57	26×24	42	RB045
P58	25×25	18	
P59	38×32	20	
P60	36×28	11	
P61	25×20	38	RB045
P62	30×28	9	
P63	30×30	42	RB045
P64	30×22	21	
P65	40×30	37	
P69	35×28	25	
P71	35×24	50	RB045
P72	32×30	18	
P73	36×35	28	
P74	32×30	32	
P76	40×28	19	
P77	37×28	43	
P78	18×18	17	
P79	40×30	50	RB045
P80	30×30	42	RB045

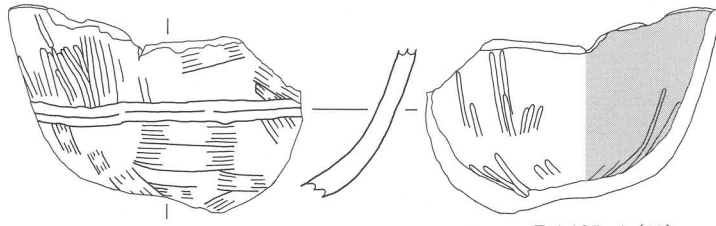
表4 東区柱穴状土坑一覧

単位：cm

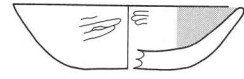
P番号	長径×短径	深さ	その他
P1	22×22	25	
P2	30×28	25	
P4	40×36	44	
P5	28×20	9	
P6	42×40	42	
P7	28×22	30	
P8	20×20	11	
P9	30×30	32	
P10	35×30	30	
P11	40×30	26	
P12	40×30	35	
P13	20×20	21	
P14	32×26	25	
P15	20×20	26	
P16	26×26	20	
P17	18×18	31	
P18	16×16	32	
P19	40×32	25	
P20	22×22	22	
P23	24×22	21	
P24	30×30	19	
P26	32×30	35	
P27	23×23	52	
P28	18×18	24	
P29	16×16	20	
P30	19×19	16	
P31	20×20	41	
P32	30×22	19	
P33	40×36	27	
P34	21×20	20	
P35	32×30	28	
P36	18×18	41	
P37	52×50	24	
P38	30×25	44	
P39	22×20	23	
P40	18×16	22	
P41	16×16	31	
P42	20×20	15	
P43	30×22	36	
P44	22×20	35	
P45	30×30	43	
P46	24×20	40	
P47	32×28	35	
P48	20×18	44	
P49	20×20	15	
P50	22×20	16	
P51	20×20	12	
P52	30×30	24	RB045
P53	26×26	12	RB045
P54	35×28	61	
P55	25×20	54	RB045
P56	30×24	70	



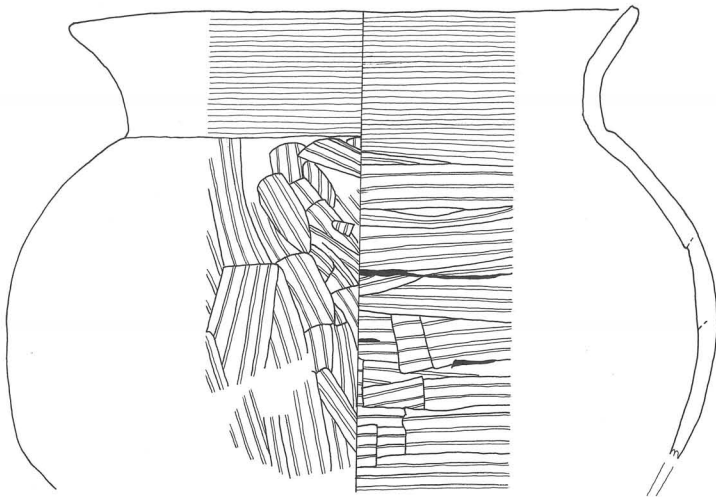
第51図 RZ033 (東区) 柱穴状土坑



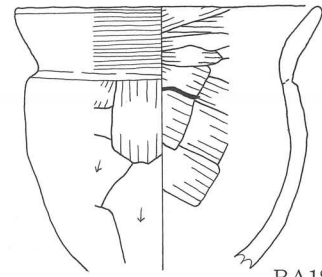
RA185-1 (13)  
掲載番号 (登録番号)



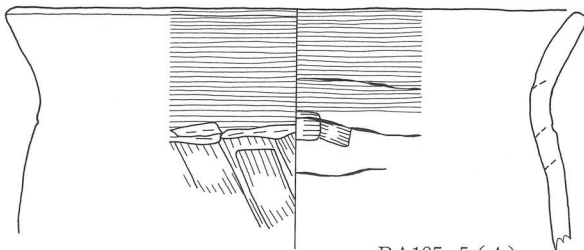
RA185-2 (14)



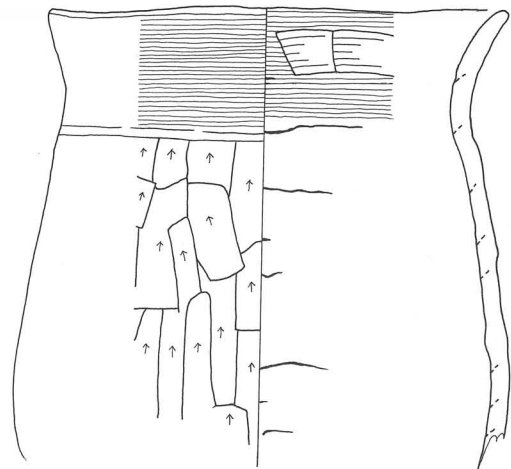
RA185-3 (1)



RA185-4 (3)



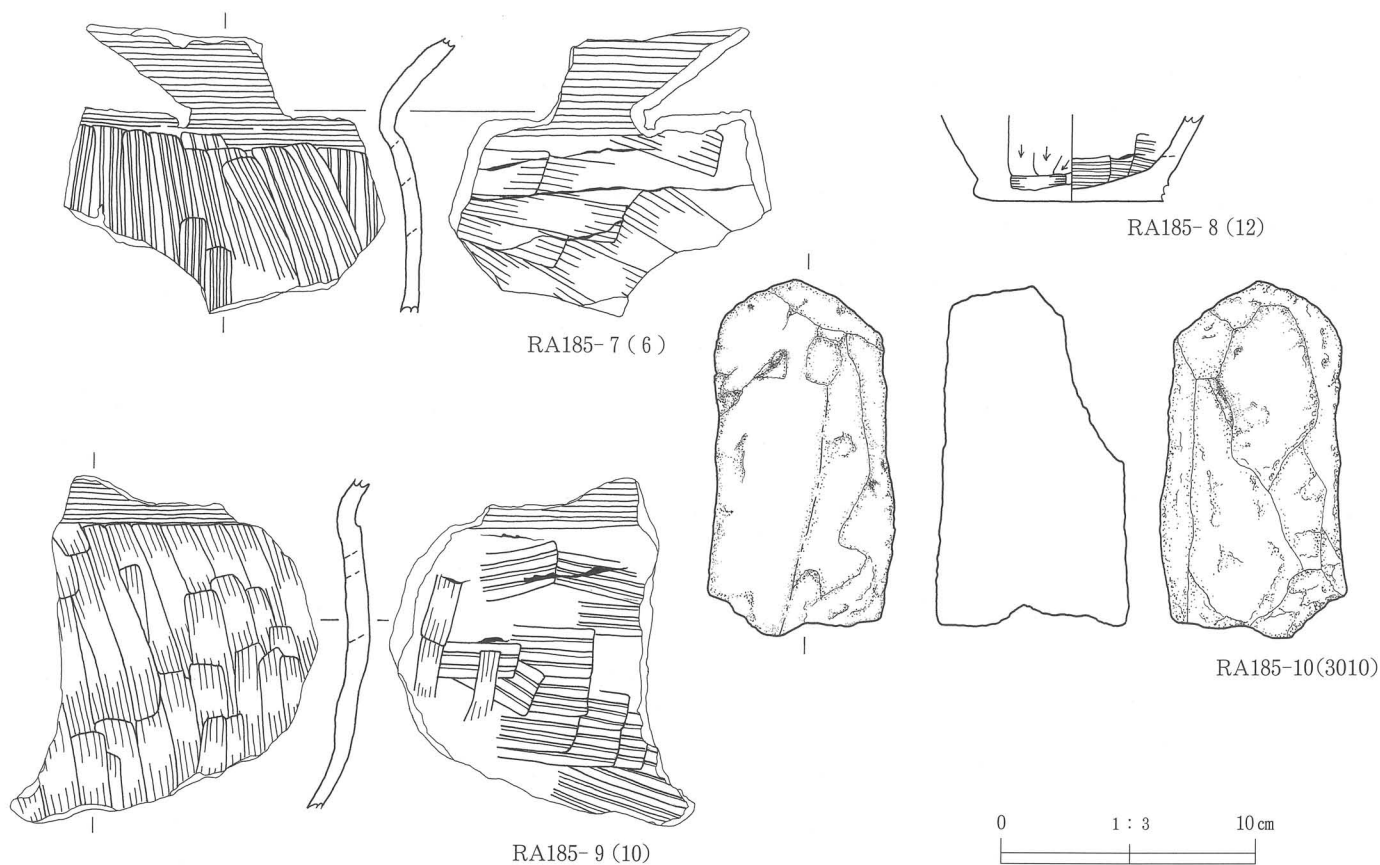
RA185-5 (4)



RA185-6 (2)



第52図 RA185 (1) 出土遺物



掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎 土 (含有物、 色調等)	備 考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA185-1	51	13	カマド埋土	土	杯	AI?	HM	HN	-	-	HM	-	○	-	-	(8.2)	30	7.5YR5/4 にぶい褐	体部に沈線 中~大型の杯か。
RA185-2	51	14	埋土	土	杯	AIM2	-	HM	-	-	HM	-	○	(9.0)	(4.0)	2.5	40	7.5YR5/4 にぶい褐	小型杯 外面下半かすかに有段
RA185-3	51	1	No.1一括	土	球 銅 甕	AIS	YN	H	-	YN	H	-	×	22.4	-	(19.4)	60	10YR6/4 にぶい黄橙	輪積痕有
RA185-4	51	3	Pit 2埋土	土	小型 甕	/	YN	HN・ HK	-	HN	HN	-	×	(12.0)	-	(10.4)	60	7.5YR5/4 にぶい褐	RG448出土のもの と接合 HKは面取り状に大きい。
RA185-5	51	4	埋土	土	甕	AIT?	YN	HN	-	YN・ HN	-	-	×	(23.0)	-	(9.5)	-10	7.5YR5/4 にぶい褐	輪積痕有 頸部に沈線
RA185-6	51	2	カマド袖, No.3・4	土	甕	AIT3	YN	HK	-	YN・ HN	-	-	×	18.1	-	(18.2)	50	7.5YR6/4 にぶい橙	輪積痕有
RA185-7	51	6	Pit 3埋土	土	甕	AIS	YN	H	-	YN	HN	-	×	-	-	(11.5)	-10	7.5YR6/2 灰褐	輪積痕有 頸部に沈線
RA185-8	51	12	No.3	土	甕	AI	-	HK・ H	-	-	H	-	×	-	(7.8)	(3.4)	-10	7.5YR4/2 灰褐	輪積痕有
RA185-9	51	10	Pit 2埋土	土	甕	AIT?	YN	HN	-	YN	H・ HN	-	×	-	-	(13.8)	-10	7.5YR6/3 にぶい褐	
RA185-10	51	3010	カマドS-1			種別:支脚													重量(g): 1 0 5 0 石材: デイサイト 産出地: 奥羽山脈
RA185-11	51	4001	Pit 2埋土			種別: 釘													重量(g): 2. 1 0 計測値(cm): 長さ(4.4) 厚さ0.5 写真のみ

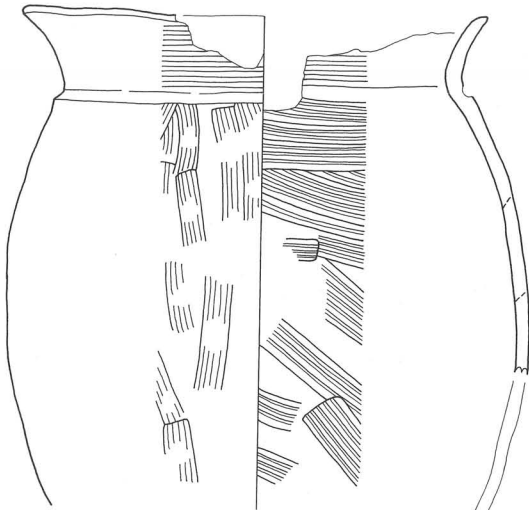
※黒色処理: ◎は内外面、○は内面、×は処理なし

※調整: RNはロクロナデ、YNはヨコナデ、Hはハケメ、HKはハラケズリ、HMはヘラミガキ、HNはヘラナデ

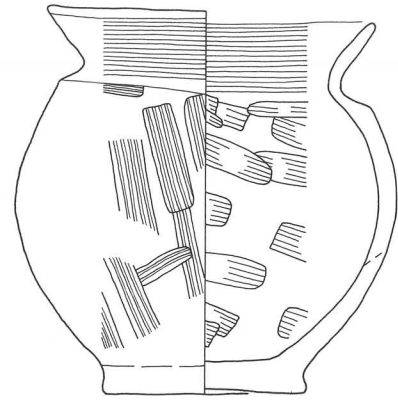
※残存率: 「-10%」は、残りがわずかなもの

第53図 RA185 (2) 出土遺物

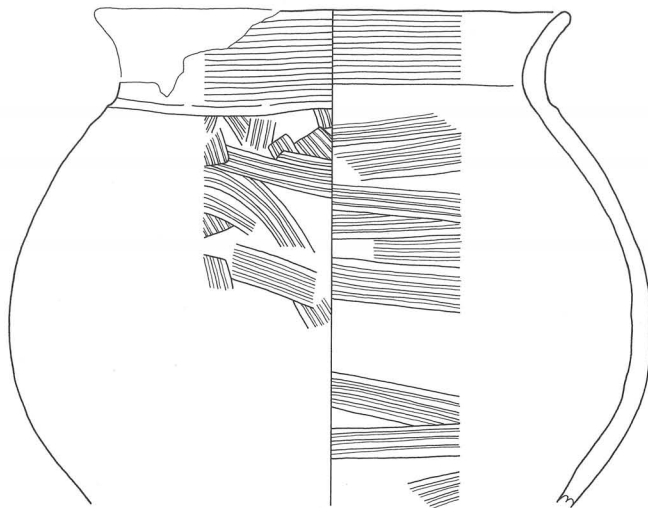




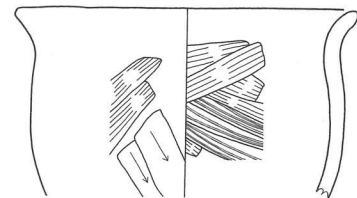
RA393-1 (16)



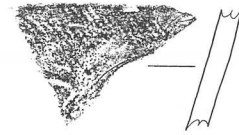
RA393-2 (15)



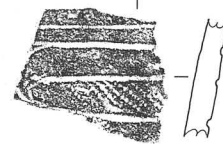
RA393-3 (17)



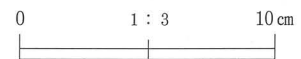
RA393-4 (19)



RA393-5 (329)

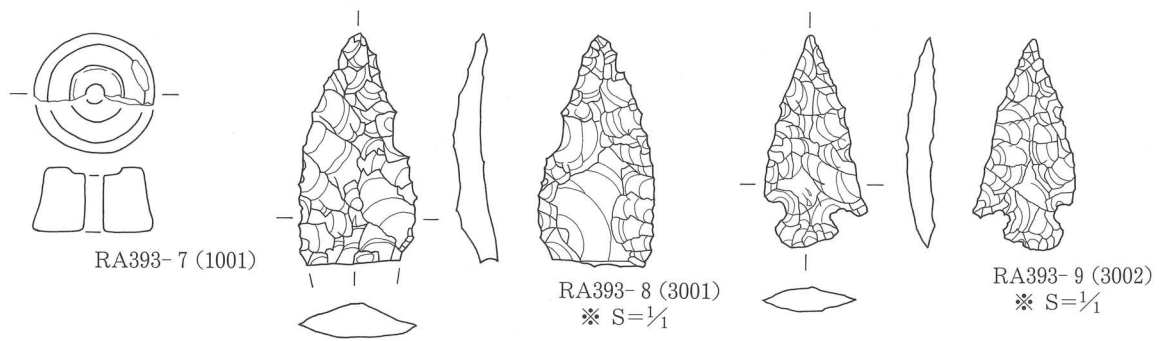


RA393-6 (330)

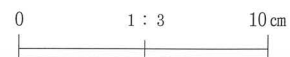
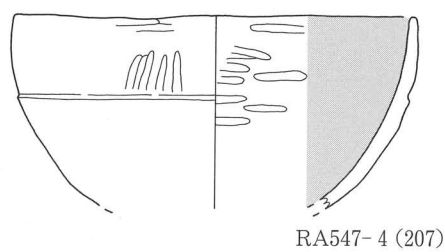
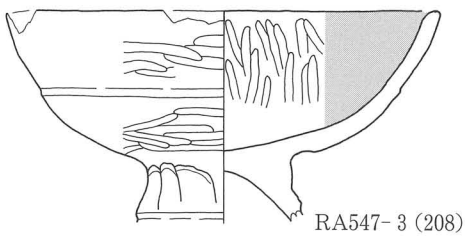
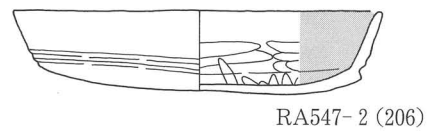
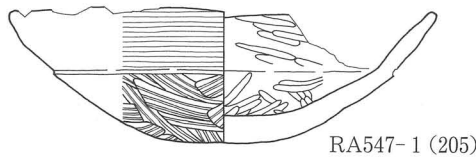


掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種 別	器 種	分 類	外 面 調 整			内 面 調 整			黒色 処理	計 測 値 (cm)			残存率 (%)	胎 土 (含有物、 色調等)	備 考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA393-1	52	16	No.2	土	甕	AIT	YN	HN・ 一部HK	-	YN	H	-	×	18.3	-	(19.7)	50	7.5YR6/4に ぶい橙~7/8黄橙	一部は埋土として取り上げている。 胎土全体砂多い。一部煤付着
RA393-2	52	15	No.2	土	小型 甕	/	YN	H	HN?	YN	HN	HN	×	12.9	8.0	15.5	70	10YR7/6 明黄褐	体径≒口径
RA393-3	52	17	No.3, Pit2埋土	土	甕	AIS	YN	H	-	YN	H	-	×	(18.7)	-	(19.6)	60	7.5YR5/4 にぶい褐	No.3(床上)を主体に、Pit1のものも 接合、胎土砂多
RA393-4	52	19	No.3	土	小型 甕	/	-	HN・ HK	-	HN	HN・ H	-	×	(13.4)	-	(7.5)	20	7.5YR5/6 明褐	
掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種 別			部 位			施文原体・文様の特徴			備 考						
RA393-5	52	329	Q1床面	縄文土器			体部			RL			器内外とも磨滅、流れ込みか。						
RA393-6	52	330	貼床層	弥生土器か?			体部			RL 磨消縄文 沈線									

第54図 RA393 (1) 出土遺物

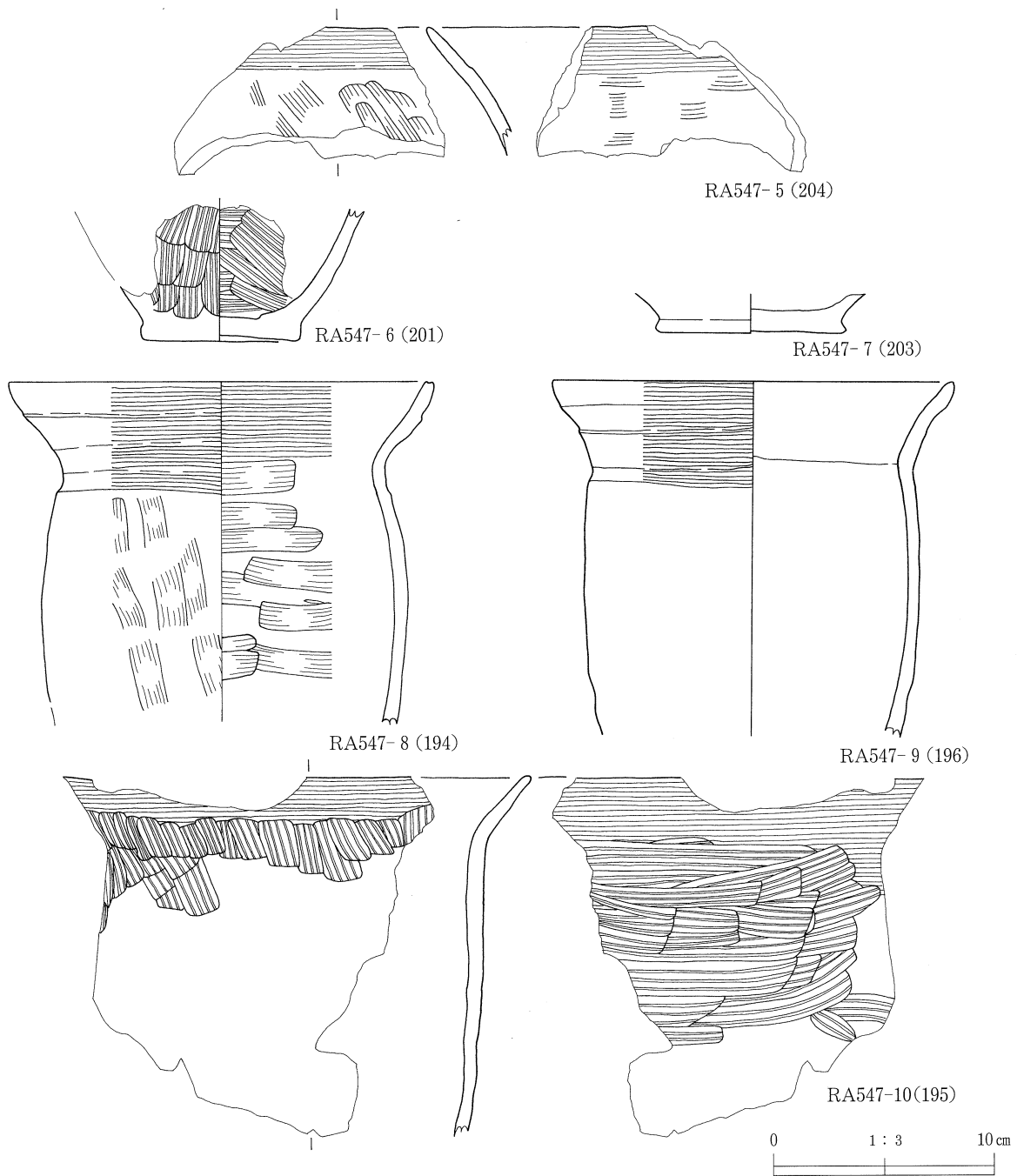


掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種 別	重 量 (g)	計 測 値 ほか		備 考
						残存率	色調	
RA393-7	52	1001	Pit 2 埋土	紡錘車 (土製品)	35.4	残存率: 50%	色調: 7.5YR6/8	欠損品
RA393-8	52	3001	Pit 4 埋土	石器石鏃	1.8	計測値(cm): 長さ(3.1) 幅1.6 厚さ0.4		
RA393-9	52	3002	Pit 4 埋土	石器石鏃	1.0	計測値(cm): 長さ2.9 幅1.4 厚さ0.3		
RA393-11	52	4002	Pit 2 埋土	釘	6.4	計測値(cm): 長さ(9.7) 厚さ0.8		写真のみ
RA393-12	52	4003	Pit 2 埋土	刀子	10.1	計測値(cm): 長さ(5.5) 幅2.3 厚さ0.6		写真のみ
RA393-13	52	4004	Pit 2 埋土	釘	2.3	計測値(cm): 長さ(4.3) 厚さ0.7		写真のみ



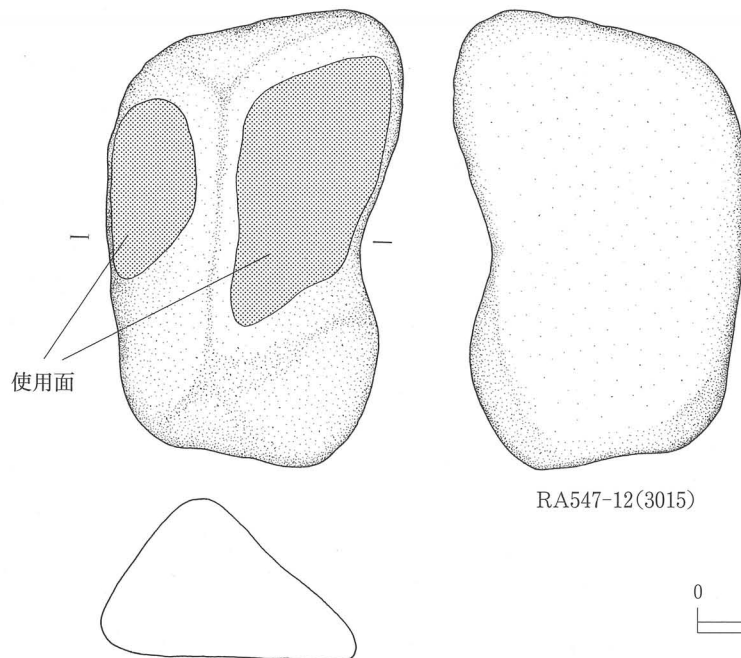
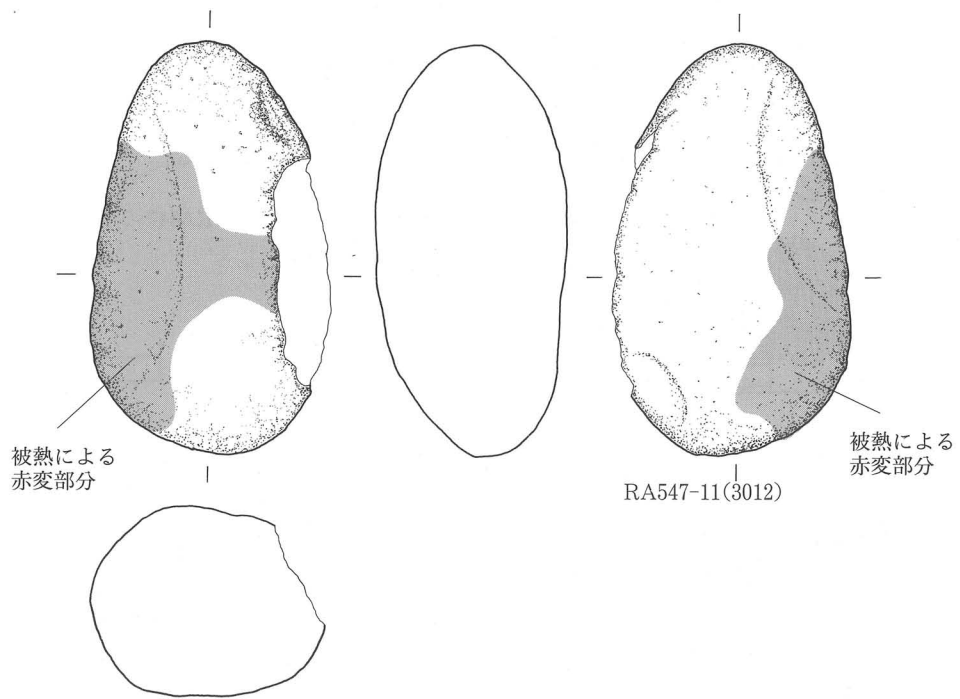
掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計 測 値 (cm)			残存率 (%)	胎 土 (含有物、 色調等)	備 考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA547-1	53	205	No. 2	土	环	AIMI	YN	H	H	-	HM	HM	×	17.2	-	5.5	85	7.5YR5/4 にふい橙	外面有段 内面段弱
RA547-2	53	206	No. 3	土	环	AIHI	-	-	-	HM	HM	HM	○	(14.8)	-	3.4	40	10YR7/6 明黄褐	外面底近く有段-内面外と同じに段有
RA547-3	53	208	南西側壁埋 土中No. 4	土	高环	/	HM	HM	-	HM	HM	-	○	17.4	-	(8.6)	60	7.5YR5/6 明褐	高台部分外面に指圧痕あり。台部中位、外面有段
RA547-4	53	207	南ベルト下 層	土	鉢?	/	HM	-	-	HM	HM	-	○	(16.2)	-	(7.8)	30	7.5YR6/6橙一部 5YR5/6明赤褐	

第55図 RA393 (2)・547 (1) 出土遺物



掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎 土 (含有物、 色調等)	備 考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA547-5	53	204	Pit 4埋土	土	鉢?	/	YN	HN	-	YN	HM (残少)	-	×	-	-	(5.9)	10	10YR4/4 褐	口縁しばむ型か?
RA547-6	53	201	北西埋土上層	土	甗	AI	-	H	HN	-	H	HN	×	-	6.8	(6.2)	-10	5YR6/6橙~10YR 7/4にぶい黄橙	
RA547-7	/	203	No.4	土	甗	AI	-	-	HN	-	-	-	×	-	8.2	(1.8)	-10	10YR7/3 にぶい黄橙	写真なし
RA547-8	53	194	No.1	土	甗	AIT1	YN	HN	-	YN	HN	-	×	19.3	-	(15.6)	40	7.5YR5/3にぶ い褐~4/3褐	口縁に深い沈線有
RA547-9	53	196	北西埋土上層	土	甗	AIT1	YN	-	-	-	-	-	×	(18.2)	-	(16.2)	10	10YR6/2~ 5/2成黄褐	RA547-8と同一タイプ
RA547-10	53	195	No.1,北西埋土	土	甗	AIT?	YN	H	-	YN	H	-	×	-	-	(16.0)	15	7.5YR4/6 褐	胎土粗 焼成良

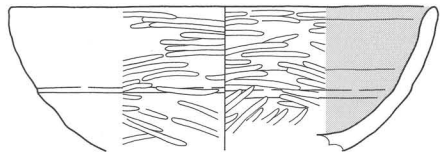
第56図 RA547 (2) 出土遺物



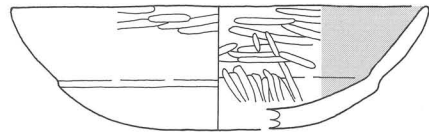
0 1 : 3 10 cm

掲載番号	写真版	登録番号	層位	種別	重量 (g)	石材	産出地	備考
RA547-11	54	3012	カマド埋土	支脚	1490	安山岩	奥羽山脈	S5
RA547-12	54	3015	床面	砥石	1860	安山岩	奥羽山脈	S3

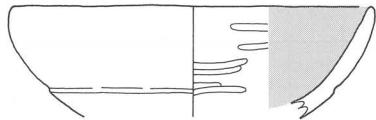
第57図 RA547 (3) 出土遺物



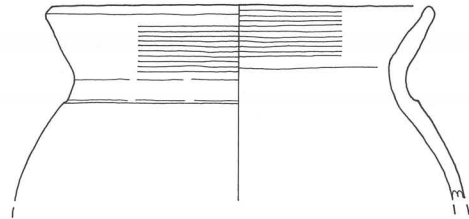
RA549-1 (30)



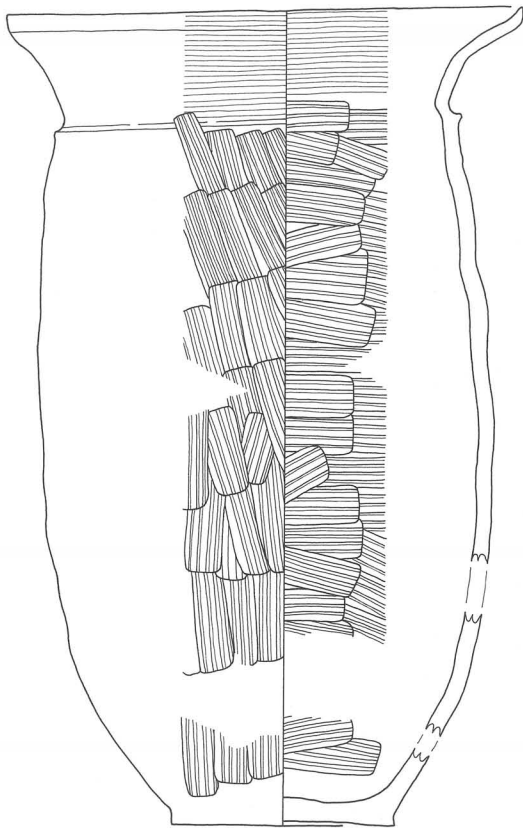
RA549-2 (113)



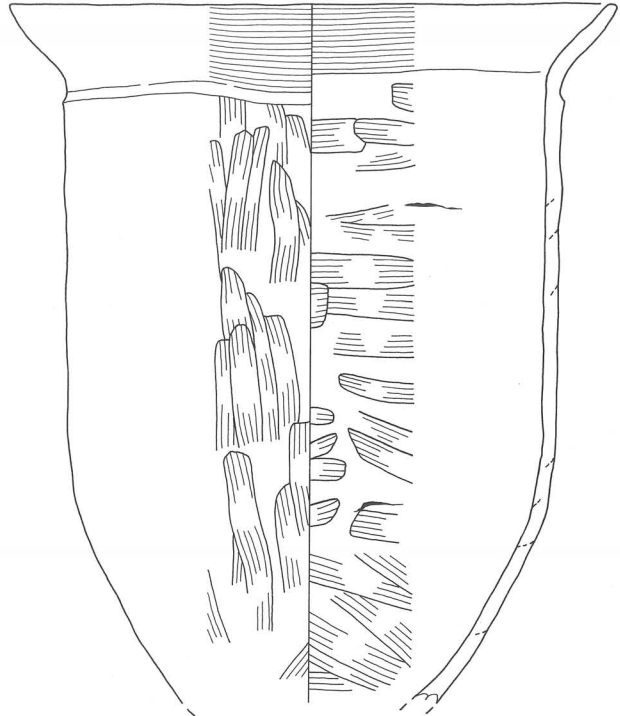
RA549-3 (115)



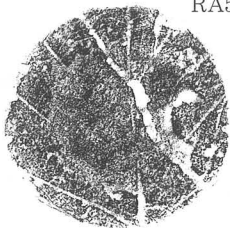
RA549-4 (111)



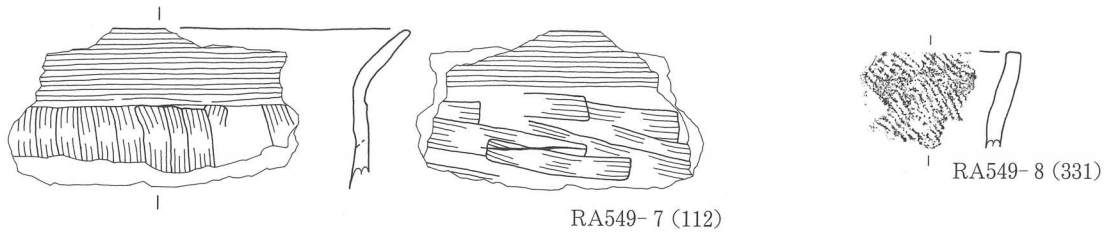
RA549-5 (28)



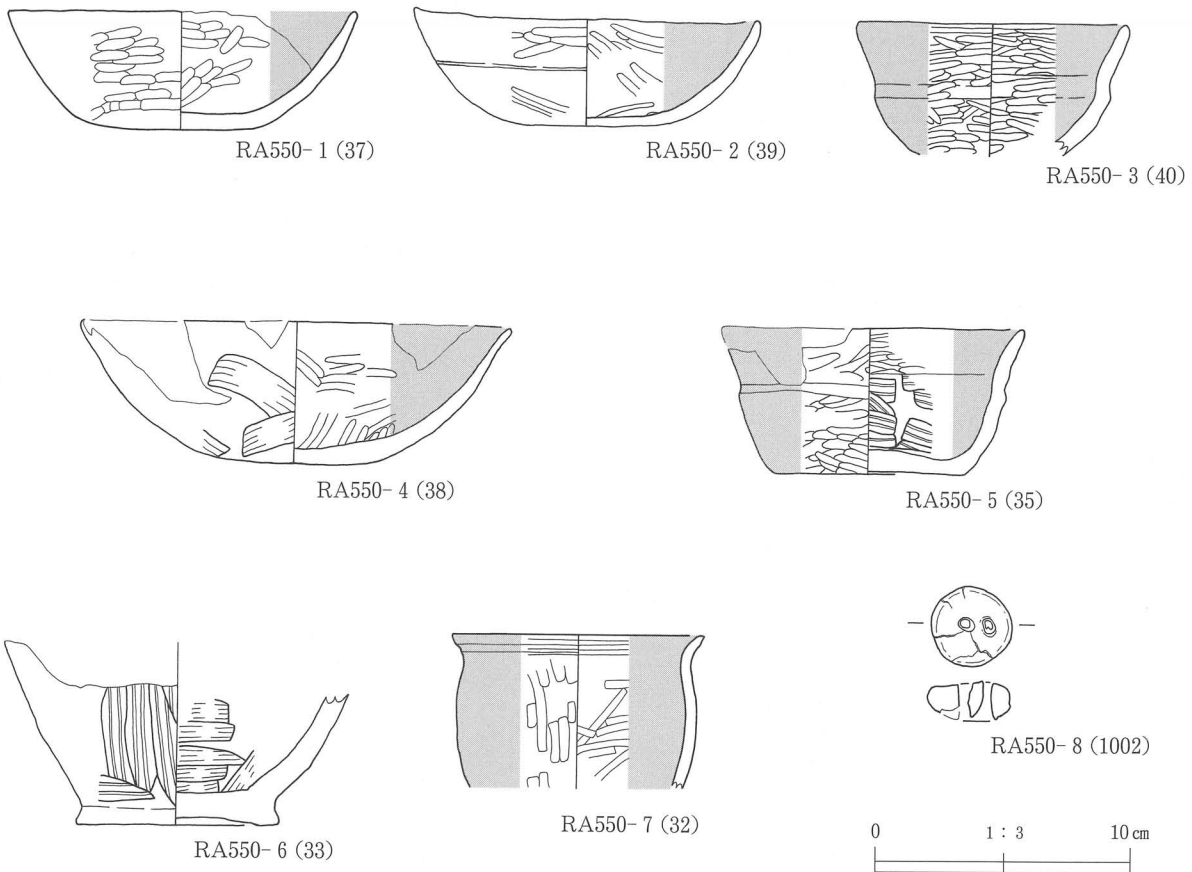
RA549-6 (29)



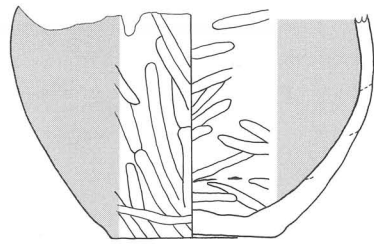
第58図 RA549 (1) 出土遺物



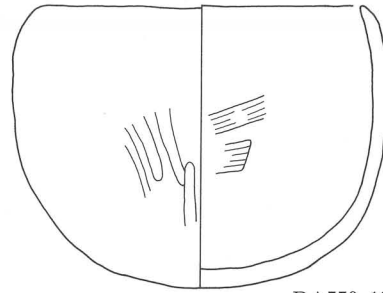
掲載番号	写真 図版	登録 番号	層位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎土 (含有物、 色調等)	備考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA549-1	55	30	Pit. No.3	土	坏	AIM1	HM	HM	-	HM	HM	-	○	16.8	-	(5.8)	50	10YR5/4 にふい黄褐	ヘラミガキ明瞭(内外とも) 底部欠損、体部中位有段
RA549-2	55	113	No.7	土	坏	AIM1	HM	HM	正面以外HK	HM	HM	-	○	(16.4)	-	(4.9)	20	7.5YR6/4 にふい橙	内外有段
RA549-3	55	115	No.3	土	坏	AIM2	-	-	-	HM	HM	-	○	(14.4)	-	(4.4)	10	10YR8/2 灰白	
RA549-4	55	111	Pit.2, カ マド? 周辺	土	甕	AI	YN	-	-	YN	-	-	×	(15.2)	-	(7.7)	10	7.5YR8/4 浅黄橙	胎土粗
RA549-5	55	28	埋土上層, No.1	土	甕	AIT3	YN	H	木葉痕	YN	H	H	×	20.3	8.8	32.5	70	7.5YR6/4 にふい橙	体部下半から底部(木葉痕)砂の割合多い。
RA549-6	55	29	No.5	土	甕	AIT2	YN	HN	-	YN	HN	-	×	(23.8)	-	(27.7)	30	7.5YR4/2 灰褐	頸部付近煤附着
RA549-7	55	112	貼床埋土	土	甕	AIT	YN	HN	-	YN	HN	-	×	-	-	(6.3)	-10	7.5YR5/4 にふい橙	輪積痕有
RA549-8	55	331	層位: 検出面	種別: 縄文土器			部位: 体部			施文原体・文様の特徴: RL 口唇部にも施文(RL)									
RA549-9	55	2001	層位: 埋土上部	器種: 磁器碗?			残存部位: 口縁部			碗(肥前) 18~19世紀			写真のみ						
RA549-10	55	4005	層位: Q3埋土中層	種別: 角釘?			重量(g): 6.90			計測値(cm): 長さ(6.0) 幅0.8 厚さ0.6			写真のみ						



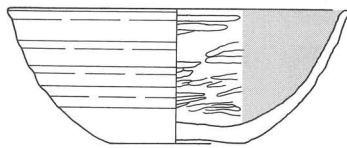
第59図 RA549 (2)・550 (1) 出土遺物



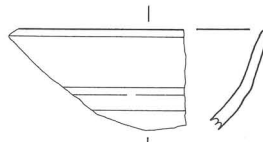
RA550-9 (34)



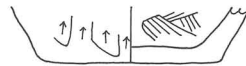
RA550-10(36)



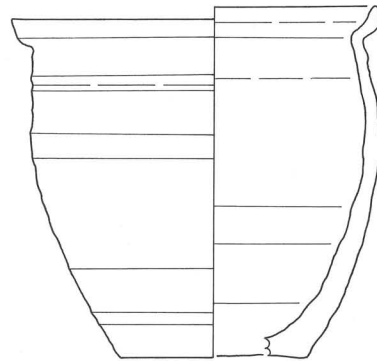
RA551-1 (45)



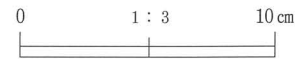
RA551-2 (46)



RA551-4 (44)

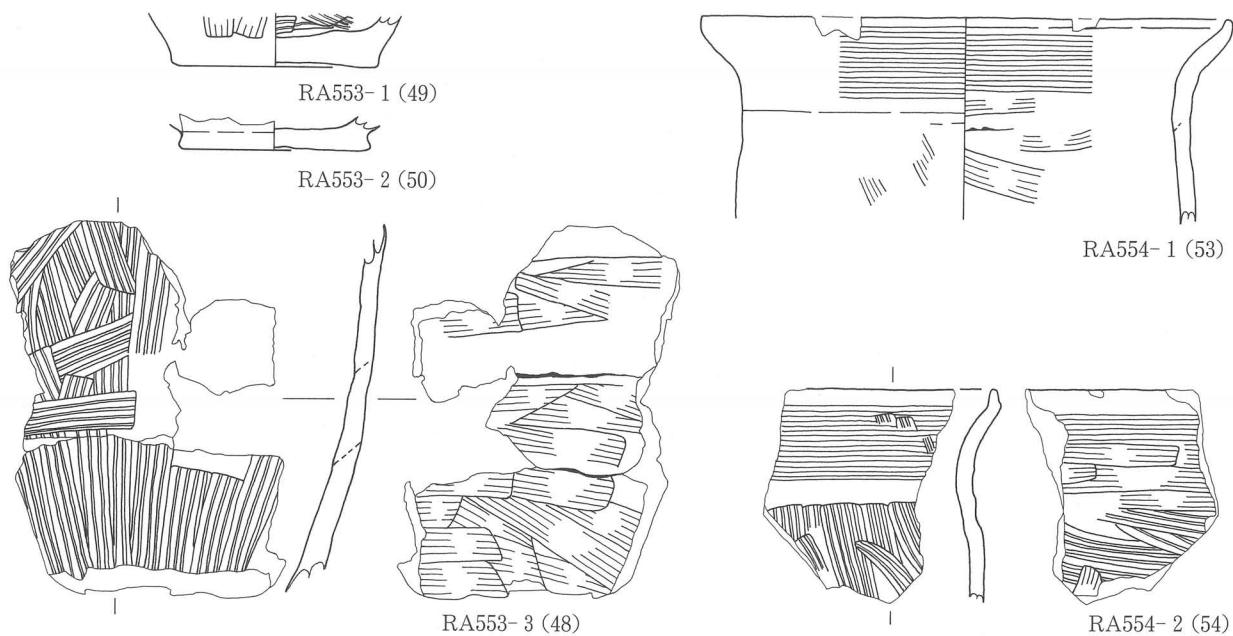


RA551-3 (42)

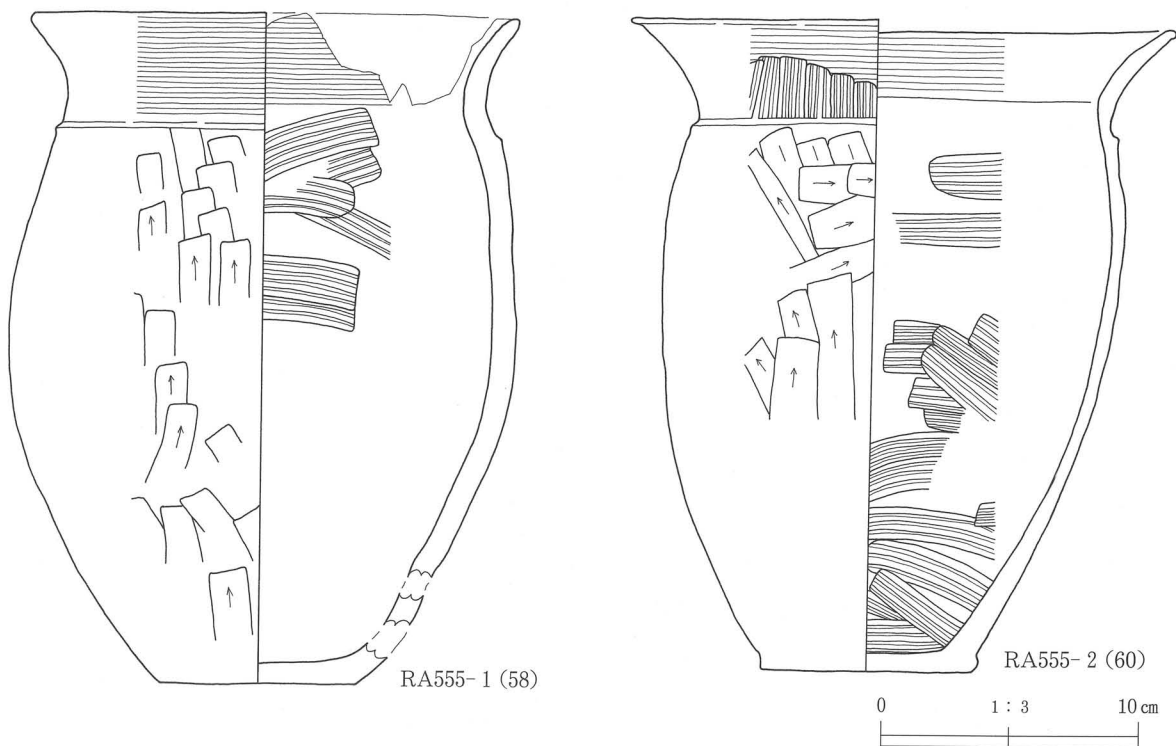


掲載番号	写真 図版	登録 番号	層位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎土 (含有物、 色調等)	備考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA550-1	56	37	No.12	土	環	AIM3	HK後・ HM	HK後・ HM	-	HM	HM	HM	○	13.7	-	4.7	70	10YR7/3 にぶい黄橙	底部平→丸の中間
RA550-2	56	39	No.1・2, Q1・2埋土	土	環	AIM2	HM	HM	HM	HM	HM	HM	○	(13.7)	-	4.2	50	10YR5/3 にぶい褐	全体に内外共器面が薄く剥離している。 体部中位 底部平→丸の中間、有段(弱)
RA550-3	56	40	Q2埋土	土	環	?	HM	HM	-	HM	HM	-	◎	(10.8)	-	(5.2)	20	10YR2/1 黒	
RA550-4	56	38	No.6・9・10, 埋土	土	環	AI	-	HN	HN	HM	HM	HM	○	17.0	-	5.6	70	10YR7/3 にぶい黄橙	RG447出土分含
RA550-5	56	35	No.4・7	土	?	/	HM	HM	HM	HM	H	H・ HM	◎	(11.9)	7.4	5.8	70	10YR2/1 黒	器種不明-外面有段
RA550-6	56	33	No.13	土	甕	AIT	-	H	HM・ HN	-	HN	HN	×	-	7.8	(7.2)	20	7.5YR7/4 にぶい橙	被熱のため底部~体部下半一部赤変
RA550-7	56	32	Q3埋土上層, ベル下埋土	土	小型 甕	/	YN	HM	-	YN	HM	-	◎	(10.0)	-	(6.0)	10	10YR3/1 黒 褐~2/1黒	
RA550-9	56	34	No.3・5,貼床 Q2埋土	土	甕? 鉢?	/	-	HM	HM	-	HM	HN	◎	-	6.4	(9.2)	80	10YR4/2灰 褐~2/2黒褐	口縁内湾するか?-底部は有
RA550-10	56	36	埋土	土	小型 甕?	/	-	HM	-	-	HN	-	×	12.5	-	11.2	90	7.5YR8/4 浅黄橙	口縁内湾、球体の上半1/3除、 丸底風
RA551-1	56	45	No.1	土	環	IA1	RN	RN	糸切後 HN	HM	HM	-	○	(13.4)	5.2	5.3	50	10YR7/4 にぶい黄橙	
RA551-2	56	46	貼床埋土	土	環	IB	RN	RN	-	RN	RN	-	×	-	-	(4.0)	10	10YR6/6 明黄褐	
RA551-3	56	42	支脚No.4等	土	小型 甕	/	RN	RN	糸切後 HN	RN	RN	RN	×	14.2	7.2	13.9	80	10YR7/4 にぶい黄橙~ 5YR6/8橙	内外面共に磨滅している。支脚
RA551-4	56	44	No.1	土	甕	AI	-	HK	HN	-	HN	HN	×	-	(7.0)	(2.2)	10	7.5YR6/8 橙	
RA550-8	56	1002	層位: Pit1埋土	種別: 土玉			重量(g): 10.6			色調: 7.5YR6/8			貫通孔2ヶ所						

第60図 RA550(2)・551 出土遺物

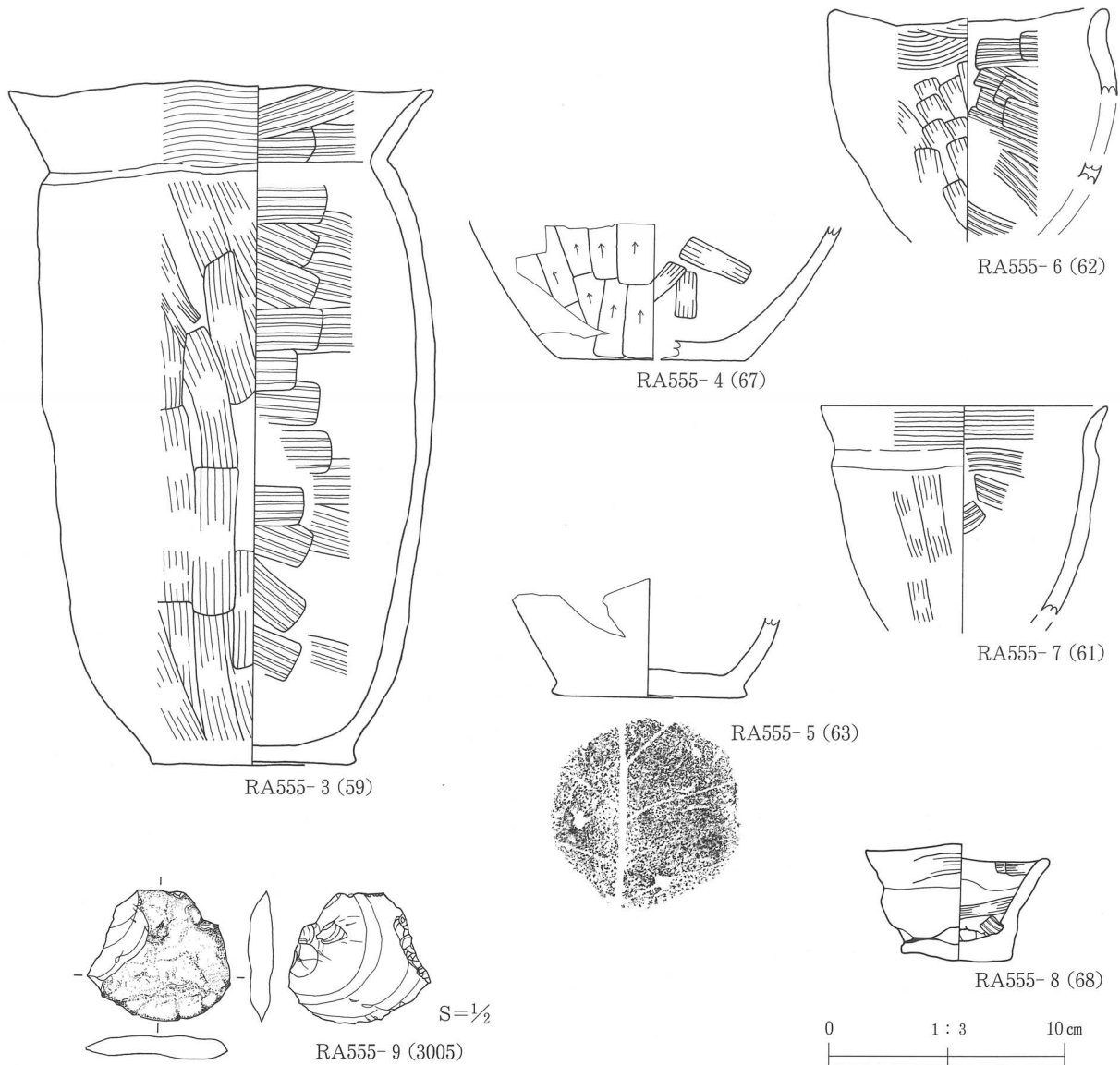


掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎 土 (含有物、 色調等)	備 考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA553-1	57	49	貼床埋土, Q2埋土	土	甕	AI?	-	HN	木葉痕	-	H	ユビ ナデ?	×	-	8.0	(2.1)	-10	7.5YR6/6 橙	
RA553-2	57	50	Q5埋土 下層	土	甕	AI	-	-	樹痕	-	-	-	×	-	7.5	(1.4)	-10	7.5YR5/4 にぶい褐	底部粉痕あり(写真図版1)
RA553-3	57	48	Q2埋土下層, 床面付近	土	甕	AIT	-	H	-	-	HN	-	×	-	-	(13.9)	10	7.5YR7/3 にぶい橙	
RA554-1	57	53	埋土中層	土	甕	AI	YN	HN	-	YN	HN	-	×	(20.8)	-	(8.0)	10	7.5YR8/4 浅黄橙~7/4 にぶい橙	
RA554-2	57	54	埋土中層	土	甕	AI	YN・ H	H	-	YN・ HN	H	-	×	-	-	(8.5)	-10	10YR7/3 にぶい黄橙	



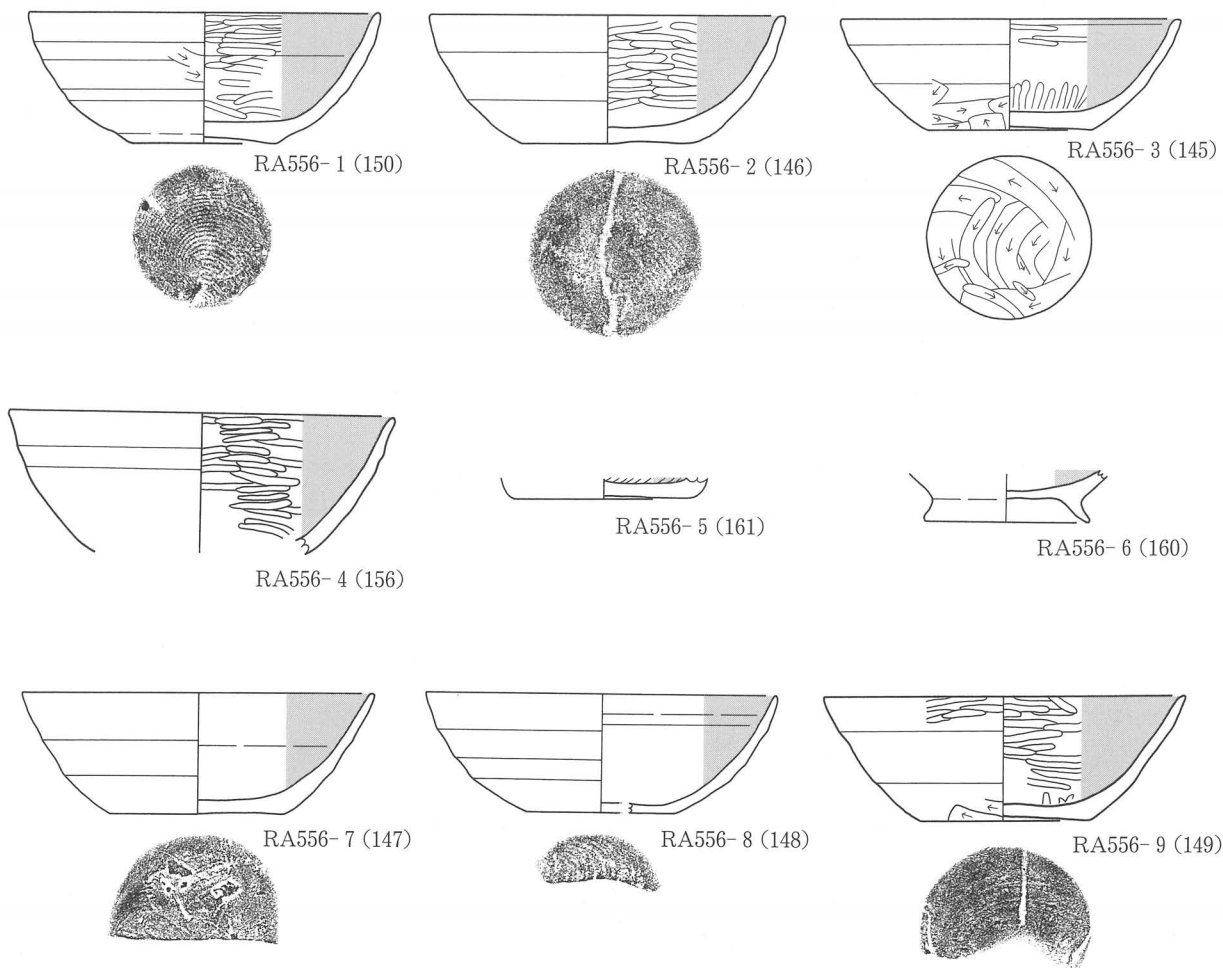
第61図 RA553・554・555 (1) 出土遺物





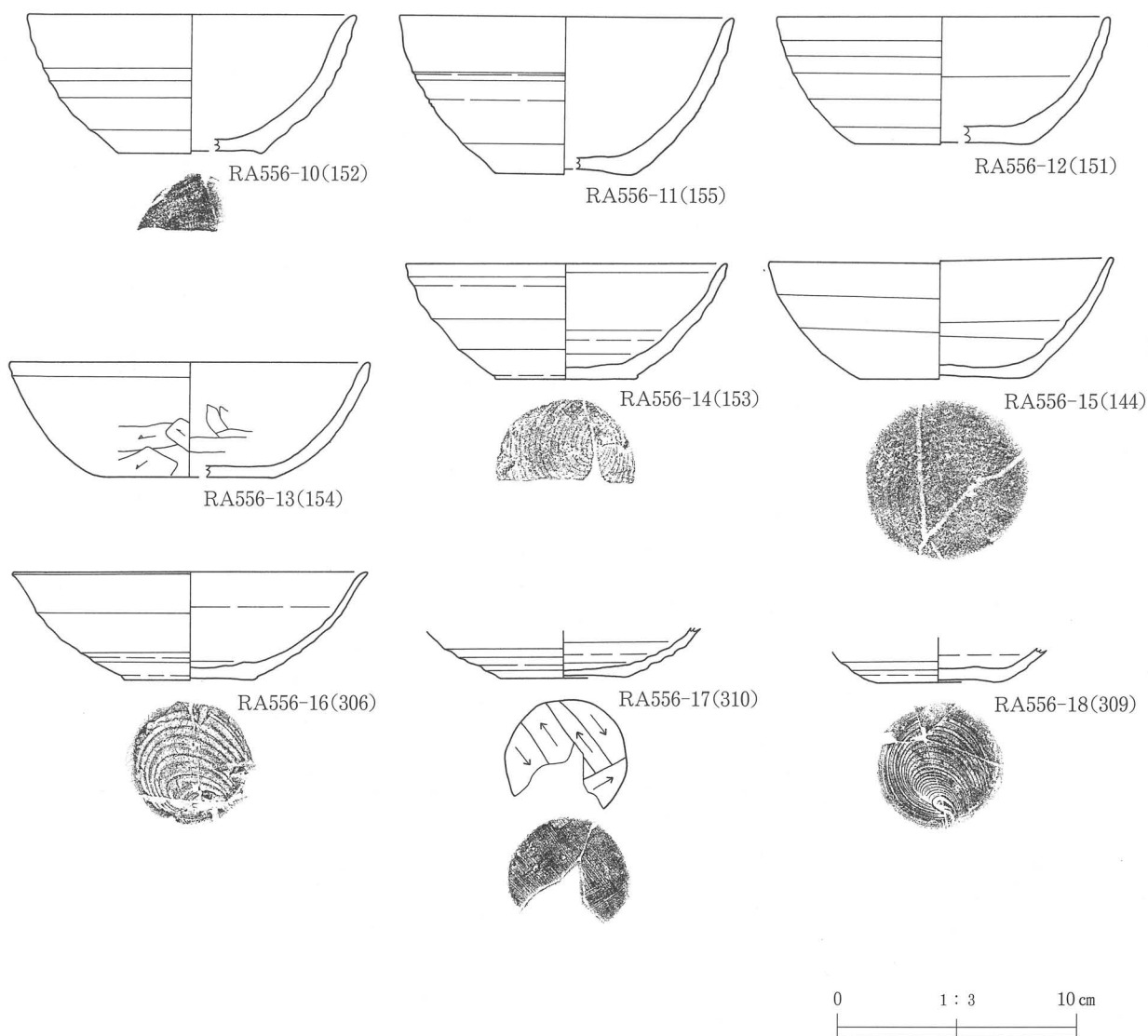
掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎 土 (含有物、 色調等)	備 考	
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高				
RA555-1	57	58	№1・3・6, 埋土中層	土	甕	AIT2	YN	HK	HK	YN	H	-	×	19.0	7.6	26.6	90	7.5YR7/8 黄橙	外面煤付着、胎土に砂混入	
RA555-2	57	60	№2・6・8	土	甕	AIT1	YN・ H	HK	-	YN	H	H	×	21.2	8.3	26.0	80	7.5YR6/4 にぶい橙		
RA555-3	58	59	№4	土	甕	AIT2	YN	HN	木葉痕	H	H	HN	×	18.0	8.4	29.3	95	10YR7/3にぶ い黄橙～5/3 にぶい黄褐		
RA555-4	58	67	埋土中～下層 ベルト埋土	土	甕	AI	-	HK	HK	-	HN	-	×	-	8.0	(5.8)	-10	7.5YR5/6 明褐	底部外面ヘラケズリ同心円状に有り。	
RA555-5	58	63	№3・4, 埋 土中～下層	土	甕	AI	-	-	木葉痕	-	-	-	×	-	8.2	(5.2)	-10	7.5YR6/3 にぶい橙	胎土に非常に砂(径2mm前後)が多 い。調整不明	
RA555-6	58	62	№4・6, 埋 土中～下層	土	小型 甕	/	YN	HN	-	H	H	-	×	12.0	-	(10.0)	80	7.5YR5/4 にぶい褐	底部欠損	
RA555-7	58	61	№3・5, 貼床 埋土下層	土	小型 甕	/	YN	HN	-	YN	H	-	×	12.2	-	(9.8)	90	7.5YR8/4 浅黄橙	底部欠損	
RA555-8	58	68	№3	土	小型手 捏ね器	/	HN	HN	-	HN	HN・ H	-	×	7.9	4.8	5.0	完形	7.5YR6/4 にぶい橙	内外とも指圧痕強い。内面、その上 に少しのヘラナデ有り一片口風?	
RA555-9	58	3005	層位: 埋土下層			種別: 石器削搔器														重量(g): 11.1 計測値 (cm): 長さ3.7 幅4.0 厚さ0.7

第62図 RA555 (2) 出土遺物



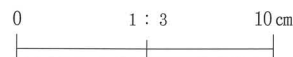
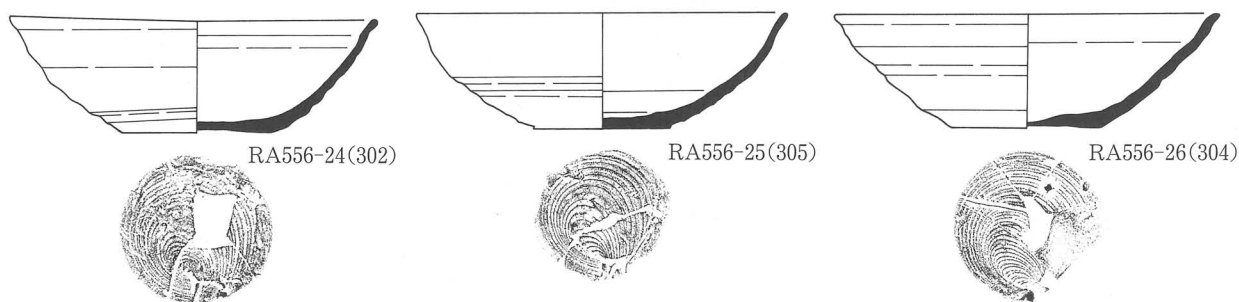
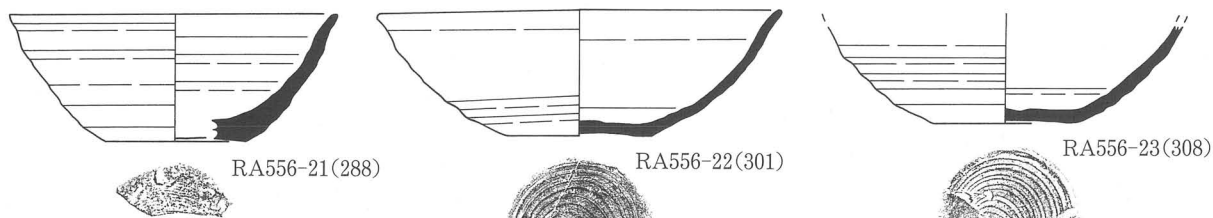
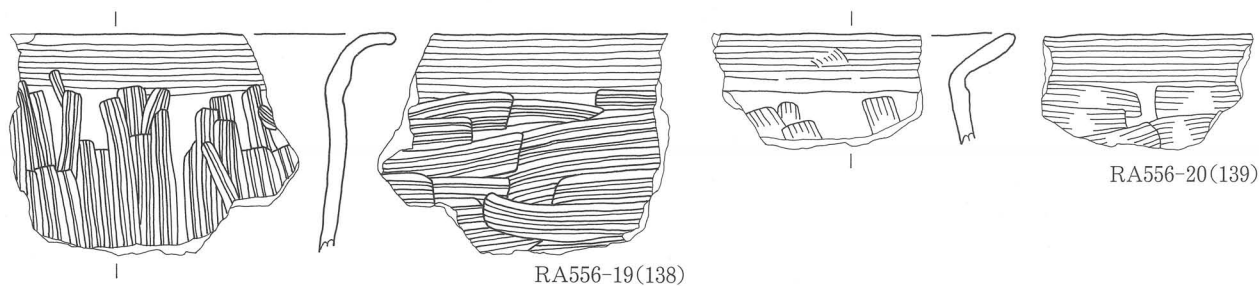
掲載番号	写真 図版	登録 番号	層位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎土 (含有物、 色調等)	備考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA556-1	59	150	Q2埋土	土	坏	IA2	RN	RN <sup>部に 分的</sup> HK	回転 糸切	HM	HM	HM	○	(13.8)	5.7	5.2	50	10YR7/3 にぶい黄橙	
RA556-2	59	146	Q2埋土	土	坏	IA1	RN	RN	回転 糸切 後 調整	HM	HM	-	○	(14.0)	6.6	5.1	90	10YR7/3 にぶい黄橙	
RA556-3	59	145	Q2埋土	土	坏	IA6	RN?	RN <sup>下半 HK</sup>	HK?	HM	HM	HM	○	(13.3)	6.4	4.4	90	10YR7/3 にぶい黄橙	
RA556-4	59	156	Q4埋土	土	坏	IA	RN	RN	-	HM	HM	-	○	(15.2)	-	(5.5)	40	7.5YR6/4 にぶい橙	胎土は精良である。
RA556-5	62	161	Pit1埋土	土	坏	IA1?	-	-	回転 糸切 後 HK	-	-	HM	○	-	6.6	(0.8)	-10	7.5YR6/4 にぶい橙	欠けた面を磨いた痕あり、転用目的 か?
RA556-6	59	160	Q1埋土	土	高台 付坏	/	-	-	-	-	-	-	○	-	(6.5)	(1.9)	20	7.5YR7/4 にぶい橙	
RA556-7	59	147	Pit1埋土	土	坏	IA2	RN	RN <sup>下半 HK</sup>	-	RN	RN	RN	○	(13.7)	6.8	4.8	50	10YR6/2 灰黄褐	底部磨減で調整不明瞭
RA556-8	59	148	Q4埋土	土	坏	IA2	RN	RN	回転 糸切	RN	RN	RN	○	(13.6)	(5.6)	4.7	50	10YR7/2~7 /4にぶい黄橙	底部一部磨減
RA556-9	59	149	Q1・4埋土	土	坏	IA1?	HM	HM	HK(回転 糸切 磨減)	HM	HM	HM	○	(14.2)	6.5	4.9	50	7.5YR5/2 灰褐	位置により放射状ヘラミガキが明瞭

第63図 RA556 (1) 出土遺物



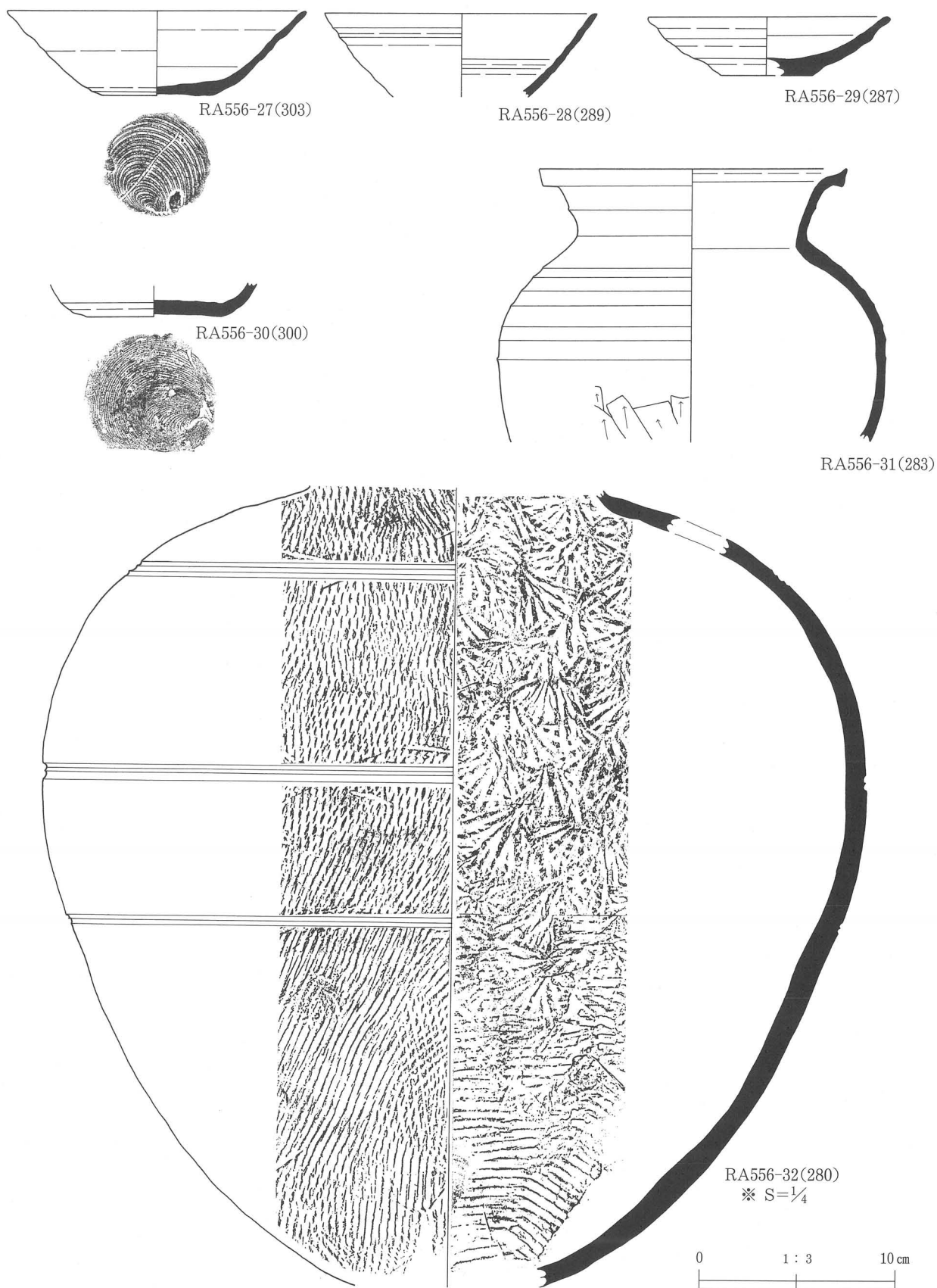
掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			計測値 (cm)			残存率 (%)	胎 土 (含有物、 色調等)	備 考	
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部	口縁	底径	器高				
RA556-10	59	152	Q2埋土	土	坏	IB1	RN	RN	回転 糸切	RN	RN	RN	×	(13.6)	(5.9)	5.9	40	7.5YR5/3 にぶい褐	あかやき土器 内面磨減
RA556-11	59	155	貼床下	土	坏	IB2	RN	RN	下半か らHK	-	-	-	×	(14.0)	(5.8)	6.7	30	7.5YR5/3 にぶい褐	あかやき土器
RA556-12	59	151	No.6, Q1埋土	土	坏	IB1	RN	RN	磨減	RN	RN	RN	×	(13.8)	(7.2)	5.4	50	7.5YR6/6 橙	あかやき土器 体部下半~底部縁多 少再調整
RA556-13	59	154	Q2埋土	土	坏	IB2	RN	RN, 下半 HK	糸切	RN	HM	-	×	(15.2)	(6.8)	4.9	20	7.5YR6/3 に ぶい褐~6/4 にぶい橙	あかやき土器
RA556-14	60	153	検出面(埋 土)	土	坏	IB2	RN	RN	回転 糸切	RN	RN	RN	×	(13.4)	5.8	4.9	40	7.5YR6/6 橙	あかやき土器
RA556-15	60	144	No.6	土	坏	IB2	RN	RN	回転 糸切	RN	RN	RN	×	14.3	6.9	5.1	90	10YR6/3~6 /4にぶい黄橙	やや還元色を呈している。
RA556-16	60	306	ベルト部?	土	坏	IB2	RN	RN	回転 糸切	RN	RN	RN	×	(14.8)	5.4	4.6	20	10YR7/4 にぶい黄橙	あかやき土器 かなり還元色を呈す る部位あり
RA556-17	60	310	Q2埋土?	土	坏	IB1	-	RN	HKの 二次 調整	-	RN	RN	×	-	5.0	(2.0)	10	10YR8/4 浅黄橙	
RA556-18	60	309	Q3,4埋土?, ベルト部	土	坏	IB2	-	RN	回転 糸切	-	RN	RN	×	-	5.2	(1.3)	10	10YR8/3 浅黄橙	

第64図 RA556(2) 出土遺物

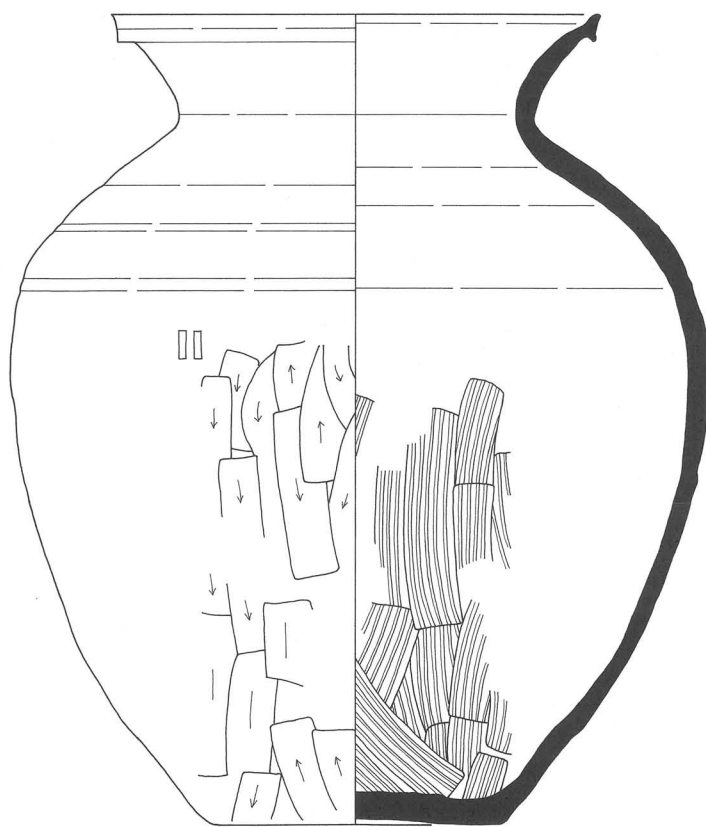


掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎 土 (含有物、 色調等)	備 考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA556-19	60	138	Q2埋土	土 甕	IB	YN	H	-	YN	H	-	×	-	-	(8.5)	10	7.5YR5/6 明褐	口縁著しく外反	
RA556-20	60	139	Q2埋土	土 甕	IB	YN	HN	-	YN	HN	-	×	-	-	(4.6)	-10	7.5YR5/3 にぶい褐	口縁外反	
RA556-21	/	288	ベルト部	須 坏	IIB2	RN	RN	回転 糸切	RN	RN	RN	×	(12.8)	(5.5)	5.0	-10	10YR6/1 褐灰	写真なし	
RA556-22	60	301	Q2埋土	須 坏	IIB2	RN	RN	回転 糸切	RN	RN	RN	×	15.7	5.5	5.0	90	10YR7/3 にぶい黄橙~ 8/4浅黄橙		
RA556-23	60	308	Q2埋土	須 坏	IIB2	-	RN	回転 糸切	-	RN	RN	×	-	5.3	(3.8)	20	7.5YR8/6 浅黄橙		
RA556-24	60	302	Q2埋土	須 坏	IIB2	RN	RN	回転 糸切	RN	RN	RN	×	14.4	5.8	4.6	80	10YR7/2 にぶい黄橙		
RA556-25	61	305	ベルト部	須 坏	IIB2	RN	RN	回転 糸切	RN	RN	RN	×	(14.4)	5.3	4.6	20	10YR7/4 にぶい黄橙		
RA556-26	61	304	Q2埋土	須 坏	IIB2	RN	RN	回転糸切 糸切前の 線刻行	RN	RN	RN	×	15.0	5.7	4.5	30	2.5Y8/2 灰 白		

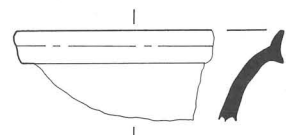
第65図 RA556 (3) 出土遺物



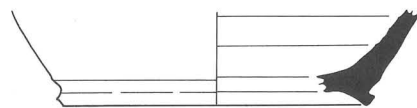
第66図 RA556 (4) 出土遺物



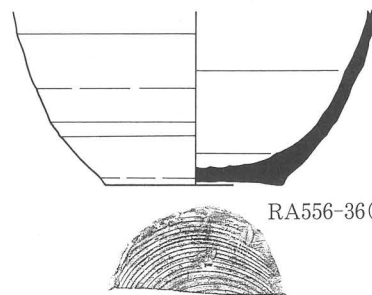
RA556-33(281、282)



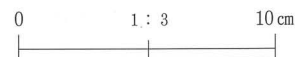
RA556-34(284)



RA556-35(285)

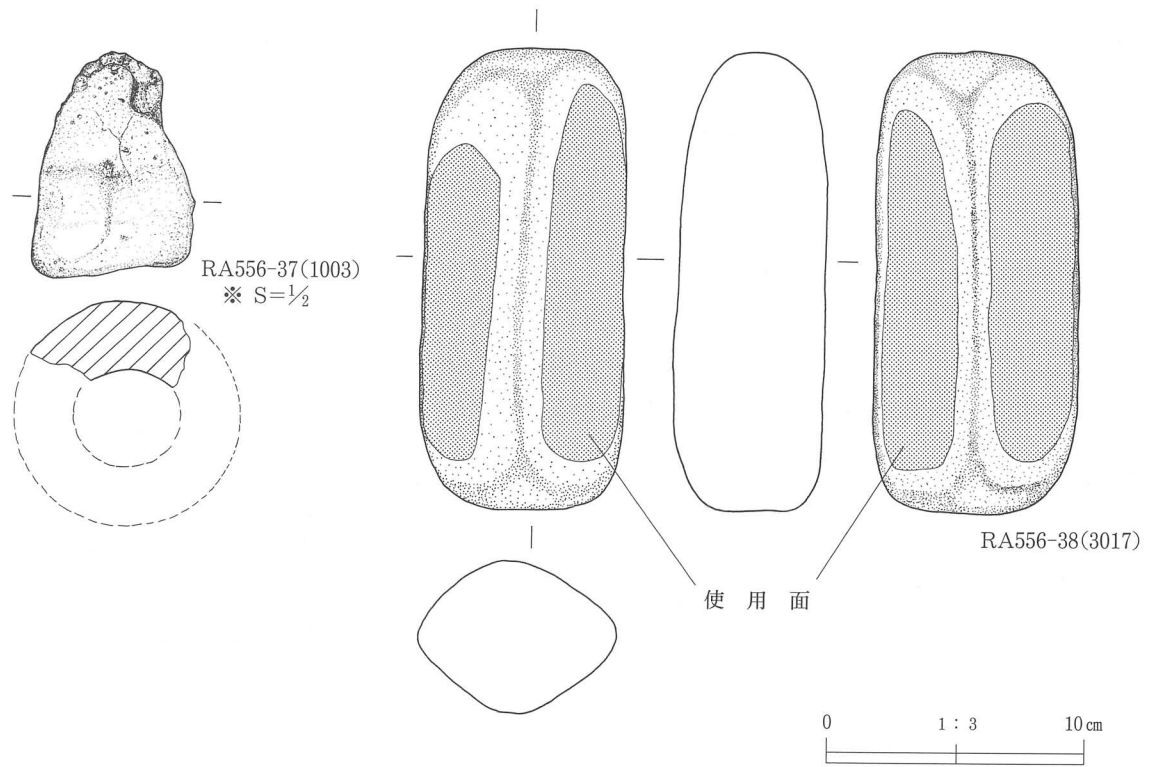


RA556-36(307)



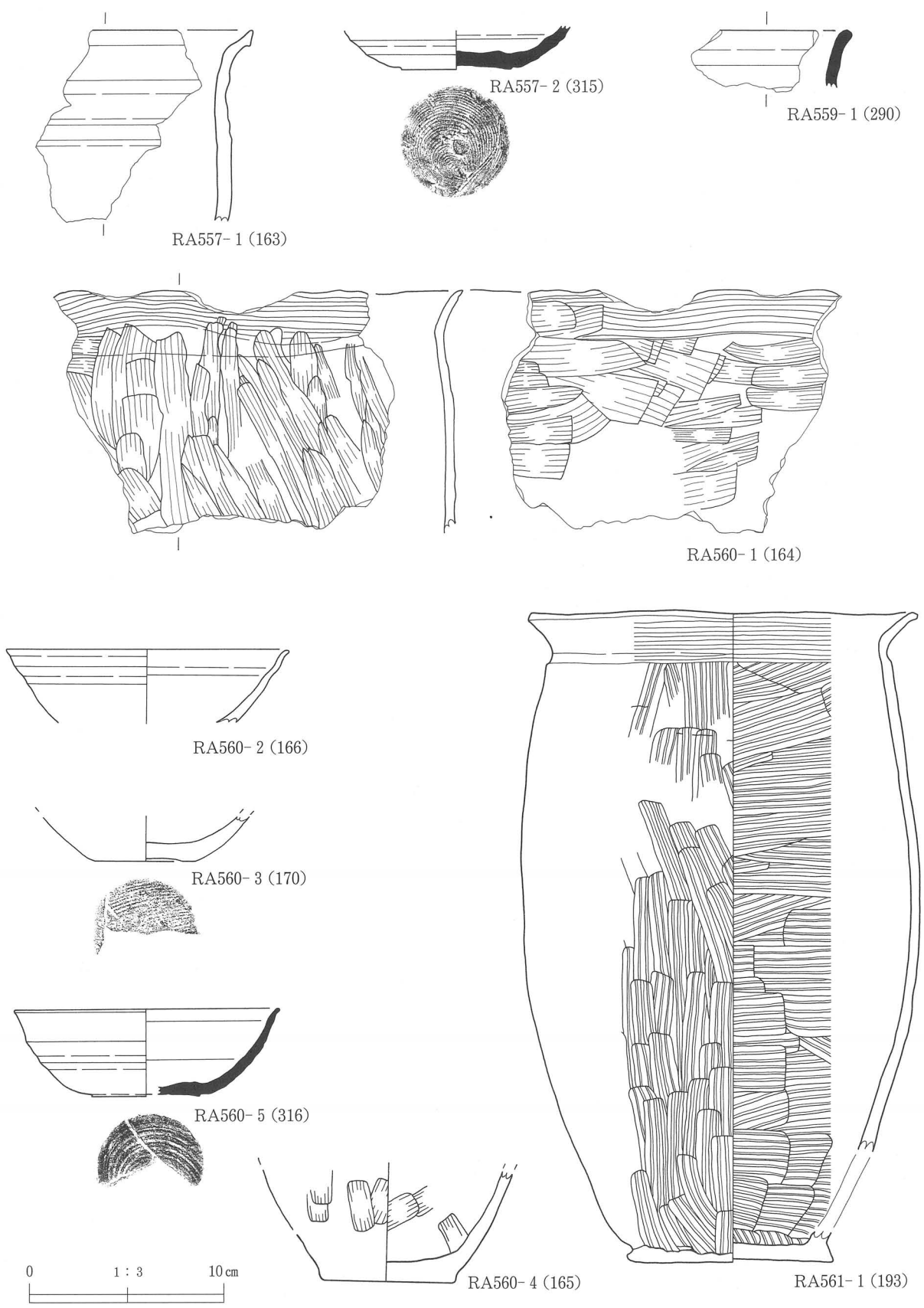
掲載番号	写真 図版	登録 番号	層位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎土 (含有物、 色調等)	備考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA556-27	61	303	Pit 1 埋土、 Q1・2埋土	須	坏	II B 2	RN	RN	回転糸切 ・擦殺 の線有り	RN	RN	RN	×	15.4	5.4	4.4	60	2.5Y8/1 灰 白	
RA556-28	61	289	Q1 埋土・ ベル下部	須	坏	II	RN	RN	-	RN	RN	-	×	(14.2)	-	(4.5)	30	5Y5/1 灰	体部外面、黒の線有(焼成時に付いた?)
RA556-29	/	287	Q2 埋土	須	杯	II	RN	RN	RN	RN	RN	RN	×	(12.4)	(4.7)	3.0	-10	N4/0 灰	口縁外反 写真なし
RA556-30	61	300	貼床下部	須	坏	II B 2	-	RN	回転 糸切	-	RN	RN	×	-	6.8	(1.7)	-10	10YR6/1 褐灰	
RA556-31	62	283	No. 2, Q2 埋土	須	甕	II A	RN	RN・ 下手 HK	-	RN	RN	-	×	16.0	-	(14.3)	50	10YR6/1 褐灰	
RA556-32	61	280	No. 3, 4, Q2 埋土 下層, Q1 埋土	須	甕	II A	-	タタキ 目	-	-	アテ 具痕	-	×	-	-	(42.0)	40	N3/0 暗灰	
RA556-33	62	281	Q2 埋土下層、 Q3 埋土、Q1 埋土、 No. 3, 6	須	甕	II A	RN	HK	-	RN	H	-	×	(19.0)	(11.2)	(32.1)	80	N5/0 灰	口縁一部ゆがみ有り。
RA556-33	62	282	Q2 埋土下層、 Q3 埋土、Q1 埋土	須	甕	II A	RN	HK	-	RN	H	-	×	(19.0)	(11.2)	(32.1)	80	N5/0 灰	281と同一個体
RA556-34	/	284	Q2 埋土上 層	須	壺	II A	RN	RN	-	RN	RN	-	×	-	-	(3.5)	-10	外面10YR3/1 黒褐、内面10 YR5/1 褐灰	口縁のみ 写真なし
RA556-35	/	285	Q1 埋土	須	壺?	II A	-	RN	RN	-	RN	RN	×	-	(11.8)	(3.7)	10	10YR6/1 褐灰	底が上がる-底部のみ 写真なし
RA556-36	62	307	Q2 埋土	須	壺?	II A	-	RN	回転 糸切	-	RN	RN	×	-	(7.0)	(6.9)	20	10YR8/4 浅黄 緑~7/2 にぶ い黄橙	体部下半沈線強

第67図 RA556 (5) 出土遺物



掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種 別	重 量 (g)	色 調		備 考
RA556-37	62	1003	ベルト埋土	羽口 (土製品)	39.0	5YR5/6		欠損品
掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種 別	重 量 (g)	石 材	産 出 地	備 考
RA556-38		3017	カマド埋土	支脚 (石器)	1390	安山岩	奥羽山脈	砥石を支脚に転用したものか。No.5の下

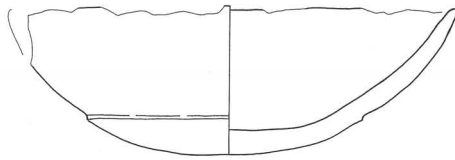
第68図 RA556 (6) 出土遺物



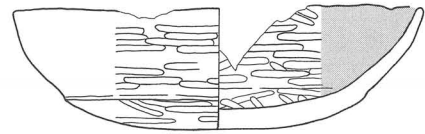
第69図 RA557・559・560・561 出土遺物



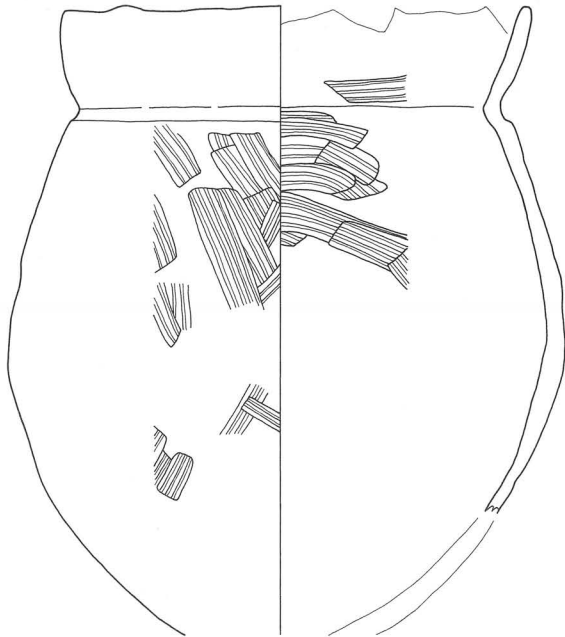
掲載番号	写真 図版	登録 番号	層位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎土 (含有物、 色調等)	備考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA557-1	63	163	埋土下層	土	甕	IA	RN	RN	-	RN	RN	-	×	-	-	(9.8)	-10	10YR6/4 にぶい黄橙	
RA557-2	63	315	埋土下層	須	坏	II B 2	-	RN	静糸切・ 回転糸切?有	-	RN	RN	×	-	5.6	(2.0)	35	7.5Y6/1灰	
RA559-1	63	290	Q2埋土	須	甕	II A?	RN	-	-	RN	-	-	×	-	-	(3.0)	-10	N5/0灰	口縁一部のみ
RA560-1	63	164	ベルト埋土	土	甕	IA	YN	HN	-	YN・ HN	HN	-	×	-	-	(12.5)	10	7.5YR7/4~6/ 4にぶい黄橙	
RA560-2	63	166	Q1・3埋土	土	坏	IB	RN	RN	-	RN	RN	-	×	(14.4)	-	(3.8)	20	10YR7/6 明黄褐	底部欠損 あかやき土器
RA560-3	63	170	埋土, 北ベ ルト埋土	土	坏	IA 4	-	-	静糸切	-	-	-	×	-	5.1	(2.3)	10	7.5YR6/4~ 7/4にぶい橙	内黒?ヘラミガキ不明瞭
RA560-4	63	165	Q1・2埋土	土	甕	IB	-	HN	-	-	HN	HN	×	-	7.0	(5.7)	10	5YR6/6~ 7/6橙	胎土は砂を多量に含んでおり良質で はない。
RA560-5	63	316	Q3埋土等	須	坏	II B 2	RN	RN	回 転 糸 切	RN	RN	RN	×	(13.6)	5.5	4.5	45	10YR7/1 灰白	
RA561-1	63	193	埋土	土	甕	AIT 3	YN	H	H	YN	H	H	×	(20.0)	10.5	33.8	95	5YR4/6 赤 褐	又はIB?口縁短く外反 胎土粗 粒1~2mm の砂多い。(RA561自体調査区以外に延びて いる一時代不明)
RA560-6	63	4008	層位: Q1埋土	種別: 不明 (鉄製品)			重量(g): 70.3			計測値(cm): 長さ(10.4) 幅3.6 厚さ0.3			写真のみ						



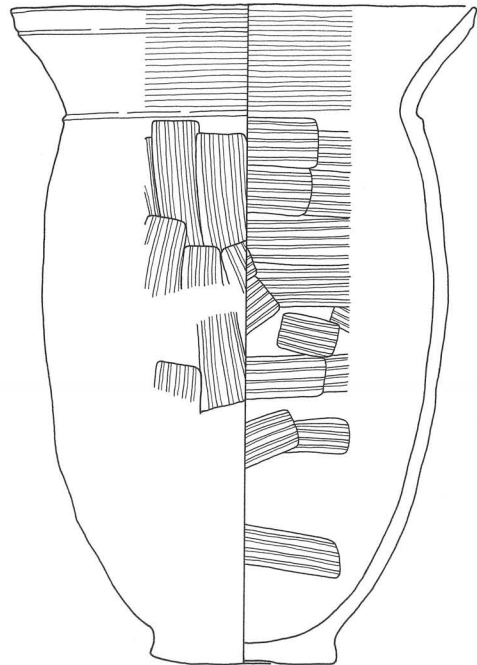
RA562-1 (231)



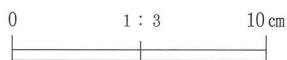
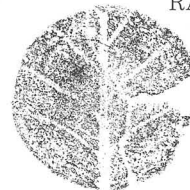
RA562-2 (232)



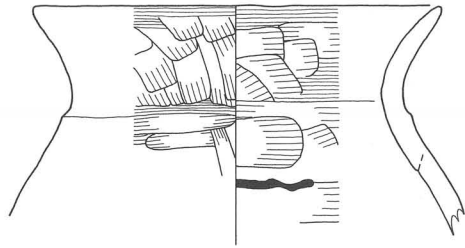
RA562-3 (227)



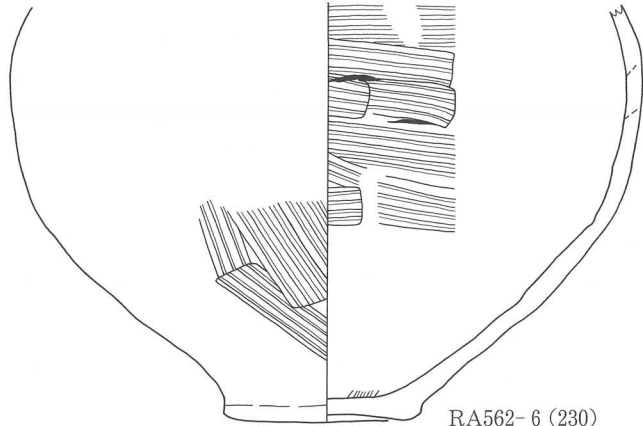
RA562-4 (228)



第70図 RA562 (1) 出土遺物

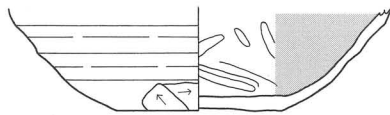


RA562-5 (229)

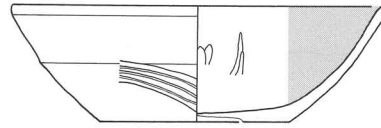
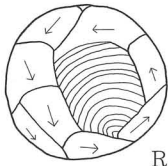


RA562-6 (230)

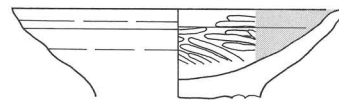
掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎 土 (含有物、 色調等)	備 考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA562-1	64	231	No.5	土 坏	AIM2	-	-	一部 HN	-	-	-	×	(17.6)	-	5.9	75	5YR5/6 明赤褐	胎土弱 砂質傾向大-外有段	
RA562-2	64	232	No.4	土 坏	AIM1	HM	HM	HM	HM	HM	HM	○	16.2	-	4.8	90	10YR5/4 にふい黄褐	内外有段?(内面弱) 体部下半に段	
RA562-3	64	227	No.6	土 甕	AIS	-	H	-	H	H	-	×	18.5	-	(25.0)	75	7.5YR5/6 明褐	体部中位煤付着 胎土砂質傾向	
RA562-4	64	228	No.2,7,8	土 甕	AIT1	YN	H	木葉痕	YN	H	-	×	(18.1)	7.2	26.2	80	5YR5/4 にふい赤褐	胎土赤-被熱による赤変部分あり。 煤付着	
RA562-5	64	229	No.1	土 甕	AI	HN	HN	-	HN	HN	-	×	(16.0)	-	(9.5)	20	7.5YR6/4 にふい橙	輪積痕有	
RA562-6	64	230	No.3	土 球胴 甕	AIS	-	H	H	-	H	H	×	-	7.8	(16.5)	40	7.5YR6/4 にふい橙	輪積痕有 胎土粗	



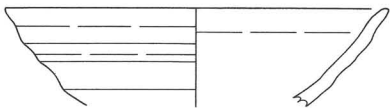
RA563-1 (237)



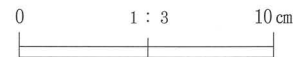
RA563-2 (236)



RA563-4 (242)

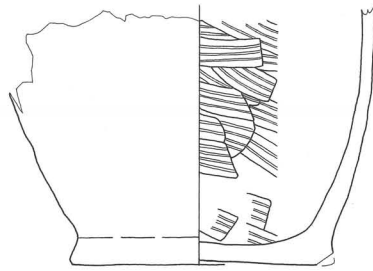


RA563-3 (239)

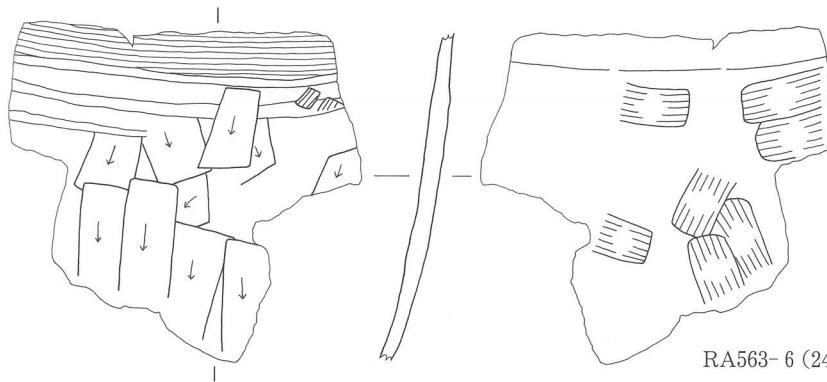


掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎 土 (含有物、 色調等)	備 考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA563-1	65	237	No.4・5	土 坏	IA 6	RN	RN・ 下半 HK	回転糸切 痕持ち 皿	HM	HM	HM	○	-	6.3	(4.0)	30	10YR6/3 にふい黄橙		
RA563-2	65	236	床面、カマ 下周辺	土 坏	IA 2	RN	RN	-	RN・ HM	-	-	○	(14.7)	(7.2)	4.6	45	5YR6/8 橙	回転糸切痕わずかに残 胎土粗	
RA563-3	/	239	No.1	土 坏	IB	RN	RN	回転 糸切	RN	RN	-	×	(15.0)	-	(3.8)	10	5YR5/6 明赤褐	あかやき土器 胎土粗 写真なし	
RA563-4	65	242	カマ下周辺 Q1埋土	土 高台 付坏	/	RN	RN	-	HM	HM	-	○	(13.0)	-	(3.5)	60	7.5YR6/8 橙	高台欠損、台接合部明瞭皿状にひらく。	

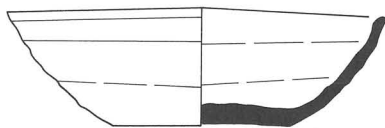
第71図 RA562 (2)・563 (1) 出土遺物



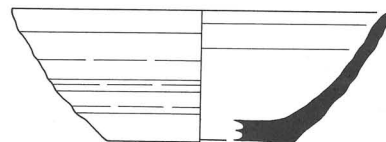
RA563-5 (234)



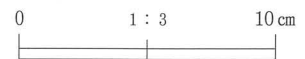
RA563-6 (243)



RA563-7 (324)

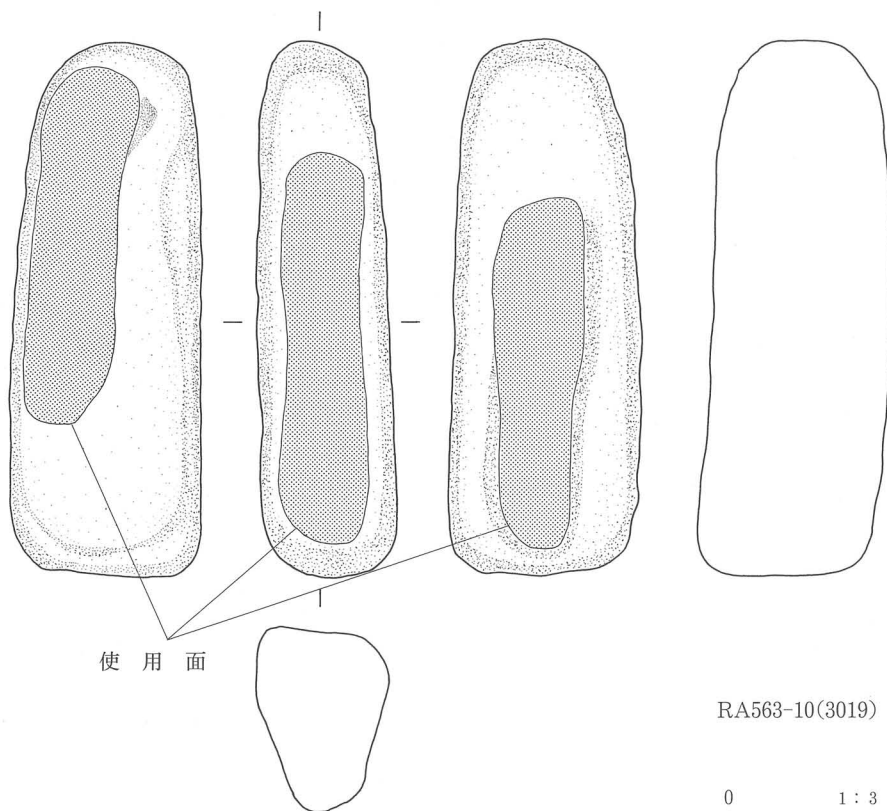
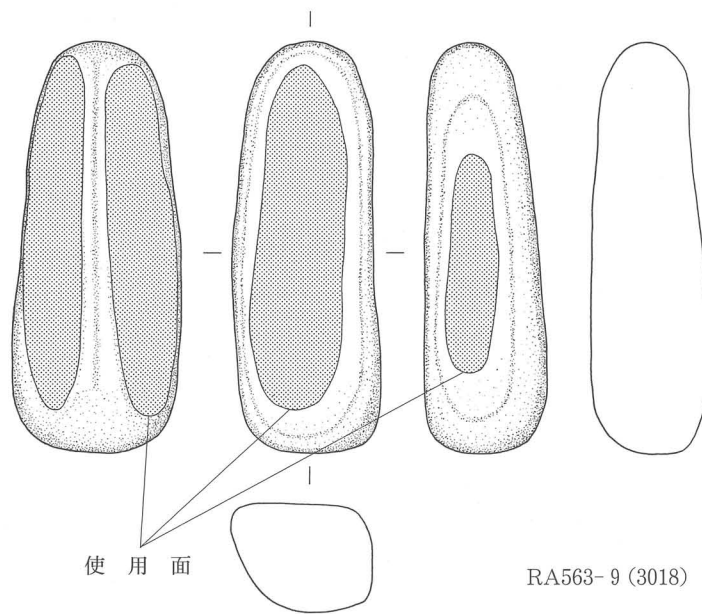


RA563-8 (325)



掲載番号	写真 図版	登録 番号	層位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎土 (含有物、 色調等)	備考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA563-5	65	234	カマド周辺 床面	土	甕	IA	-	-	-	-	H	-	×	-	(10.1)	(10.3)	25	5YR4/6 赤褐	胎土粗 砂粒非常に多い。
RA563-6	65	243	埋土	土	不明 鉢?	/	YN	HK	-	-	HN	-	×	-	-	(13.0)	20	7.5YR5/6 明褐	内側胎土弱 調整一部不明
RA563-7	65	324	№10	須	坏	II B2	RN	RN	回転 系切	RN	RN	RN	×	14.8	6.8	4.7	略完形	2.5Y7/2 灰黄	
RA563-8	65	325	床面	須	坏	II B2	RN	RN	回転 系切	RN	RN	RN	×	(14.8)	(7.2)	5.2	40	10YR7/1 灰白	

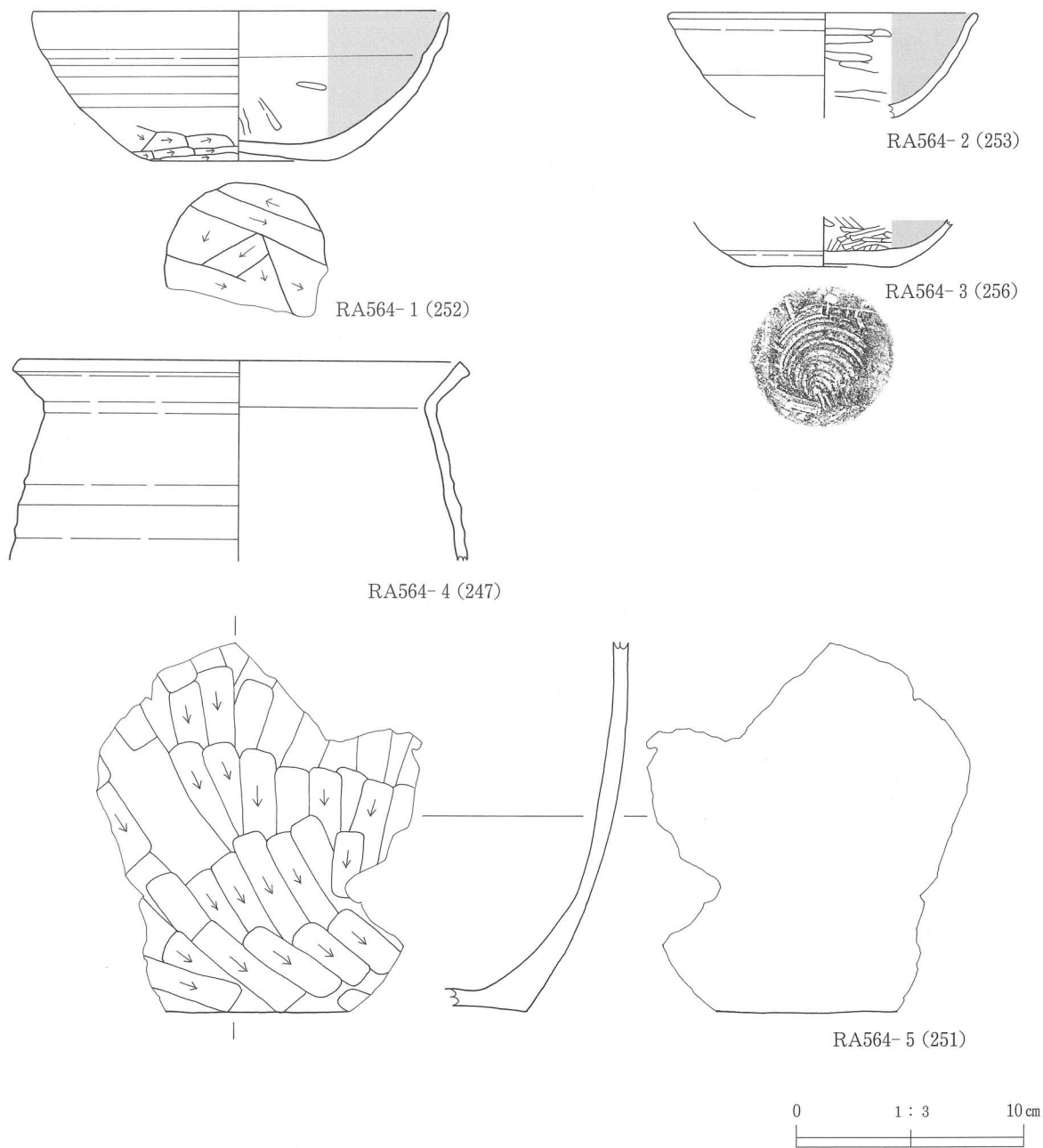
第72図 RA563 (2) 出土遺物



0 1 : 3 10 cm

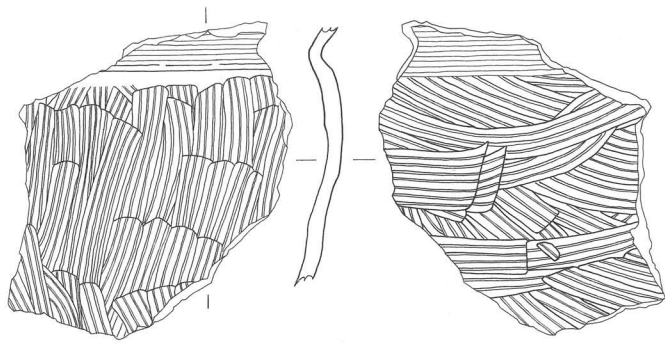
掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種 別	重 量 (g)	石 材	産 出 地	備 考
RA563-9	65	3018	床面	砥石 (石器)	750	安山岩	奥羽山脈	S-1
RA563-10	65	3019	床面	砥石 (石器)	1250	デイサイト	奥羽山脈	S-2

第73図 RA563 (3) 出土遺物

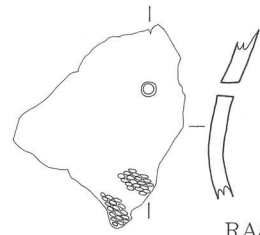


掲載番号	写真 図版	登録 番号	層位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎土 (含有物、 色調等)	備考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA564-1	66	252	Q1埋土	土	坏	IA1	RN	RN・ 下半 HK	HK	RN	HM	HM	○	(18.3)	8.0	7.0	30	10YR7/4 にぶい黄橙	底部再調整
RA564-2	66	253	Q1埋土	土	坏	IA	RN	RN	-	HM	HM	-	○	(13.6)	-	(4.7)	10	10YR4/2 灰黄褐	
RA564-3	66	256	Q1埋土	土	坏	IA1	-	RN	同転糸 切・一 部HN	-	HM	HM	○	-	6.3	(2.0)	10	10YR6/4 にぶい黄橙	
RA564-4	66	247	煙道部埋土	土	甕	IA	RN	RN	-	RN	RN	-	×	(20.2)	-	(8.9)	20	7.5YR6/4 にぶい橙	
RA564-5	66	251	No.1. 煙道部	土	甕	IA	-	HK	-	-	-	-	×	-	-	(16.4)	10	10YR7/4~6/ 4にぶい黄橙	胎土粗

第74図 RA564 (1) 出土遺物



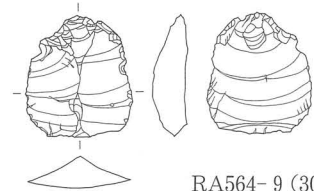
RA564-6 (250)



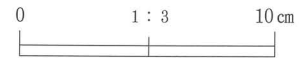
RA564-7 (328)



RA564-8 (332)

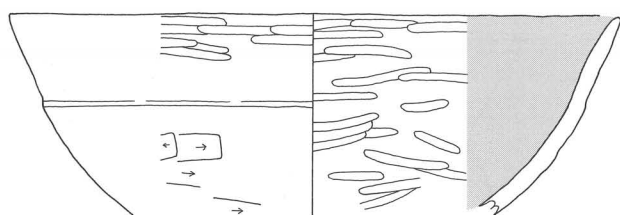


RA564-9 (3003)  
※ S=1/2

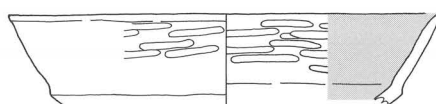


掲載番号	写真 図版	登録 番号	層位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎土 (含有物、 色調等)	備考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RA564-6	66	250	Q1埋土	土	甕	IB	YN	H	-	YN	H	-	×	-	-	(12.5)	10	2.5YR5/6 明赤褐	
RA564-7	66	328	層位：検出面		種別：縄文土器		部位：体部			色調：10YR4/3にぶい黄褐									
RA564-8	66	332	層位：Q1埋土		種別：縄文土器		部位：体部			施文原体・文様の特徴：LR									
RA564-9	66	3003	層位：Q1埋土		種別：石器削搔器			重量(g)：7.0			計測値(cm)：長さ3.2 幅2.8 厚さ0.9								
RA564-10	66	4009	層位：Q1埋土		種別：刀子			重量(g)：70.3			計測値(cm)：長さ(10.4) 幅3.6 厚さ0.3						写真のみ		

第75図 RA564 (2) 出土遺物



RD1060- 1 (132)



RD1060- 2 (133)



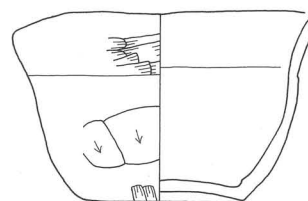
RD1060- 3 (129)



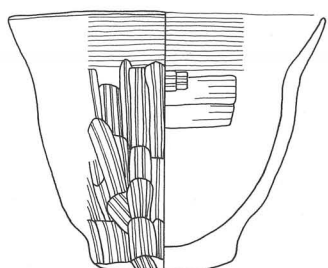
RD1060- 4 (131)



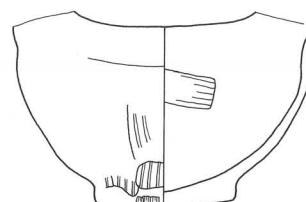
RD1060- 5 (130)



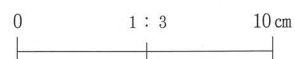
RD1060- 6 (119)



RD1060- 7 (120)

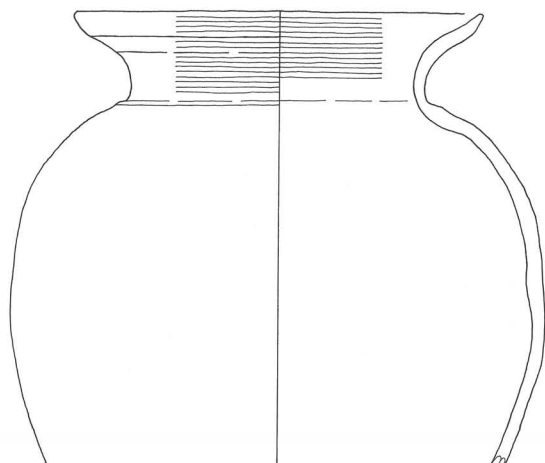


RD1060- 8 (124、126)

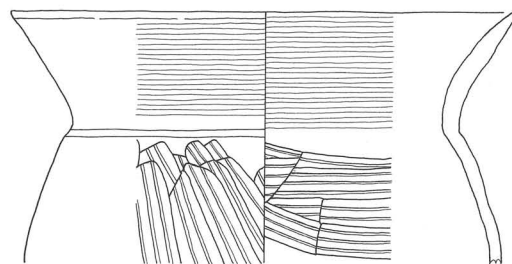


掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎 土 (含有物、 色調等)	備 考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RD1060-1	67	132	埋土上~中層	土	大型 坏	AI	HM	HM・ HK	-	HM	HM	-	○	(24.0)	-	(8.0)	20		外面上半有段 底部欠損
RD1060-2	67	133	埋土上~中層	土	坏	AI	HM	HM	-	HM	HM	-	○	(17.0)	-	(3.7)	-10	7.5YR6/4 にふい橙	内外有段 底部欠損
RD1060-3	67	129	埋土上層9	土	坏	AIM2	HM	-	HN	HM	HM	HM	○	12.9	-	4.5	70	10YR8/3 浅黄橙	底部外面に多少指圧痕の傾向あり。多分下半有段。段より外側にゆるやかにたがらあがる。
RD1060-4	67	131	埋土上層	土	坏	AIM2	HM	HM	HM・ 一部に HK	HM	HM	HM	○	12.6	-	(4.1)	50	7.5YR6/4 にふい橙	外面下半有段
RD1060-5	67	130	埋土上層~ 中層	土	坏	AIM2	HM	HM	HM・ 一部に HK	HM	HM	HM	○	12.0	-	5.0	80	7.5YR6/8 橙	外面下半有段 碗形に近い。段より丸みをおびて立ち上がる。
RD1060-6	67	119	埋土上層4, 埋土上~中層	土	小型 甕	/	HN	HK	HN	-	-	-	×	11.9	6.0	7.5	70	7.5YR7/6 橙	胎土の色調明るい。粗砂質 底が上がる。(No.122も)
RD1060-7	67	120	埋土上~中層	土	小型 甕	/	YN	H	HN	YN・ H	HN	-	×	(12.4)	5.7	10.2	50	7.5YR7/6 橙	
RD1060-8	67	124 126	埋土上~中層	土	小型 鉢?	/	-	H	-	HN	-	-	×	(11.8)	5.5	7.7	40	10YR8/3 浅黄橙	

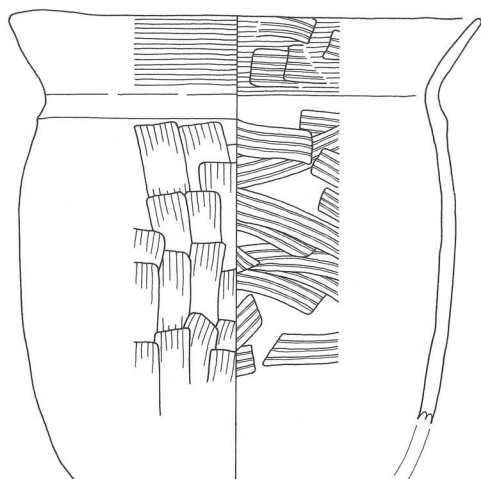
第76図 RD1060 (1) 出土遺物



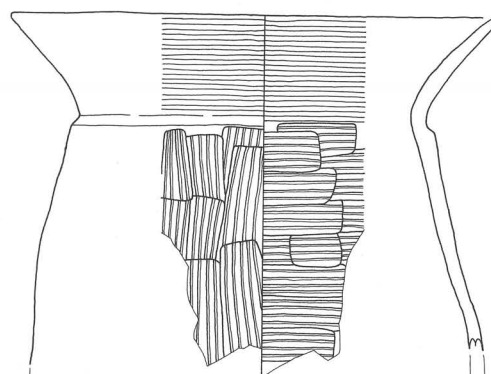
RD1060-9 (116)



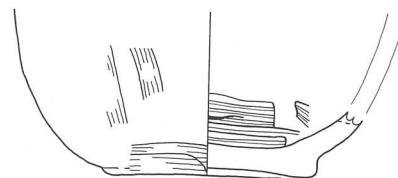
RD1060-11(263)



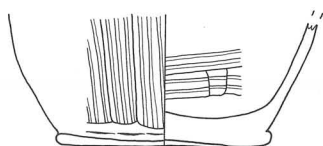
RD1060-10(118)



RD1060-12(117)



RD1060-13(121)



RD1060-14(123)



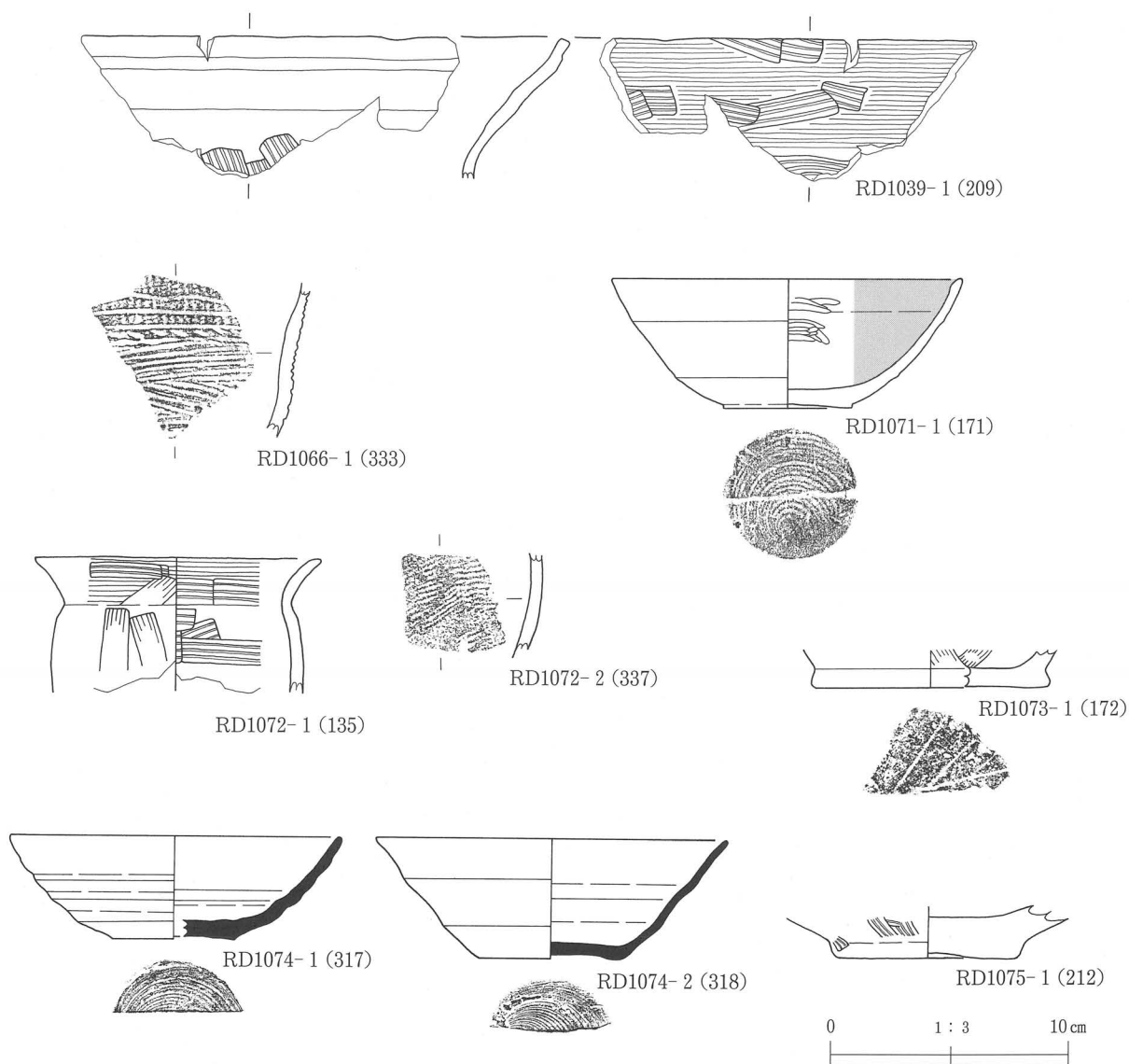
RD1060-15(122)



掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎 土 (含有物、 色調等)	備 考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RD1060-9	67	116	埋土上層	土	甕	AIS	YN	-	-	YN	-	-	×	(16.0)	-	(18.0)	30	7.5YR8/3~ 8/6浅黄橙	
RD1060-10	67	118	埋土上~中 層	土	甕	AIT2	YN	HN	-	YN・ H	H	-	×	(18.4)	-	(18.6)	60	7.5YR5/4 にふい褐	金雲母含
RD1060-11	67	263	埋土上~中 層	土	甕	AIT?	YN	H	-	YN	H	-	×	(20.0)	-	(10.0)	10	7.5YR8/4 浅黄橙	口縁のひらき大
RD1060-12	67	117	埋土上層4 ・10, 埋土	土	甕	AIT1	YN	H	-	YN	H	-	×	(19.1)	-	(16.2)	30	7.5YR7/3~ 7/4にふい褐	口縁著しくひらく
RD1060-13	67	121	埋土上層1, 埋土上~中層	土	甕	AI	-	HN	かすか かに 木葉痕	-	H	H	×	-	8.4	(6.5)	20	7.5YR5/4 にふい褐	輪轆痕有 底の部分重く、立ち上がり 明確
RD1060-14	67	123	埋土上~中 層	土	甕	AI	-	H	かすか かに 木葉痕	-	H	-	×	-	8.4	(5.2)	-10	7.5YR5/3 にふい褐	
RD1060-15	67	122	埋土上~中 層	土	甕	AI	-	H	指圧痕	-	H	-	×	-	(6.8)	(4.5)	-10	7.5YR7/4 にふい橙	

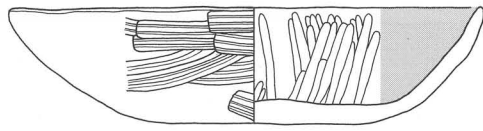
第77図 RD1060 (2) 出土遺物



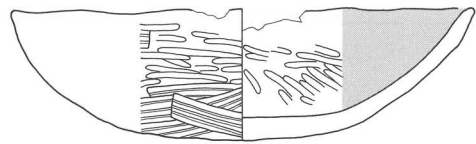


掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎 土 (含有物、 色調等)	備 考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RD1039-1	68	209	埋土	土 甕	AI	-	H	-	H・ YN	-	-	×	-	-	(6.0)	-10	10YR4/3 にふい黄褐		
RD1071-1	68	171	埋土	土 坏	IA 2	RN	RN	回 転 糸 切	HM	-	-	○	(14.8)	(5.4)	5.5	30	7.5YR7/4に ふい橙~7/6橙		
RD1072-1	68	135	埋土	土 甕	AI	YN	HN	-	YN	H	-	×	12.0	-	(5.7)	-20	7.5YR6/4 にふい橙		
RD1073-1	68	172	埋土	土 甕	AI?	-	-	木 葉 痕	-	HN	-	×	-	(9.8)	(1.6)	-10	5YR5/6 明 赤褐		
RD1074-1	68	317	埋土下層	須 坏	II B 2	RN	RN	回 転 糸 切	RN	RN	RN	×	(14.0)	(5.2)	4.4	40	10YR7/4 にふい黄橙		
RD1074-2	68	318	埋土下層	須 坏	II B 2	RN	RN	回 転 糸 切	RN	RN	RN	×	(14.6)	5.9	5.1	20	10YR7/1灰白 ~7.5YR7/4 にふい橙		
RD1075-1	68	212	埋土	土 甕	AI	-	H (下 半)	H (下 半)	-	-	-	?	-	-	(1.7)	-10	10YR4/4 褐		
掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種 別	部 位	施文原体・文様の特徴													備 考
RD1066-1	68	333	埋土	弥生土器か?	体部	多条の沈線文が施されている													
RD1072-2	68	337	埋土	縄文土器	体部	RL													

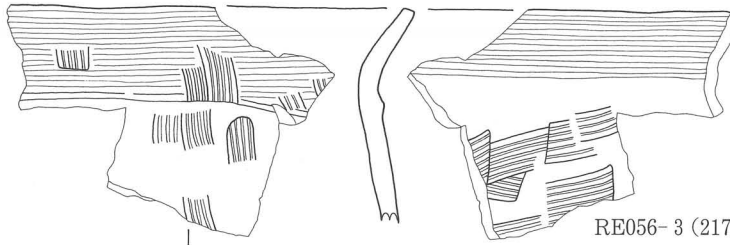
第78図 RD1039・1066・1071・1072・1073・1074・1075 出土遺物



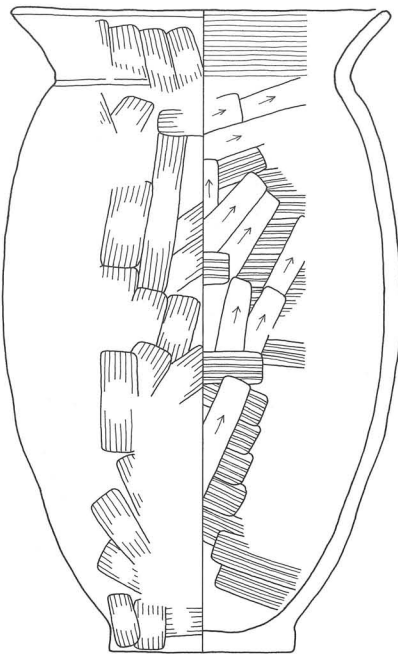
RE056-1 (219)



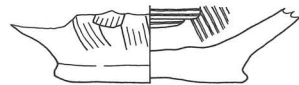
RE056-2 (218)



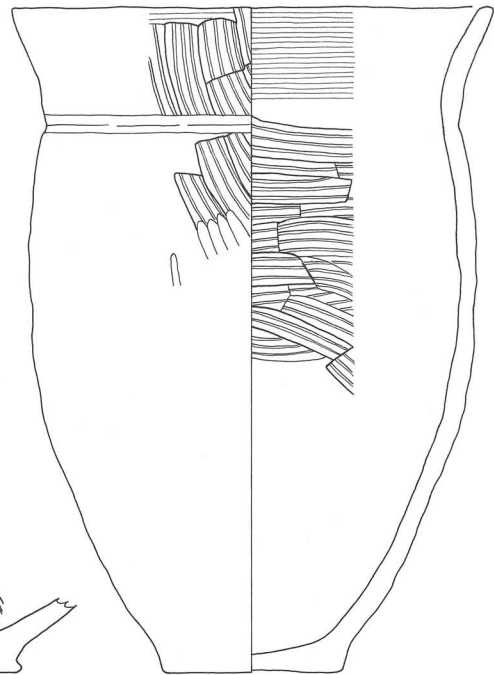
RE056-3 (217)



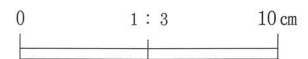
RE056-4 (215)



RE055-1 (73)

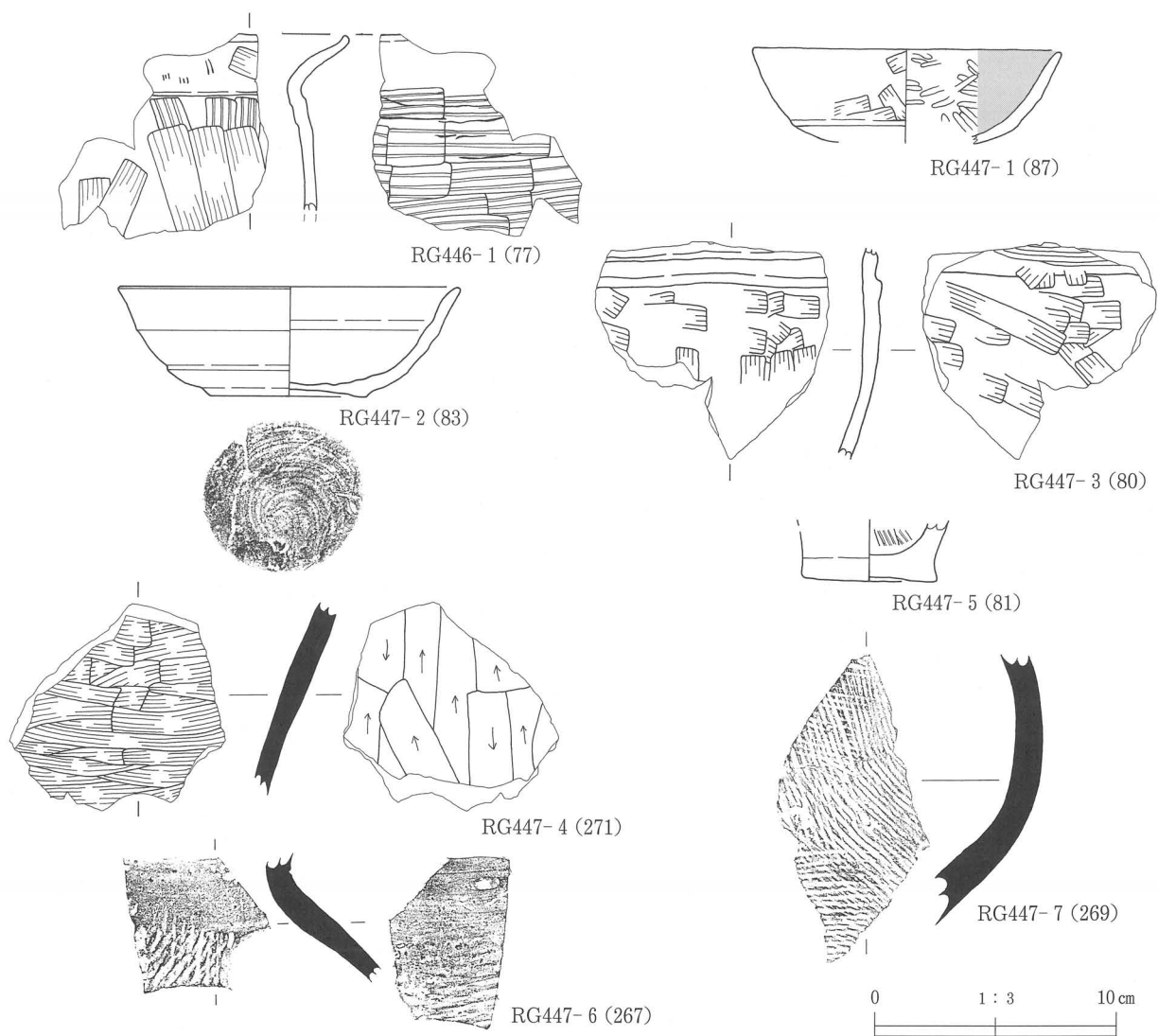


RE056-5 (214)



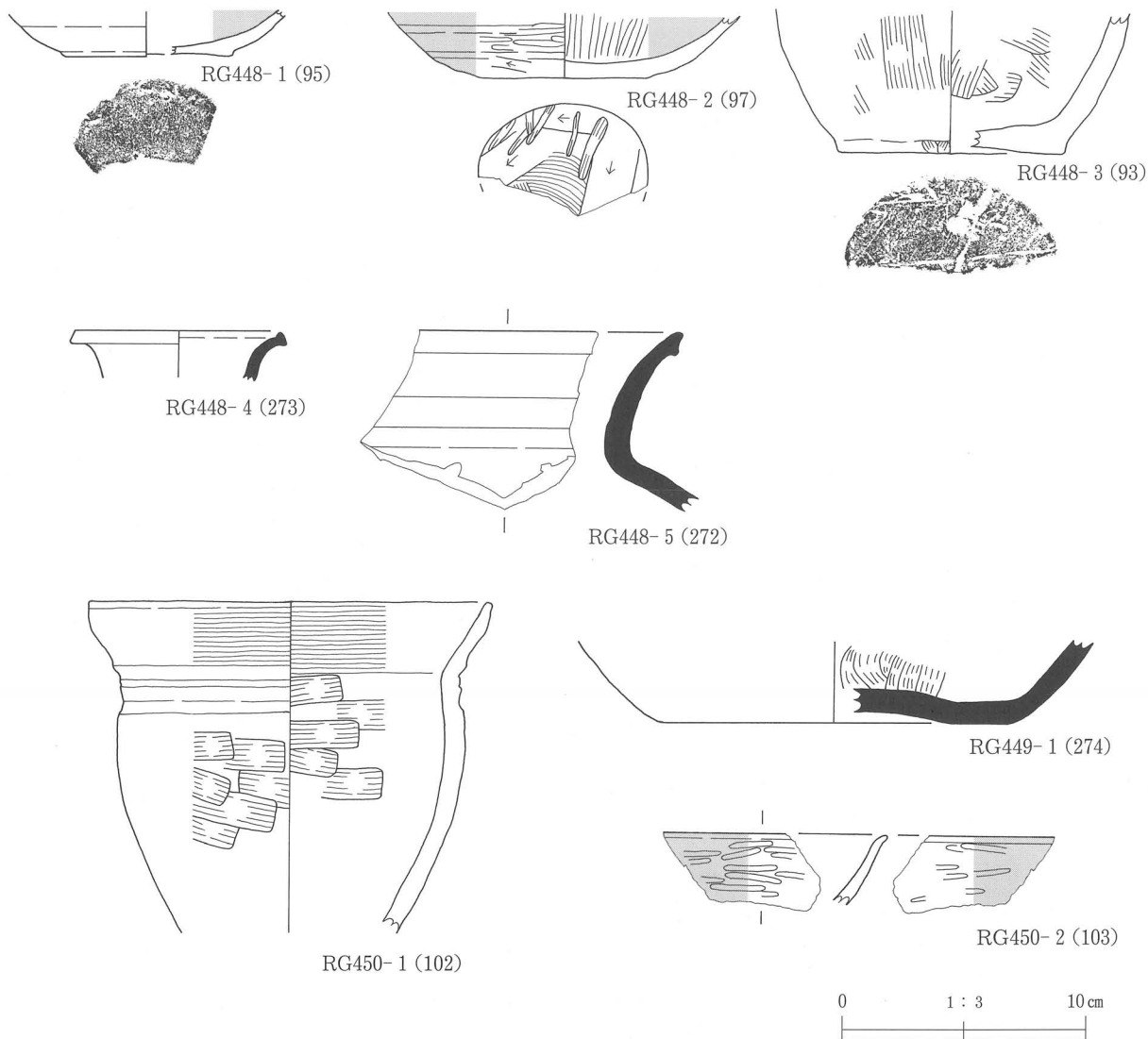
掲載番号	写真 図版	登録 番号	層位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎土 (含有物、 色調等)	備考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RE055-1	68	73	西側埋土	土	甕	AI	-	HN	-	-	H	-	×	-	7.5	(2.7)	-10	7.5YR6/4 にぶい橙	胎土粗
RE056-1	68	219	Q2埋土	土	坏	AIM3	H	H	一部に HM	HM	HM	HM	○	18.5	-	4.6	85	7.5YR4/3 褐	平底に近いが不安定
RE056-2	68	218	埋土	土	坏	AIM3	HM	HM・ 下半H	H	HM	HM	-	○	18.2	-	5.2	95	7.5YR4/4 褐	
RE056-3	68	217	北壁沿埋土	土	甕	AI	YN・ H	H	-	YN	H	-	×	-	-	(8.7)	-10	7.5YR6/6 橙	
RE056-4	69	215	No.2・3, 北 壁沿	土	甕	AIT2	HN	HN	-	YN	H・ HK	-	×	(14.8)	7.2	25.7	50	5YR5/4にぶい 赤褐~6/6橙	
RE056-5	69	214	北壁沿埋土	土	甕	AIT3	YN・ H	H・ HN	-	YN	H	-	×	(18.2)	7.0	26.5	70	7.5YR5/6 明褐	体部下半被熱により赤変
RE055-2	68	2002	層位: 埋土1, 2		器種: 陶器搦鉢?		残存部位: 口縁部									写真のみ			

第79図 RE055・056 出土遺物



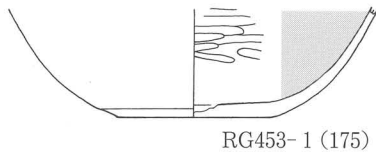
掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位			種 別			重 量 (g)			計 測 値 ほか					備 考		
掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			計測値 (cm)			残存率 (%)	胎 土 (含有物、 色調等)	備 考	
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部	口縁	底径	器高				
RG444-1	69	4010	埋土				鉤の刃				80.0						写真のみ		
RG444-2	69	4011	埋土				釘				6.60						計測値 (cm):長さ(5.5) 厚さ0.7 写真のみ		
RG446-1	69	77	埋土	土	甕	AI?	HN	H・HN	-	-	H	-	×	-	-	(8.5)	-10	7.5YR7/6 橙	
RG447-1	69	87	埋土, 攪乱	土	坏	AI	HN	HN	-	HM	HM	-	○	(13.0)	-	(3.9)	10	7.5YR6/6 橙	外面有段
RG447-2	69	83	埋土	土	坏	IB2	RN	RN	回転 条切	RN	RN	RN	×	(14.2)	6.4	4.6	60	10YR8/3 浅黄橙	焼成良好 須恵器に近い。
RG447-3	69	80	西端埋土	土	甕	AI?	YN	HN	-	YN	HN	-	×	-	-	-	-20	7.5YR6/4 にぶい橙	胎土に金雲母含む。
RG447-4	69	271	西端埋土	須	甕	IIA	-	HK	-	-	HN	-	×	-	-	-	-10	外面7.5YR5/ 1褐灰, 内面 N3/0暗灰	
RG447-5	69	81	西端埋土	土	小型 甕	/	-	-	-	-	H	-	×	-	5.6	(2.6)	-10	10YR7/3にぶ い黄橙~5/4 にぶい黄褐	
RG447-6	69	267	西端埋土	須	甕	IIA	-	タタキ 目	-	-	アテ具 痕	-	×	-	-	-	-10	N4/0灰	
RG447-7	69	269	西端埋土	須	甕	IIA	-	タタキ 目	-	-	アテ具 痕	-	×	-	-	-	-10	N4/0灰	内面釉有 体部下半

第80図 RG446・447 出土遺物

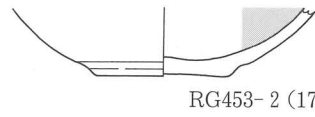


掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎 土 (含有物、 色調等)	備 考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RG448-1	70	95	西側埋土	土 坏	IA 2	-	RN	-	-	(ミガキ・内黒とも滑)	-	○	-	(6.6)	(1.7)	-10	7.5YR6/6 橙	内外とも磨滅	
RG448-2	70	97	検出面	土 坏	IA 1	-	HM	糸切後 HK	-	HM	-	◎	-	7.0	(2.7)	20	10YR4/1褐灰 ~3/1黒褐		
RG448-3	70	93	埋土	土 甕	AI	-	HN	木葉痕	-	HN	-	×	-	(9.4)	(6.0)	-10	7.5YR5/4 にぶい褐		
RG448-4	70	273	西側埋土	須 壺	II A	RN	-	-	RN	-	-	×	(8.6)	-	(2.0)	-10	5Y5/1灰		
RG448-5	70	272	西側埋土	須 甕	II A	RN	RN	-	RN	RN・ ガキ目	-	×	-	-	(7.5)	-10	外面 10YR4/ 1褐灰、内面 N3/0暗灰		
RG449-1	70	274	埋土	須 甕	II A	-	-	-	-	ナデ(指 圧痕に 近い)	ナデ	×	-	(14.4)	(3.4)	-10	10YR6/1 褐灰	内部のナデは指圧痕に近い。	
RG450-1	70	102	西端埋土	土 甕	AIT2	YN	HN	-	YN	HN	-	×	(16.8)	-	(13.9)	30	10YR7/3 にぶい黄橙	胎土金雲母多い	
RG450-2	70	103	西端埋土	土 坏	AI	HM	HM	-	HM	HM	-	◎	-	-	(2.9)	-10	10YR3/1 黒褐	底部欠損	
RG449-2	70	2003	層位：埋土			器種：大甕			残存部位：体部						中世陶器 写真のみ				

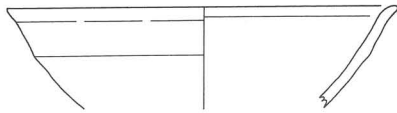
第81図 RG448・449・450 出土遺物



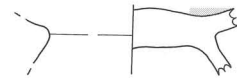
RG453-1 (175)



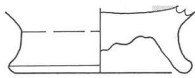
RG453-2 (174)



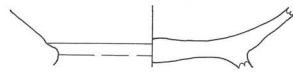
RG453-3 (181)



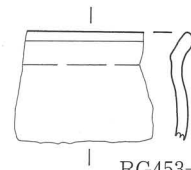
RG453-4 (176)



RG453-5 (177)



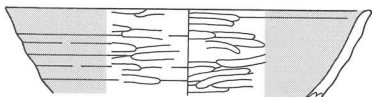
RG453-6 (179)



RG453-7 (173)



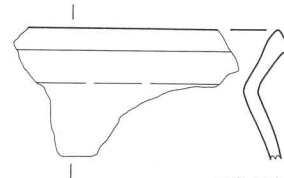
掲載番号	写真 図版	登録 番号	層位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎土 (含有物、 色調等)	備考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RG453-1	70	175	埋土	土	坏	IA 2	-	-	糸切 磨滅?	-	HM	-	○	-	6.0	(4.3)	10	5YR6/6橙	
RG453-2	70	174	検出面	土	坏	IB 2	-	RN	回転 糸切	-	-	-	○	-	5.2	(2.4)	25	5YR7/8橙	あかやき土器
RG453-3	/	181	検出面, 埋土	土	坏	IB	RN	RN	-	RN	RN	-	×	(15.2)	-	(4.0)	30	5YR6/6橙	あかやき土器 写真なし
RG453-4	70	176	No.1	土	高台 付坏	/	-	RN	RN	-	-	-	○	-	-	(2.7)	10	7.5YR7/6 橙	ヘラミガキ不明瞭
RG453-5	70	177	検出面, 埋土	土	高台 付坏	/	-	RN	RN	-	-	HM	○	-	7.2	(2.4)	10	7.5YR6/4 にぶい橙	台内側に太いロクロ線あり
RG453-6	70	179	検出面, 埋土	土	高台 付坏	/	-	RN	-	-	RN	-	×	-	-	(2.2)	15	5YR6/6橙	あかやき土器
RG453-7	70	173	検出面, 埋土	土	小型 甕	/	RN	-	-	RN	-	-	×	-	-	(4.3)	-10	5YR6/6橙	胎土粗



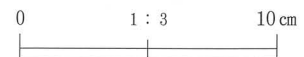
RG454-1 (186)



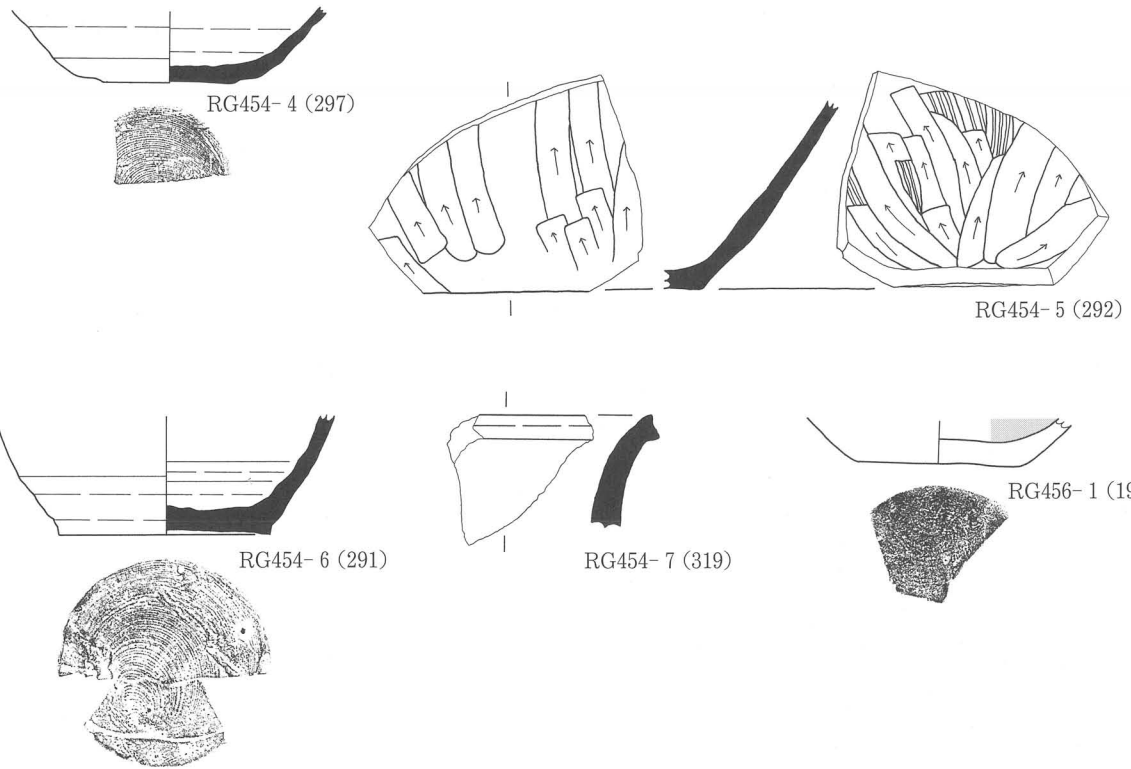
RG454-2 (187)



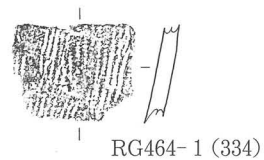
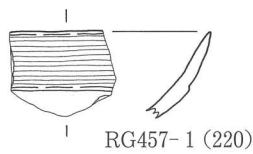
RG454-3 (185)



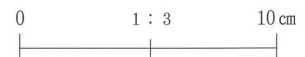
第82図 RG453・454 (1) 出土遺物



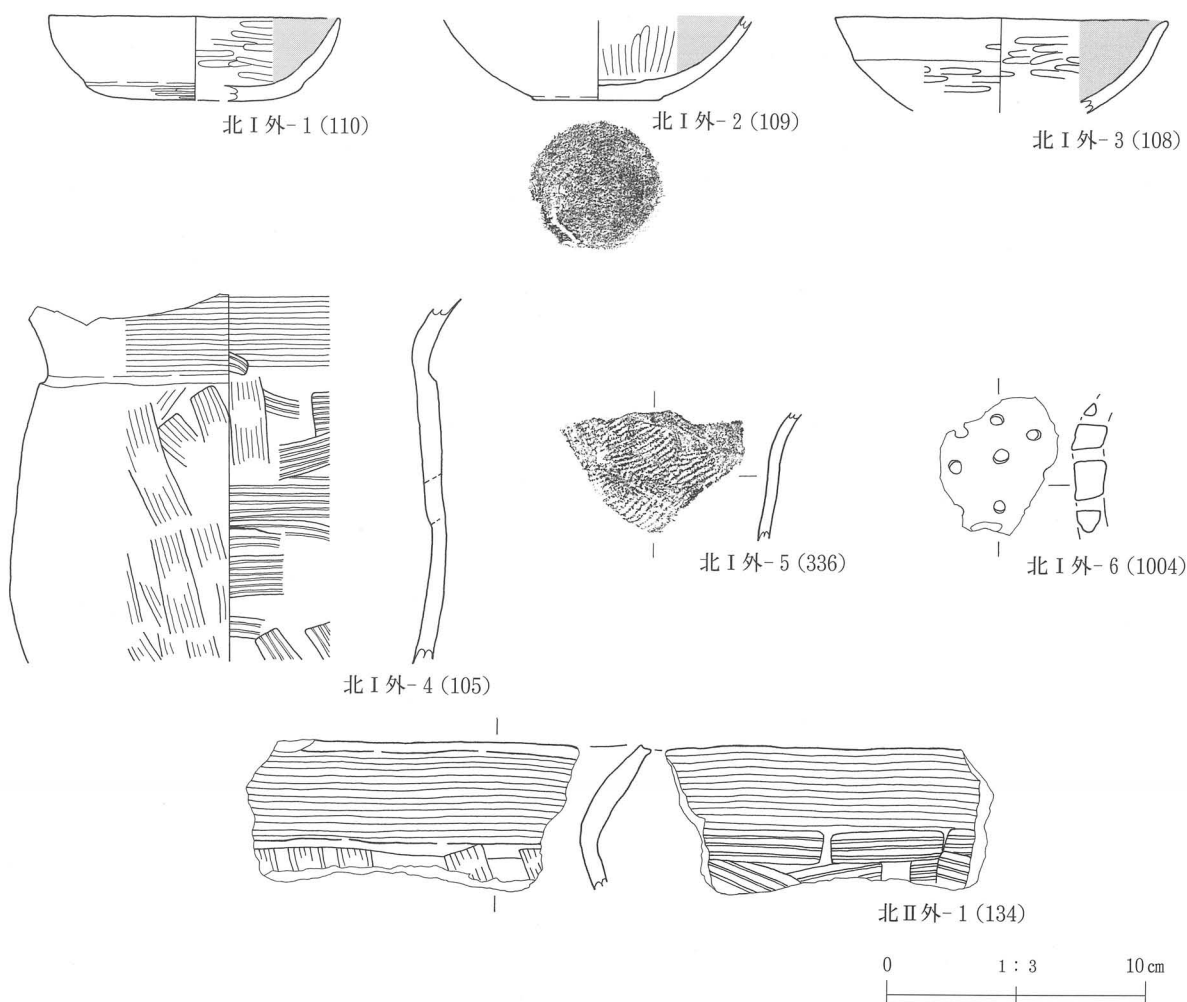
掲載番号	写真 図版	登録 番号	層位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎土 (含有物、 色調等)	備考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
RG454-1	70	186	埋土上層	土	環	IA	RN・ HM	RN・ HM	-	HM	HM	-	◎	(14.4)	-	(3.4)	20	10YR1.7/1 黒	
RG454-2	70	187	埋土	土	環	IA 2	-	-	回転 糸切	-	HM	-	○	-	5.5	(1.2)	10	10YR8/4 浅黄橙	
RG454-3	70	185	埋土上層	土	甕	IA	RN	RN	-	-	-	-	×	-	-	(5.1)	-10	7.5YR7/6 橙	
RG454-4	/	297	埋土	須	環	II B 2	-	RN	回転 糸切	-	RN	RN	×	-	(5.0)	(2.8)	-10	N6/0灰	体部下半丸味帯びる。写真なし
RG454-5	70	292	埋土上層	須	甕	II A	-	HK (下半)	-	-	H・ HK	-	×	-	-	(8.4)	-10	N5/0灰	
RG454-6	70	291	埋土。西端 部底面近く	須	瓶	II A	-	RN	回転 糸切・ 磨削 の線跡有	-	RN	RN	×	-	8.3	(4.7)	-20	5Y2/1黒・5Y 5/2灰オリーブ	
RG454-7	70	319	埋土	須	甕	II A	RN	-	-	RN	-	-	×	-	-	(5.2)	-10	2.5Y6/1 黄 灰	頸部の一部分
RG456-1	71	190	埋土	土	環	IA 2	-	-	回転 糸切	-	-	-	○	-	(6.4)	(1.7)	10	10YR8/4 浅黄橙	



掲載番号	写真 図版	登録 番号	層位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			黒色 処理	計測値 (cm)			残存率 (%)	胎土 (含有物、 色調等)	備考	
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高				
RG457-1	71	220	埋土	土	環	AI?	YN	-	-	-	-	-	×	-	-	(3.4)	-10	10YR8/3 浅黄橙	分類は推定	
RG464-1	71	334	層位：埋土				種別：縄文土器	部位：体部		施文原体・文様の特徴：LR										

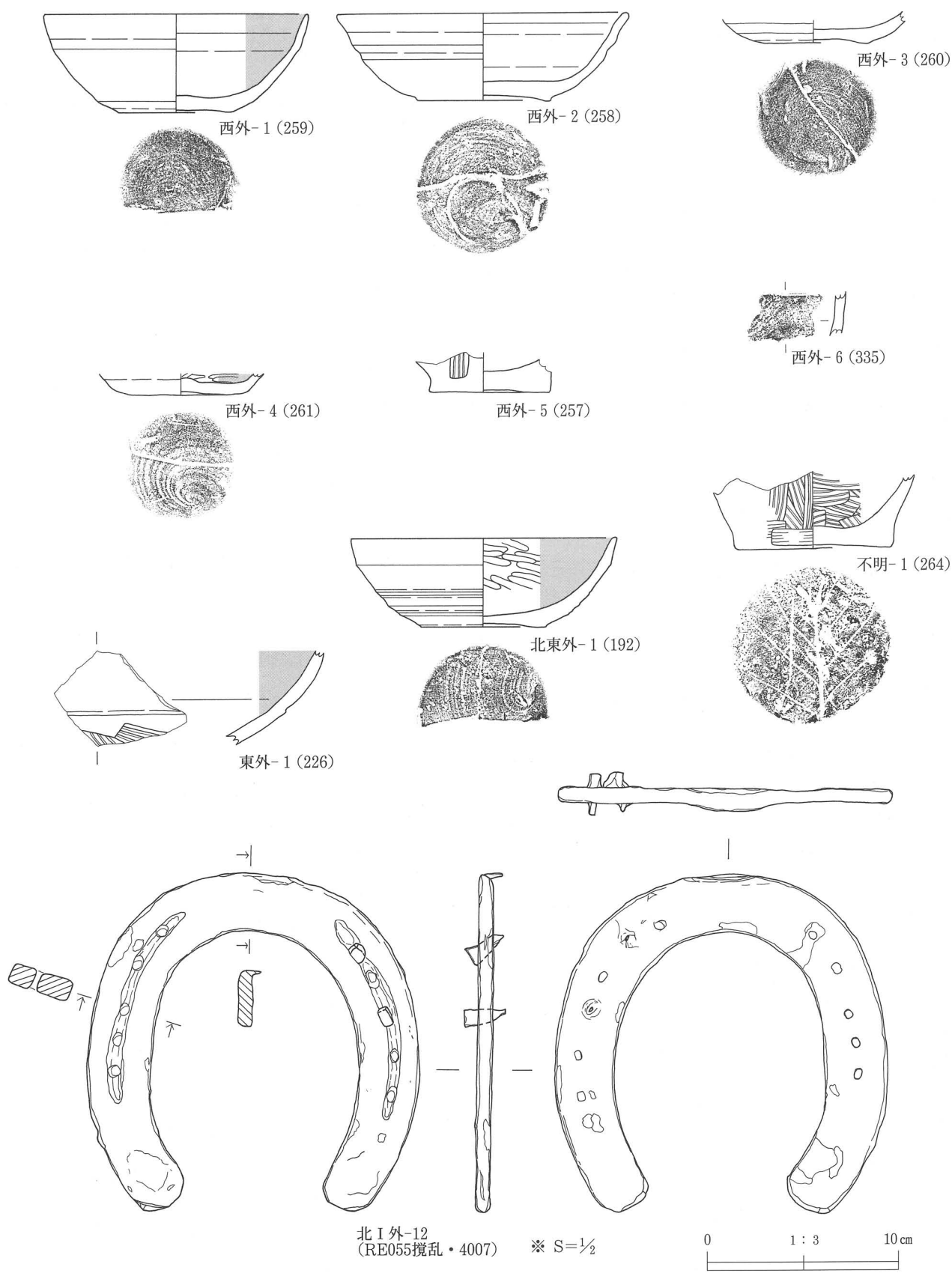


第83図 RG454 (2)・456・457・464 出土遺物



掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種別	器種	分類	外面調整			内面調整			計測値 (cm)			残存率 (%)	胎 土 (含有物、 色調等)	備 考	
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部	黒色 処理	口径	底径				器高
北 I 外-1	71	110	南西側攪乱	土	坏	AIM2	-	-	HM	HM	HM	HM	○	(11.4)	-	3.3	20	7.5YR6/4 にふい橙	胎土黒-水酸化鉄有 小型
北 I 外-2	71	109	トレンチ9	土	坏	IA2	-	RN	糸切残	-	HM	-	○	-	4.8	(3.2)	30	7.5YR5/4 にふい褐	
北 I 外-3	71	108	トレンチ9 表土層	土	坏	AI	RN	?	-	HM	HM	-	○	13.0	-	(3.7)	15	7.5YR5/6 明褐	底部欠損
北 I 外-4	71	105	トレンチ10 表土層	土	甕	AIT2	YN	HN	-	YN	H・ HN	-	×	-	-	(14.4)	20	10YR4/3に ふい黄褐~4/4褐	
北 II 外-1	71	134	東端埋土	土	甕	AI	YN	HN	-	YN	H	-	×	-	-	(5.9)	-10	7.5YR6/4 にふい橙	
北 I 外-5	71	336	層位：トレンチ 4埋土	種別：縄文土器		部位：体部		施文原体・文様の特徴：LR											
北 I 外-6	71	1004	層位：トレンチ5表土層	器種：土師器甕			重量(g)：25.6			色調：7.5YR6/6			底部						
北 I 外-7	71	2005	層位：北 I 区	器種：磁器碗			残存部位：口縁部			碗 19世紀以降			表採 写真のみ						
北 I 外-8	71	2006	層位：トレンチ8表土層	器種：磁器			残存部位：口縁部			猪口 18後半~19世紀			写真のみ						
北 I 外-9	71	2007	層位：表土層	器種：磁器			残存部位：口縁部			急須又は土びん 19世紀			写真のみ						
北 I 外-10	71	2011	層位：-2-A09 1区攪乱土	器種：陶器鉢			残存部位：底部~体部 下半			鉢 19世紀以後			2010と同一個体 写真のみ						
北 I 外-11	71	4013	層位：Pit埋土	種別：釘			重量(g)：4.2			計測値(cm)：長さ(4.0) 厚さ0.7			写真のみ						
北 I 外-12	72	4007	層位：RE055攪乱北 I 区	種別：蹄鉄			重量(g)：209.15												

第84図 北 I・北 II 遺構外出土遺物



第85図 西・東・北東・不明・RE055攪乱 遺構外 出土遺物



掲載番号	写真 図版	登録 番号	層 位	種別	器種	分類	外 面 調 整			内 面 調 整			黒色 処理	計 測 値 (cm)			残存率 (%)	胎 土 (含有物、 色調等)	備 考
							口縁・ 頸部	体部	底部	口縁・ 頸部	体部	底部		口径	底径	器高			
西外-1	72	259	表土層	土	坏	IA2	RN	RN	回 転 糸 切	-	-	-	○	(13.8)	5.8	5.2	50	10YR7/3 に ぶ い 黄 橙	内面黒色処理剥落 内外面共に磨減
西外-2	72	258	西・北トレン チ内東側	土	坏	IB2	RN	RN	回 転 糸 切	RN	RN	RN	×	(15.2)	7.0	4.6	50	7.5YR7/8 黄 橙	あかやき土器
西外-3	72	260	旧河道南側 トレンチ	土	坏	IB	-	-	回 転 糸 切	-	-	-	×	-	5.8	(1.2)	20	7.5YR7/4 に ぶ い 黄 橙	磨減顕著 内面黒色処理されていた 可能性有
西外-4	72	261	西・北トレン チ内東側	土	坏	IA2	-	RN	回 転 糸 切	-	HM	-	○	-	5.6	(1.1)	-10	7.5YR6/6 明 黄 褐	磨減顕著
西外-5	72	257	旧河道南側 トレンチ	土	甕	AI	-	H	HN?	-	-	-	×	-	6.4	(2.1)	-10	10YR7/3 に ぶ い 黄 橙	
東外-1	72	226	皿層	土	坏	AIM2	-	H	-	-	-	-	○	-	-	(4.8)	-10	10YR7/4 に ぶ い 黄 橙	分類は推定
不明-1	72	264	不明 (北Ⅱ区表土)	土	甕	AI	-	H	木 葉 痕	-	H	-	×	-	8.3	(4.1)	-10	7.5YR7/6 橙	
北東外-1	72	192	-2A03t 検出面	土	坏	IA2	RN	RN	回 転 糸 切	HM	HM	-	○	(14.0)	(6.6)	4.7	30	10YR6/4 に ぶ い 黄 橙	
西外-6	72	335	層位：検出面	種別：縄文土器		部位：体部			施文原体・文様の特徴：LR										器面磨減
東外-2	72	2004	層位：皿層	器種：磁器碗			残存部位：口縁部			碗(肥前)18~19世紀			写真のみ						
-2-A-1	72	2008	層位：-2-A 9g区 IV層上面	器種：磁器碗			残存部位：口縁部			碗 19世紀以降			写真のみ						
-2-A-2	72	2009	層位：-2-A 13v区 攪乱土	器種：磁器碗			残存部位：体部			碗 18後半~19世紀			写真のみ						
-2-A-3	72	2010	層位：-2-A 8~9r区 攪乱土	器種：磁器鉢			残存部位：口縁部			鉢 19世紀以降			2011と同一個体 写真のみ						

第86図 遺構外 出土遺物

## V まとめ

### 1 遺構について

本年度行われた第44次調査は、調査対象面積3,527㎡、調査面積2,907㎡、調査期間平成14年4月9日～8月5日、調査区は新築された住宅間との宅地跡、休耕田と畑地跡が主であり、5小調査区（北Ⅰ区・北Ⅱ区・北東区・東区・西区）に分かれている。検出遺構数は、竪穴住居跡20棟（奈良時代11棟・平安時代9棟）、掘立柱建物跡5棟、土坑37基、竪穴状遺構2棟、焼土遺構2基、溝跡25条、井戸跡1基、柱穴状土坑約130基であった。本遺跡の調査は第44次を数えることより、遺跡の南東部分を除いては、住宅に囲まれた区域を調査していくという状況である。これは、調査の中で排土処理や地域住民からの苦情（作業進行や騒音）等問題を有することにもなるが、一方で過去の調査からある程度の予想や仮説を導き出してから調査を行うことができるというメリットも有することになる。

まとめにあたっては、他の調査年度に比して調査面積も狭く、検出遺構数も少なかったことから、各小調査区毎のまとめを中心に行い、終わりに第23・26次調査とデーターを重ね、台太郎遺跡第44次調査についてのまとめとした。

#### (1) 北Ⅰ区 (-2-A～-3-A グリッド)

##### ①竪穴住居跡

〈検出数〉全9棟、内3棟は過年度調査済みの部分があり未調査部分について調査を行った（RA185・393・396）。不掲載遺物の整理とカマドの方向から、一部推定も含み奈良時代の竪穴住居跡8棟（RA185・393・396・550・552・553・554・555）、平安時代の竪穴住居跡1棟（RA551）である。検出面は黄褐色土上面である。宅地跡でありかなりの攪乱がみられたが、丁寧に精査を進めると住居跡の全容を明らかにすることが出来、遺物の数も多い。RG452を中心とすると西側に奈良時代、東側に平安時代の住居跡が分布する。

〈平面形〉 方形 隅丸方形

〈規模・主軸方向－南北中心・カマドの位置と向き－主に北から〉

表5 北Ⅰ区竪穴住居跡一覧

住居跡	時代	規模（東西×南北）m	主軸方向	カマドの位置と向き
RA185	奈良	4.4×(1.05)・中形	N-9°-W	北壁中央西寄 N-11°-W
RA393	奈良	(4.3)×5.6・中形	N-24°-E	(過年度調査済み)
RA396	奈良	不明	N-36°-E	不明
RA550	奈良	3.9×3.6・小形	N-40°-W	北壁中央東寄 N-40°-W
RA551	平安	3.5×3.7・小形	N-25°-W	西壁中央南寄 S-74°-W
RA552	奈良	2.8×2.5・小形	N-63°-W	西壁中央南寄 N-63°-W
RA553	奈良	(6.8×6.5)・大形?	N-30°-W	北壁中央 N-32°-W
RA554	奈良	不明	不明	不明
RA555	奈良	4.55×4・中形	N-55°-W	西壁中央南寄 N-58°-W

奈良時代に於いては小形～大形（一部推定）、カマドの位置は北～西壁の中央ないし北か西に寄る。平安時代に於いては小形が一棟、カマドの位置は西壁南寄である。重複については、奈良時代は二ヶ所みられ、一ヶ所はRA552（小形）とRA553（大形）、もう一ヶ所は不確定ながら同規模のRA554とRA555である。

〈埋土・壁・床面・Pit〉奈良時代の住居跡に於いては、埋土は暗褐色土～黒褐色土が主体、壁の立ち上がりは明瞭である。壁高残存値は10～30cmの範囲で、遺構により違いがある。床面は平坦である。上層において攪乱が入り込んでいる場合でも、床面までは至らないのみみられる一方で、RA552・553では、攪乱の土が床面まで至る。住居を作る際、深く掘りこんでいたからであろう。RA393では主柱穴がみとめられ、RA550では主柱穴とみられる柱穴がある。

平安時代の住居跡に於いても、埋土は暗褐色土～黒褐色土が主体、壁高残存値は8～20cm、特に南端のRA551の残り状態は悪い。付近にRB047・048と柱穴状土坑群があり、その柱穴が床面やカマド内まで入り込んでいる。

〈カマド〉奈良時代の住居跡に於いて、カマドの精査を行ったのは8棟中5棟である。方向は北西向き、作り方は割貫式2（掘込式の可能性も有）掘込式3である。袖は黒褐色土～黄褐色土で構成され、袖が無いものも、焼成良好の燃焼部中心が残る場合がある。燃焼部の中心は明確、RA185では支脚につかわれた礫やRA555では支脚抜取痕が認められる。平安時代の住居跡は1棟について精査を行った。方向は南西向き、作り方は掘込式1（割貫式の可能性も有る）、袖は黒褐色土で構成される。

- ②掘立柱建物跡 3棟検出した。RB046はRE055を伴う曲家とみられ、RB047は間隔がRB046と同じく柱中心間1mを意識して作られており、ほぼ同時期の建物跡とみられる。RB048は主軸が南北方向を示し、RB047同様、柱穴中には礎が認められる。
- ③土坑 24基検出した。埋土中に焼土や炭化物を含み、RD1045・1048・1050・1051・1055・1067のように何かを焼いたと考えられる土坑、また平面形が方形等を呈する土坑もみられるが、出土遺物も少なく、時期と性格については判定できない。
- ④竪穴状遺構 RB046に伴う馬屋部分である。三時期に区分されている。
- ⑤焼土遺構 2基検出、小規模ながら焼成が良好である。
- ⑥溝跡 11条検出する。東西に走る溝跡については、過年度の調査区の溝跡に続くものになる。RG448を中心に、不掲載遺物となる土師器・甕と坏の小破片は多いが、攪乱が多くまた重複部分も有ることから、遺物をもって時期を特定することは出来ない。
- ⑦柱穴状土坑群 北Ⅰ区中央から南側にかけてあり。特に南側には礫が入るものがあり、より多くの掘立柱建物跡を構成するとも考えられる。
- ⑧不掲載遺物からみた傾向 非ロクロ・甕と坏の破片が主になることから、やはり奈良時代の住居跡等の遺構が集まっている区域といえよう。種々の遺構との重複のみみられる溝跡に関しては、非ロクロとロクロの土師器破片数の混じっている状況である。総じて竪穴住居跡内から出土する遺物と同傾向を示している。

## （2）北Ⅱ区（-3-A グリッド）

### ①竪穴住居跡

〈検出数〉 1棟で遺物の特性より奈良時代に属する。

〈平面形〉 一部推定だが方形

〈規模・主軸方向・カマドの位置と向き〉 検出した住居跡はRA549、規模東西(5.0)×南北5.4m、大きめの中形で主軸N-26°-E、カマドの位置は北壁か、調査区外になるので詳細は不明である。埋土は暗褐色土～黒褐色土主体、壁の立ち上がりは明瞭で、残りのよい住居跡である。床は締まりがあり、支柱穴とみられる柱穴もある。

②土坑 北Ⅱ区に於いて特筆すべきは、重複するRD1059・1060・1061・1068・1072である。黄褐色土上面、黒褐色土～暗褐色土の落ち込みで検出可能であった。出土遺物は、AI類甕-球胴・長胴・小型甕、AI類環-丸底・内外面又は外面に段が認められるもの、推定 径20cmに近い大型環等、多種にわたる。埋土は黒褐色土～暗褐色土主体、埋土中層～下層にかけて土師器が出土し焼土と炭化物を含む層状の堆積より、埋土と土師器が人為的に投げ込まれた土坑と考えられる。

③不掲載遺物からみた傾向 一部須恵器とロクロ使用の口縁部破片のみられる他はほぼ非ロクロの土師器破片である。北Ⅰ区同様、奈良時代の遺構の集まっている区域であるといえよう。

### (3) 北東区 (-2A ~ -3A グリッド)

#### ① 竪穴住居跡

〈検出数〉 6棟検出、うち3棟については調査区外に延びるため全容を把握することは出来ない。不掲載遺物の整理と遺構内出土遺物の傾向より、平安時代の遺構と推定される。

〈平面形〉 方形 隅丸方形

〈規模・主軸方向・カマドの位置と向き〉

表6 北東区竪穴住居跡一覧

住居跡	時代	規模(東西×南北) m	主軸方向	カマドの位置と向き
RA556	平安	4.8×4.9・中形	N-43°-W	西壁中央 N-50°-W
RA557	平安	(3.6×2.0)	不明	不明
RA558	平安	(2.7×0.5)	不明	不明
RA559	平安	2.8×2.9・小形	N-5°-E	なし
RA560	平安	4.2×(2.4)・小形	N-15°-E	南壁中央やや東寄 南北

〈埋土・壁・床面・Pit〉 埋土は主に黒褐色土～暗褐色土主体、壁は10～22cm、床面はRA556はやや北側が下がる。他は平坦だが小礫が目立つ。支柱穴が認められる住居跡は無い。カマドに関する土坑はあり。

〈カマド〉 RA556とRA560に於いて認められ、両方とも掘込式である。RA556においては袖芯材に礫が用いられている。RA560に於いては袖自体が明確にならない。加えて、いずれも燃烧部中心の焼土焼成は弱く、中心が明確にならない。

②土坑 3基検出、根痕攪乱とみられる土坑もあるが、遺物が出土している土坑もある。

③溝跡 4条検出、北側が低いことと過年度検出の東側の溝に向かって流れ込むものであろう。

RG453に於いて出土遺物が多い。器種は、小型甕、ロクロ使用の環とあかやき土器の出土がみら

れる。また、不掲載遺物の整理より、須恵器の出土もあり、破片に於いてもあかやき土器の出土が多い。出土状況についての細かい記録が無いため、投げ入れか流れ込みの遺物かは断定できない。意図的に、投げ入れられた可能性のあることだけを記す。

- ④不掲載遺物からみた傾向 a. 非ロクロとロクロの坏・甕が混在する状態である。また、ロクロ・坏（内黒とあかやき）の他にも須恵器破片の出土も認められる。
- b. ロクロ・杯の内黒と、あかやき土器の破片をみた場合、同じ又はやや内黒の多い様子であることより、遺物に関しても9世紀中～後半に属するものがみられる区域と考えられる。RA556の北西向きのカマドの位置とも合致するものである。
- c. RG453についても③で書いた傾向のとおりである。非ロクロ・甕とロクロ・坏の破片が特に多い。RG454に於いても、かたよりがみられていることから、時期とともに遺構の性格についても予想する資料とはなる。

#### （4）東区（3Fグリッド付近）

##### ①竪穴住居跡

〈検出数〉1棟、遺物の特徴とカマドの向きより奈良時代に属する。

〈平面形〉隅丸方形

〈規模・主軸方向・カマドの位置と向き〉検出した遺構はRA547、規模東西5.7×5.3m中形、主軸N-24°-W、カマド北壁の中央部分で向きはN-21°-Wである。埋土は暗褐色土主体、壁の立ち上がりは明確で、壁高残存値は30～42cmと残りのよい住居跡である。袖構成土はやや締まりの有る黄褐色土主体、中心部の焼成は良、間仕切、周溝と支柱穴が確認できる住居跡である。

- ②土坑・溝跡・堀跡 RG458は方形に巡る溝跡である。断面は箱形、底面は平坦であるが部分的に深く掘り込まれているところもあり、Ⅱ期に分かれる可能性もある。昨年度の調査区の溝跡と結びつくが、西側で礫層に至るため消滅している部分がある。出土遺物は、不掲載遺物の整理より、埋土上層から出土した非ロクロ・甕体部破片が多いが、立体になるものが少なく、遺構の性格を裏付ける資料には出来なかった。

RG461は狭い東側調査区を東西に横切る、やや小規模ではあるが堀跡である。西側は昨年度の調査区に至るが、境付近では埋土と底面には礫が多くなり、礫層に至る。全容及びその性格については、東区全体の調査を待ちたい。

RG458の内側と外側には3基の土坑がある。RD1040は溝の内側にあり、埋土は黒褐色土～暗褐色土～にぶい黄褐色土主体、上層と周辺に焼骨と焼土がある。出土遺物は非ロクロ・甕と坏の破片である。RG458に関しては、非ロクロ・甕体部破片が多い。RD1039は溝の外側にあり、埋土は黒褐色土～褐色土主体、焼土無し、出土遺物はRD1040と同傾向である。RD1075は溝の外側にあり、埋土は等はRD1039と同傾向である。

3基ともわずかではあるが遺物があり、その傾向より東区の住居跡等と同じ古代の遺構とみられる。

- ③掘立柱建物跡 1棟検出、2間×2間の方形で主軸はN-21°-W、RA547と同じである。断面の観察よりRG458よりも古く、遺物がないので断言出来ないが、周囲の遺構と同じく古代の倉庫のような建物跡であったとみられる。

- ④不掲載遺物からみた傾向 東区の遺構の状況と合致する傾向にある、時々みられるロクロの土師器については、投げ込みによるものであろう。RD1040とRG448に関しては前述の②のとおりである。遺構の時期に関しては問題はないが、体部破片の数が著しく多いことは、こわして意図的に投げ入れた等、何らかの理由を付加したい。

(5) 西区 (1-C グリッド)

①竪穴住居跡

〈検出数〉全部で3棟検出、不掲載遺物の整理と掲載遺物、カマドの方向より奈良時代の住居跡1棟、平安時代の住居跡2棟である。

〈平面形〉隅丸方形

〈規模・主軸方向・カマドの向きと方向〉

表7 西区竪穴住居跡一覧

住居跡	時代	規模(東西×南北) m	主軸方向	カマドの位置と向き
RA562	奈良	3.3×3.3・小形	N-31°-E	西壁中央 N-50°-W
RA563	平安	2.2×2.4・小形	N-11°-W	北西壁西寄 N-18°-W
RA564	平安	2.8×(2.5)・小形	N-40°-W	北東壁中央 N-45°-E

RA562のカマドの作りは掘込式か袖構成土は黄褐色土主体、燃焼部中心の焼成は中、壁の残りは悪く、検出面よりすぐ床面に至る状態である。RA563・564ともカマドの作りは掘込式、袖は検出されない。検出時点でカマドの位置は明確であったが、削平のため重複関係は明確にならない点もある。

②掘立柱建物跡

詳細は前述の通りであり、RB044掘立柱建物跡を検出した。旧河道上で検出したので、新しい時代の建物跡とみられる。

③溝跡・井戸跡

RG464・465・466の3条である。積極的に時期を断定できる遺物は出土していないが、重複関係よりRA563・564よりも古い古代の溝跡とみられる。

④不掲載遺物からみた傾向 他の区域同様、遺構の状況と合致する傾向にある。

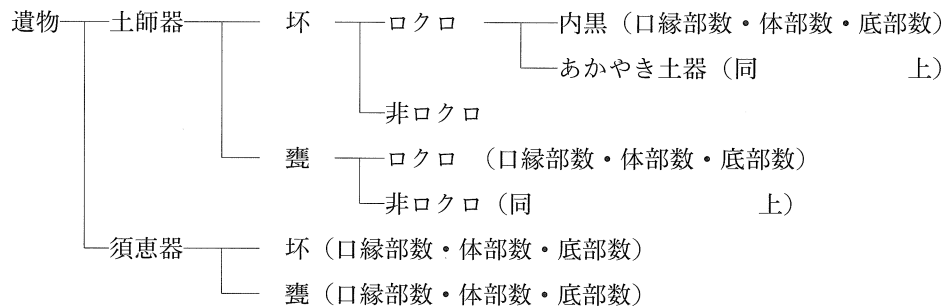
西側に広がる旧河道中より出土する遺物についても、土師器・非ロクロ・坏・甕、ロクロ・坏(内黒とあかやき)と甕、須恵器がみられ、西区の遺構が平安時代を中心にしたものであることを示している。

(6) 不掲載遺物の整理

- ①整理方法 今回の整理において、小調査区毎に不掲載遺物の整理を行い、遺構や小調査区毎のおよその時期を考える資料とした。結果は表8～15 「台太郎遺跡不掲載遺物一覧」に示した通りである。以下本文と一緒に参照されたい。分類は以下の方法による。

a 遺構名で仕分けする。

- b 土師器と須恵器で分ける。
- c 出土地点毎に整理する。



以下の処理に於いては、データーとして利用できるものとして、数の多い口縁部破片数と体部破片数の関係に着目した。

- ②分析 1 表に示した内容は、周囲の状況とその形態だけから推定した遺構の時期的分布とほぼ合致するものと言えよう。すなわち、奈良時代と平安時代の遺構が混在する北Ⅰ区と西区に於いては、ロクロ使用と未使用の遺物が混在する。一方、昨年度の調査と今次調査の遺構からみて予想が立てられた東区に於いては、ロクロ未使用の遺物の出土が大部分であった。同様なことは、北Ⅱ区と北東区においても言えることであった。
- ③分析 2 次に不掲載遺物の多い遺構に限り、口縁部と体部の破片数関係を整理したものが第87・88図である。この図からは以下3つの傾向が読みとれる。
  - a ある一部分に集中するもの—RA551・563
  - b 集中する部分がありながら他に特に多い部分のあるもの—RA393・547・550 RG448・453
  - c 集中点がなく全体的に分布するもの—RA550・556・564 RD1060 RG454
 RG448 (体部破片数が多い) やRG453 (口縁部破片数が多い) のように特殊な部分を有するものについては流れ込みや投げ込み等のことも考えられたが、現場における資料収集不足があり、可能性のみ記す。
- ④分析 3 器種毎に口縁部数と体部数の関係を整理したものが第89図である。器種毎に整理すると以下のようになる。
  - a 非ロクロ・甕—器種特性上体部破片数の割合が多く、ばらつきがある。
  - b ロクロ・甕—集中する部分に於いては口縁部破片数=体部破片数である。周辺にばらつきが見られるがaに比べると平均化している。
  - c 非ロクロ・坏—口縁部破片数=体部破片数である。

#### (7) 竪穴住居跡の床面積と主軸方向

台太郎遺跡第44次調査における竪穴住居跡の床面積と主軸方向について、過去の第23次と26次調査の結果とあわせてみた。本次調査においては調査遺構数が少なく、その結果だけでは傾向が把握できないため比較を試みた。以下わかったことについてまとめる。

##### ①奈良時代の竪穴住居跡について

- a 今次調査区の住居跡は小形～中形に属するものがみられる。第23・26次調査の住居跡の数の多い部分の分布に重なる範囲内にある。

- b 住居の主軸方向についても同様である。主軸方向は北西方向を示す。第23・26次調査においては北から約30°西に傾くものと、西から約25°北に傾くものに集まる傾向が伺える。カマドの向きと一致する。

②平安時代の竪穴住居跡について

- a 第23・26次調査においては奈良時代に比べ住居跡はより小形化の傾向をたどる。第44次調査においても同様の傾向が伺える。
- b 住居跡の主軸方向については、今次調査は分散する傾向にあるといえよう。完全に南方向を意識した住居跡主軸（カマド方向）が2例にわたりみられる。第23・26次調査においては西―北―東―南と多方向にわたっている。住居跡の中心は今次調査区が北東区・北区・西区であり、過年度調査区がそれより西乃至東であったこと、すなわち場所（占地）による違いから生じた結果であろうか。今次調査区の遺構数が少ないため傾向についての考察には至らない。

竪穴住居跡の床面積と主軸方向について、同じ盛南開発関連遺跡である野古A遺跡でも行った。台太郎遺跡よりも少し西側に位置する遺跡であるが、台太郎遺跡と共通する部分とやや異なる傾向がみられた。「野古A遺跡第15次発掘調査報告書」（第421集）を参照されたい。 (阿部 眞澄)



## 2. 古代台太郎ムラについての若干の考察

### (1) はじめに

前節で阿部が報告したように、今次調査においては8世紀から9世紀にかけての竪穴住居跡が20棟検出されている。台太郎遺跡でこれまでに精査されている古代の住居跡の年代は、古墳時代から10世紀代までと幅広いが、この節では今次調査で検出された住居跡の時代に限定して、出土遺物のまとめと当時の台太郎ムラに関する若干の考察を行いたい。

### (2) 出土遺物について

#### ①非ロクロ成形土器〔第91図〕

酸化焰焼成された、いわゆる土師器である。器種は坏・高坏・甕・鉢・多孔式甌・小型手捏ね土器の各種である。以下で器種別に述べる。

##### a. 坏

丸底タイプの作りのものと平底風の作りのものが見られる。これまでの研究では前者が相対的に古いタイプのものであるとされている。前者には口縁部から体部にかけて、あるいは体部の下半に横走沈線が施されているものが多く(AIM1・2類)、横走沈線が無いもの(AIM3類)もあるがその出土点数は少ない。共に体部は丸みを持って底部から立ち上がる。後者は丸底タイプのものが漸次平底風に変化してきたものとされており、形態的にはロクロ成形の坏に近い。やはり体部外面に横走沈線の施されるもの(AIH1・2類)と、沈線の無いもの(AIM3類)の2種が存在しているが、出土点数の傾向として無沈線のものの割合が増している点は注意される。以上の形態の坏以外にも、底部が割に平坦な作りで、体部がやや直立気味に立ち上がるタイプがみられる(RA547-2、RD1060-5)。このタイプの出土点数は僅少であったが、RA547住居跡およびRD1060土坑から各1点出土しており、いずれもAIM1・2類の丸底タイプに共伴する。特にRD1060土坑出土の個体(RD1060-5)は、埋土上層から中層にかけて一括出土した多量の投げ込み土器の1つであったゆえ、共伴関係を検討するには良好な資料であろう。

##### b. 高坏

RA547住居跡の埋土中から1点出土している(RA547-3)。体部外面に段を有する丸底・内面黒色処理された坏に高台部が取り付けられたような器形である。器面は内外ともよく研かれており、高台部は下端を欠損しており器高は不明である。丸底タイプの坏(RA547-1)が共伴する。

##### c. 甕

球胴タイプのものと長胴タイプの2種が出土している。球胴タイプは摩滅のために分からないものもあるが、口縁部内外面ともヨコナデ・体部内外面ともハケメ調整を基本とする。RD1060-9は口縁部に稜を持つ。

長胴タイプの甕には器形の違いが認められた。これまでの研究を参考に旧いとされるものの順に述べれば、①体部最大径を体部下半に持つもの(RA549-5・6、RA185-6)、②口縁に稜を持ち横走沈線が施されたもの(RA547-8・9、RA562-4)、③口唇部が角張って最大径を体部に持ち、底部の外方への張り出しが弱いもの(共伴するものも含む。RE056-4・5、RA555-2、RA393-1)、④口縁部幅が狭くなり、器形的にはロクロ成形甕に類似するもの(RA561-1)となるうか。

#### d. 鉢

器高よりも口径が大きく（大きいと推定されるものも含む）、坏とは形態を殊にするものを基本とし、これらに器形の類するものを鉢として分離した。

器形の違いから3つのタイプに分離出来る。1つは体部内外面に段を有し、平底で、体部が外傾して立ち上がるもの（RA550-3、RA550-5、RD1060-6）。このタイプには内外面黒色処理されたもの、非黒色処理のもの2種が存在する。2つ目は体部が球体状の丸みを持ち、口径が体部最大径よりも小さく窄まっているもの（RA550-9、RA550-10、RA555-6）。このタイプの底部は平底のものと同丸底のものが存在しており、内外面黒色処理されるものもあった。3つ目は長胴甕を小型化したような器形のもの（RA185-4、RA555-7、RG450-1、RD1060-7）である。このタイプには、頸部に多条の横走沈線をもつもの、頸部有段のもの、頸部の段が不明瞭化しているものの3種が存在する。

#### e. 甌

北I区のトレンチ5・表土層より小破片が1点出土している（第84図・北I外-6）。多孔式甌の底部の破片である。遺構に伴わず、器形も不明である。

#### f. 小型手捏ね土器

明らかに小型手捏ね土器と判明するのは、RA555住居跡出土の完形品1点のみで（RA555-8）、猪口のような器形である。片口風の作りかとも思われる。

### ②ロクロ成形土器〔第92図〕

焼成状況の違いから土師器と須恵器の2種に分かれる。土師器は坏・高台付坏・甕の3つの器種がある。須恵器は坏・甕の2つの器種がある。以下、土師器・須恵器に分けて器種別に述べる。

#### ②-1 土師器

##### a. 坏

土師器坏（I類）は二次調整・黒色処理の施されたタイプ（IA類）と、非黒色処理で器面に成形時のロクロナデしかなく、基本的には二次調整の施されないタイプ（IB類、いわゆる「あかやき坏」）とに大別される。

IA類で全体の器形が分かる個体はRA556住居跡出土のものが多い。第91図に掲げたRA556住居跡出土のIA類坏の法量値は、器高4.3～5.1cm、底径5.8～7.0cm、口径13.1～14.0cmの範囲に収まり、著しい器形の差異は認められない。RA563-2もこれに器形が近似する。底部切り離しは回転糸切無調整が主体をなすが、RA566-3はヘラケズリの二次調整を施されており、ケズリは体部下半にまで及んでいる。以上の坏類は、法量が志波城跡出土の遺物に近い個体もあるものの、体部が丸みを持って立ち上がる器形ばかりであり、9世紀中葉の年代観が想定される。その他に底径が5cm強と小振りなもの（RA555-1、RD1071-1）、反対に底径8.0cm・口径18.2cmとやや大きめの個体も出土している。

IB類で全体的器形の分かる個体もRA556住居跡出土のものが多かった。器高が6cm弱～6cm強のもの（RA556-10・11）と器高5cm弱～5cm強のもの2タイプ存在するが、何れもRA556住居より出土しており、両者にそれほどの時期差を想定し得ないであろう。RA556-17の底部がヘラケズリの二次調整を受け、RA556-13の体部がヘラケズリされているが、その他の出土個体には二次調整は無い。

#### b. 高台付坏

5点出土している(RA556-6、RA563-4、RG453-4・5・6)。完形品は1点もない。RG453-6以外はすべて内面黒色処理が施されている。

#### c. 甕

出土点数が僅少である。全体の器形が判明するのはRA551-3の小型甕のみであった。その他RA564住居跡、RG453・454溝跡で破片が出土している。

### ②-2 須恵器

#### a. 坏

底部は全て回転糸切り無調整である。器形は体部に若干の違いを認めることが出来る。すなわち体部が底部より直線的に立ち上がるもの(RA556-26、RA556-27、RA556-28、RD1074-2)と、若干内湾しながら立ち上がるものの2つのタイプが存在する。前者は口径が14.7~15.0cm、底径が6.0~7.2cm、器高が4.8~5.2cmを計測し、後者は口径が13.8~15.8cm、底径が5.2~6.0cm、器高が4.2~5.2cmを計測する。各タイプ内で個体間の著しい計測値の差異は認められない。

器形を見た場合には前者が志波城跡などで出土するものと類似しているが、その大半が出土しているRA556住居跡では、前記のように9世紀中葉とみられるIA類の坏が共伴していた。また同住居の主軸方向やカマド位置が前代の奈良時代の様相を引きずっていることから、これを積極的に9世紀初頭の住居跡とは断言し得ない。なお掲載した須恵器(Ⅱ類)の大半は北東調査区・RA556住居跡の埋土中、床面、カマド内出土のものであり、この点からも今次調査においてはRA556住居跡が特異な存在であった。

#### b. 甕

器形がある程度分かって、甕と判断されるものは3点、RA556住居跡で出土している(RA556-31、RA556-32、RA556-33)。RA556-31・33は成形後に体部がヘラケズリされている。RA556-32は外面にタタキメ・内面にアテグ痕がみられ、外面を叩いた後に3箇所横走する沈線が施されている。これら以外にも須恵器甕の可能性のあるものが出土してはいるが、何れも一部分の破片であるために壺との識別が難しい。

### ③土製品

出土した土製品は全部で僅かに3点にすぎない。RA393住居跡では床面で検出されたPit2の埋土下層から紡錘車のはずみ車部が出土している(RA393-7)。軸部は木っ端ないしは、出土事例の知られた細い棒状の鉄の類であったかと思われる。

RA550住居跡のPit1では土玉状の製品が出土している。焼成前の貫通孔を2箇所もつものであるが、その用途や製品の性格は不明である。

RA556住居跡では住居本体の埋土中から鞆の羽口破片が出土している。大きさと形状は、断面図作成部分において外径約6cm・内径2.5cmの円形を呈すると推定復元される。被熱のためか脆くなっている。破損品が廃棄されたものであろうか。

#### ④鉄

古代の遺構から出土した鉄製品は若干7点に過ぎない。完形品は一つもなく、部分的なものの図化・掲載にとどめた。種別は、釘（RA185-11、RA393-11、RA393-13、RA549-10）、刀子（RA393-12、RA564-10）および種別不明の鉄製品である。RA556住居跡では鞆の羽口破片が出土しているから、小鍛冶くらいは集落内で行われていたのかもしれない。

### （3）古代・台太郎ムラについての予察

過去台太郎遺跡の調査は、盛岡市教育委員会および岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによって、今次を含め49次に涉って行われてきた。現在、発掘調査の成果を総括すべき時期にきているが、整理期間の制約から台太郎遺跡全体に関する詳細な検討は些か難しい。よって以下では今次調査の成果を中心に据えた形で古代・台太郎ムラについて予察的報告を行わざるを得ないことをご諒解頂きたい。とはいえ調査で得られた貴重な資料を死蔵させないためにも、古代台太郎ムラについての詳細な分析検討は、今後何らかの形で行わねばならないと考えている。

#### ①文献史料にみる古代「志波村」

台太郎遺跡の北西すぐそば、雫石川の南岸には、律令国家によって造営された陸奥国最北端の城柵「志波城」跡が占地している。このことからしても、台太郎遺跡は文献史料にたびたび名を現す古代・志波村の範囲に含まれる地域であったことは今更言うまでもなかろう。8世紀末葉から9世紀初頭にかけて、律令国家が列島辺境地帯に支配領域を拡大しようと画策するなかで、恐らくは台太郎遺跡に暮らした人々も否応なく歴史の荒波にもまれることとなり、自らそれへの対応を決断したはずである。この節では、台太郎ムラを含む古代志波村について文献史料からたどれる歴史をまとめ、台太郎遺跡について考える上での前提としたい。なお文献史料および出土文字資料にみえる志波の表記は「志波」、「子波」、「斯波」の各種がある。以下、史料を引用した部分以外は便宜的に「志波」に統一して話を進めて行くこととする。

「志波」の初見記事は『続日本紀』宝亀7年（776）5月2日条「出羽国志波村の賊、叛逆して、国と相戦ふ。官軍、利せずして下総・下野・常陸等の国の騎兵を發して之を伐つ。」とみえる。この記事から、当時出羽国府が志波村を管掌していたらしいことが窺える。これより先の宝亀5年7月25日には「海道蝦夷」が桃生城を直接攻撃して西の外郭を破るといふ事件が発生しており、きな臭いときでもあった。

志波村の人々が出羽国軍と戦闘することとなった背景を考えるに、『続紀』宝亀7年2月6日条は示唆的である。即ち同条には「陸奥国言す。『来る四月上旬を取りて、軍士二万人を發し、まさに山海二道の賊を討つべし。』是において出羽国に勅して軍士四千人を發して、道を雄勝よりその西辺を伐つ。」とある。陸奥国で宝亀7年の4月に山道・海道の蝦夷を攻撃する計画があり、朝廷はさらに出羽国に対しても雄勝から出兵・攻撃を加えるように命じているわけである。恐らくは律令国家の山道地域に対する攻撃計画を察知した志波村の人々が、これに先んじて出羽国軍に急襲をかけたのではなかったかと憶測される。『続紀』宝亀8年12月14日条には「初め陸奥鎮守將軍紀朝臣廣純言す。『志波村の賊、蟻結して毒をほしいまます。出羽国の軍、之と相戦ひて敗れ退く。』云々」とみえ、これが宝亀7年のことであったとするならば、出羽国軍は志波村の人々に敗れ後退させられていたということになる。なお宝亀7年には律令国家軍が胆沢にも兵を發している（『続紀』同年11月26日条）。このような時下、志波村を含めて北上盆地に生活していた人々にとっては落ち着かない日々が続いていたことだろうと思われる。

続いて志波の地名がみえるのは『統紀』延暦8年(789)6月9日条で、「征東將軍、奏して僞す、『胆沢の地は賊奴の奥区なり。まさに今、大軍征討して村邑を剪除すれども、余党伏し竄れて、人・物を殺し略めり。また、子波・和我は僻りて深奥に在り。臣ら遠く薄伐せんと欲すれども、糧運に艱有り。云々』」とある。同年、律令国家は阿弓流為ら率いる胆沢蝦夷と戦いで多大な人的・物的被害を被っていた。この6月9日条によって律令国家は征討の当初、志波に至るまでの進軍計画を持っていたことが知られるのである。同条の征東將軍奏は続けて、志波(子波)までの行程・日程について述べ、軍事物資受納の困難さと征討軍に疲労が大きいこと、そして蝦夷は農期を逸して滅ぶを待つだけである、などと取って付けたような言い訳をして征討軍を解くことの許可を天皇に求めている。ここで注意されるのが將軍奏の次の一文である。

「蠢尔たる小寇、且(しばら)く天誅を遁れると雖も、水陸の田、耕種を得ずして、既に農時を失へり。滅せずして何をか待たむ。」

この一文は、①「久しく賊地に屯(いわ)みて、糧を百里の外に運ぶは良策に非ず。」という志波までの運糧を想定した前文を受けてのものである点、②將軍奏は征討軍を解体したいがために、志波への進軍が困難であることを口実としていると読める点、この2点より「水陸の田、耕種を得ずして、既に農時を失へり。」とは志波村の人々の状況を語っていると捉えることも可能であろう。即ち「水陸万頃にして蝦虜いきながらえり。」と言われた胆沢地方と同様に、古代志波村もまた水田・陸田の広がる景観を呈する地域であったと推測されるのである。このことは台太郎遺跡で多く検出されている様々な「溝跡」について、その性格を考える上でも重要ではないかと思われる(今次調査において、北区で検出された溝跡の中には、埋土に水酸化鉄の集積が確認されるものもあった。しかしその性格は明らかに出来なかった。)なお將軍の奏上において玉造塞より志波までの行程が具体的日数でもって示されていることは、恐らくこれ以前に朝貢関係にあった志波村の蝦夷によって、志波村の地勢やそこへ至る経路がある程度の情報として律令国家側にもたらされていた可能性を暗示しているのではなからうか。

延暦8年の蝦夷征討に失敗した律令国家は、延暦11年頃より蝦夷への懐柔策や、蝦夷内国移配の多用によって胆沢蝦夷の孤立化を画策しはじめる。その延暦11年に次のようなことがあった。

【史料】『類聚国史』延暦11年(792)正月11日条

陸奥国言。斯波村夷膽澤公阿奴志己等。遣使請曰。己等思帰王化。何日忘之。而為伊治村俘等所遮。無由二自達。願制彼遮鬪。永開降路。即為示朝恩。賜物放還。夷狄之性。虚言不実。常称帰服。唯利是求。自今以後。有夷使者。勿加常賜。

志波(斯波)村に住む胆沢公阿奴志己なる人物が帰降の意思を示すために使者を遣わせ、帰順のための障害となっている伊治村の俘囚の排除を求めているのである。これに対して陸奥国では賜物して帰してやったという。前に述べたように、延暦8年の征夷段階で志波村は胆沢と同じく征討の対象地域であり、律令国家に敵視された場所であった。この地域に居住するものが突然に帰服の意思を示してきたということに、朝廷は些か動揺したことであろう、「蝦夷のひととなりは、偽りを言って真実が無い。いつも帰服と言いながら、

ただ利益ばかりを求めている。これから以降は蝦夷の使者があったならば、常に賜い物を与えてはならない。」と陸奥国に注文をつけた。

この史料でもう一つ注目されるのは、胆沢に出自を持つと考えられる阿奴志己が志波村に居を遷すという事態が発生していたことである。この事態の発生理由は何であったのか明確にし得ないが、延暦8年の征夷への対応について阿弓流為ら首長層との対立があったと推測する見解もある。いずれにせよ、数年前までは一蓮托生であった胆沢地方の蝦夷と志波村の蝦夷との間で、律令国家への対応を巡って温度差が生じ始めていたとみることはできるのではなかろうか。具体的に言うならば、徹底抗戦の姿勢を貫く胆沢蝦夷に対して、志波村の蝦夷らは律令国家へ帰順して身の安全を確保しようとの思いを抱く者が現れてきていたということである。後年延暦21年(802)には胆沢城が造営され、そして阿弓流為・母禮らに率いられて胆沢蝦夷が降伏する。その翌延暦22年には一気に城柵が北進、北上盆地北端に志波城が造営されることとなる。胆沢蝦夷の降伏が北上盆地への律令支配域拡大の一つの契機となった訳であるが、志波村の蝦夷が好戦的な態度であったならば急な城柵の北進はあり得なかったはずで、律令国家と志波村の蝦夷との間で攻防が生じていたであろう。しかしそれが史料として残っていないことは、史料の散逸もあり得ようが、志波村の蝦夷が胆沢降伏以前に律令国家に帰順していたと考えることもできるのではないだろうか。延暦11年の阿奴志己の帰順姿勢にその端緒を認めても、強ち外れてはいないと思われる。

志波城の造営開始期は明確でないが、遅くとも延暦22年の初頭には始まっていたとみることが出来る。『日本紀略』延暦22年(803)2月12日条には「越後国をして米三十斛、鹽卅斛を造志波城所に送らしむ。」とあって、この時点で既に造営が開始されていたことがわかる。総責任者は「造志波城使従三位行近衛中將坂上田村麿」(『紀略』延暦22年3月6日条)であった。志波村の人々にとって巨大な建物が着々と造られていくのを目の当たりにすることは大いに驚きであったことだろう。

ところで、胆沢城造営時には駿河など10国の浪人4000人が胆沢城に配されており、これらの人々は胆沢城の周辺に集住させられ、労働者として造営に携わったと考えられる。その一方で志波城造営時には、移民が行われたことを示す史料は存在せず、志波城の造営を実際に担った人々は誰であったのか必ずしも明らかでない。先の越後国から塩を搬送させた記事の存在や、体部に叩目をもつ北陸系の土師器出土例より、北陸地方からの移民の存在を想定する見方もある。これが事実であったとすれば、北陸からの移民が造営労働を行っていた可能性もあろう。また、志波村の譜代有力層の一部に律令国家に親和的になっていた者が存在していたとすれば、彼らの協力も得られたのではなかったかと推測される(伊藤1991)。

志波城の造営によって志波村にも律令支配の拠点が確立した。これ以後、志波村の人々はロクロ成形土器を主体的に使用するようになるとか、カマド煙道の方向に多様化がみられるなど実生活上の変化は認められるが、政治的に如何なる処遇を受けたのかは詳しく分かっていない。『日本後紀』弘仁2年(811)正月11日条には「陸奥国に於いて、和我・稗縫・斯波三郡を置く」とあり、北上盆地北部にも令制郡が設置されている。郡の設置が志波村の蝦夷にとっての政治的な処遇変化につながったかどうか、このあたりも明らかでない。この斯波三郡については郡家遺跡が未確認であり、『延喜式』や『和名抄』にも郡名を欠いている。これを積極的にとらえて斯波三郡では郡家を置くことが放棄され、ただ地域単位として郡を建置したとの見解もある(八木、2001・2002)。なお『延喜式』のいわゆる神名帳には「斯波郡一座 小 志賀理和気神社」とみえ、斯波郡内に祈年祭の班幣に与る官社が存在していたことが知られる(現在の志賀理和気神社は紫波郡紫波町に所在し、南部重直が明暦年間に再興したとされる。)から、郡自体は嘗て言われたような権郡な

どではなく、厳然として存在していたのであった。この郡が地域支配にどのような役割を果たしていたのか、そしてまた一般に蝦夷系住民は城柵に直接支配されて公民と異なる特殊税を負担したとされるが、こと9世紀初頭の北上盆地北部においてその一般論を普遍化して当てはめることが適当かどうか、今後検討してみたいところである。

先の斯波郡の建置を伝える記事の後には、安倍氏の時代まで志波は史上姿をあらわさない。もちろん史料が存在しないからといって人が住まわれない場所であったわけではないし、そこには人々の日々の暮らしがあった。これを明らかにするのが遺跡調査であるが、以下では今後の調査と遺跡の検討に関して若干の問題提起をしておきたいと思う。

## ②古代台太郎ムラに関する若干の予察

今次調査において奈良時代・平安時代の竪穴住居跡が20棟検出された。この中で、明確に9世紀初頭の遺物を伴うものは認められていない。このことは過去の台太郎遺跡の調査においても同様であった。このことの意味について若干の予察をおこない、以後の調査や遺跡検討への問題提起としたい。

まず考えられるのは集落の断絶である。この場合、何を契機とするのか問題だが、第一に想起されるのは志波城の造営であろう。志波城の造営に恐れをなし、集落を捨てて何処かへ移住したという見方をする向きもある（高橋與右衛門氏）し、また延暦年間には律令国家の政策で、盛んに胆沢周縁の蝦夷が内国移配されており（菊池、2003）、この政策の一環で台太郎ムラの人々も内国へ移住していたのではないとも考えられる。この場合、台太郎ムラ全体が移配の対象とされていたということもあり得るかもしれない。

以上とは反対に、集落は継続して存在していたと考えることも出来るかも知れない。一般に志波城の造営が在地集落の土器様式に影響して、ロクロ成形土器が集落に主体的にみられるようになることとされているが、志波城造営によって、にわかに非ロクロ土器からロクロ土器へと変化したというのも考えてみれば些か無理がありそうで、ある程度の時間差を想定する必要もあるだろう。つまり志波城造営以後も非ロクロ土器を暫く継続作成・使用する者がいたとしてもおかしくない。こう考えれば、台太郎遺跡は断絶しておらず、漸次ロクロ使用土器が集落内に導入されたという可能性も想定されるのである。西野修氏が指摘するようにロクロ使用土器を持たないがために、実際は9世紀に存在した住居跡を8世紀に入れていることもあり得ないであろう（西野、1998）。当然にカマド煙道方向や住居主軸の多様化も漸次の変化である。

9世紀、北上盆地においては竪穴住居の小型化・均一化がみられ（西野、1998）器物の保有も小型の住居に拡散するようになることとされている。今次調査でRA556住居跡では他の住居跡に比較して多量の須恵器が出土している。このような器物を多量に保有した居住者の性格について、今よく分からないが、単純に考えれば集落における有力者であろうか。このような人物が他の台太郎ムラ住人とどんな関わりにあったのか、城柵との関わりは、郡との関わりはどうなったのかなど興味深いところである。

台太郎遺跡の調査はいま終盤戦をむかえている。8世紀から9世紀にかけて台太郎ムラを含む志波村の人々のたどった歴史と生活の実態は、これまでの台太郎遺跡の詳細検討によって今後いくらかでも明らかになるだろう。その為に具体的には、

- a. 土器編年の再検討と同時期的に存在する器種構成の再検討、その他土器以外の遺物について（鉄や砥石など）の検討
- b. 集落構成要素（遺構）の変化（掘立柱建物の出現期の問題など）についての問題に関する検討
- c. 住居規模の変化・住居主軸方向及びカマド位置の変化など、住まいについての観念変化（？）が意味

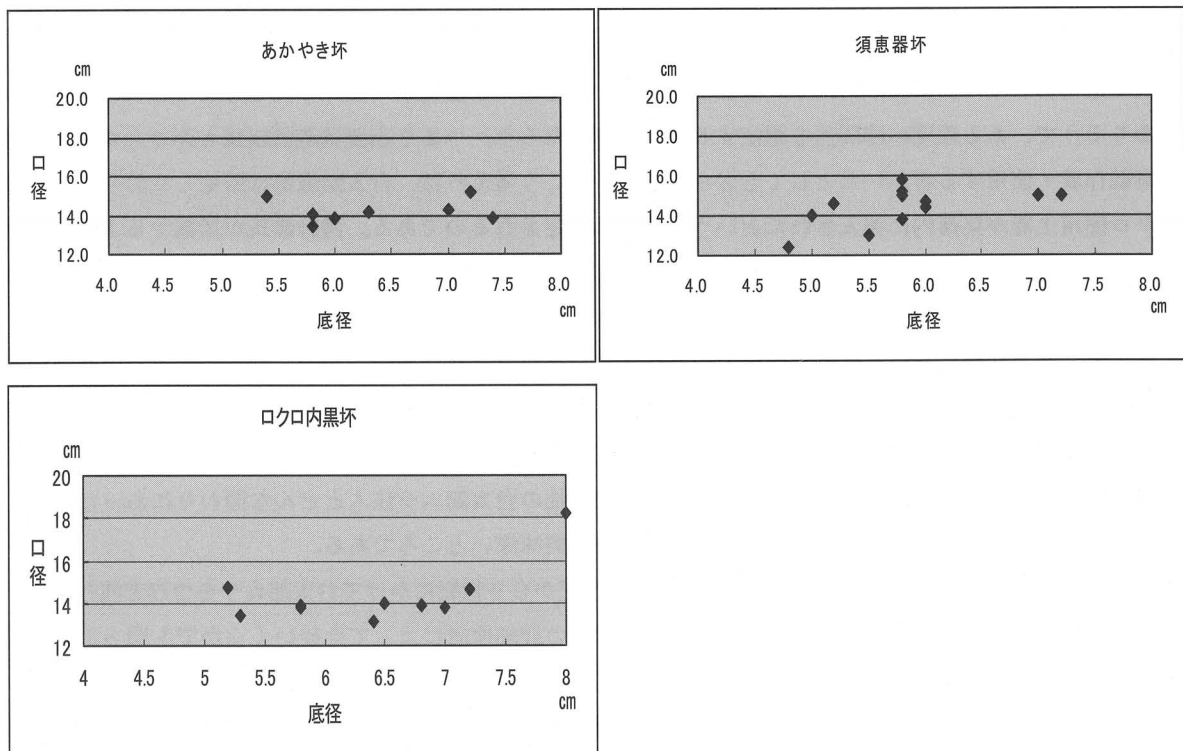
するところに関する検討

d. 歴史時代にありながら、これまで殆ど行われてこなかった文献史料との摺り合わせといった課題をよく考えてみる必要があると思われる。本報告ではd. について若干の検討を行ってみたところである。その他の問題については今後さらに検討を加えたい。(菊池 賢)

(引用・参考文献 50音順)

- 伊藤博幸「奥六郡成立の史的前提」(『岩手考古学』3号、1991年)  
 遠藤勝博・相原康二「岩手県南部(北上川中流域)における所謂第I型式の土師器・前期土師器の内容について」(芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会編『考古学論叢』寧楽社1983年)  
 菊池 賢「38年戦争と蝦夷移配」(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター『紀要』XXII, 2003年3月)  
 熊谷公男「平安初期における征夷の終焉と蝦夷支配の変質」(東北学院大学『東北文化研究所紀要』第24号1992年8月)  
 杉本 良「岩手県北上盆地における蝦夷(エミシ)集団の動態—北上市藤沢遺跡の再検討から—」(『考古学研究』第45巻1号、1998年6月)  
 西野 修「北上盆地北部の様相」(『第24回 古代城柵官衙遺跡検討会 資料集』1998年2月)  
 樋口知志「9世紀の蝦夷政策」(『第28回 古代城柵官衙遺跡検討会 資料集』2002年2月)  
 樋口知志「延暦8年胆沢の合戦の再検討」(延暦八年の会『アテルイ没後1200年記念シンポジウム アテルイとエミシの時代 報告資料集』2002年9月)  
 八木光則「城柵の再編」(『日本考古学』第12号、2001年10月)  
 八木光則「徳丹城・胆沢城と蝦夷政策」(『古代文化』第54巻、2002年11月)  
 八木光則「安倍・清原の城柵遺跡」(『岩手考古学』1号、1989年)

[参考 出土坏類の法量値計測グラフ]





### 3 遺跡について

(1) 平成17年度まで行われる予定の盛南開発（盛岡南新都市開発整備事業 以下盛南開発と略）、それに伴う遺跡発掘作業も終盤、まとめの時期にさしかかっている。入手できた資料と今次調査区との図面を合成し、全体把握のための一助としたい。（第93図）

- a 前次調査までで明確になったように、第44次調査北Ⅰ区・Ⅱ区・北東区が含まれる-3-A~-3A、-2-A~-2A グリッド付近は、遺跡全体からみても遺構密度は濃く、竪穴住居跡や溝跡が入り組んでいる。重複する遺構も多く、また攪乱も多く入り組んでいる状態であった。その中でも北Ⅰ区は奈良時代と平安時代の時期の遺構が集まっているのに対して、北東区は平安時代、北Ⅰ区は奈良時代の遺構と占地の差がみられた。
- b 西区は、過年度までの調査より比較的遺構が薄いエリアと予想されたが、竪穴住居跡3棟、掘立柱建物跡1棟、溝跡3条等の遺構を確認できた。北Ⅰ区同様、奈良時代から平安時代まで人々の生活が営まれていた区域であった。
- c aとbに対して、3E~3Fグリッド付近に位置する東区は未調査区域が多いエリアである。昨年度の調査区と併せ、奈良時代の中形の住居跡、溝跡（方形周溝）と東西に延びる堀跡の調査を行うことができた。今後は、東区における奈良時代の人々の生活の状況について（大形住居跡を中心にした小形住居跡群）の検出が予想される、今後が楽しみなエリアである。

(2) 盛南開発関連遺跡には様々な特性を有する集落がみられる。

古代を中心に中世~江戸の長きにわたり人々が生活の地とした台太郎遺跡、居住域と墓域としての役割を有した飯岡沢田遺跡、日当たりの良い段丘縁辺部に長時期にわたり広い居住域を展開したと予想される鬼柳・熊堂B・野古A遺跡、一方で同じ自然条件下比較的短期間の居住域であったとみられる細谷地遺跡、そして細谷地遺跡の北側に位置し住居跡の他に倉庫群とみられる掘立柱建物跡が並ぶ飯岡才川遺跡など、近年の調査により、細部にわたり古代の人々の生活のあり方がより明確となってきている。

朝夕美しい岩手山を望み、古代より多くの人々が愛し大切にしてきたこの盛岡の地に、盛南開発という計画の下、平成の人々はどのような街をつくりだしていくのであろうか。 (阿部 眞澄)

### 4 おわりに

「盆前には白菜を蒔きたいので、がんばってや。」

7月上旬、隣の畑で働く地権者の奥さんからのお話ですが、攪乱と初夏の暑さの中、作業はなかなか進みませんでした。4月中旬スタートした仕事でしたが、調査員の病休と交代の中、先が見えず苦しい日が続きました。調査員を支えてくれたのは、遺跡の魅力と野外作業員の協力でした。何日もかけて攪乱を丁寧に取り除くと、そのしたから鮮やかなカマド中心部の焼土が現れます。染め物をする人にはたまらない朱・・・と作業員さんの表現した朱を見た時、仕事を投げ出すことなど考えられなくなっていました。住宅地に囲まれ風の通らない東区での仕事、旧河道を掘り込み重い土を上げた西区トレンチなど、野外作業員の皆さんに汗を流しながら働いていただきました。台太郎遺跡発掘作業は、予定より半月遅れて終了し、次の野古A遺跡に移ることができました。

室内作業も大変でした。野古A遺跡と併せ、厚くはないものの報告書2冊を年度内に処理することとなり

ました。ここでも、室内作業員に助けてもらいました。5ヶ月で2遺跡、計450個の土器を接合し実測し整理しました。何度も直しがはிரいやな気持ちになることも多々あろうに、形の整わない土器もある中で、「仕事ですから・・・。」

と最後までくいついてやり遂げてくれた皆さんに感謝します。

発掘調査と整理作業に対して、沢山の協力と指導をしてくださった方々の労に報いることができる完全な報告書を作り上げることができた自信はないですが、この台太郎遺跡第44次調査報告書の発刊で台太郎遺跡第44次担当調査員としての任を解かせていただきます。

最後に関係各位の協力を重ねて感謝致します。

(平成15年3月暖かい春の日に・阿部眞澄 菊池 賢)

#### 〈野外作業員〉

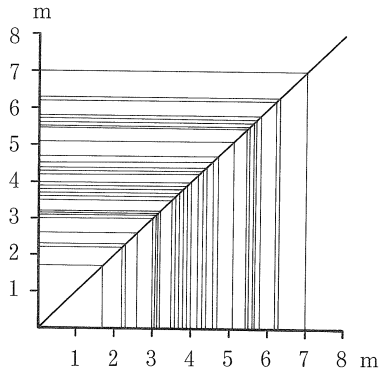
柴田久美子・松本善枝・佐藤久美子・中村繁子・下平喜代美・佐藤ヒデ子・村上節子・佐藤美知子  
猪股智子・吉田テルミ・吉田叶子・川村アエ子・山本光子・朝倉恵津子・山本智夫・上女鹿正二  
吉田年雄・伊藤進之介・加藤喜一

#### 〈室内作業員－盛南開発関連遺跡・調査課・力持遺跡〉

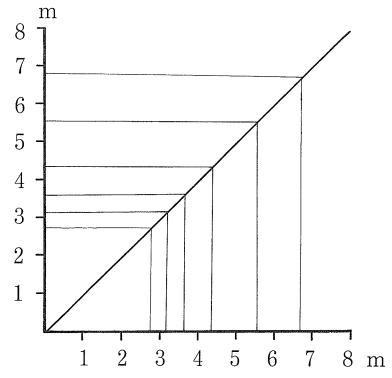
中塚真理子・小笠原千代子・岩淵光子・伊藤周子・斎坂信吾・澤口由希子・高橋千里・越場美幸  
澤瀬幸子・村上千代・湯村奈保・高橋富美子・中塚久美子・細川真裕美・鎌田条子・藤沢成子  
臼澤里砂・斎藤由香・藤原奈美

#### 参考：引用文献

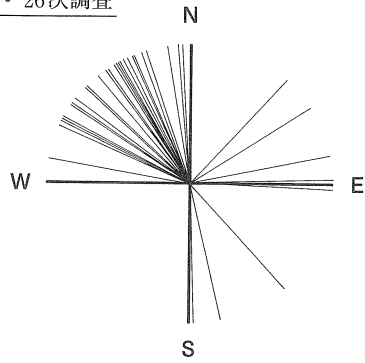
- 1 盛岡市教育委員会（1979）：『太田方八丁遺跡』昭和53年度発掘調査概報
- 2 盛岡市教育委員会（1998）：『盛岡市埋蔵文化財調査年報 平成5・6年度』
- 3 八戸市教育委員会（2002）：『重地遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第95集
- 4 栗駒町教育委員会（1995）：『長者原遺跡』栗駒町文化財調査報告書第3集
- 5 八木光則（1998）：『馬淵川流域』『東北地方の古代集落第24回古代城柵官遺跡検討会資料』
- 6 伊藤博幸（1987）：『7・8世紀エミシ社会の基礎構造』『岩手史学研究』70
- 7 伊藤博幸（1998）：『北上盆地南部』『東北地方の古代集落』第24回古代官衙遺跡検討会資料
- 8 岩手県文化振興事業団（1998）：『岩手県埋蔵文化財発掘報告略報（平成9年度分）』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第282集
- 9 岩手県文化振興事業団（2003）：『岩手県埋蔵文化財発掘報告略報（平成13年度分）』同397集
- 10 伊東 格（1995）：『本宮熊堂B遺跡第1次発掘調査報告書』同226集
- 11 千葉正彦（2002）：『熊堂B遺跡第10次発掘調査報告書』同377集
- 12 菊地栄壽・小笠原健一郎（1999）：『本宮熊堂B遺跡第4次・鬼柳A遺跡第4次発掘調査報告書』同308集
- 13 小笠原健一郎（1999）：『熊堂B遺跡第5次・台太郎遺跡16次発掘調査報告書』同293集
- 14 斉藤邦雄（1996）：『小幡遺跡第2次発掘調査報告書』同244集
- 15 酒井宗孝（1996）：『小幡遺跡第4次発掘調査報告書』同265集
- 16 溜浩二郎（2000）：『向中野館第3次・小幡遺跡第10次発掘調査報告書』同338集
- 17 高橋義介（1999）：『台太郎遺跡第15次発掘調査報告書』同309集
- 18 高橋義介・金子佐知子・佐藤綾子（2001）：『台太郎遺跡第18次発掘調査報告書』同369集
- 19 杉沢昭太郎（2003）：『台太郎遺跡第26次発掘調査報告書』同416集



台太郎遺跡  
住居跡  
床面積  
(奈良時代)

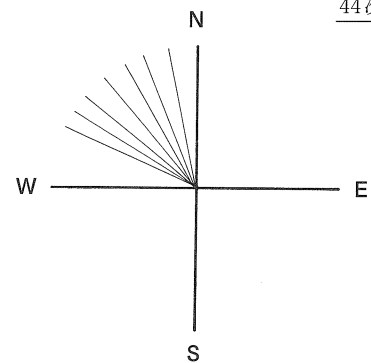


23・26次調査

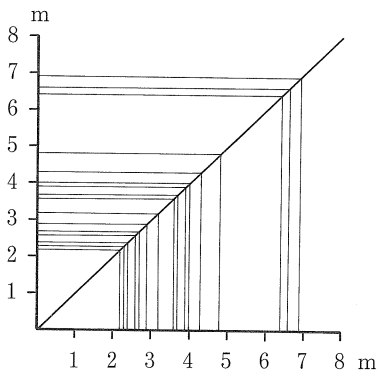


住居跡  
主軸方向  
(奈良時代)

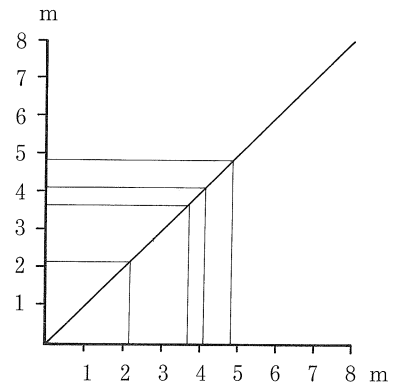
44次調査



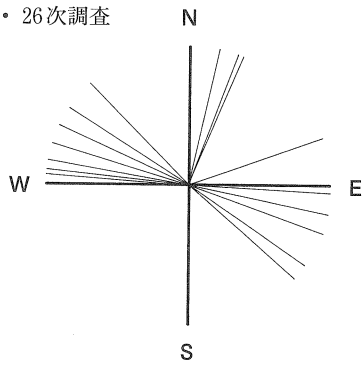
(主軸—カマド方向による)



台太郎遺跡  
住居跡  
床面積  
(平安時代)

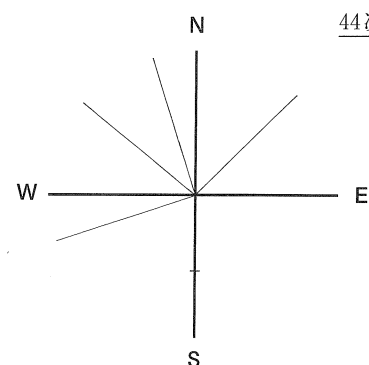


23・26次調査



住居跡  
主軸方向  
(平安時代)

44次調査



(主軸—カマド方向による)

第87図 住居跡床面積・軸方向分布図

表8 台太郎遺跡不掲載土器一覧(1)

遺構名	出土地点	種別	器種	成形	口縁 (点)	体部 (点)	底部 (点)	備 考
RA185	床面	土師器	甕	非ロクロ		2		No. 2
RA185	床面	土師器	甕	非ロクロ		2		No. 3
RA185	床面	土師器	甕	非ロクロ		109		No. 4
RA185	Pit 2	土師器	甕	非ロクロ	1	10		
RA185	Pit 3	土師器	坏	非ロクロ	4			内外黒色
RA185	Pit 3	土師器	甕	非ロクロ	2	27		
RA185	カマド内	土師器	坏	非ロクロ		1		
RA185	カマド内	土師器	甕	非ロクロ		11		
RA185	埋土	土師器	甕	非ロクロ	3	31		
RA185	埋土	土師器	甕	非ロクロ		12		
RA393	床面	土師器	坏	非ロクロ	1	1		No. 1 ~ 4 内黒
RA393	床面	土師器	甕	非ロクロ		12	1	No. 1 ~ 4
RA393	埋土	土師器	坏	非ロクロ	1	3		
RA393	埋土	土師器	甕	非ロクロ	4	157	1	
RA393	床面土坑	あかやき	坏	ロクロ	3	1		
RA393	床面土坑	土師器	坏	非ロクロ			1	内黒
RA393	床面土坑	土師器	甕	非ロクロ	4	110	1	
RA547	Pit 4	土師器	坏	非ロクロ		1		体部1 (黒)
RA547	Pit 4	土師器	甕	非ロクロ		1		
RA547	Pit 9	土師器	甕	非ロクロ		1		
RA547	煙道埋土	土師器	坏	非ロクロ	2	1		口縁2 (1つは内黒)
RA547	煙道埋土	土師器	甕	非ロクロ	1	3		
RA547	煙道埋土	土師器	坏	非ロクロ	2	1		口縁2 (1つは内黒)
RA547	南ベルト下層	土師器	坏	非ロクロ		3		体部3 (内黒)
RA547	南ベルト下層	土師器	甕	非ロクロ		5		
RA547	南ベルト壁埋土上層	土師器	坏	非ロクロ		1		
RA547	南ベルト壁埋土上層	土師器	甕	非ロクロ		1		
RA547	北ベルト上層	土師器	甕	非ロクロ		1		
RA547	西ベルト	土師器	坏	非ロクロ		1		
RA547	西ベルト	土師器	甕	非ロクロ		5		
RA547	西ベルト下層	土師器	坏	ロクロ	5	6	1	内黒・底部1 (回転糸)
RA547	西ベルト下層	土師器	甕	非ロクロ		3		
RA547	西ベルト下層	須恵器	坏	ロクロ	1			
RA547	東ベルト下層	土師器	甕	非ロクロ		2		
RA547	検出面	あかやき	坏	ロクロ		1	1	
RA547	検出面	土師器	甕	非ロクロ	3	23		
RA547	貼床埋土	土師器	甕	非ロクロ		7		
RA547	南西埋土一括	土師器	坏	非ロクロ	2	4		内黒
RA547	南西埋土一括	土師器	甕	非ロクロ	2	?	1	
RA547	南西埋土上層	土師器	坏	非ロクロ		1		
RA547	南西埋土上層	土師器	甕	非ロクロ		10		
RA547	南西埋土中層	土師器	坏	非ロクロ	1			口縁1 (内外内黒)
RA547	南西埋土中層	土師器	甕	非ロクロ		1		
RA547	南東埋土一括	土師器	坏	非ロクロ	3	6		口縁内黒1点、体部有段
RA547	南東埋土一括	土師器	甕	非ロクロ	2	33	1	
RA547	北西埋土一括	土師器	坏	非ロクロ	1	1		内黒

表9 台太郎遺跡不掲載土器一覧表(2)

遺構名	出土地点	種別	器種	成形	口縁 (点)	体部 (点)	底部 (点)	備 考
RA547	北西埋土一括	土師器	甕	非ロクロ	1	100	1	
RA547	北東埋土	土師器	甕	非ロクロ	7	96	2	
RA547	埋土	土師器	坏	ロクロ	1			内黒
RA547	埋土	土師器	坏	非ロクロ		1		内黒
RA547	埋土	土師器	甕	ロクロ	2			
RA547	埋土	土師器	甕	非ロクロ		15		1点は球胴
RA547	埋土	土師器	甕	非ロクロ	1	1	1	体部1(内黒)
RA547	埋土	須恵器	坏	ロクロ		1		
RA547	埋土下層	土師器	甕	非ロクロ	1	8		
RA547	床面	土師器	坏	非ロクロ		2		内黒
RA547	床面	土師器	甕	非ロクロ		9		
RA547	床面	土師器	甕	非ロクロ		3		No.1
RA549	検出面	土師器	甕	非ロクロ		3		
RA549	貼床層	土師器	坏	非ロクロ	1	1		
RA549	貼床層	土師器	甕	非ロクロ		5		
RA549	埋土	土師器	坏	非ロクロ	1	1	1	内黒
RA549	埋土	土師器	甕	非ロクロ	1	1		
RA549	埋土上層	土師器	坏	非ロクロ	5	5		内黒
RA549	埋土上層	土師器	甕	非ロクロ	3	57	1	体部6点は内黒
RA549	埋土上層	あかやき	坏	ロクロ	1	1		
RA549	埋土上層	土師器	坏	ロクロ	1		1	内黒
RA549	埋土上層	土師器	甕	ロクロ		1		
RA549	埋土中層(Q3)	土師器	甕	非ロクロ		2		
RA549	床面	土師器	甕	非ロクロ	1	1		No.6
RA549	床面	土師器	甕	非ロクロ		1		No.1内外面黒色処理
RA549	床面	土師器	甕	非ロクロ		4		No.2 1点は内黒
RA550	カマド周辺埋土	土師器	坏	非ロクロ		1		内黒
RA550	カマド周辺埋土	土師器	甕	非ロクロ	1	11	1	
RA550	検出面	土師器	甕	非ロクロ		7		
RA550	埋土	土師器	坏	非ロクロ	2	1		
RA550	埋土	土師器	甕	非ロクロ	5	66	1	
RA550	床面	土師器	甕	非ロクロ	6	5		No.12~14
RA550	床面	土師器	甕	非ロクロ	1			No.12
RA550	床面	土師器	甕	非ロクロ	1			No.13
RA550	床面	土師器	甕	非ロクロ	1			No.14
RA550	床面	土師器	坏	非ロクロ			1	No.10、No.11
RA551	カマド付近	土師器	坏	ロクロ	5	1		
RA551	カマド付近	土師器	甕	非ロクロ		9	2	
RA551	貼床埋土	あかやき	坏	ロクロ		2		
RA551	貼床埋土	土師器	坏	ロクロ		2		内黒
RA551	埋土	土師器	甕	非ロクロ		14		
RA551	埋土	土師器	坏	ロクロ	3	2		内黒
RA551	埋土	須恵器	坏	ロクロ	3	1		
RA552	埋土	土師器	坏	ロクロ	1			
RA552	埋土	土師器	甕	非ロクロ	2	8		
RA553	貼床層	あかやき	坏	ロクロ	1	2		

表10 台太郎遺跡不掲載土器一覧表(3)

遺構名	出土地点	種別	器種	成形	口縁 (点)	体部 (点)	底部 (点)	備 考
RA553	貼床層	土師器	坏	ロクロ		2		内黒
RA553	貼床層	土師器	甕	非ロクロ		7		
RA553	貼床層	須恵器	甕	ロクロ		1		
RA553	埋土	土師器	甕	非ロクロ		40	3	
RA553	埋土	土師器	甕	非ロクロ		2		
RA553	埋土	須恵器	甕	ロクロ		1		
RA554	埋土下層	土師器	坏	非ロクロ	1			内黒
RA554	埋土下層	土師器	甕	非ロクロ	3	36		
RA555	Pit埋土	あかやき	坏	ロクロ		2		
RA555	Pit埋土	土師器	甕	非ロクロ		4		
RA555	貼床埋土	土師器	坏	非ロクロ	1	1		内黒
RA555	貼床埋土	土師器	甕	非ロクロ		19		
RA555	埋土	土師器	甕	非ロクロ	2	27		
RA555	埋土	土師器	甕	非ロクロ	1	2		
RA555	埋土	須恵器	甕	ロクロ	1			
RA556	Pit 1	あかやき	坏	ロクロ	3	1		
RA556	Pit 1	土師器	坏	ロクロ	2	1		内黒
RA556	Pit 1	土師器	甕	非ロクロ	1	2		
RA556	Pit 1	須恵器	坏	ロクロ		1		
RA556	Pit 2	あかやき	坏	ロクロ		3	2	
RA556	Pit 2	土師器	坏	ロクロ	1			内黒
RA556	Pit 2	土師器	甕	非ロクロ	2	3		
RA556	検出面	あかやき	坏	ロクロ	21	62	12	
RA556	検出面	土師器	坏	ロクロ	17	14	3	内黒
RA556	検出面	土師器	坏	非ロクロ	3	11	4	内黒
RA556	検出面	土師器	甕	非ロクロ	1	30	2	
RA556	検出面	須恵器	坏	ロクロ	2			
RA556	検出面	須恵器	甕	ロクロ		2		
RA556	貼床下	土師器	坏	非ロクロ	1			内黒
RA556	貼床下	土師器	甕	非ロクロ		3		
RA556	埋土	あかやき	坏	ロクロ	30	40	17	
RA556	埋土	土師器	坏	ロクロ	11	10	4	内黒
RA556	埋土	土師器	坏	非ロクロ		1	1	内黒
RA556	埋土	土師器	甕	非ロクロ	3	89	1	
RA556	埋土	土師器	甕	非ロクロ	3	2	1	底部1点は内黒
RA556	埋土	須恵器	坏	ロクロ	24	32	7	
RA556	埋土	須恵器	坏	ロクロ	12	4	5	底部5点別個体
RA556	埋土	須恵器	甕	ロクロ	2	15	1	
RA556	埋土ベルト部	土師器	坏	ロクロ	1			内黒
RA557	埋土	須恵器	甕	ロクロ		1		
RA557	埋土下層	土師器	坏	ロクロ	1	1		内黒
RA557	埋土下層	土師器	甕	非ロクロ		1		
RA559	住居	土師器	甕	非ロクロ		11		
RA559	住居	土師器	坏	ロクロ	3	2		
RA559	住居	土師器	坏	ロクロ	1	3		内黒
RA560	ベルト埋土	土師器	坏	非ロクロ	1	1		

表11 台太郎遺跡不掲載土器一覧表(4)

遺構名	出土地点	種別	器種	成形	口縁 (点)	体部 (点)	底部 (点)	備 考
RA560	ベルト埋土	土師器	甕	非ロクロ		5		
RA560	埋土	あかやき	坏	ロクロ	6	10	2	
RA560	埋土	土師器	坏	ロクロ	2			内黒
RA560	埋土	土師器	坏	非ロクロ	3	14		内黒
RA560	埋土	土師器	甕	非ロクロ	4	25	3	
RA560	埋土	須恵器	坏	ロクロ	7	3	1	
RA560	埋土	須恵器	甕	ロクロ		1		
RA560	埋土(北ベルト)	土師器	坏	非ロクロ	1	1		
RA560	埋土(北ベルト)	土師器	甕	非ロクロ		5		
RA560	埋土(西ベルト)	土師器	坏	非ロクロ		1		
RA560	埋土(西ベルト)	土師器	甕	非ロクロ		2		
RA560	埋土(南ベルト)	あかやき	坏	ロクロ	2			
RA560	埋土(南ベルト)	土師器	甕	非ロクロ		3	1	
RA562	床面	土師器	甕	非ロクロ	1	12		
RA563	カマド周辺	あかやき	坏	非ロクロ	2	3		
RA563	カマド周辺	土師器	坏	非ロクロ	1	1		内黒
RA563	カマド周辺	土師器	坏	非ロクロ	1	2		
RA563	カマド周辺	土師器	甕	非ロクロ		23		
RA563	埋土	あかやき	坏	ロクロ	2			
RA563	埋土	土師器	坏	ロクロ	1	1	2	内黒
RA563	埋土	土師器	甕	非ロクロ	1	13		
RA563	床面	あかやき	坏	ロクロ	2	2		
RA563	床面	あかやき	坏	非ロクロ	2	2		
RA563	床面	土師器	坏	非ロクロ		1		内黒
RA563	床面	土師器	坏	非ロクロ		5		
RA563	床面	土師器	甕	非ロクロ		4		
RA564	煙道部	あかやき	坏	ロクロ	3			
RA564	煙道部	土師器	坏	非ロクロ	2	9	2	内黒
RA564	煙道部	土師器	甕	非ロクロ		8		
RA564	埋土	あかやき	坏	ロクロ		1		
RA564	埋土	あかやき	坏	非ロクロ	3			
RA564	埋土	土師器	坏	ロクロ	1	1		内黒
RA564	埋土	土師器	坏	非ロクロ	5	2		内黒
RA564	埋土	土師器	坏	非ロクロ	4	10	4	
RA564	埋土	土師器	甕	ロクロ	1			
RA564	埋土	土師器	甕	非ロクロ	6	61	2	
RD1039	検出面	土師器	坏	非ロクロ				
RD1039	検出面	土師器	甕	非ロクロ		1		
RD1039	埋土	土師器	坏	非ロクロ	3	8		
RD1039	埋土	土師器	甕	非ロクロ	4	17	1	内黒 口縁3(内外黒1点) 体部17(うち3点は内外黒)
RD1039	埋土	土師器	甕	非ロクロ		3		1点は内黒
RD1040	検出面	土師器	甕	非ロクロ		25	2	
RD1040	埋土上層	土師器	坏	非ロクロ	4	1		口縁4(内黒1内外黒1)
RD1040	埋土上層	土師器	甕	非ロクロ	1	11	1	
RD1052	埋土中層	土師器	甕	非ロクロ		5		

表12 台太郎遺跡不掲載土器一覧表(5)

遺構名	出土地点	種別	器種	成形	口縁 (点)	体部 (点)	底部 (点)	備 考
RD1057	埋土	土師器	坏	非ロクロ	1	3		
RD1057	埋土	土師器	甕	非ロクロ		3		
RD1057	埋土	須恵器	甕	ロクロ		1		
RD1060	埋土	土師器	坏	非ロクロ	18	25	5	内黒
RD1060	埋土	土師器	坏	非ロクロ	10	8	5	
RD1060	埋土	土師器	甕	非ロクロ		3		内黒
RD1060	埋土	土師器	甕	非ロクロ	3	79	2	
RD1060	埋土上層	土師器	坏	非ロクロ			1	No.11内黒
RD1060	床面	土師器	甕	非ロクロ		1		No. 6
RD1060	床面	土師器	甕	非ロクロ	1			No. 4
RD1066	埋土	土師器	甕	非ロクロ		3		
RD1071	埋土	あかやき	坏	ロクロ	1			
RD1071	埋土	土師器	坏	ロクロ	1	3		内黒
RD1071	埋土	土師器	甕	非ロクロ		3		
RD1073	埋土	土師器	甕			3		
RD1073	埋土	須恵器	甕	ロクロ		2		
RD1074	埋土	須恵器	坏	ロクロ	1			
RD1074	埋土下層	あかやき	坏	ロクロ	3	5	2	
RD1074	埋土下層	土師器	坏	ロクロ		1	1	内黒
RD1075	埋土上層	土師器	坏	非ロクロ		1		
RD1075	埋土上層	土師器	甕	非ロクロ		6		
RE055	ベルト埋土	土師器	甕	非ロクロ		5	1	
RE055	埋土	土師器	甕	非ロクロ		5		
RE055	埋土	須恵器	甕	ロクロ		2		
RE056	Q1埋土	土師器	甕	非ロクロ		4		
RE056	カマド周辺埋土	土師器	甕	非ロクロ	6	23	1	
RG443	西側埋土	土師器	甕	非ロクロ	1			
RG443	西側埋土	土師器	高台付坏	ロクロ			1	体部まで残存
RG443	埋土	あかやき	坏	ロクロ		9		
RG443	埋土	土師器	甕	非ロクロ		4	3	
RG443	埋土	須恵器	甕	ロクロ		1		
RG444	西側埋土	土師器	坏	ロクロ	1	2		
RG444	西側埋土	土師器	坏	非ロクロ	1			
RG444	西側埋土	土師器	甕	非ロクロ		5		
RG444	埋土	土師器	坏	非ロクロ	1	2		
RG444	埋土	土師器	甕	非ロクロ		5	1	
RG444	埋土	須恵器	甕	ロクロ		2		
RG446	埋土	あかやき	坏	ロクロ	2			
RG446	埋土	土師器	坏	非ロクロ	2	3		
RG446	埋土	土師器	甕	非ロクロ		44	1	
RG447	埋土	土師器	坏	ロクロ	1			内黒
RG447	埋土	土師器	甕	非ロクロ	1			
RG448	西端埋土	土師器	坏	ロクロ	2			内黒
RG448	西端埋土	土師器	坏	非ロクロ		6		
RG448	西端埋土	土師器	甕	非ロクロ	6	31	1	
RG448	西端埋土	須恵器	坏	ロクロ	1			



表13 台太郎遺跡不掲載土器一覧表(6)

遺構名	出土地点	種別	器種	成形	口縁 (点)	体部 (点)	底部 (点)	備 考
RG448	底面	土師器	甕	非ロクロ	1	8		
RG448	西側埋土	あかやき	坏	ロクロ	1			
RG448	西側埋土	土師器	坏	非ロクロ	1	2		
RG448	西側埋土	土師器	甕	非ロクロ		27		
RG448	埋土	あかやき	坏	ロクロ	1	7	1	
RG448	埋土	土師器	坏	ロクロ	1	3		内黒
RG448	埋土	土師器	坏	非ロクロ	1	1		内外黒色
RG448	埋土	土師器	坏	非ロクロ		2		内黒
RG448	埋土	土師器	坏	非ロクロ	2			
RG448	埋土	土師器	甕	非ロクロ	24	333	8	
RG449	西端	土師器	坏	非ロクロ		2		内黒
RG449	西端	土師器	甕	非ロクロ		20		
RG450	西端埋土	土師器	坏	非ロクロ	1	1		
RG450	西端埋土	土師器	甕	非ロクロ	1	16		
RG450	西端埋土	土師器	坏	ロクロ	1			内黒
RG450	西端埋土	弥生土器?				1		
RG450	埋土	土師器	坏	非ロクロ	1			
RG450	埋土	土師器	甕	非ロクロ		1		
RG453	埋土	あかやき	坏	ロクロ	63	77	13	
RG453	埋土	あかやき	坏	非ロクロ		2		
RG453	埋土	土師器	坏	ロクロ	17	22	10	内黒
RG453	埋土	土師器	坏	非ロクロ		5	4	内黒
RG453	埋土	土師器	甕	ロクロ			2	
RG453	埋土	土師器	甕	ロクロ		(下*) 1	1	
RG453	埋土	土師器	甕	非ロクロ	9	140	8	
RG453	埋土	須恵器	坏	ロクロ	8	11		
RG453	埋土	須恵器	甕	ロクロ		10		
RG454	埋土	あかやき	坏	ロクロ	23	28	8	
RG454	埋土	土師器	坏	ロクロ	9	21	5	内黒
RG454	埋土	土師器	坏	非ロクロ	2			内黒
RG454	埋土	土師器	甕	ロクロ	3	6	2	
RG454	埋土	土師器	甕	非ロクロ	7	48	1	
RG454	埋土	須恵器	坏	ロクロ	5	4	1	
RG454	埋土	須恵器	甕	ロクロ	1	3		
RG454	埋土上層	須恵器	坏	ロクロ	2	3		
RG455	埋土	土師器	甕	非ロクロ		2		
RG456	埋土	あかやき	坏	ロクロ				
RG456	埋土	土師器	坏	非ロクロ		2		内黒
RG456	埋土	土師器	甕	非ロクロ	1	4	1	
RG457	埋土	土師器	坏	非ロクロ	1	1		
RG457	埋土	土師器	甕	非ロクロ		3	1	
RG458	埋土	土師器	坏	非ロクロ			1	内黒
RG458	埋土	土師器	甕	非ロクロ		2		
RG458	埋土上層	土師器	坏	非ロクロ	4	10		
RG458	埋土上層	土師器	甕	非ロクロ	8	95		
RG460	埋土	土師器	甕	非ロクロ		2		

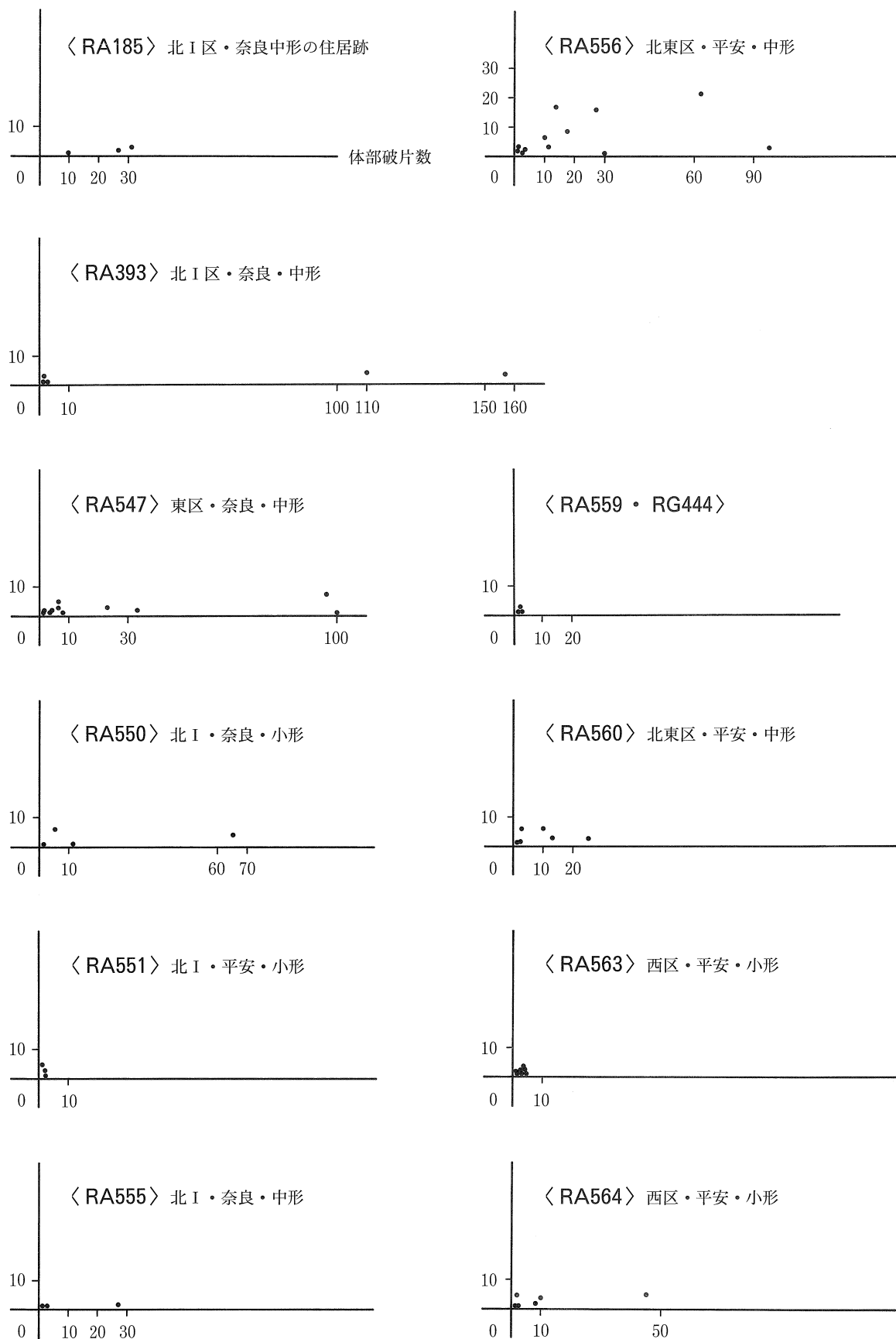
表14 台太郎遺跡不掲載土器一覧表(7)

遺構名	出土地点	種別	器種	成形	口縁 (点)	体部 (点)	底部 (点)	備 考
RG461	埋土中層	土師器	甕	非ロクロ	1			
RG463・464	検出面	土師器	甕	非ロクロ		3		
RG464	埋土	須恵器	坏	ロクロ			1	
RG465	埋土	土師器	甕	非ロクロ	1	6		
北Ⅰ区	P56埋土	あかやき	坏	ロクロ		2		
北Ⅰ区	T10表土	土師器	甕	非ロクロ	2	9	3	
北Ⅰ区	T1表土	土師器	甕	非ロクロ	1	22		
北Ⅰ区	T4表土	土師器	甕	非ロクロ		3		
北Ⅰ区	T6表土	土師器	甕	非ロクロ		6	1	
北Ⅰ区	T7表土	土師器	甕	非ロクロ		3		
北Ⅰ区	T9表土	土師器	甕	非ロクロ		3		
北Ⅰ区	T9表土	土師器	甕	非ロクロ		1		内黒
北Ⅰ区	T9表土	あかやき	坏	ロクロ	1	1		
北Ⅰ区	攪乱	土師器	甕	非ロクロ		19		
北Ⅰ区	検出面	土師器	甕	非ロクロ	2	17	2	
北Ⅰ区	廃棄土	土師器	甕	非ロクロ		1		
北Ⅰ区	表採	あかやき	坏	ロクロ		1		
北Ⅰ区	表採	土師器	甕	非ロクロ		10		
北Ⅰ区	表採	土師器	甕	非ロクロ		4		内黒
北Ⅰ区	表土層	あかやき	甕	非ロクロ	1	5		
北Ⅰ区	表土層	土師器	甕	非ロクロ	5	47	1	
北Ⅰ区	表土層	土師器	甕	非ロクロ		2		内黒
北Ⅰ区		土師器	坏	ロクロ	3			内黒
北Ⅰ区		土師器	甕	非ロクロ	1	1	1	
北Ⅰ区		土師器					1	小型手捏ね土器
北Ⅰ区		須恵器	甕	ロクロ		4		
北Ⅱ区	RD1072付近表土	土師器	甕	非ロクロ	2	5		
北Ⅱ区	表土層	土師器	甕	非ロクロ	1	29	1	
北Ⅱ区	表土層	須恵器	甕	ロクロ			1	
県警前東区	Ⅲ層	あかやき	坏	非ロクロ		1		
県警前東区	Ⅲ層	土師器	坏	非ロクロ	1			内黒
県警前東区	Ⅲ層	土師器	甕	非ロクロ	4	148	7	
県警前東区	Ⅲ層	土師器	甕	非ロクロ		13		内黒
西区	T1	須恵器	甕	ロクロ		2		
西区旧河道	北トレンチ東側	あかやき	坏	ロクロ	13	7	1	
西区旧河道	北トレンチ東側	あかやき	坏	ロクロ	2			
西区旧河道	北トレンチ東側	土師器	坏	ロクロ	2	3	4	内黒
西区旧河道	北トレンチ東側	土師器	坏	非ロクロ		1		内黒
西区旧河道	北トレンチ東側	土師器	甕	非ロクロ	2			
西区旧河道	北トレンチ東側	須恵器	甕	ロクロ		2		
西区旧河道	北トレンチ東側	須恵器	坏	ロクロ		1	1	
西区	検出面	土師器	甕	非ロクロ		13		
西区	表採	あかやき	坏	ロクロ	2	4	1	
西区	表採	土師器	坏	ロクロ		1		内黒
西区	表採	土師器	坏	非ロクロ	3	10		

表15 台太郎遺跡不掲載土器一覧表(8)

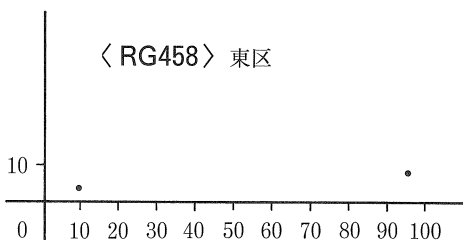
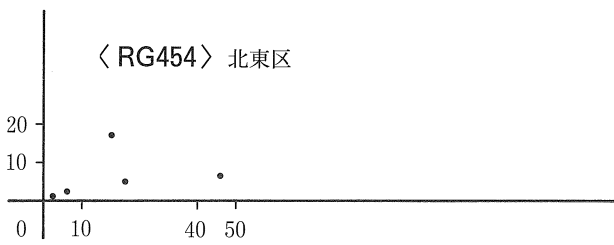
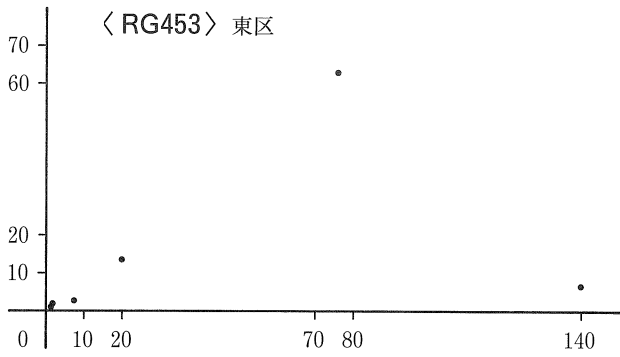
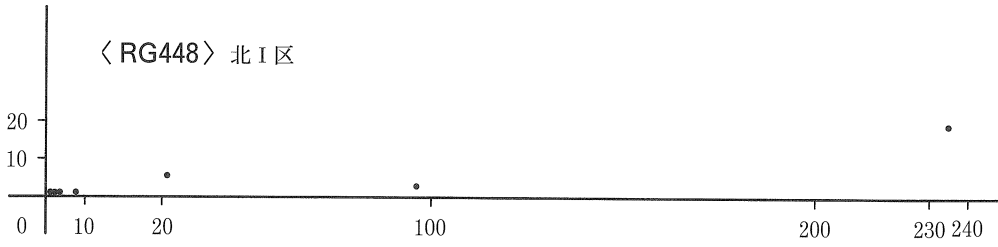
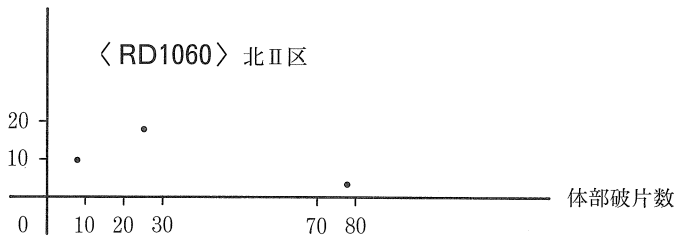
遺構名	出土地点	種別	器種	成形	口縁 (点)	体部 (点)	底部 (点)	備 考
西区	表採	土師器	甕	非ロクロ		20		
西区		あかやき	坏	ロクロ			2	
西区旧河道	南側トレンチ	土師器	坏	ロクロ			1	
西区旧河道	南側トレンチ	土師器	坏	ロクロ	1	2		内黒
西区旧河道	南側トレンチ	土師器	坏	非ロクロ		2		内黒
西区旧河道	南側トレンチ	土師器	甕	非ロクロ		1		
西区旧河道	南側トレンチ	須恵器	坏	ロクロ	1			
西区旧河道	北側トレンチ	土師器	甕	非ロクロ		2	1	
西区旧河道		須恵器	坏	ロクロ	3	1		
西区		土師器	甕	非ロクロ		3		
東区県警前	埋土	土師器	甕	非ロクロ	-	1	-	
東区県警前	表土層	土師器	坏	非ロクロ	-	-	-	
東区県警前	表土層	土師器	甕	非ロクロ	-	-	1	
北東区	検出面	あかやき	坏	ロクロ		1	3	
北東区	検出面	土師器	坏	ロクロ	1	1	1	内黒
北東区	検出面	土師器	坏	ロクロ	2			
北東区	検出面	土師器	坏	非ロクロ	7	14	6	
北東区	検出面	土師器	坏	非ロクロ		5	2	内黒
北東区	検出面	土師器	甕	非ロクロ		2	1	
北東区	検出面	土師器	甕	ロクロ			1	
北東区	検出面	土師器	甕	非ロクロ	2	36	3	
北東区	検出面	須恵器	坏	ロクロ	4	1		
北東区	南西隅攪乱土中	土師器	坏	非ロクロ	1	2		
北東区	南西隅攪乱土中	土師器	坏	非ロクロ	1	2		内黒
北東区	南西隅攪乱土中	土師器	甕	非ロクロ	2	12	1	
北東区	廃棄土中	土師器	坏	非ロクロ		1		内黒
北東区		あかやき	坏	ロクロ		1	3	
北東区		土師器	坏	ロクロ			1	
北東区		土師器	甕	ロクロ			1	
北東区		土師器	甕	非ロクロ		2	1	
北東区		須恵器	坏	ロクロ	4	2	1	
北東区		須恵器	甕	ロクロ		5	2	
北Ⅱ区	南端検出面	土師器	坏	非ロクロ		1		内黒
北Ⅱ区	南端検出面	土師器	甕	非ロクロ		7		
東区県警前	Ⅲ層(沢跡)	土師器	甕	非ロクロ	2	47	3	
南端Ⅲ層	Ⅲ層(沢跡)	土師器	甕	非ロクロ		2		内黒

口縁部破片数



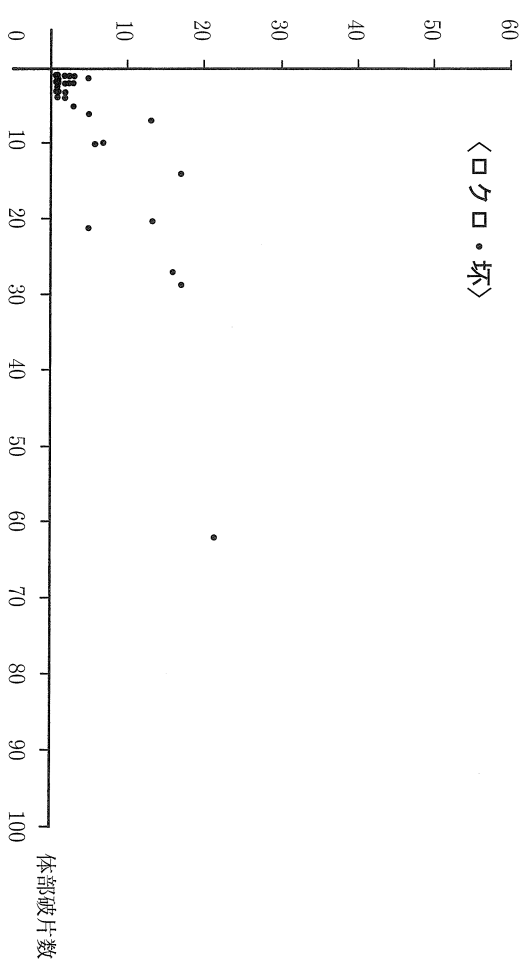
第88図 不掲載遺物 遺構別口縁・体部数 (1)

口縁部破片数

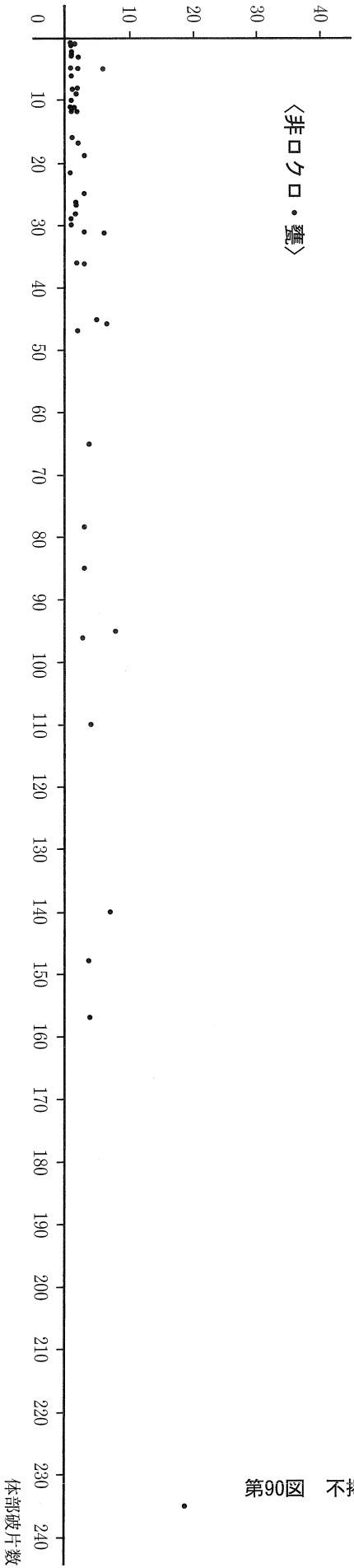


第89図 不掲載遺物 遺構別口縁・体部数 (2)

口縁部破片数

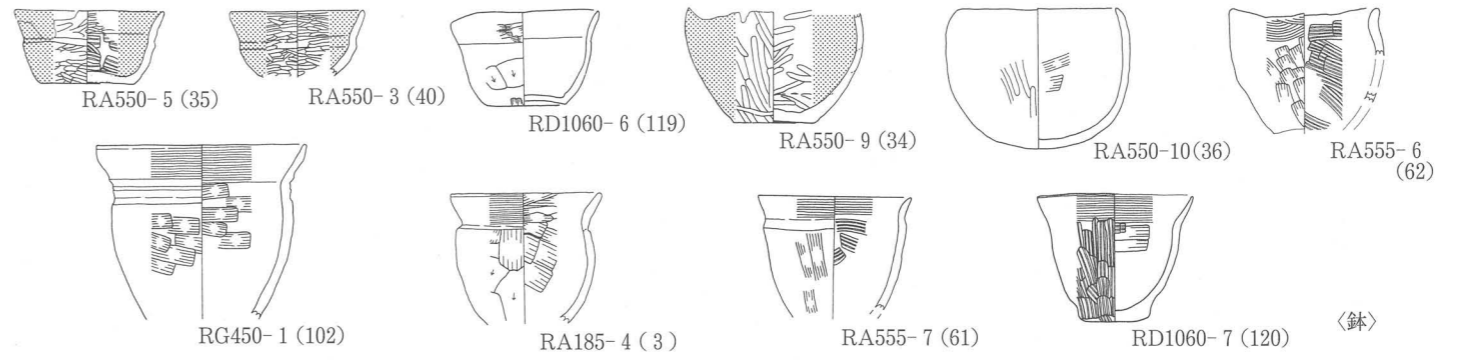
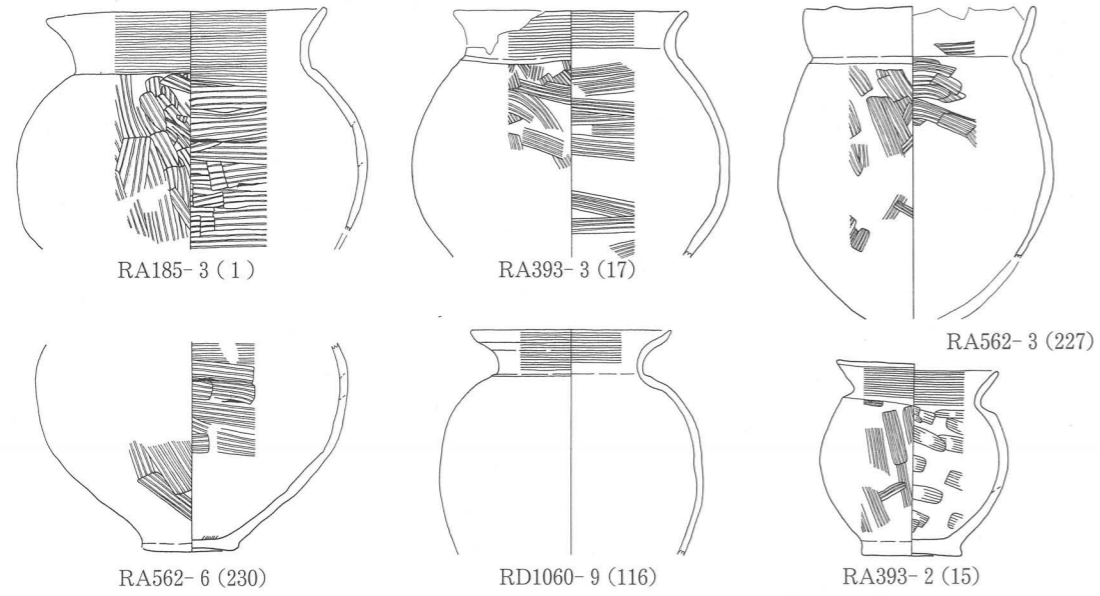


口縁部破片数

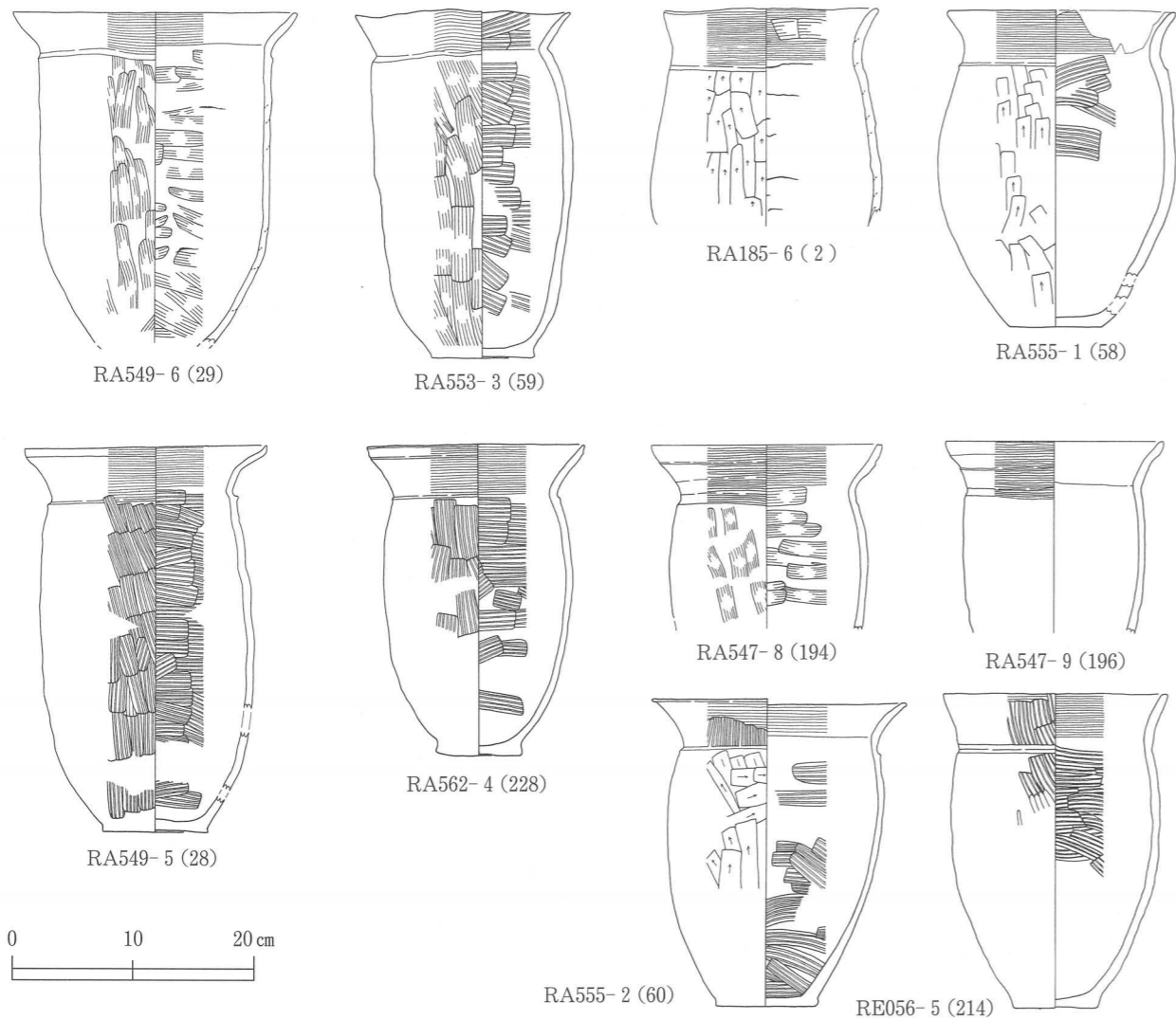


第90図 不掲載遺物 器種別口縁・体部数

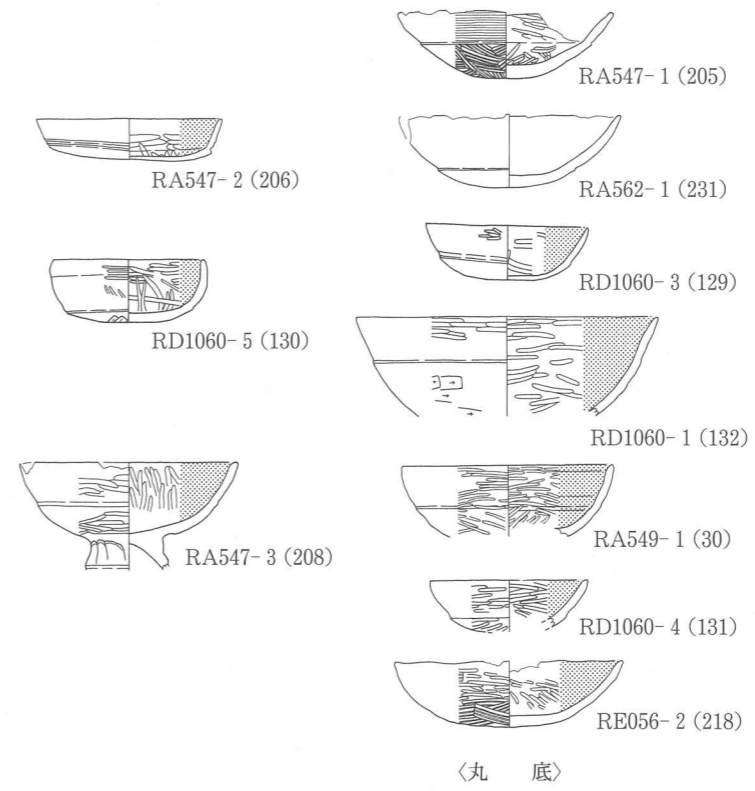
〈球胴甕〉



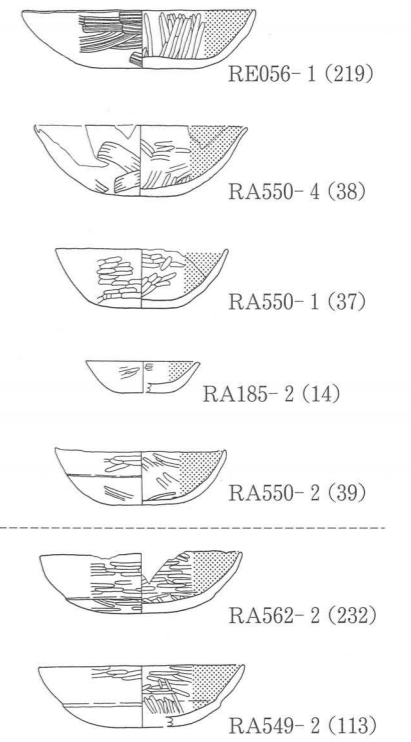
〈長胴甕〉



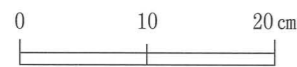
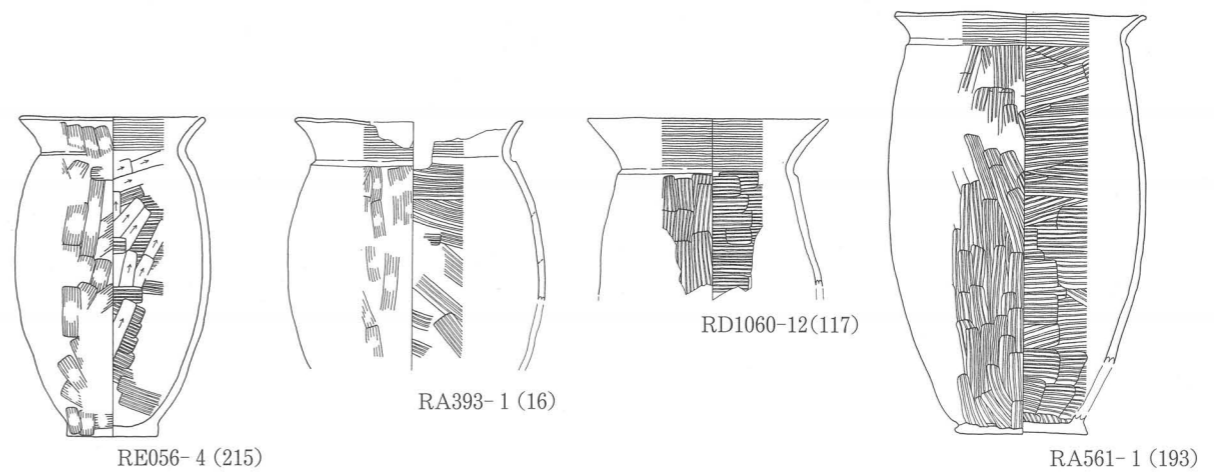
〈坏・高坏〉



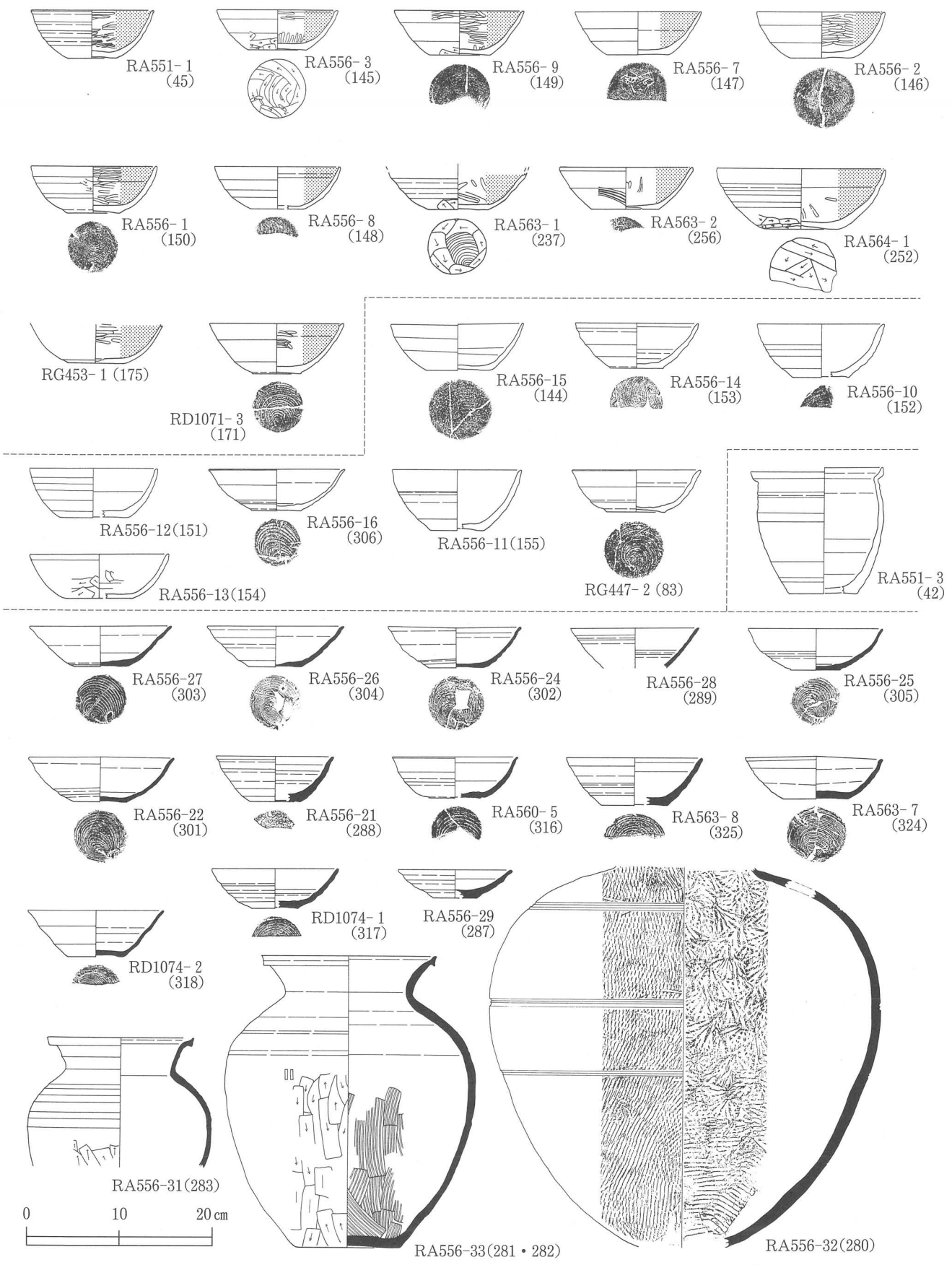
〈平底〉



〈丸底〉

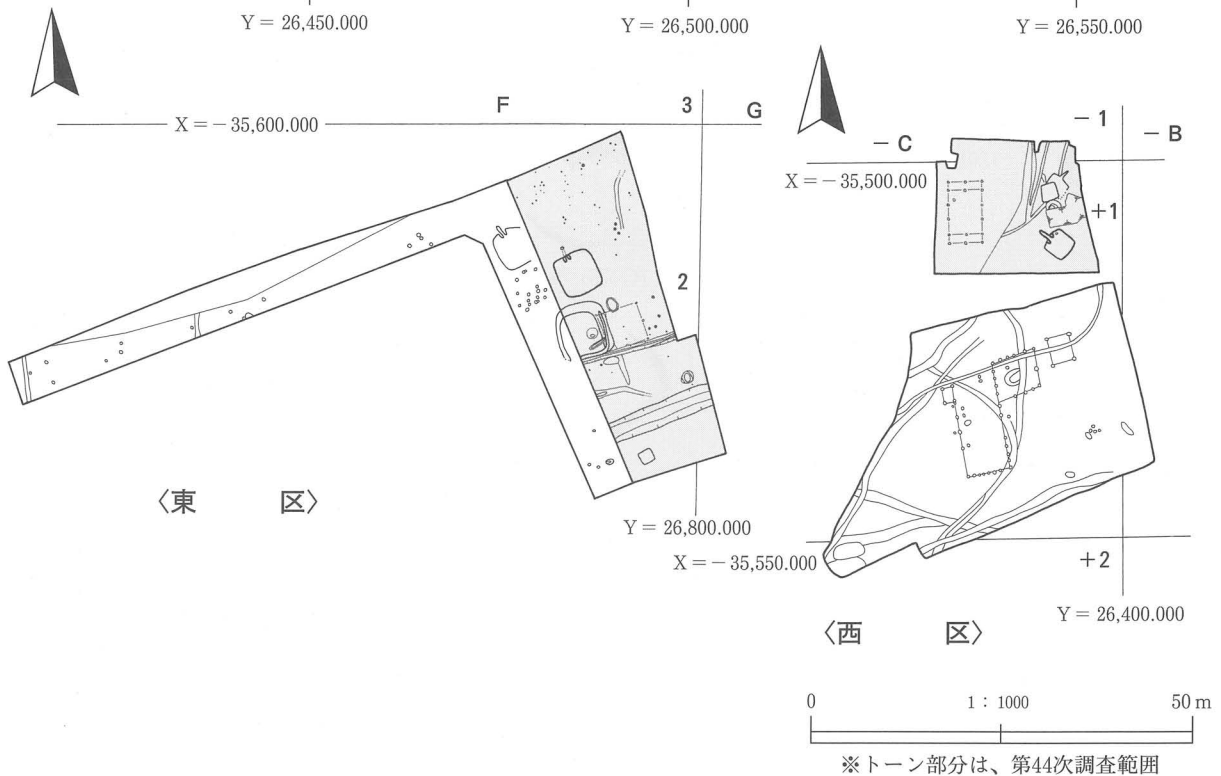
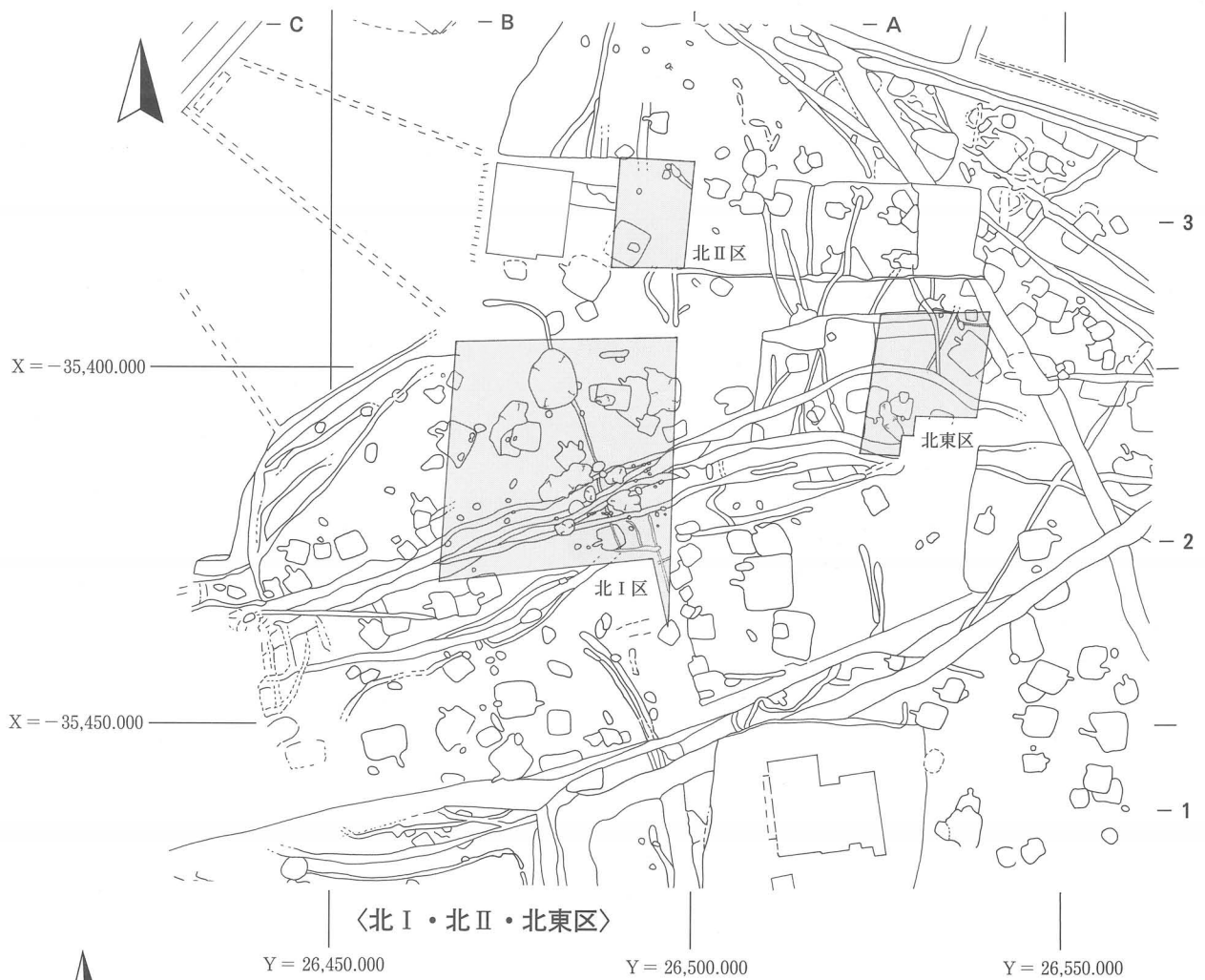


第91图 出土土器集成图(1) \* S=1/6



第92図 出土土器集成図(2)





※トーン部分は、第44次調査範囲

第93図 台太郎遺跡・遺構配置図

# 台太郎遺跡出土骨の鑑定

パリノ・サーヴェイ株式会社

## はじめに

岩手県盛岡市に所在する台太郎遺跡は、北上川支流の雫石川右岸に広がる河岸段丘上に位置する。この段丘は、吉田ほか（1984）により低位段丘に分類されている。段丘の形成年代については、詳細には記載されていないが、更新世後期に位置付けられている。

今回の発掘調査では、奈良・平安時代を中心とする遺構および遺物が検出されているが、周辺にも同時期の遺構・遺物が確認されている熊堂B遺跡や野古A遺跡などが分布する。今回の分析調査では、古代とされる周溝内側の土坑や竪穴住居跡内の土坑およびカマドより出土した骨片の同定を行い、当時の食性等に関する情報を得る。

## 1. 試料

試料は、東区の周溝内側の土坑（RD1040）から出土した骨（骨1）、北I区の住居跡（RA185）のPitとカマド内から検出された骨2点（骨2・3）、北I区の住居跡（RA393）のPit3から出土した骨（骨4）、計4点である。試料は破片であり、1試料に複数の点数が認められる。また、これら出土骨は、いずれも灰白色を呈し、表面に細かなひび割れが生じている。これら遺構の所属時期は、いずれも古代とされている。試料の詳細については、結果と共に表示する。

## 2. 分析方法

試料に付着した泥分を水に浸した筆で静かに除去する。自然乾燥後、試料を肉眼で観察し、その形態的特徴から、種類および部位の特定を行う。なお、同定には、金子浩昌先生の協力を得た。

## 3. 結果

検出動物分類群の一覧を表1に、同定結果を表2に示す。検出される種類は、ヒト、ニホンジカの2種類である。いずれも破片である。以下、各試料ごとに結果を記す。

### ・骨1

ヒトの頭骨（頭頂骨や側頭骨）の破片を検出している。この中には、鼓室部岩骨が1点認められる。おそらく一個の頭骨が破片となったものと推定される。火葬骨である。

### ・骨2

ニホンジカの末節骨近位骨端が認められる。焼骨であり、破損している。他に認められる獣骨片は、おそらくニホンジカなどの骨片であろう。

### ・骨3

焼骨である。はりついている土を剥がすと崩壊する危険があるので、そのままの状態にしてある。内側に海綿体が全面にみえるので、鹿角の可能性はある。

表1 検出動物分類群の一覧

脊椎動物門	Phylum Vertebrata
哺乳綱	Class Mammalia
サル目（霊長目）	Order Primates
ヒト科	Family Hominidae
ヒト	<i>Homo sapiens</i>
ウシ目（偶蹄目）	Order Artiodactyla
シカ科	Family Cervidae
ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>

・骨4

ニホンジカの上腕骨片や鼓室部岩骨片などを含む獣骨片である。

表2 骨同定結果

試料	調査区	遺構	地点	分類群	部位	部分	備考
骨1	東区	RD1040	周溝内側土坑	ヒト	頭骨	頭頂骨・側頭骨・鼓室部岩骨片など	30歳代成人男性
骨2	北I区	RA185	Pit 2 埋土	ニホンジカ	末節骨	近位端	
骨3	北I区	RA185	カマド内	ニホンジカ	鹿角		
骨4	北I区	RA393	Pit 3 埋土	ニホンジカ	上腕骨	破片	
					頭骨	鼓室部岩骨片	

4. 考察

RD1040から出土した骨1は、火葬された人骨であった。頭骨が確認され、頭蓋縫合が骨化していないことから、30歳代の成人と考えられる。また、乳様突起が大きいことから、男性と推定される。これがどのような経路をもってRD1040の土坑から検出されたのか不明であるが、火葬された骨であることから、付近に墓が存在していることが推測される。なお、馬場ほか(1986)を参考にすると、人骨を焼いた場合、600℃以下ではほとんど変化がなく、800℃付近では灰白色になり、収縮・硬化が見られ、歯のエナメル質が崩壊し歯冠が失われる等、最も激しく変化するとされている。このことから、本人骨は、800℃以上の高温で焼かれていると考えられる。

一方、2基の住居跡RA185・RA393から検出された骨は、ニホンジカである。これらの骨は、灰白色を呈し、表面に細かいひび割れがあり、加熱を受けた痕跡が認められることから、人為的に投棄されたことが推定される。おそらく、当時の食料源として利用されていたのであろう。

引用文献

馬場悠男・茂原信生・阿部修二・江藤盛治(1986) 根古屋遺跡出土の人骨・動物骨. 「霊山根古屋遺跡の研究 ー福島県霊山町根古屋における再葬墓群ー」, p.93-113, 福島県霊山町教育委員会.

# 写 真 图 版





各種出土土器



モミ痕のある土器 (RA553-2・底部)

写真図版 1 遺物



写真図版2 RG461堀跡



RB045掘立柱建物跡（南から）



東区作業風景（西から）

写真図版 3 RB045掘立柱建物跡・東区作業風景



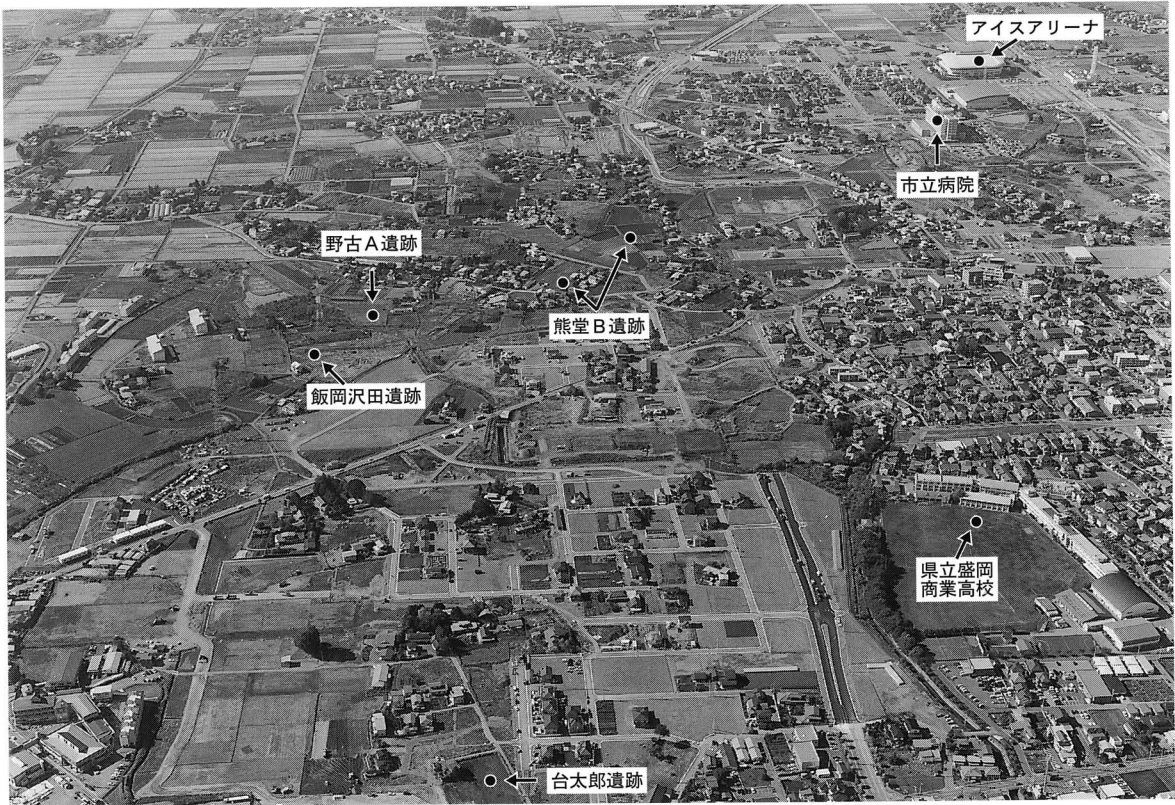


遺跡周辺Ⅰ  
 (昭和23年頃  
 米軍撮影の空中  
 写真)

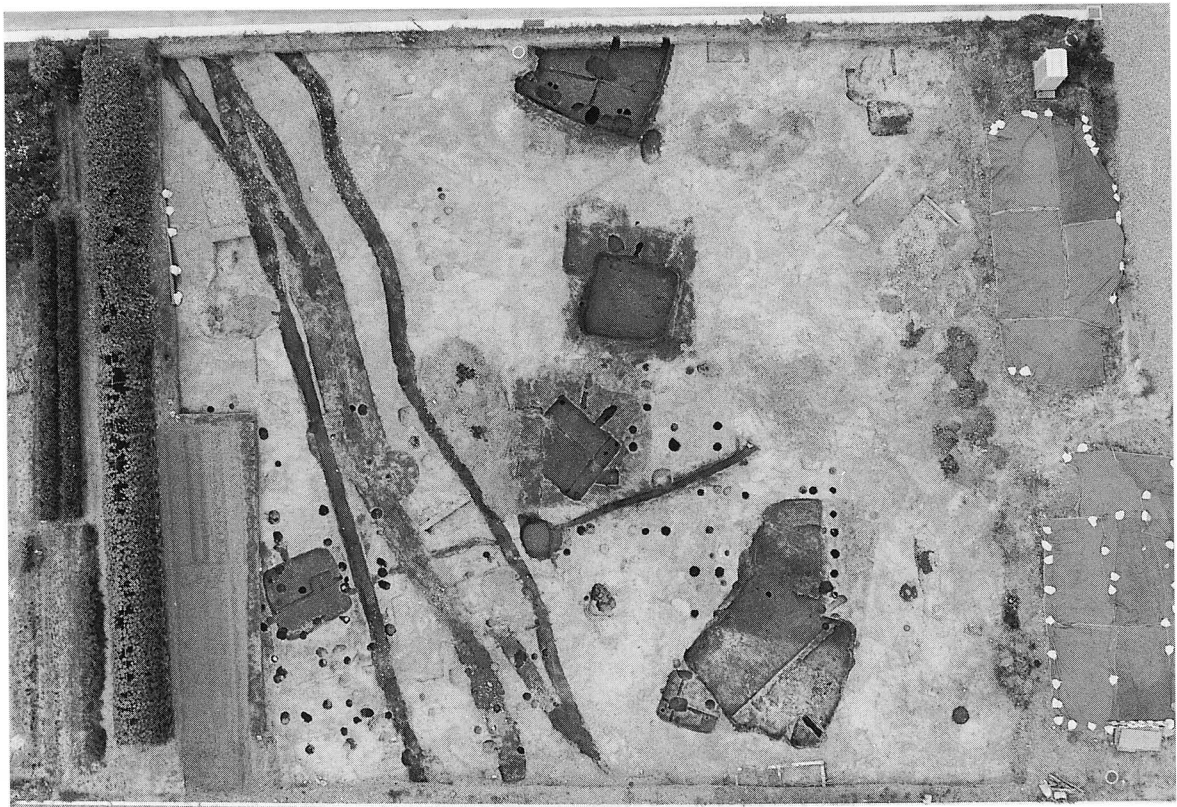


遺跡周辺Ⅱ  
 (昭和37年頃  
 国土地理院撮影  
 の空中写真)

写真図版4 盛南地区の変遷



遺跡周辺Ⅲ（平成13年）



北Ⅰ区（上が西）

写真図版5 空中写真

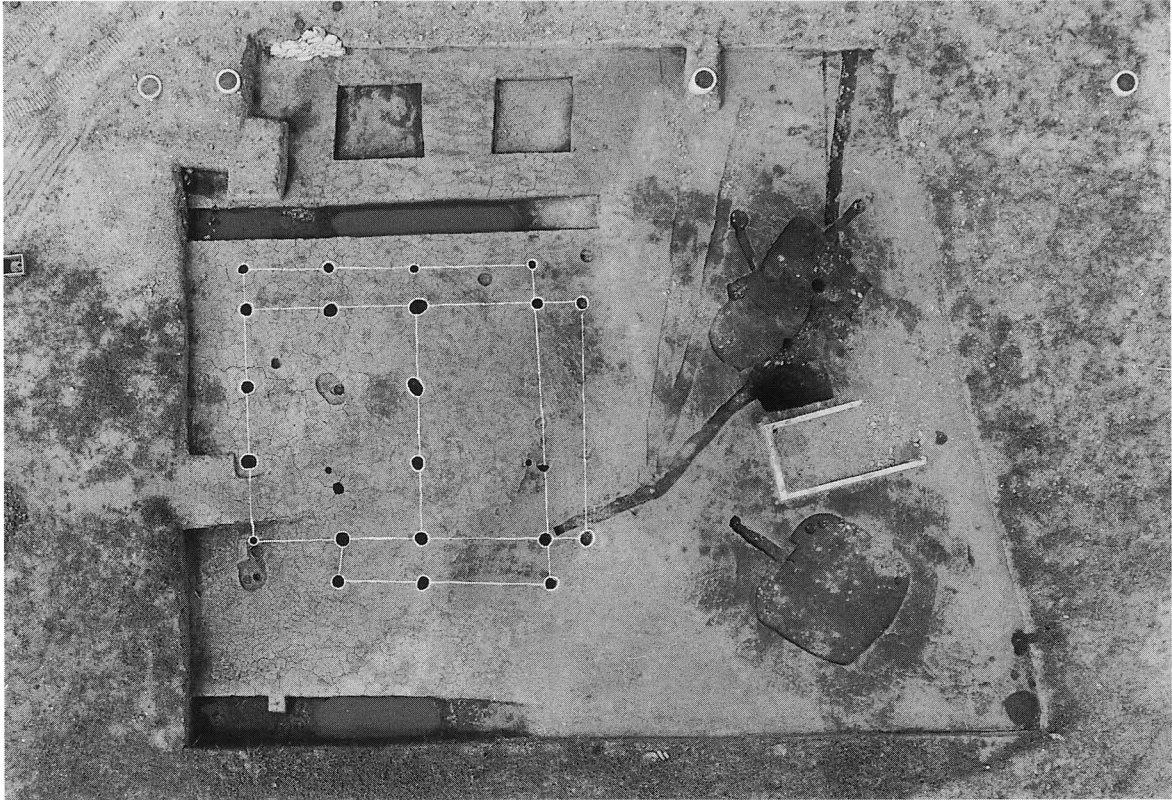


北東区（上が西）

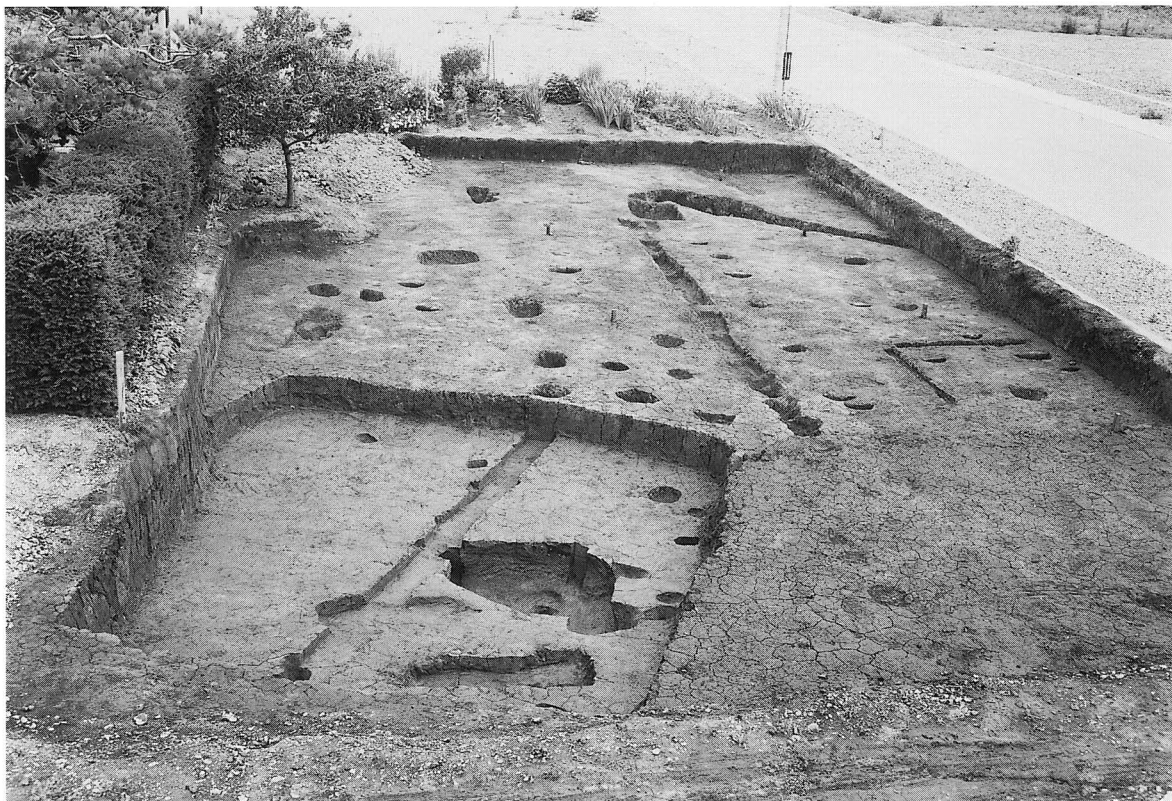


東区（上が西）

写真図版 6 空中写真



西区（上が北）



北Ⅱ区（上が北）

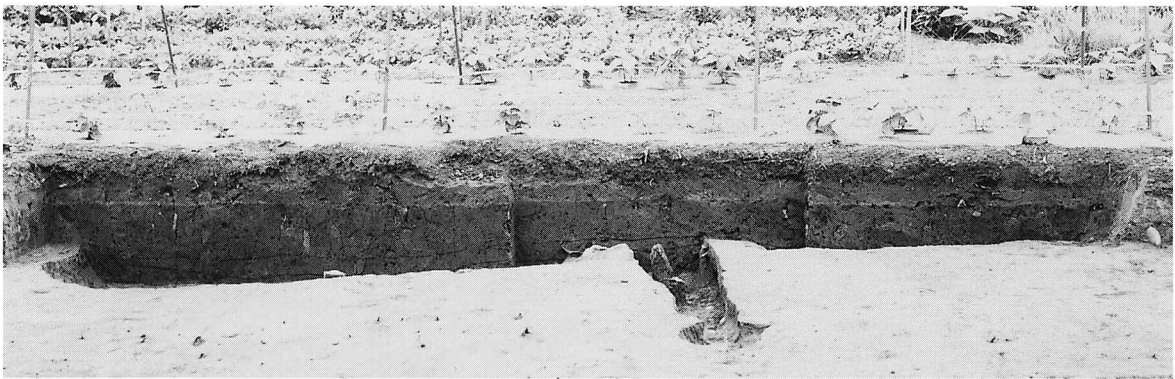
写真図版 7 空中写真、北Ⅱ区全景



完掘（東から）



カマド完掘（南から）



土層断面（北から）



煙道横断面（北から）



遺物出土状況（No.1、北から）

写真図版 8 RA185竪穴住居跡



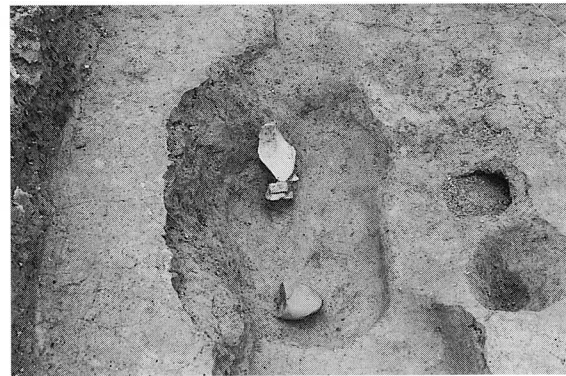
完掘（東から）



土層断面（東から）

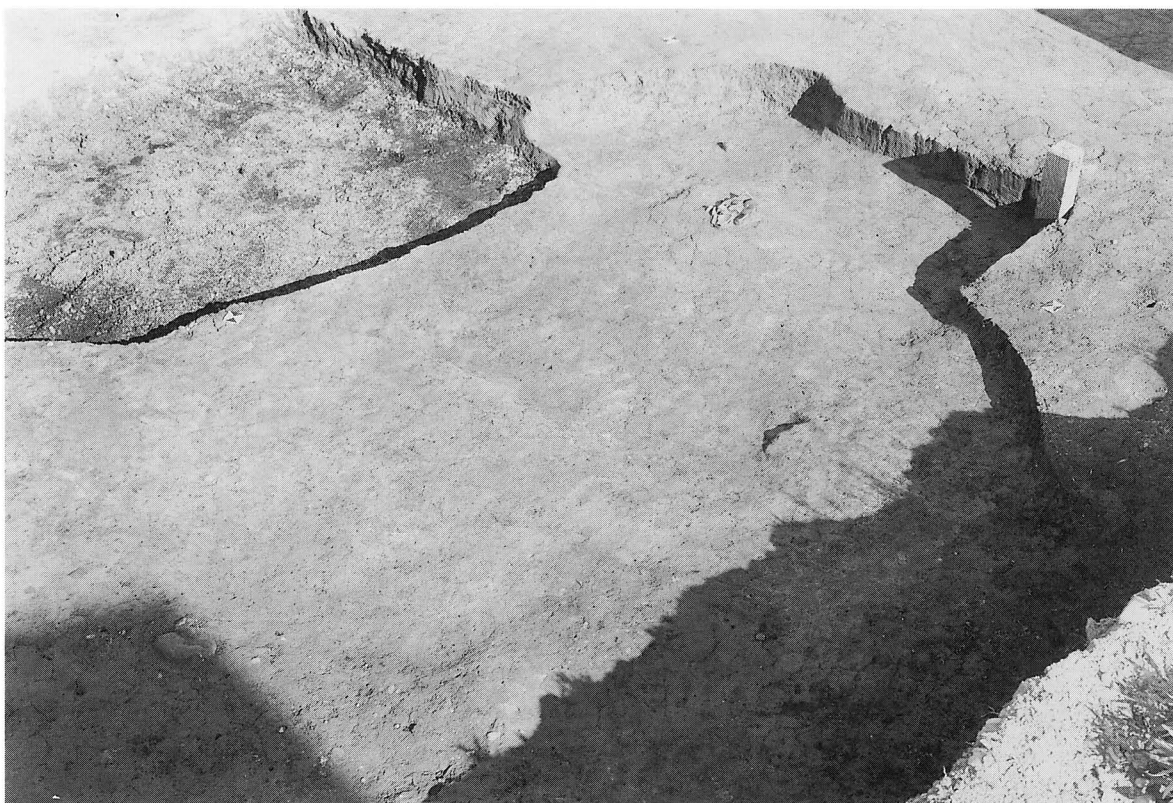


遺物出土状況（No.15・16、東から）

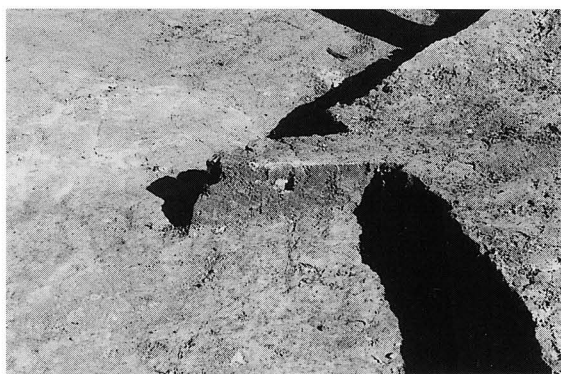


遺物出土状況（Pit 2、北から）

写真図版 9 RA393竪穴住居跡



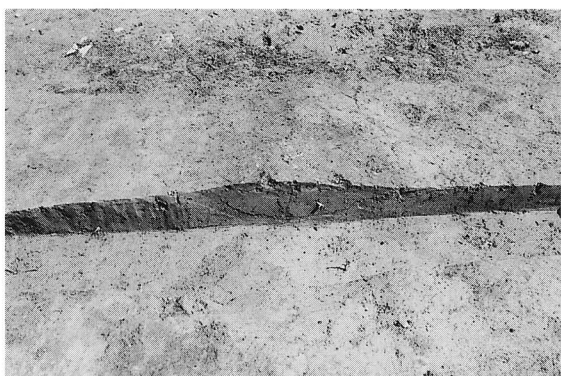
完掘（北から）



土層断面（北から）



土層断面（東から）

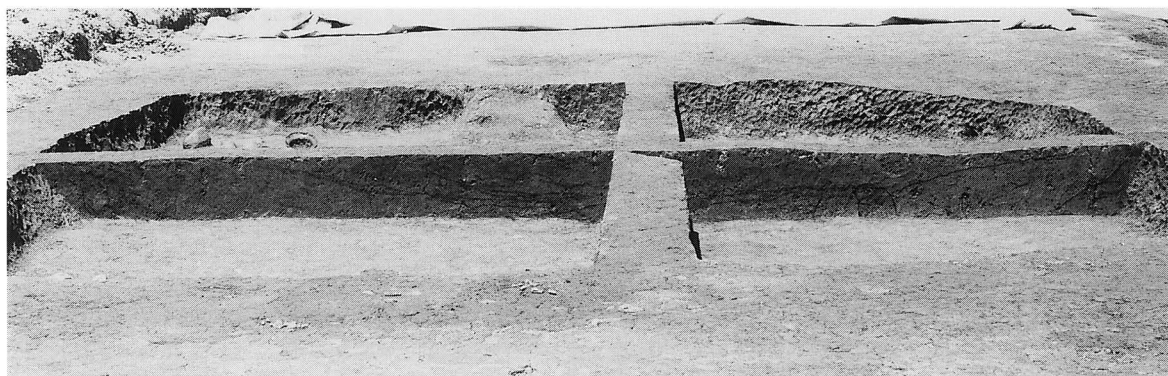


焼土断面（南から）

写真図版10 RA396竪穴住居跡



完掘（南から）



土層断面（西から）



カマド袖断面（南から）



遺物出土状況（No.1、北から）

写真図版11 RA547竪穴住居跡





完掘（東から）



土層断面（南から）



Pit 3 完掘（南から）



遺物出土状況（No. 2、西から）

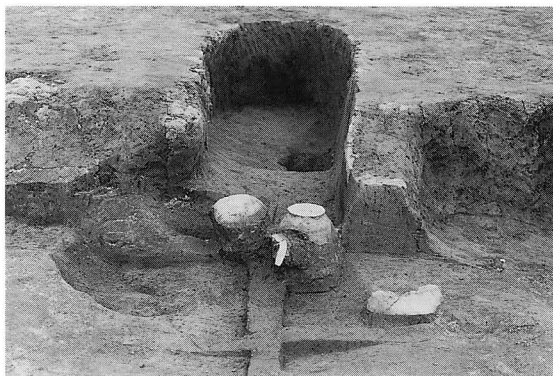
写真図版12 RA549竪穴住居跡



完掘（南から）



土層断面（北東から）



袖断面（南から）

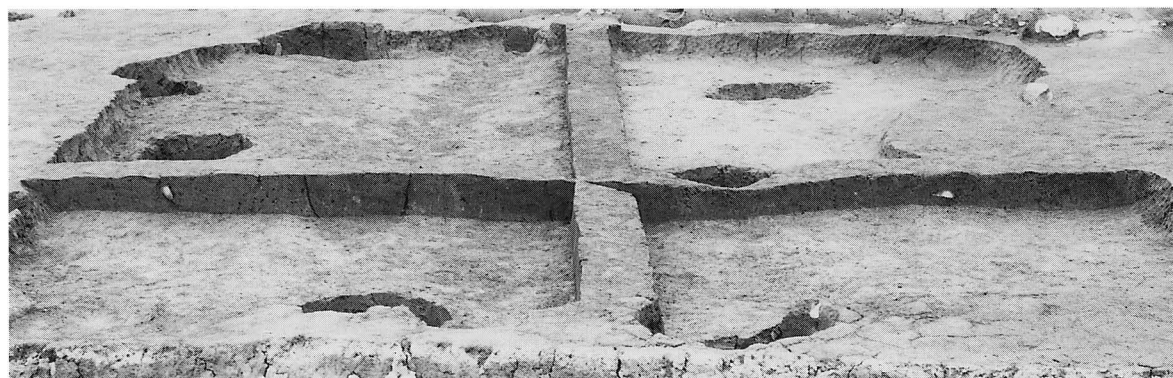


遺物出土状況（北コーナー、南東から）

写真図版13 RA550竪穴住居跡



完掘（南東から）



土層断面（北から）



袖断面（東から）

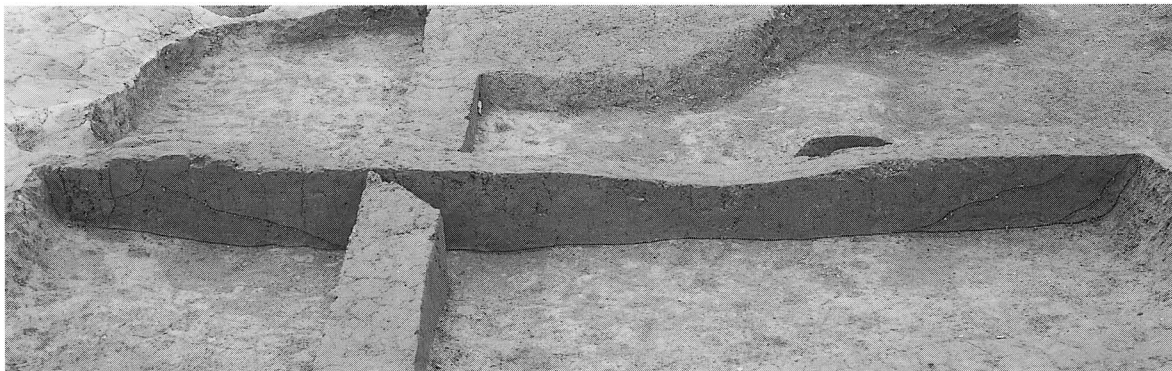


煙道縦断面（南から）

写真図版14 RA551竪穴住居跡



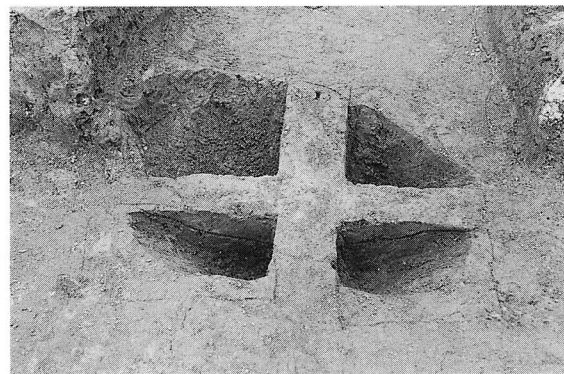
完掘（南東から）



土層断面（東から）



煙道縦断面（北東から）

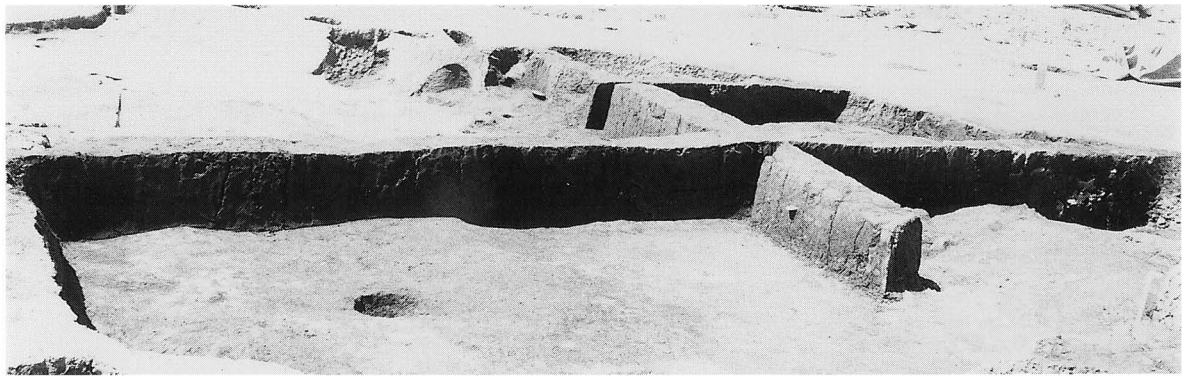


燃烧部断面（東から）

写真図版15 RA552竪穴住居跡



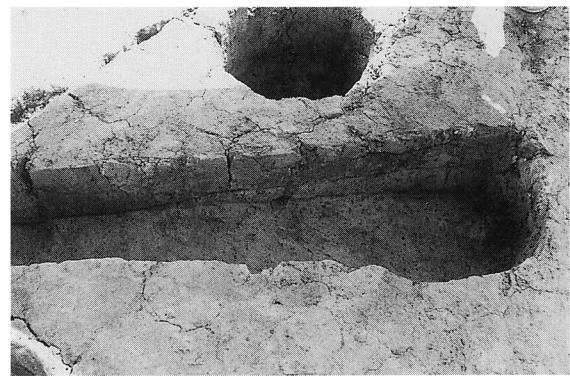
完掘（南東から）



土層断面（南東から）



焼土断面



煙道部縦断面（北東から）

写真図版16 RA553竪穴住居跡



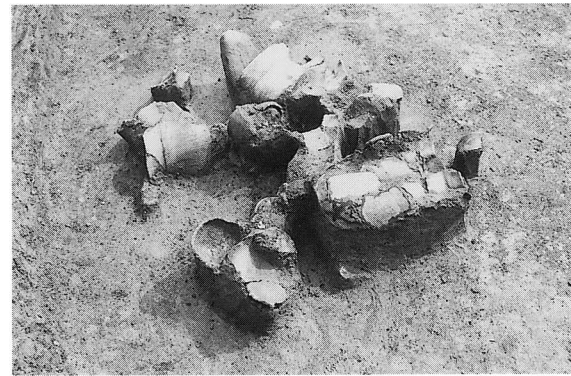
完掘（東から）



土層断面（南から）



袖断面（南から）

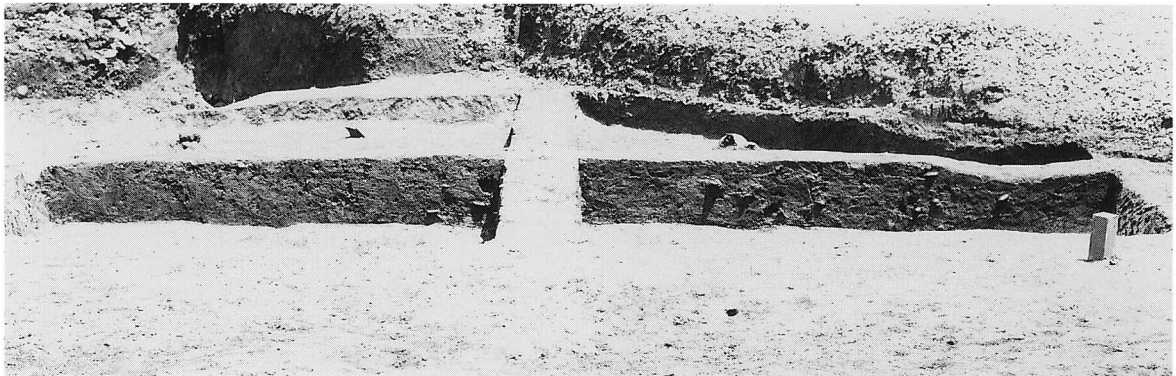


遺物出土状況（No.1～6、東から）

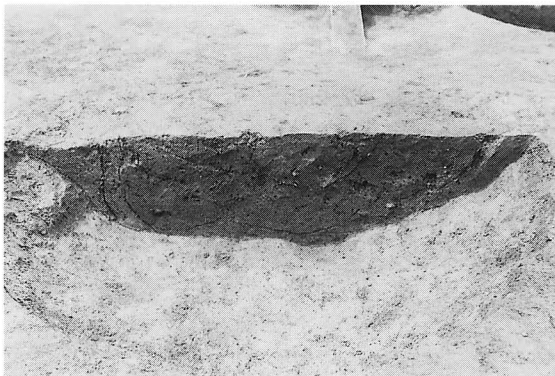
写真図版17 RA554・555竪穴住居跡



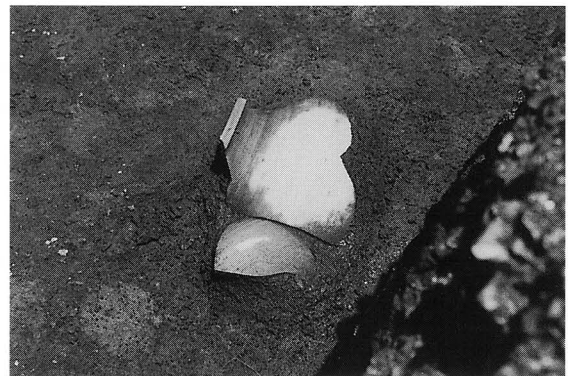
完掘（東から）



土層断面（西から）



Pit 1 断面（東から）



遺物出土状況（No. 2、東から）

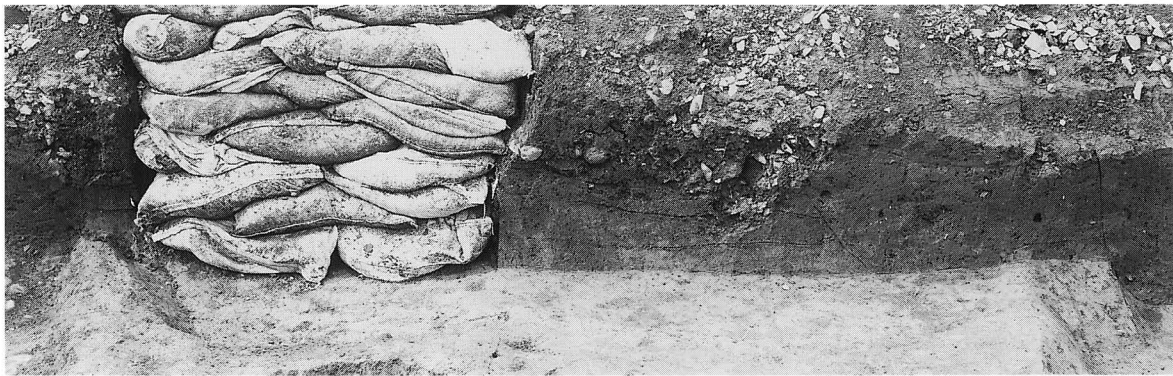
写真図版18 RA556竪穴住居跡



完掘（南から）



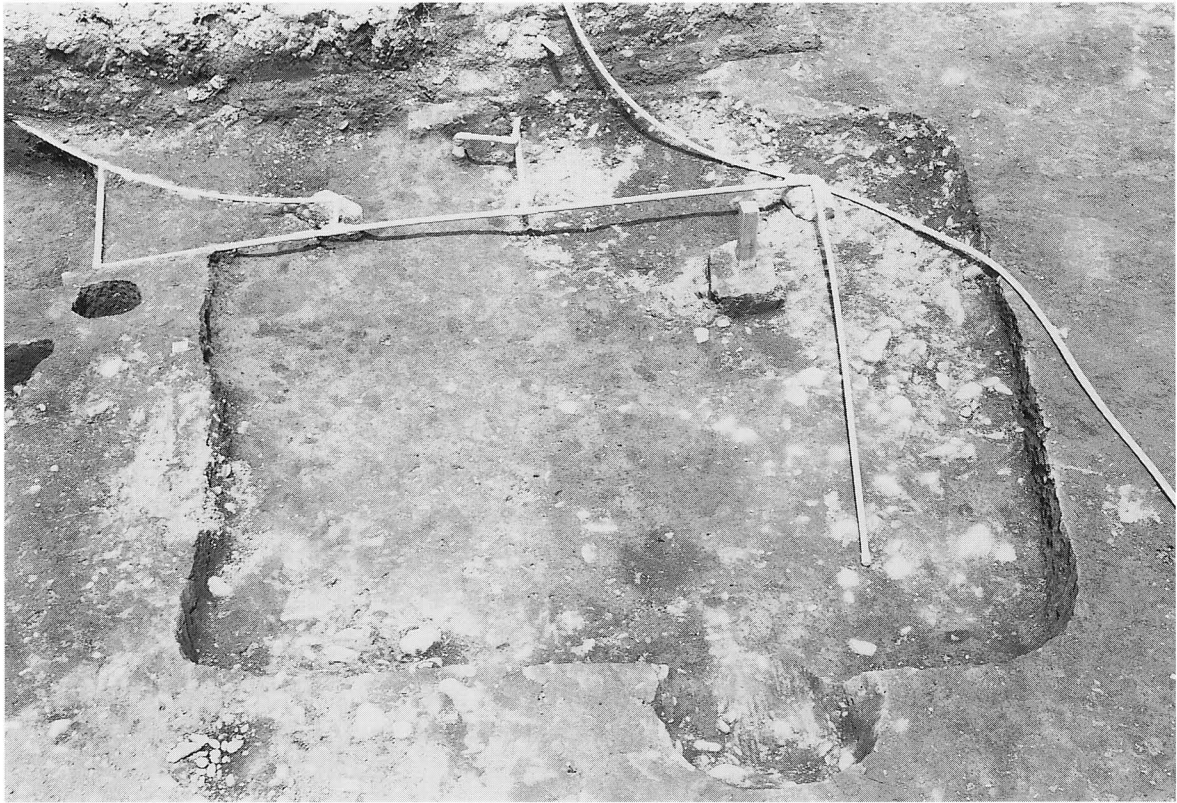
土層断面（RA557南から）



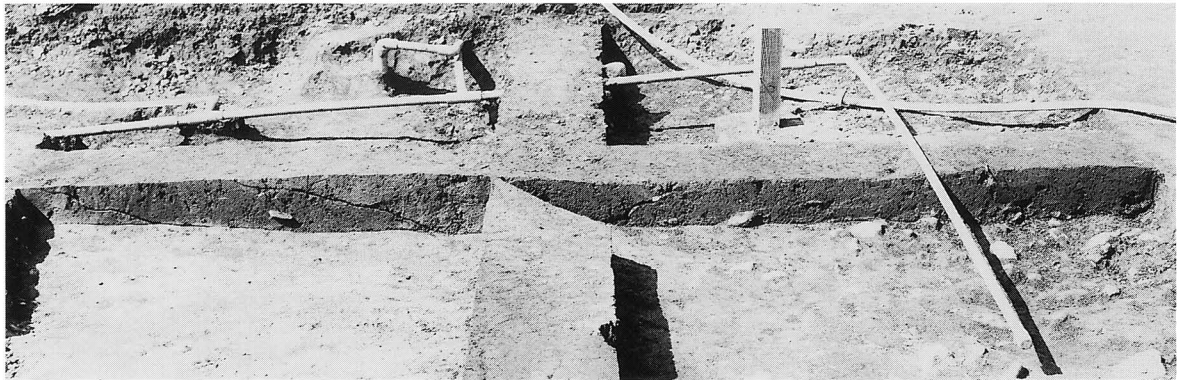
土層断面（RA558南から）

写真図版19 RA557・558竪穴住居跡

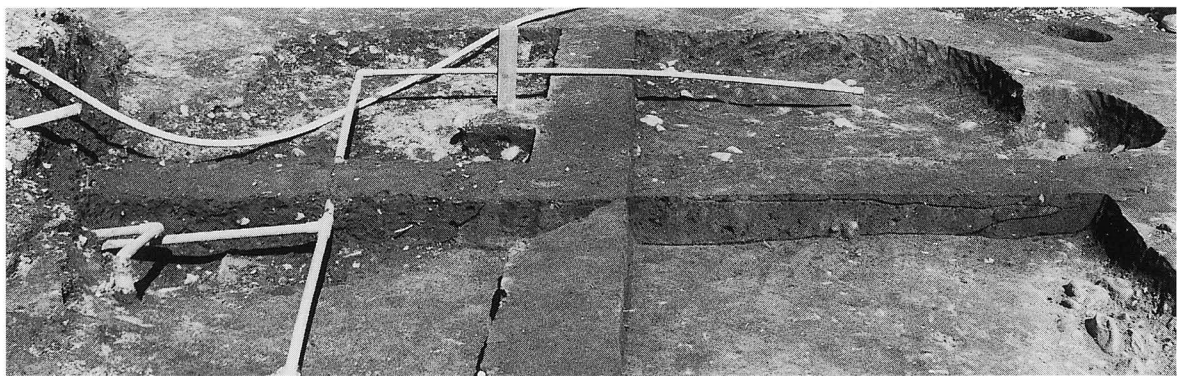




完掘（南から）



土層断面（南から）

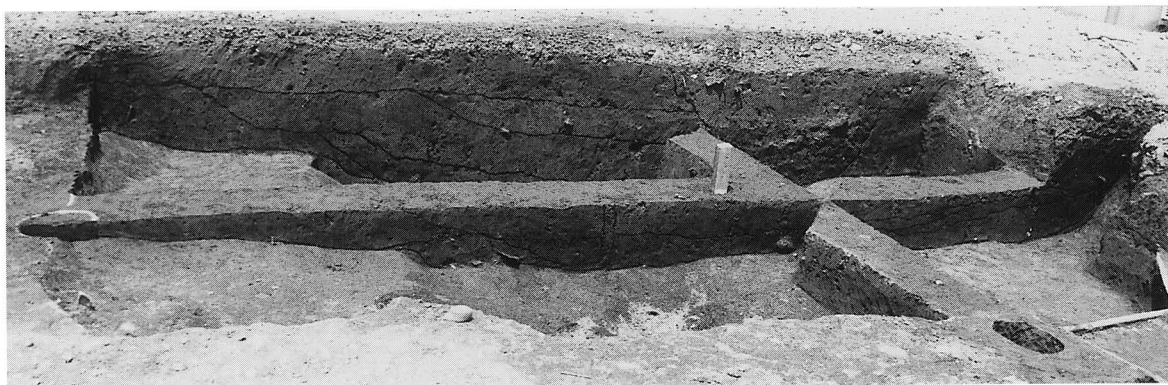


土層断面（東から）

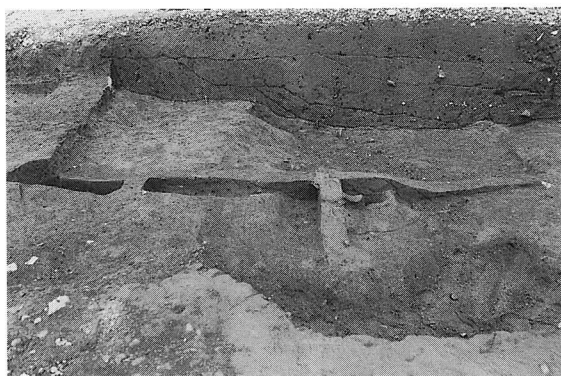
写真図版20 RA559竪穴住居跡



完掘（北から）



土層断面（東から）



煙道縦断面（東から）



カマド横断面（北から）

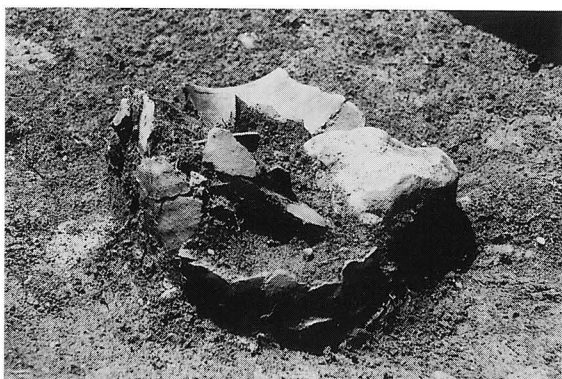
写真図版21 RA560竪穴住居跡



完掘（南東から）



土層断面（北から）



遺物出土状況（北西から）

写真図版22 RA561竪穴住居跡



完掘（南東から）



土層断面（東から）

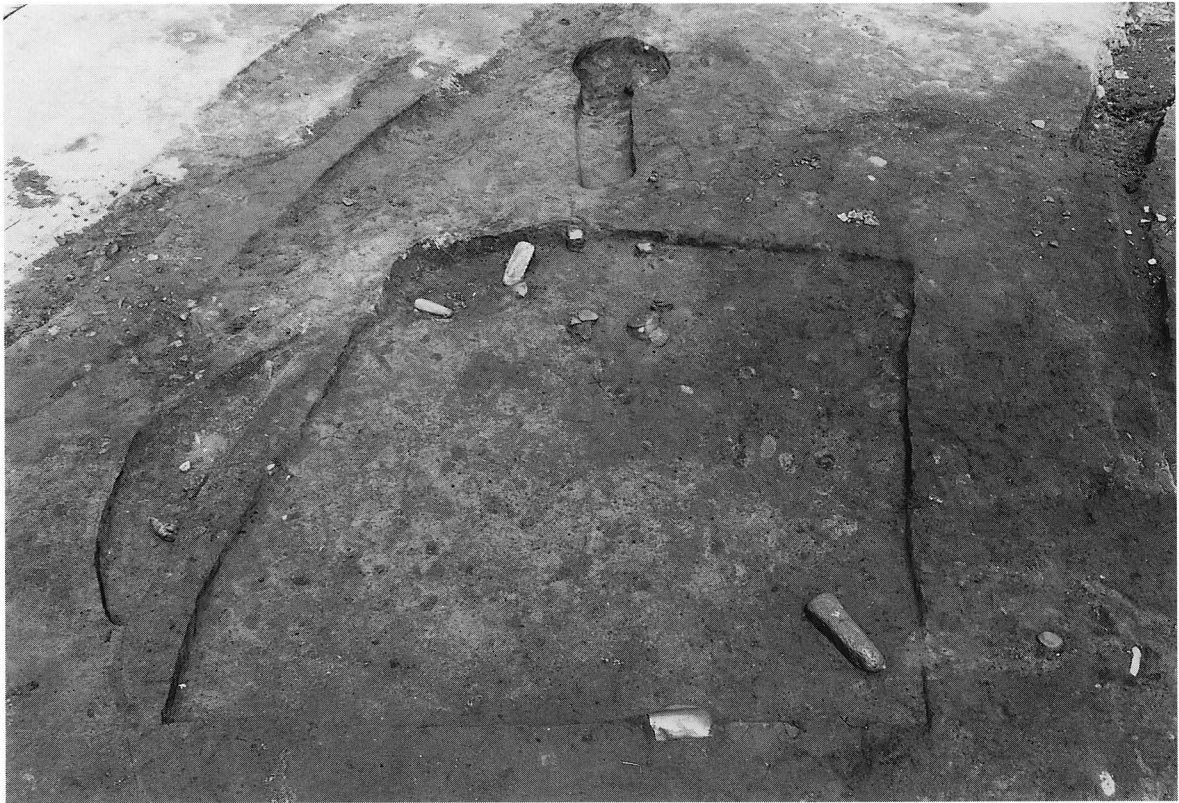


煙道横断面（南東から）

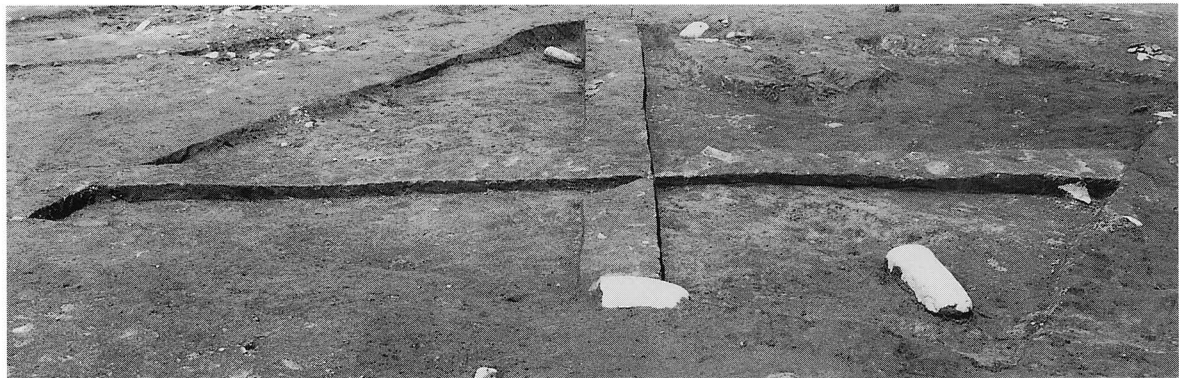


遺物出土状況（北コーナー部分 東から）

写真図版23 RA562竪穴住居跡



完掘（南から）



土層断面（南から）



土層断面（西から）

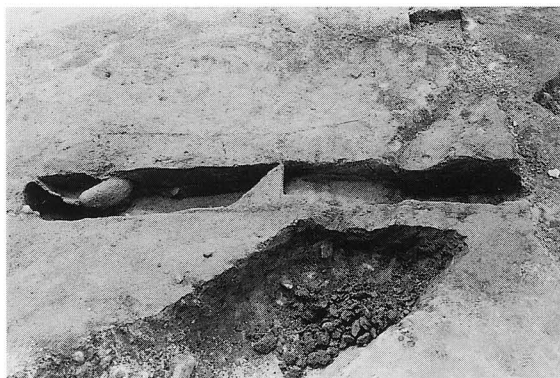
写真図版24 RA563竪穴住居跡



完掘（南西から）



土層断面（北東から）

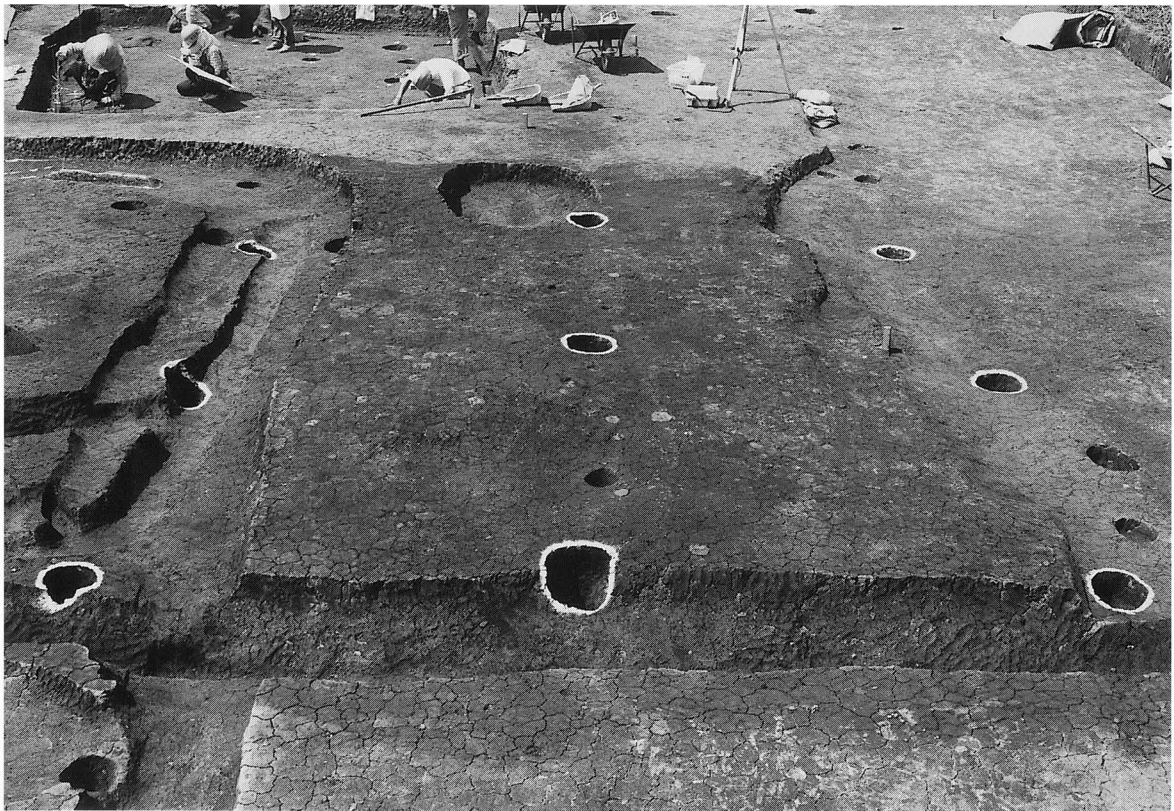


煙道縦断面（北西から）

写真図版25 RA564竪穴住居跡



RB044完掘（東から）

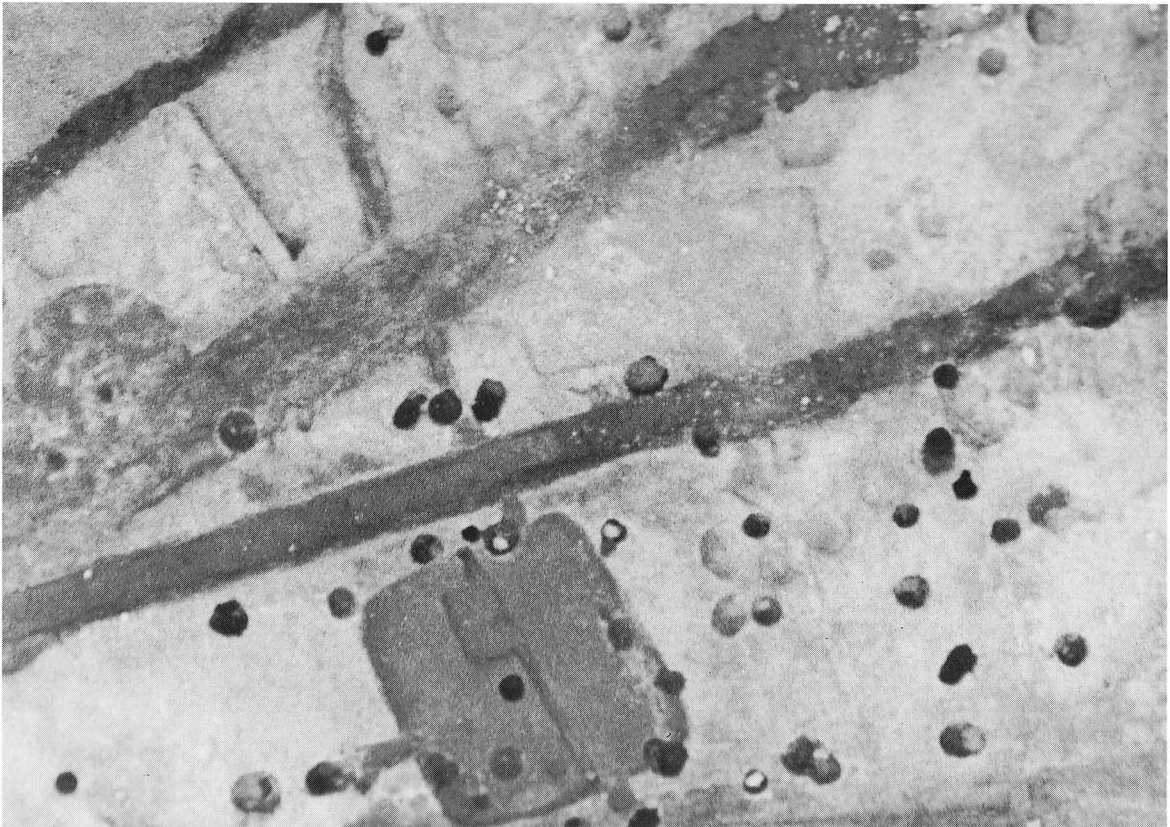


RB045完掘（南東から）

写真図版26 RB044・045掘立柱建物跡



RB046完掘（南から）



RB047・048完掘（南から）

写真図版27 RB046・047・048掘立柱建物跡

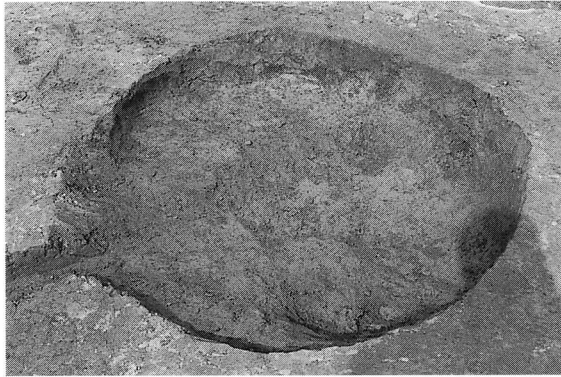




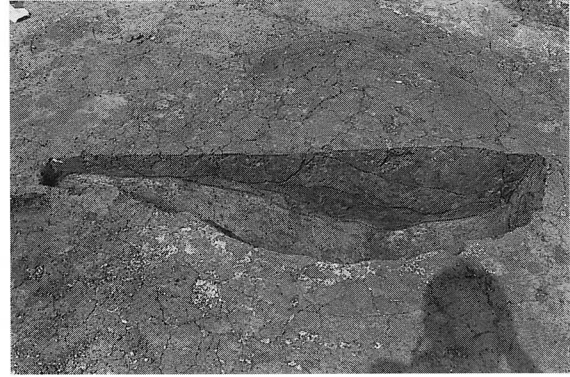
RD1039完掘 (南から)



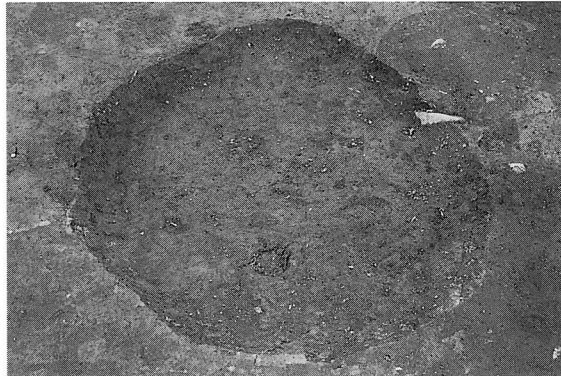
RD1039断面 (西から)



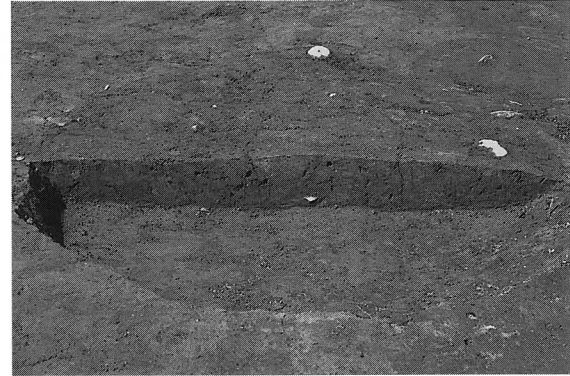
RD1040完掘 (南から)



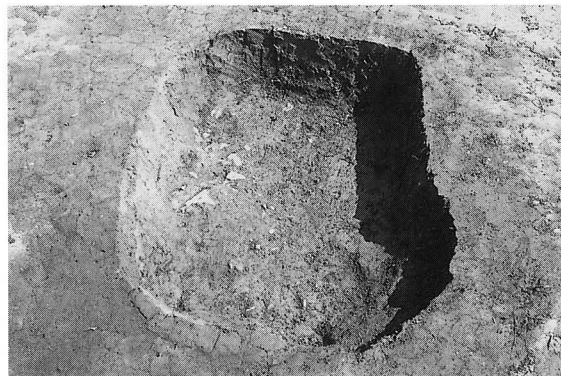
RD1040断面 (南西から)



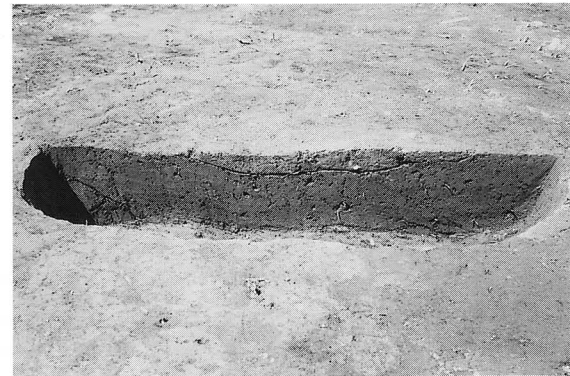
RD1041完掘 (南から)



RD1041断面 (南から)



RD1042完掘 (北西から)



RD1042断面 (東から)

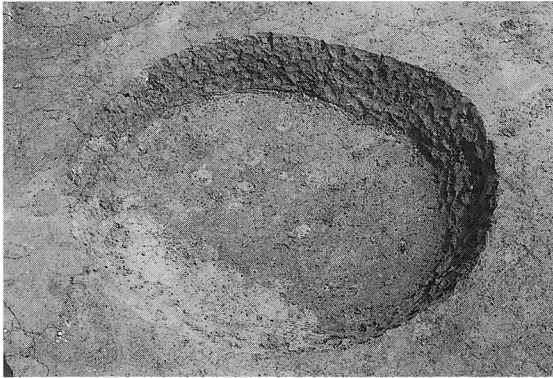
写真図版28 RD1039~1042土坑



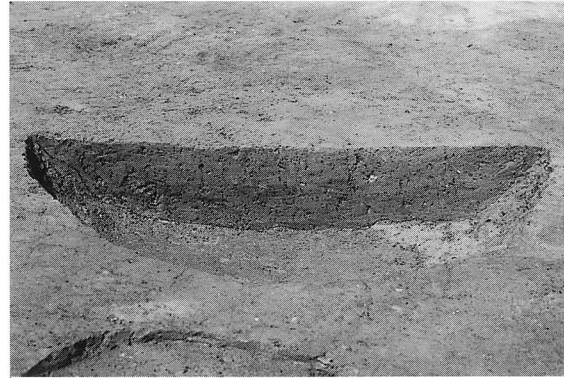
RD1043完掘（北西から）



RD1043断面（北西から）



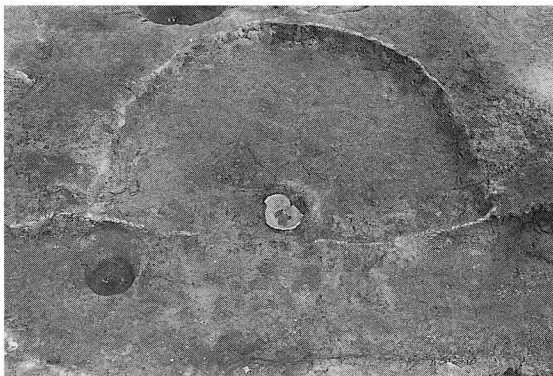
RD1045完掘（南西から）



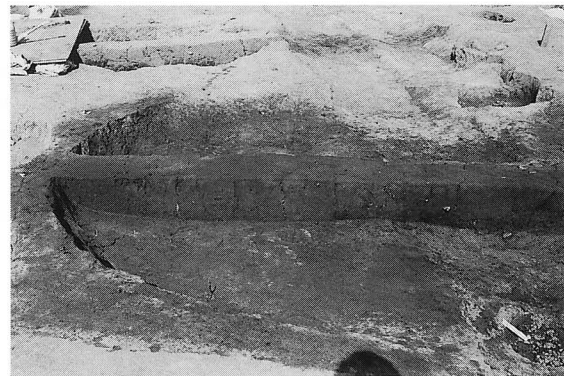
RD1045断面（東から）



RD1046完掘（北西から）



RD1047完掘・遺物出土（南から）



RD1047断面（西から）

写真図版29 RD1043・1045～1047土坑



RD1048完掘（南から）



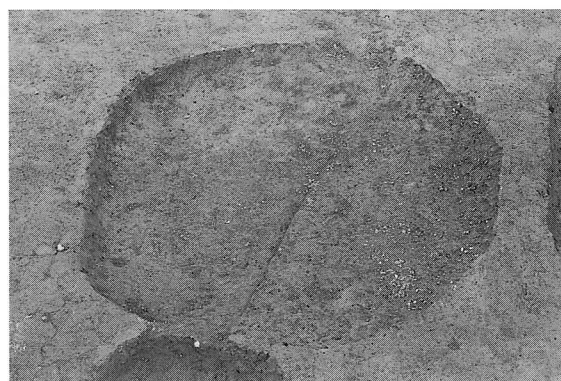
RD1048断面（南西から）



RD1049完掘（東から）



RD1049断面（東から）



RD1050完掘（南から）



RD1050断面（西から）



RD1051完掘（南から）

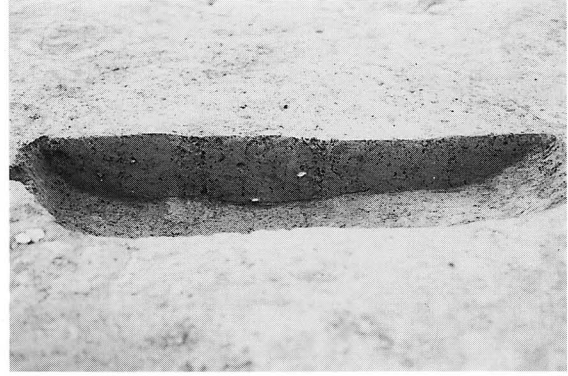


RD1051断面（西から）

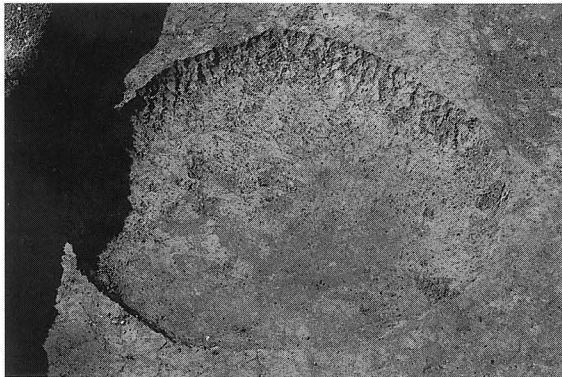
写真図版30 RD1048～1051土坑



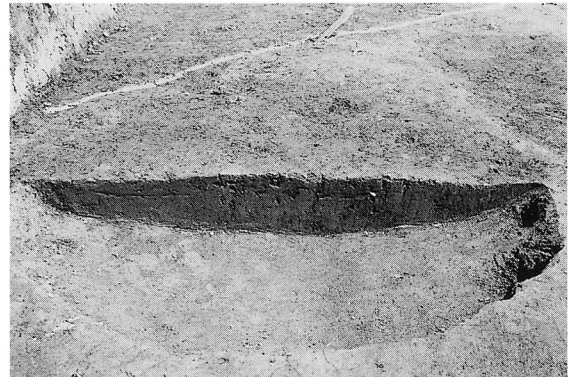
RD1052完掘（南から）



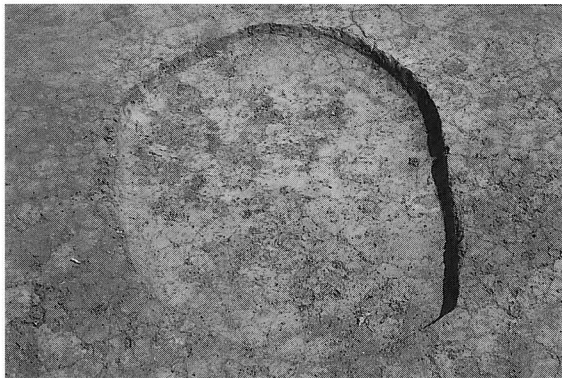
RD1052断面（東から）



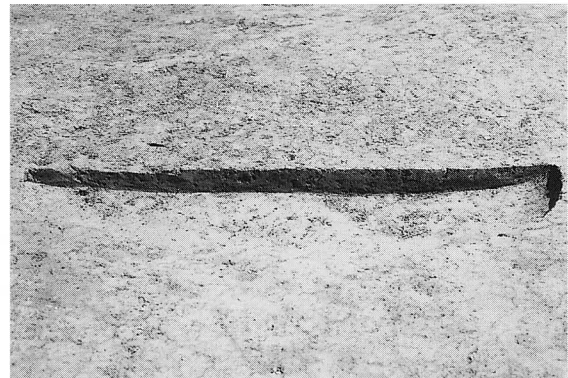
RD1053完掘（南から）



RD1053断面（南から）



RD1054完掘（西から）



RD1054完掘（南から）



RD1055完掘（南から）

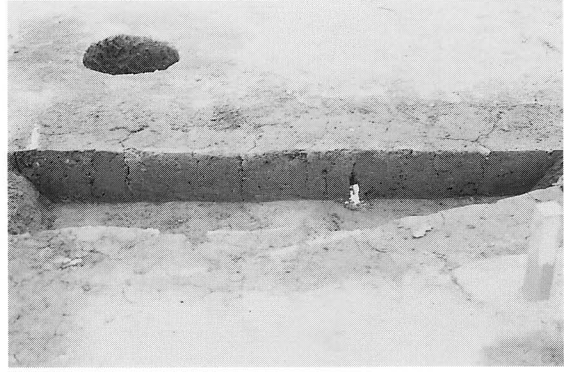


RD1055断面（西から）

写真図版31 RD1052～1055土坑



RD1056完掘（西から）



RD1056断面（西から）



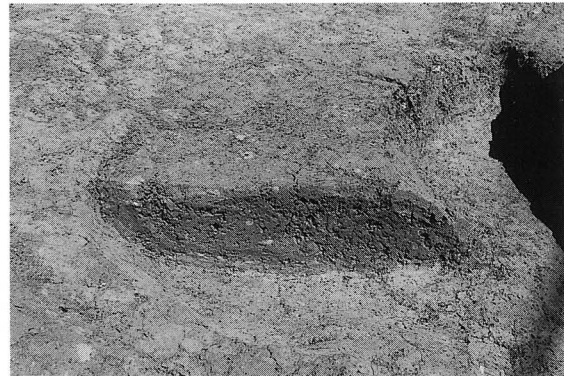
RD1057完掘（南から）



RD1057断面（南から）



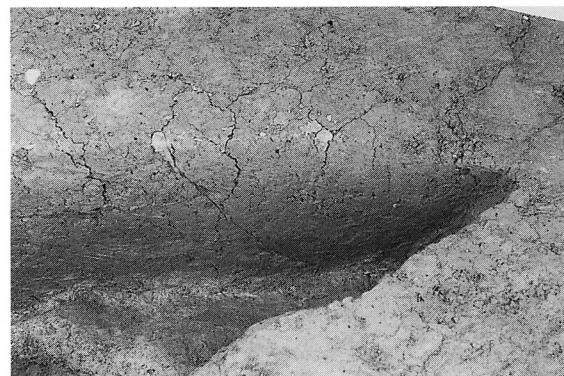
RD1058完掘（南東から）



RD1058断面（南から）



RD1060遺物出土（南東から）

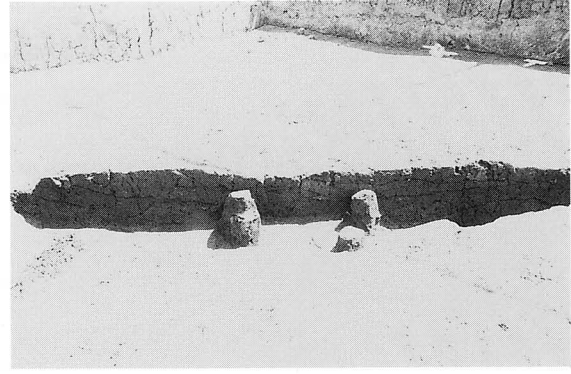


RD1059断面（西から）

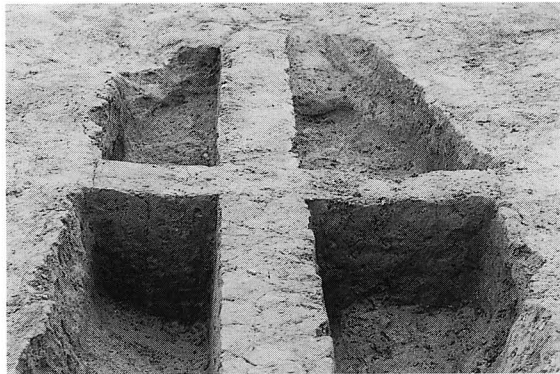
写真図版32 RD1056～1060土坑



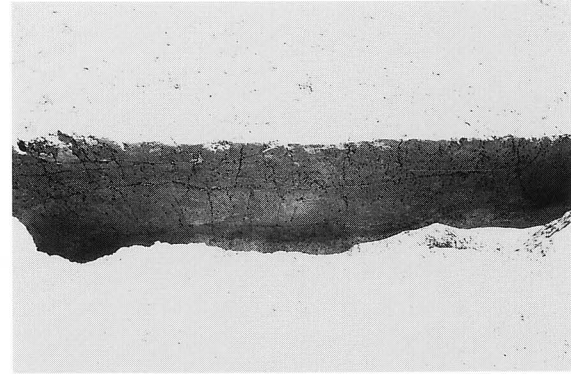
RD1060完掘（南東から）



RD1060断面（東から）



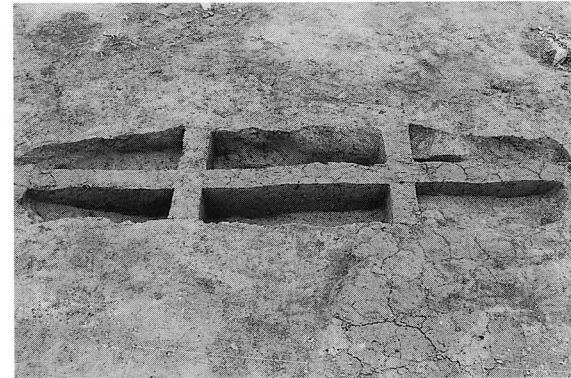
RD1062完掘（東から）



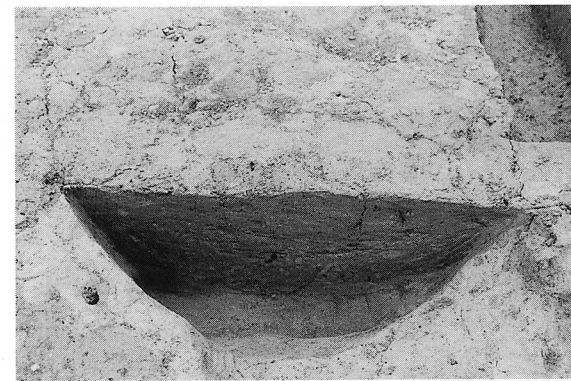
RD1061断面（西から）



RD1062・1063完掘（東から）



RD1062断面（南から）



RD1063断面（東から）

写真図版33 RD1060～1063土坑



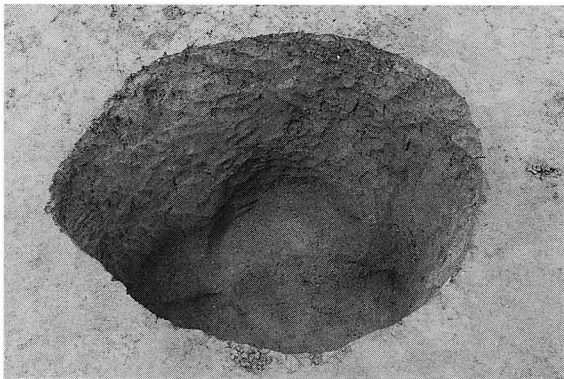
RD1064完掘（南から）



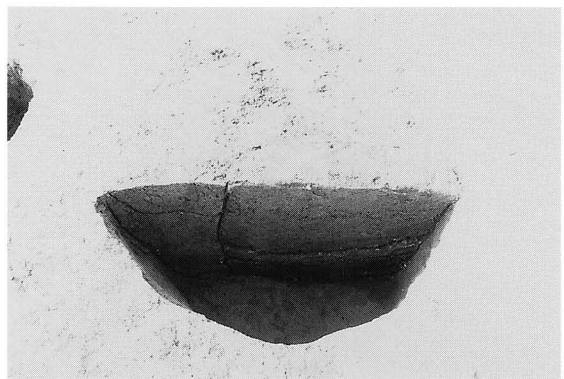
RD1064断面（南から）



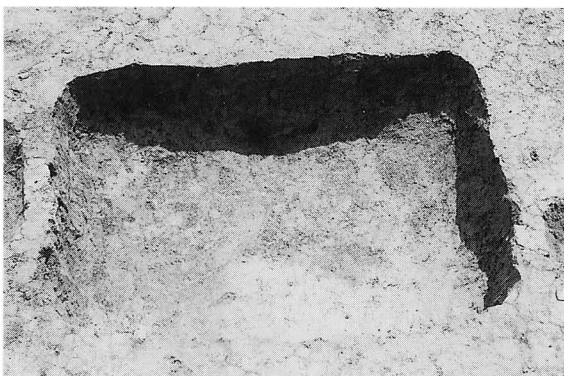
RD1066断面（東から）



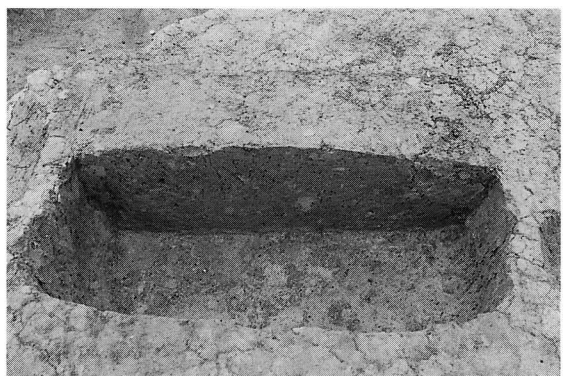
RD1067完掘（南から）



RD1067断面（南から）

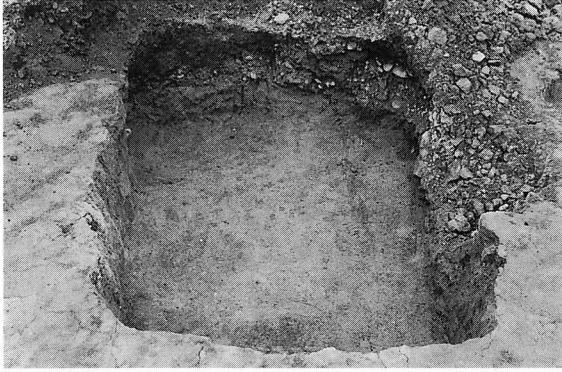


RD1068完掘（北西から）

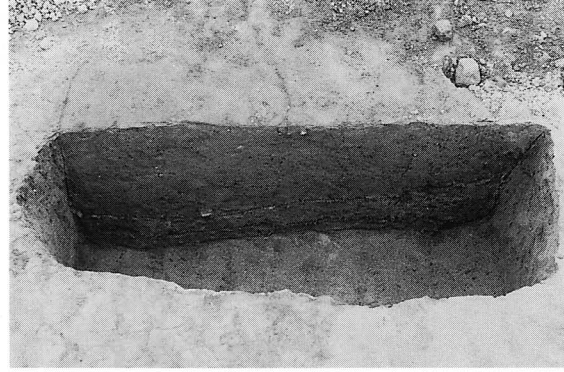


RD1068断面（西から）

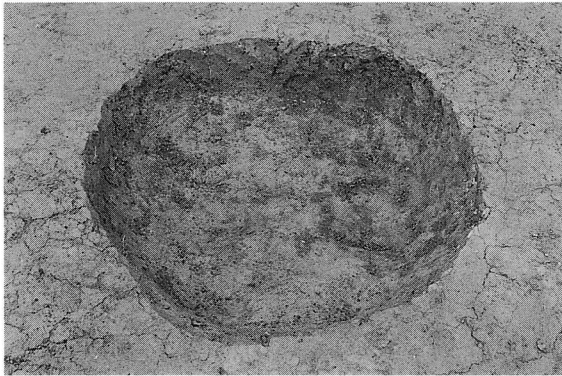
写真図版34 RD1064・1066～1068土坑



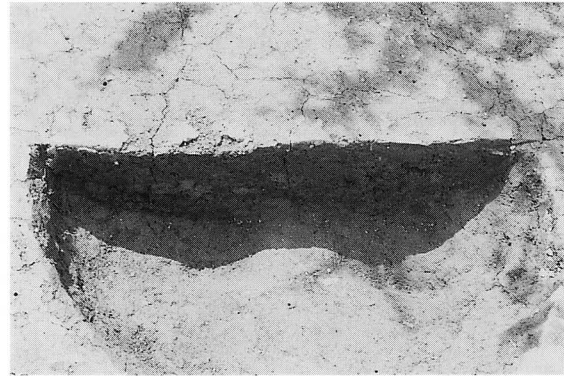
RD1069完掘（東から）



RD1069断面（東から）



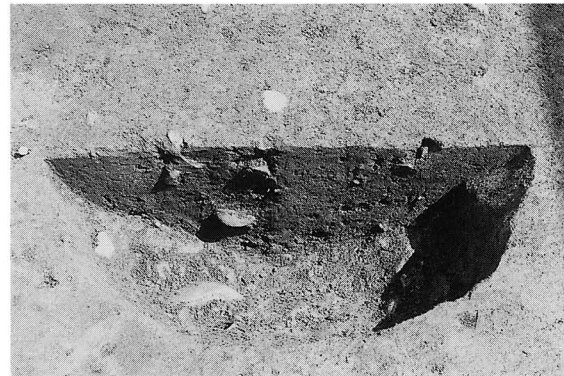
RD1070完掘（東から）



RD1070断面（東から）



RD1071完掘（南から）



RD1071断面（南から）



RD1072完掘（北から）



RD1072断面（北西から）

写真図版35 RD1069~1072土坑





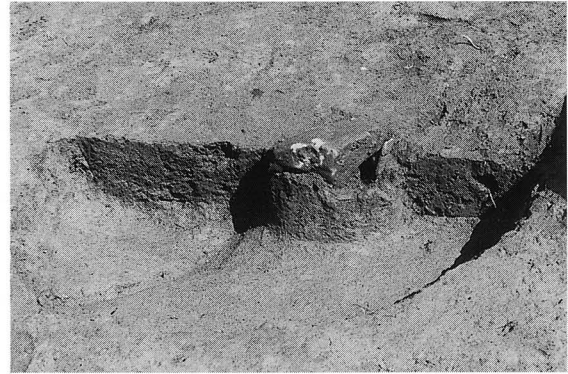
RD1073完掘（西から）



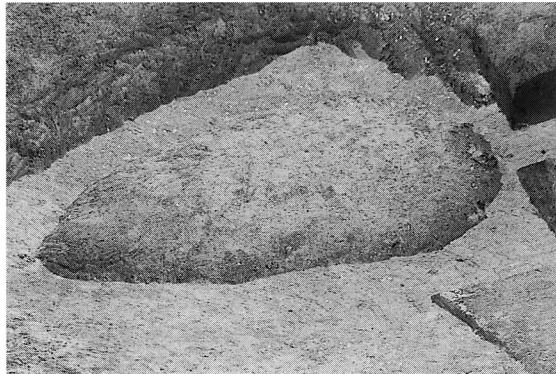
RD1073断面（西から）



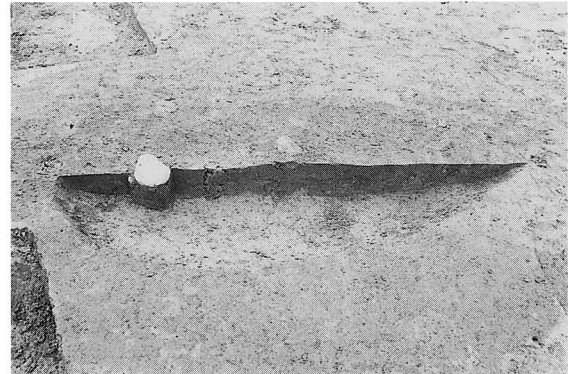
RD1074完掘（西から）



RD1074断面（西から）



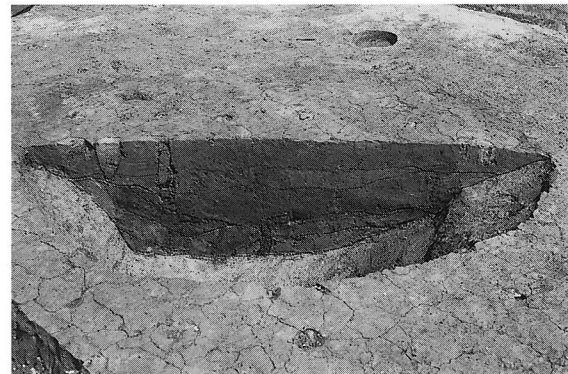
RD1075完掘（北から）



RD1075断面（北から）

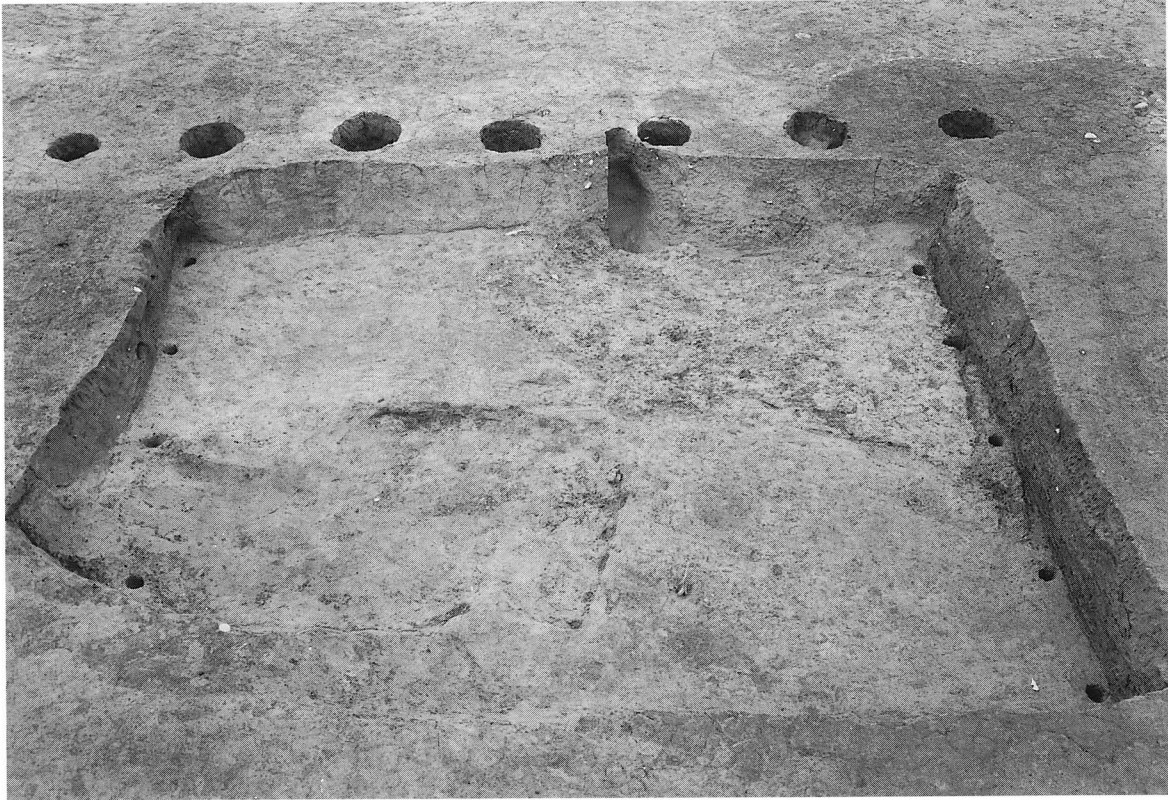


RD1076完掘（北から）



RD1076断面（西から）

写真図版36 RD1073～1076土坑

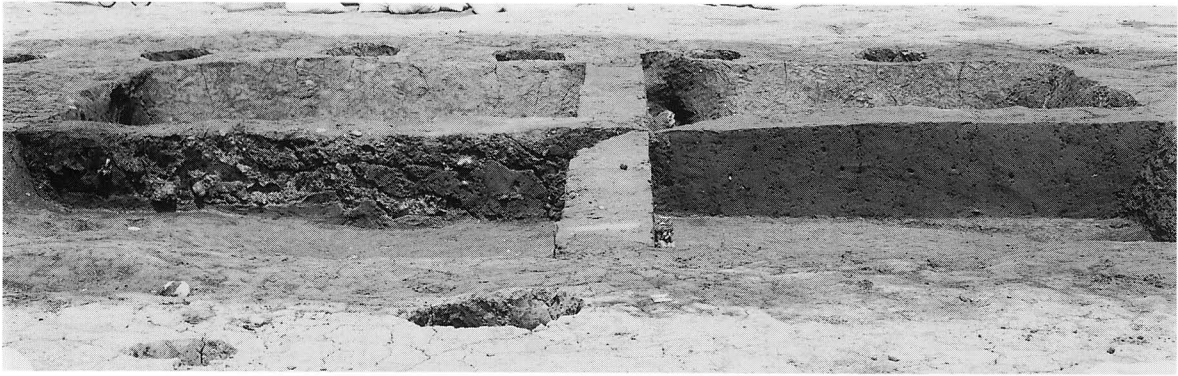


RE055完掘Ⅰ（南から）

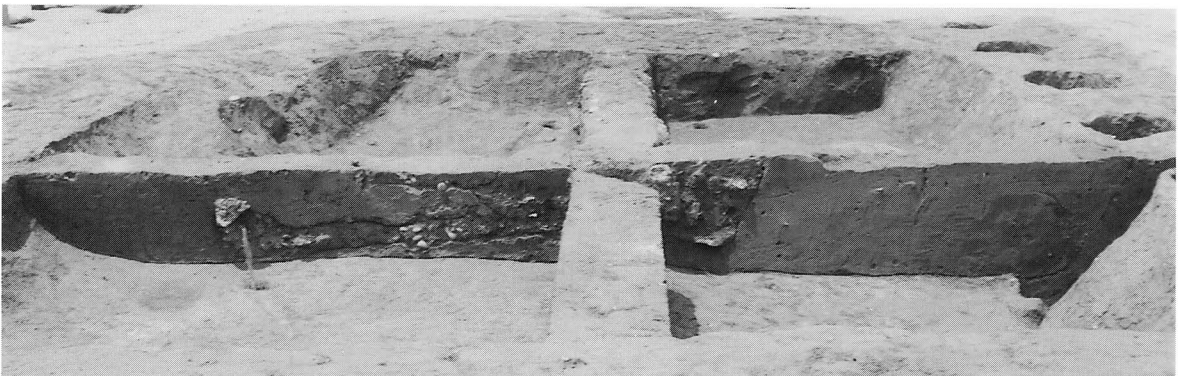


RE055完掘Ⅱ（南から）

写真図版37 RE055竪穴状遺構（1）



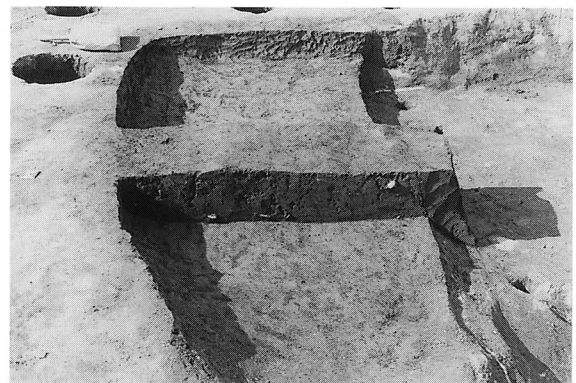
土層断面（南から）



土層断面（東から）



壁面木質検出（西から）

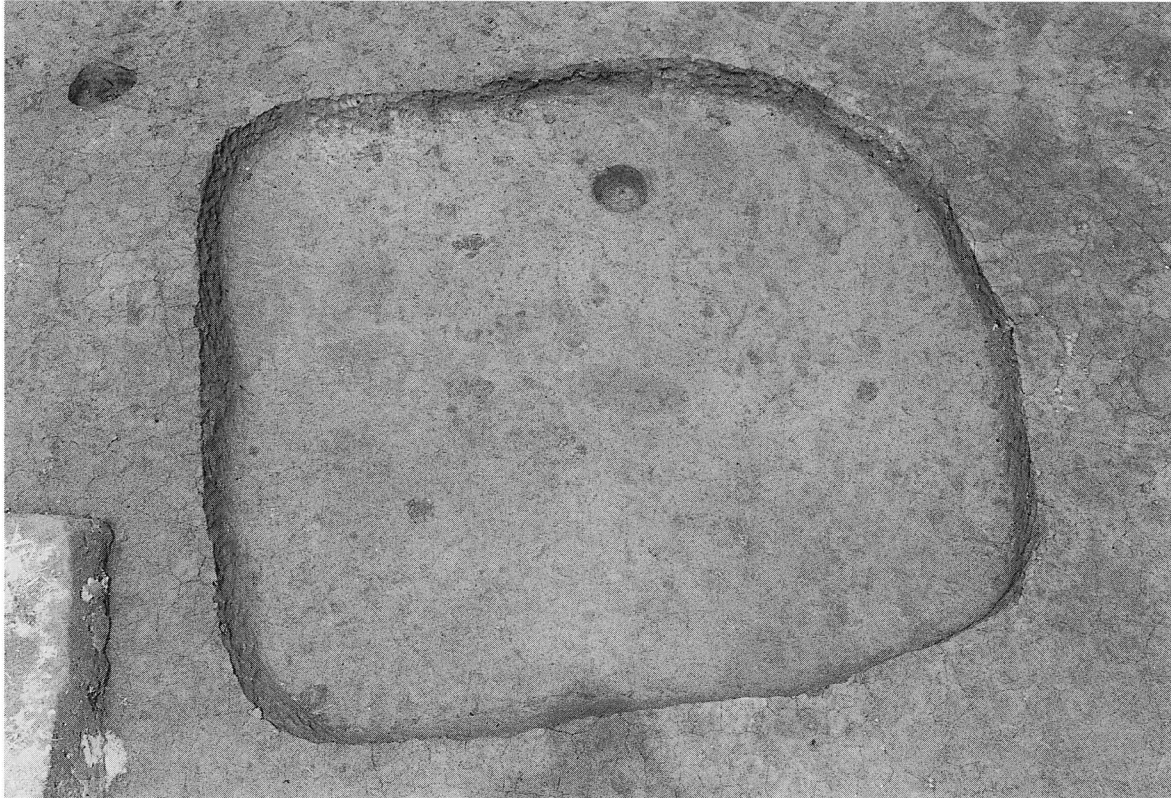


土層断面2次（南から）

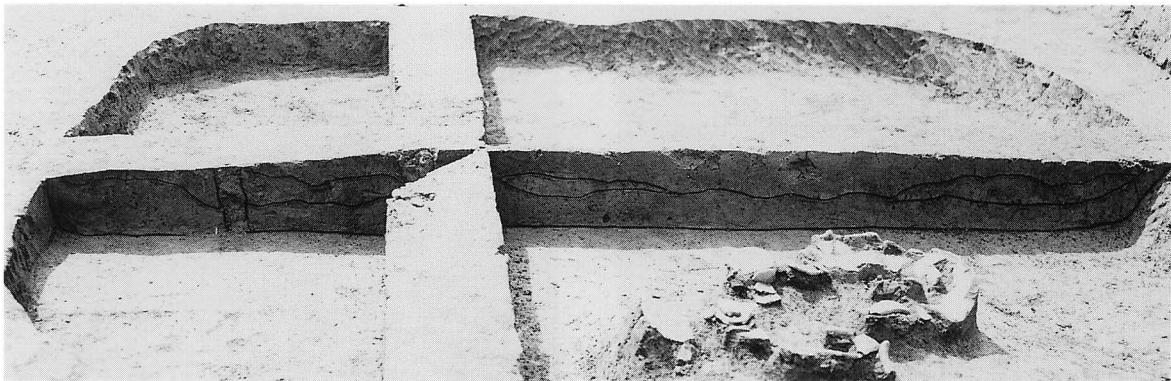


壁面木質

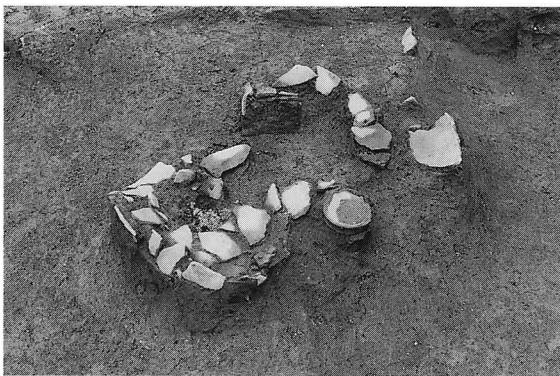
写真図版38 RE055竪穴状遺構（2）



完掘（南から）



土層断面（南から）

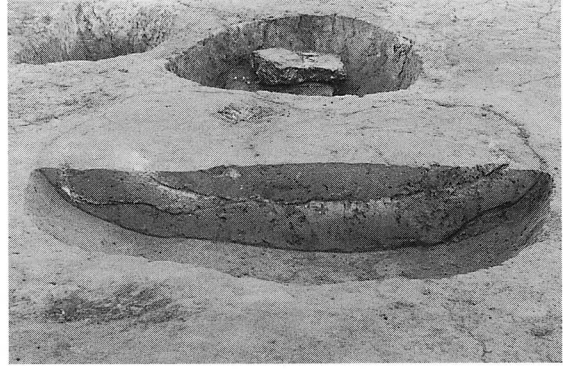


遺物出土状況（南から）

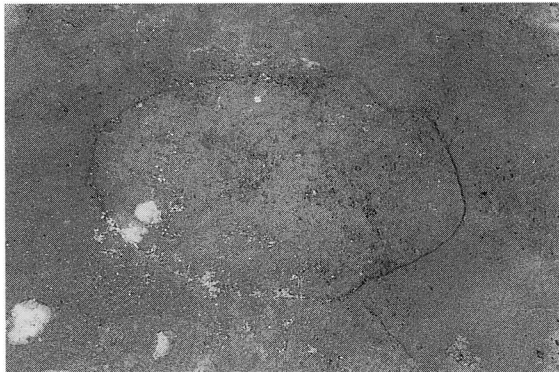
写真図版39 RE056竪穴状遺構



RF063焼土遺構平面（南から）



RF063断面（西から）



RF064焼土遺構平面（西から）



RF064断面（西から）

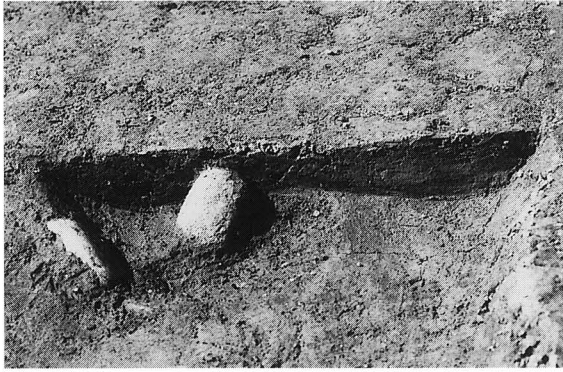


RG442北側完掘（南から）

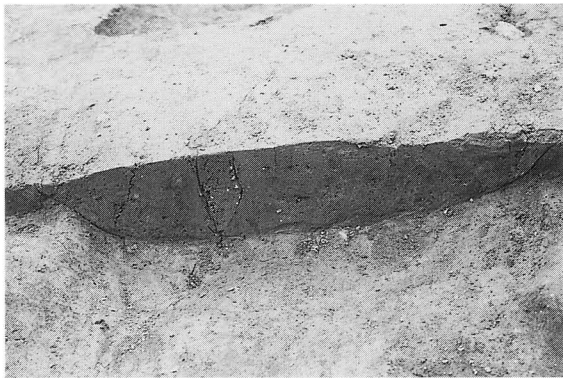


RG442南側完掘（北から）

写真図版40 RF063・064焼土遺構 RG442溝跡



RG442断面（南から）



RG443断面（西から）



RG443完掘（東から）

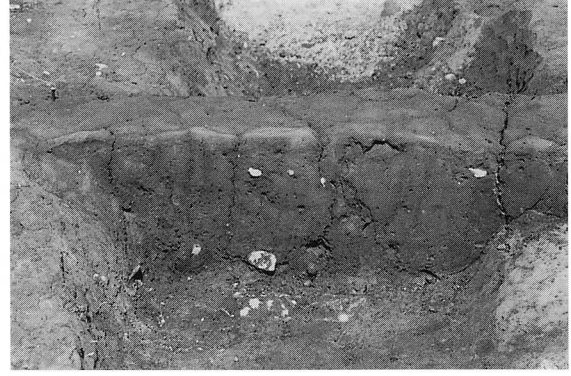


RG444~449完掘（北から）

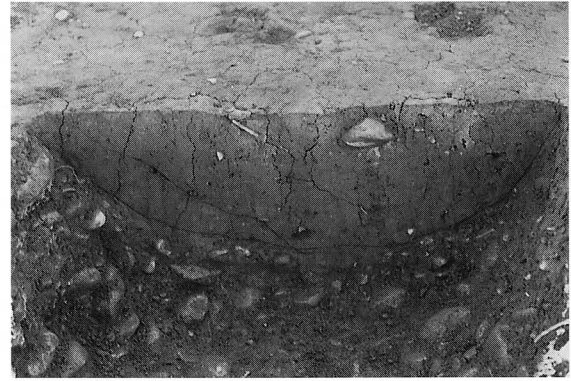
写真図版41 RG442~449溝跡



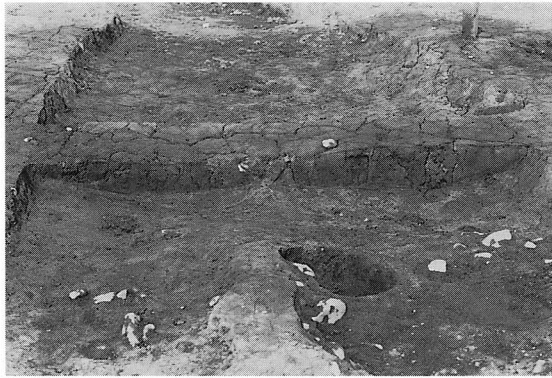
RG444・446～450完掘（東から）



RG444断面（西から）



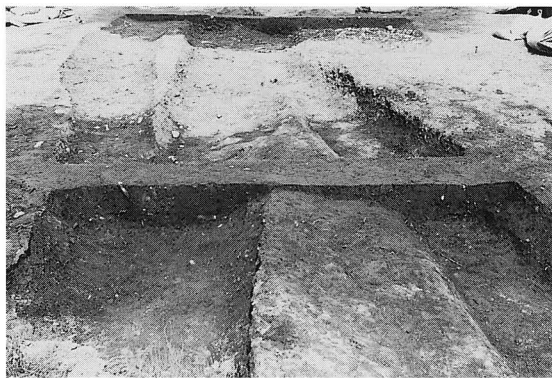
RG446断面（西から）



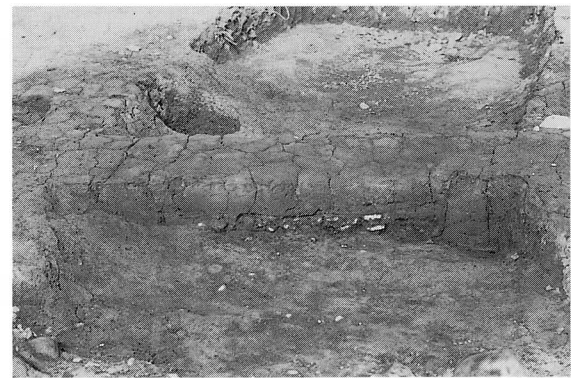
RG446・447断面（西から）



RG447～449断面（西から）



RG444・447・449・450断面（西から）

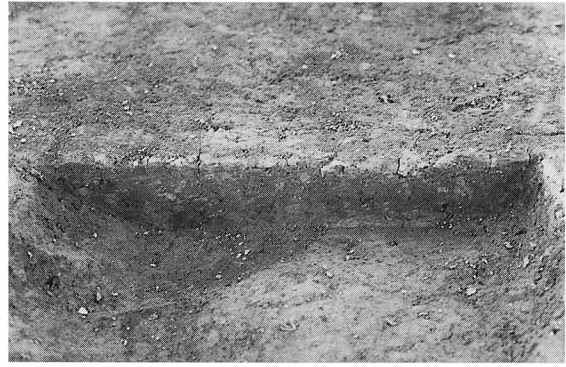


RG448断面（西から）

写真図版42 RG444・446～450溝跡



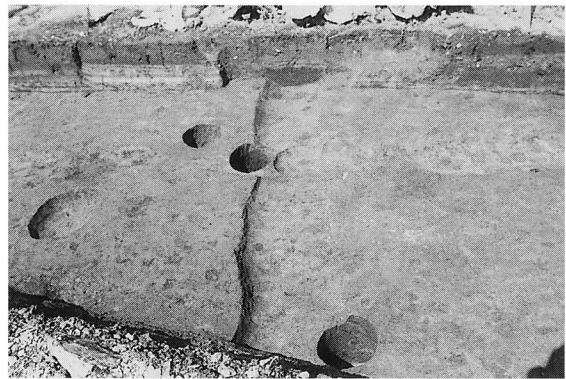
RG445完掘（北から）



RG445断面（南から）



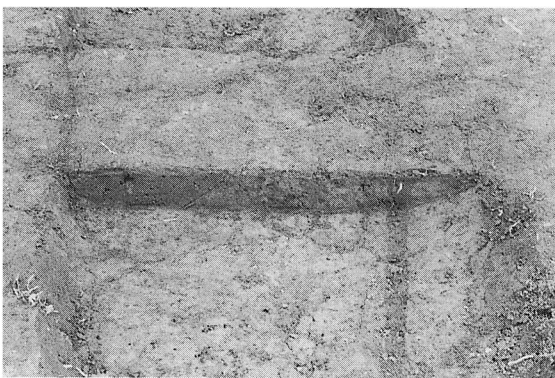
RG452完掘（北から）



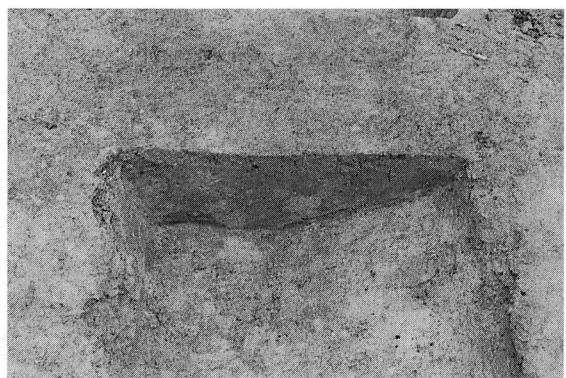
RG451完掘・断面（東から）



RG452北端部完掘（南から）



RG452南側断面（南から）



RG452北側断面（南から）

写真図版43 RG445・451・452溝跡

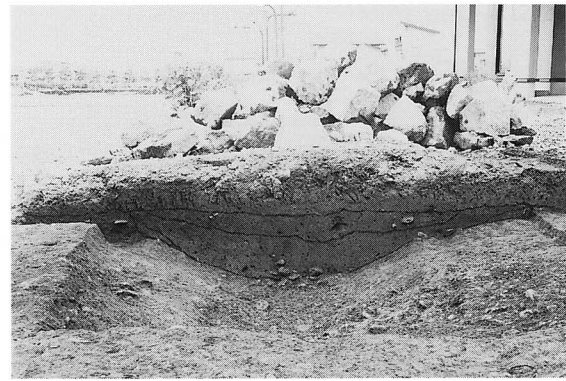




RG453完掘（西から）



RG453断面（東から）



RG453断面（東から）



RG454完掘（東から）



RG454断面（東から）

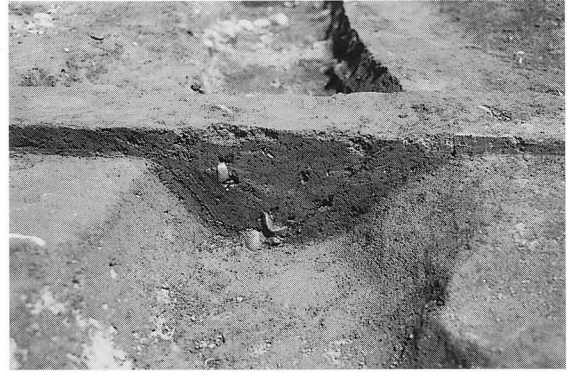


RG454断面（東から）

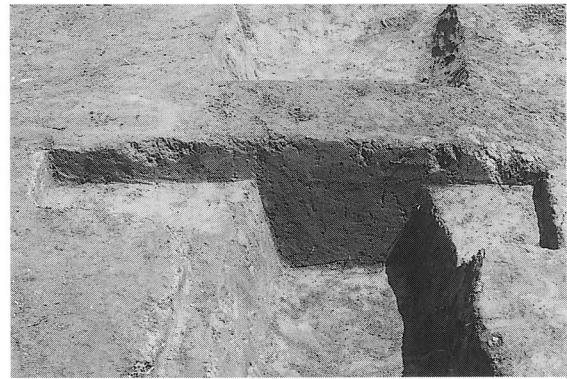
写真図版44 RG453・454溝跡



RG455・456完掘（北から）



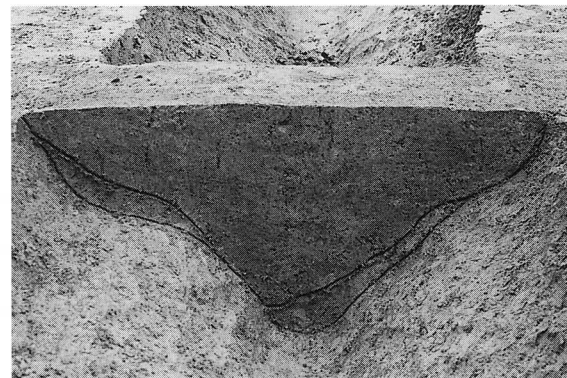
RG455断面（南から）



RG456断面（南から）



RG457完掘（北から）

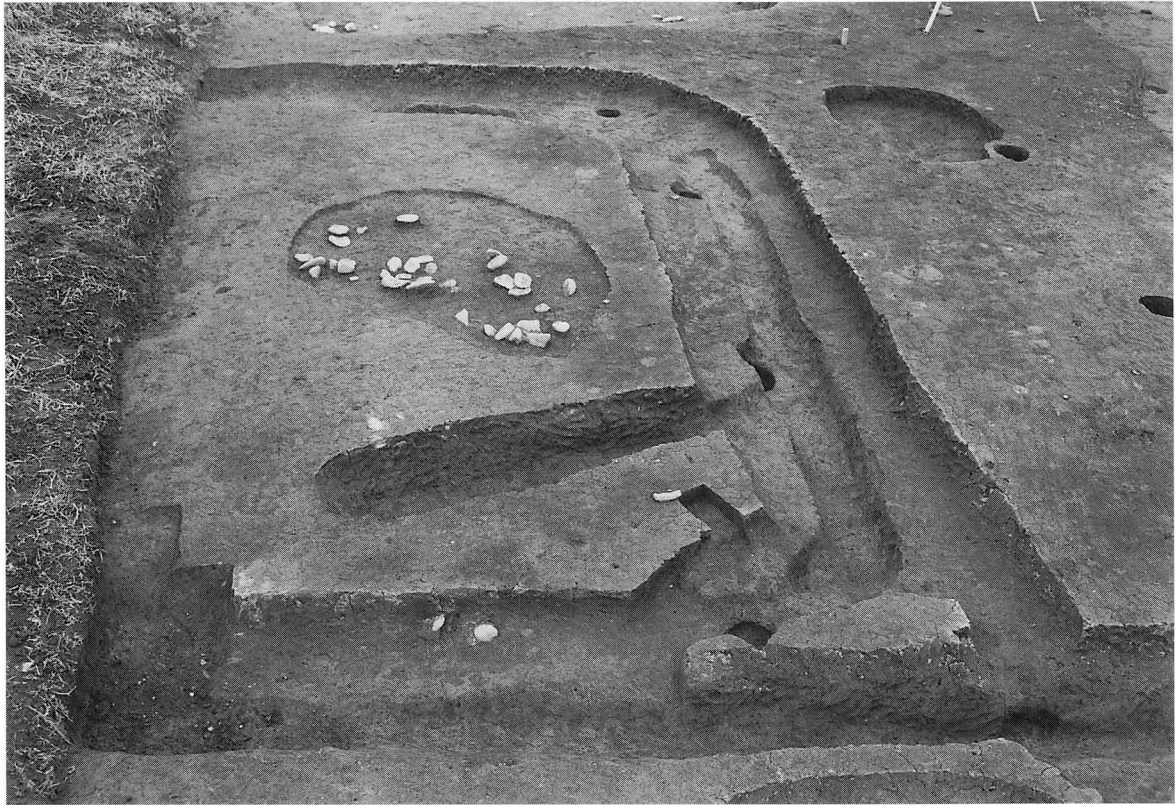


RG457断面（西から）



RG457断面（西から）

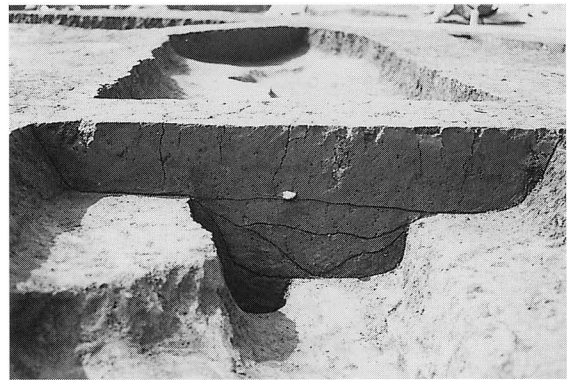
写真図版45 RG455～457溝跡



RG458完掘（南から）



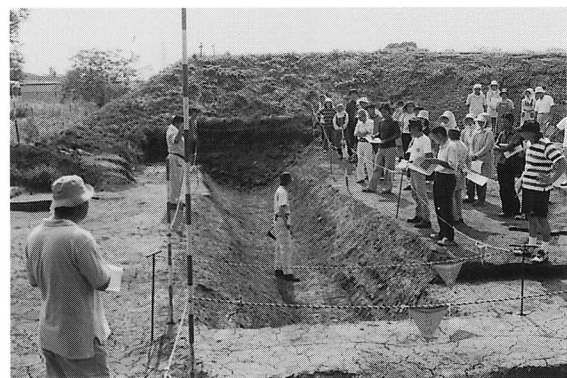
RG458断面（北から）



RG458断面（西から）

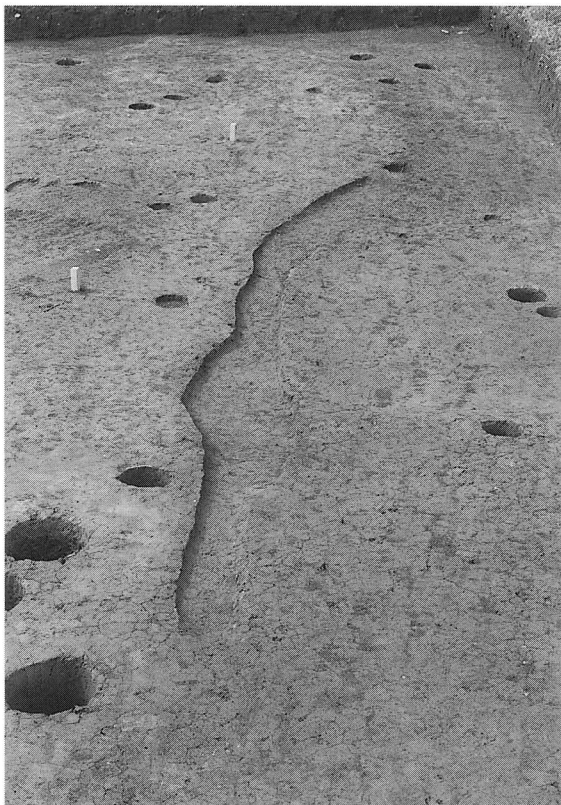


東区作業風景

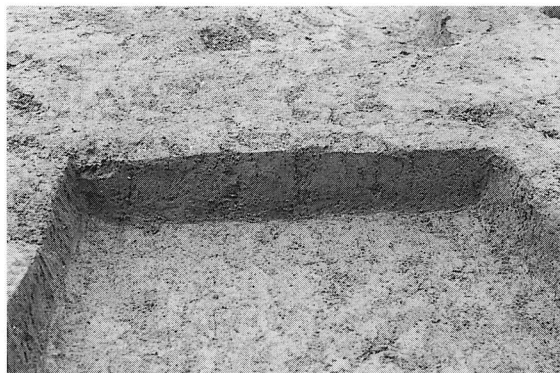


現地説明会（2003. 7. 暑い日）

写真図版46 RG458溝跡



RG459完掘 (南から)



RG459断面 (北から)



RG460完掘 (南から)



RG461完掘 (西から)



RG461断面 (西から)

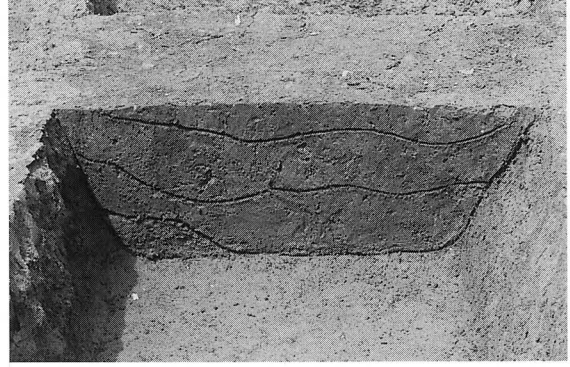


RG461断面 (西から)

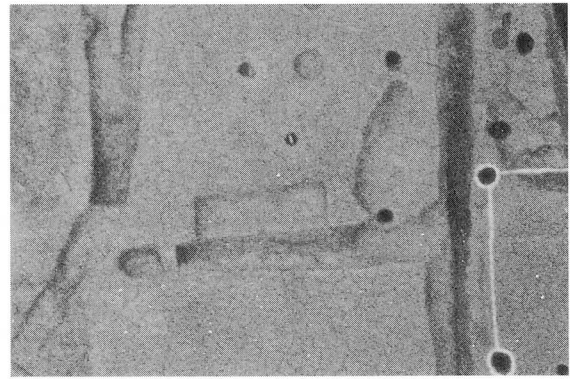
写真図版47 RG459・460溝跡 RG461堀跡



RG462完掘（西から）



RG462断面（東から）



RG463完掘（直上）

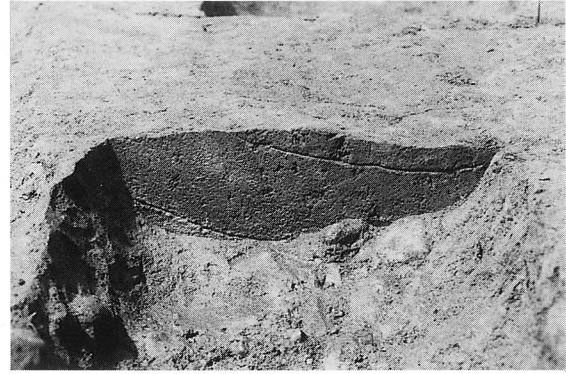


RG464～466完掘（北東から）

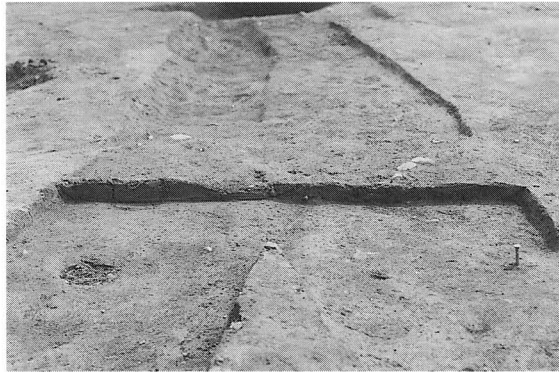
写真図版48 RG462～465溝跡



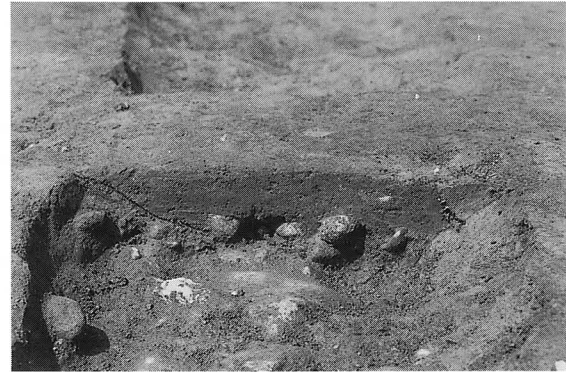
RG464断面（南から）



RG465断面（南から）



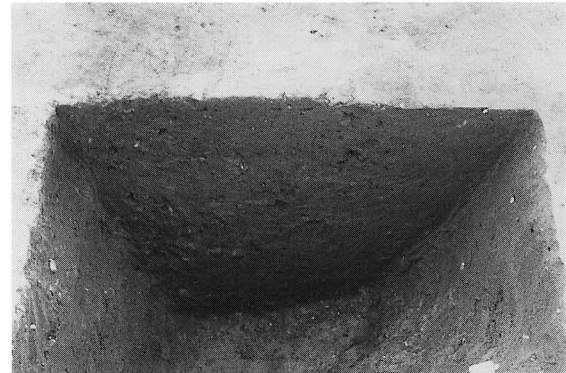
RG464・466の交点断面（北から）



RG466断面（南から）



RI016完掘（北から）



RI016断面（東から）



西区作業風景（東から）



北東区作業風景（南西から）

写真図版49 RG463～466溝跡 RI016井戸跡

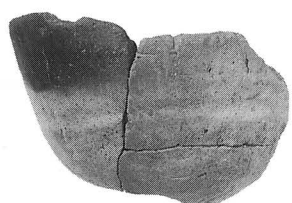


RZ031北Ⅱ区柱穴状土坑



RZ033東区柱穴状土坑

写真図版50 RZ031・RZ033柱穴状土坑



RA185-1 (13)



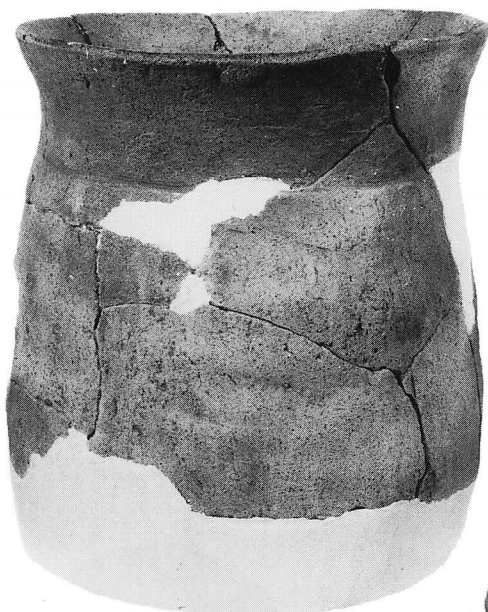
RA185-2 (14)



RA185-4 (3)



RA185-3 (1)



RA185-6 (2)



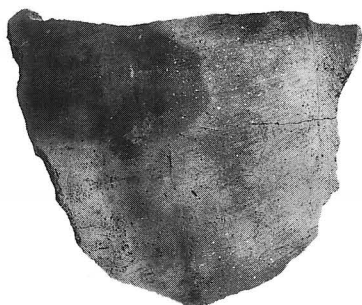
RA185-5 (4)



RA185-7 (6)



RA185-8 (12)



RA185-9 (10)



RA185-11 (4001)



RA185-10 (3010)



※ S=2/3

写真図版51 RA185 出土遺物





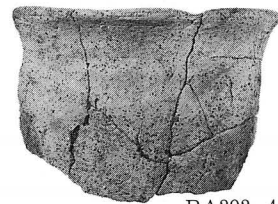
RA393-1 (16)



RA393-2 (15)



RA393-3 (17)



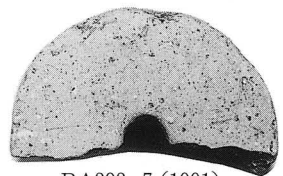
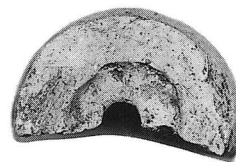
RA393-4 (19)



RA393-5 (329)

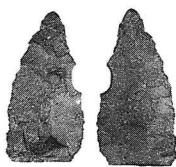


RA393-6 (330)



RA393-7 (1001)

※ S=2/3



RA393-8 (3001)

※ S=2/3



RA393-9 (3002)

※ S=2/3



RA393-11(4002) ※ S=1/2



RA393-12(4003)

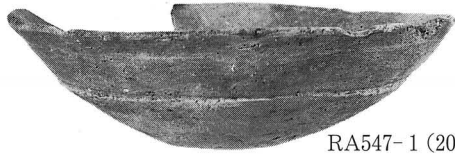
※ S=1/2



RA393-13(4004)

※ S=1/2

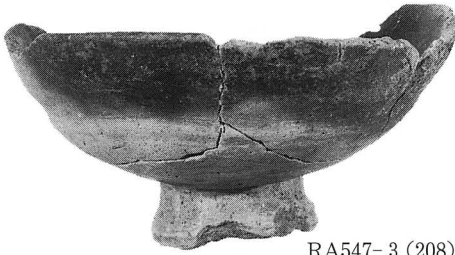
写真図版52 RA393 出土遺物



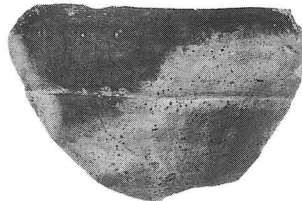
RA547-1 (205)



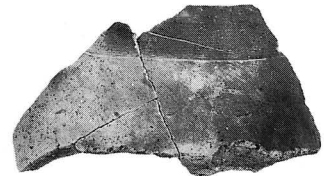
RA547-2 (206)



RA547-3 (208)



RA547-4 (207)



RA547-5 (204)



RA547-6 (201)



RA547-8 (194)



RA547-9 (196)



RA547-10(195)

写真図版53 RA547 (1) 出土遺物

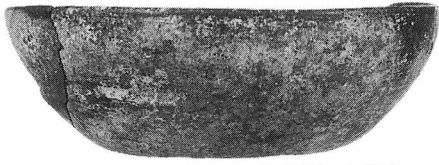


RA547-11(3012)



RA547-12(3015)

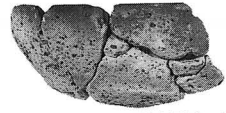
写真図版54 RA547(2) 出土遺物



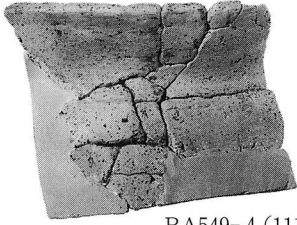
RA549-1 (30)



RA549-2 (113)



RA549-3 (115)



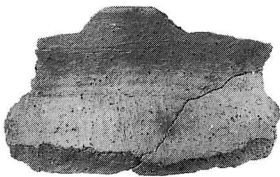
RA549-4 (111)



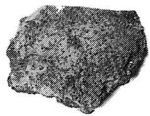
RA549-6 (29)



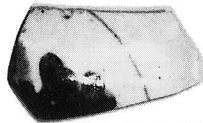
RA549-5 (28)



RA549-7 (112)



RA549-8 (331)

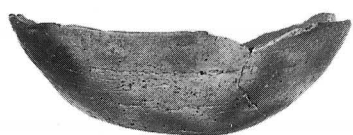


RA549-9 (2001)



RA549-10(4005)

写真図版55 RA549 出土遺物



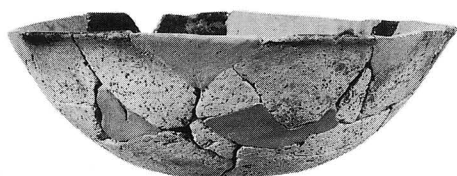
RA550-1 (37)



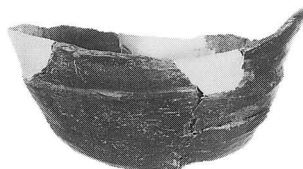
RA550-2 (39)



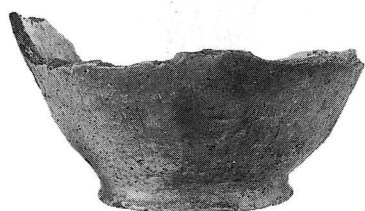
RA550-3 (40)



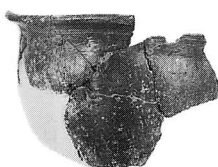
RA550-4 (38)



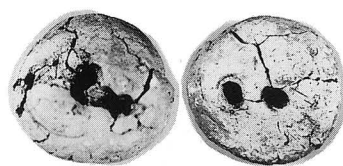
RA550-5 (35)



RA550-6 (33)



RA550-7 (32)

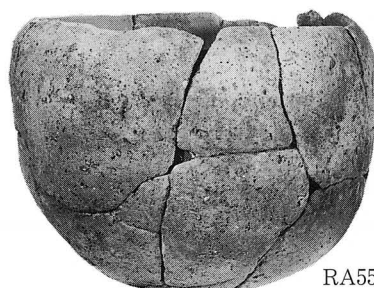


RA550-8 (1002)

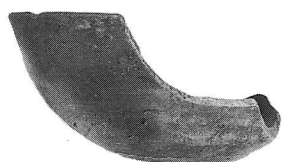
※ S=2/3



RA550-9 (34)



RA550-10(36)



RA551-1 (45)



RA551-2 (46)



RA551-4 (44)



RA551-3 (42)

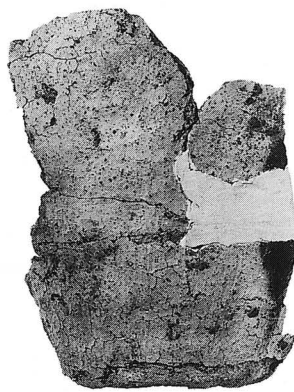
写真図版56 RA550・551 出土遺物



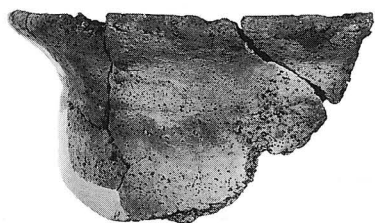
RA553-1 (49)



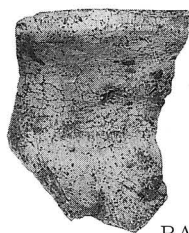
RA553-2 (50)



RA553-3 (48)



RA554-1 (53)



RA554-2 (54)



RA555-1 (58)

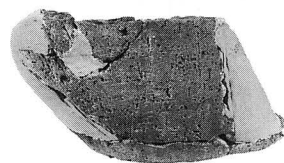


RA555-2 (60)

写真図版57 RA553・554・555 (1) 出土遺物



RA555-3 (59)



RA555-4 (67)



RA555-5 (63)



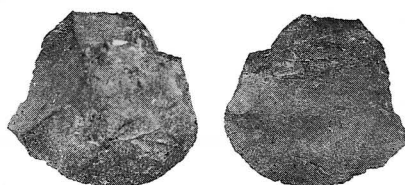
RA555-6 (62)



RA555-7 (61)

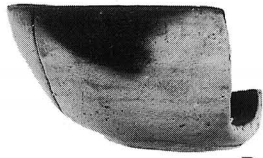


RA555-8 (68)

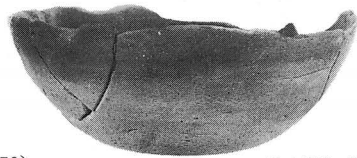


RA555-9 (3005) ※ S=1/2

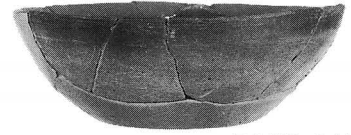
写真図版58 RA555 (2) 出土遺物



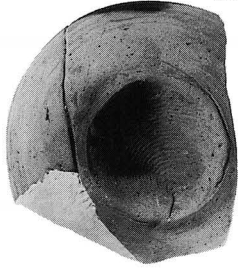
RA556-1 (150)



RA556-2 (146)



RA556-3 (145)



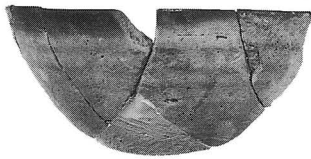
RA556-4 (156)



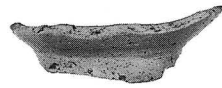
RA556-6 (160)



RA556-7 (147)



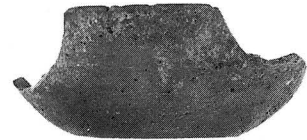
RA556-8 (148)



RA556-9 (149)



RA556-10 (152)



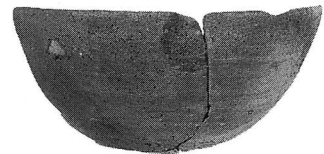
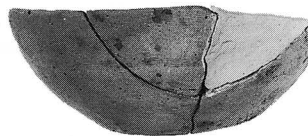
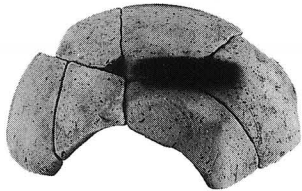
RA556-11 (155)



RA556-12 (151)

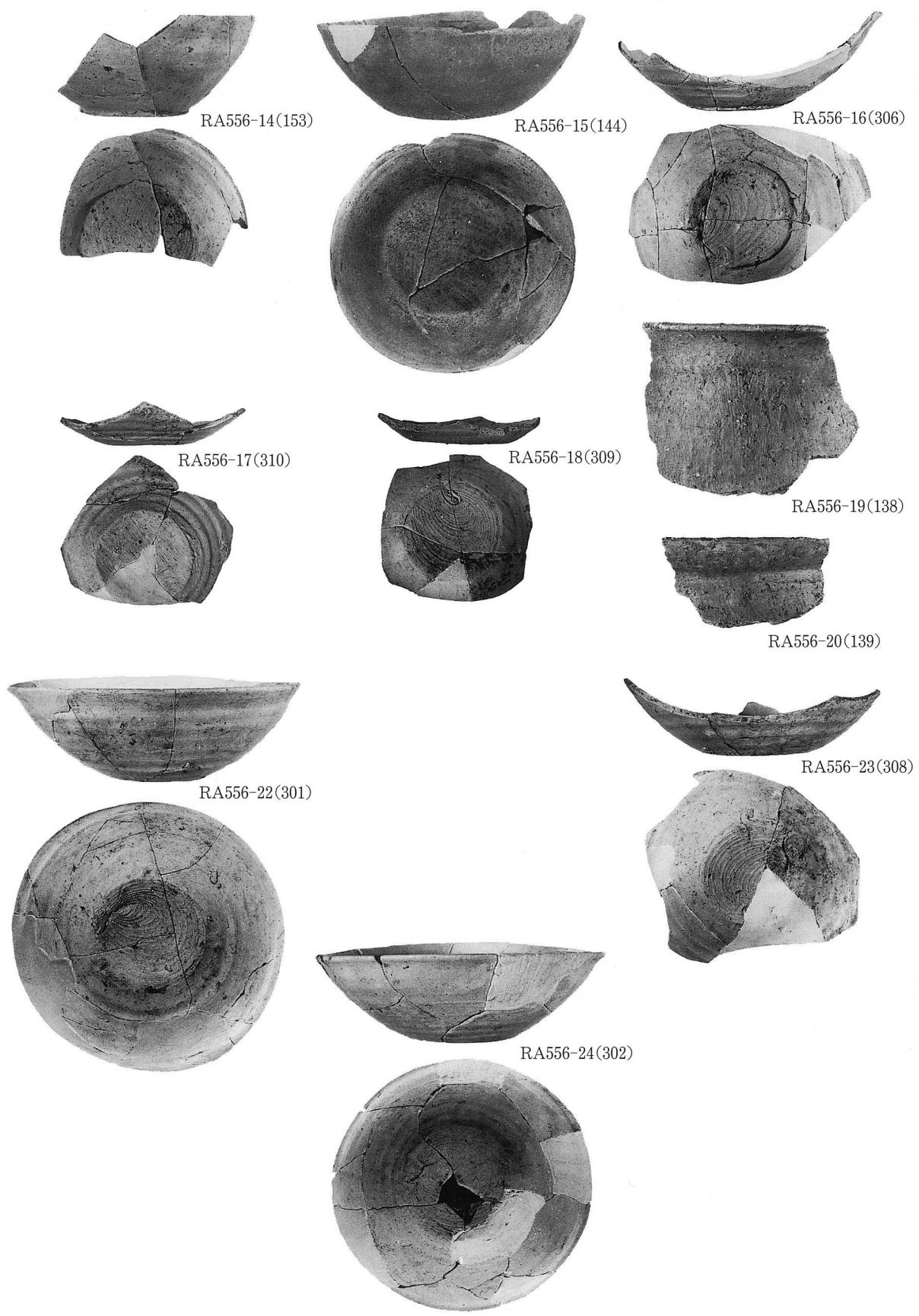


RA556-13 (154)



写真図版59 RA556 (1) 出土遺物





写真図版60 RA556 (2) 出土遺物



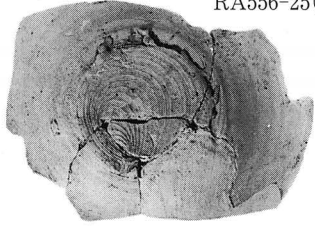
RA556-25(305)



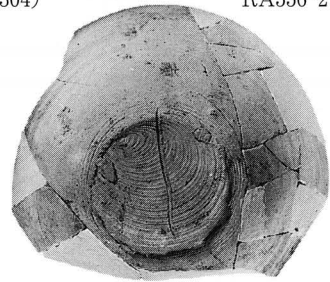
RA556-26(304)



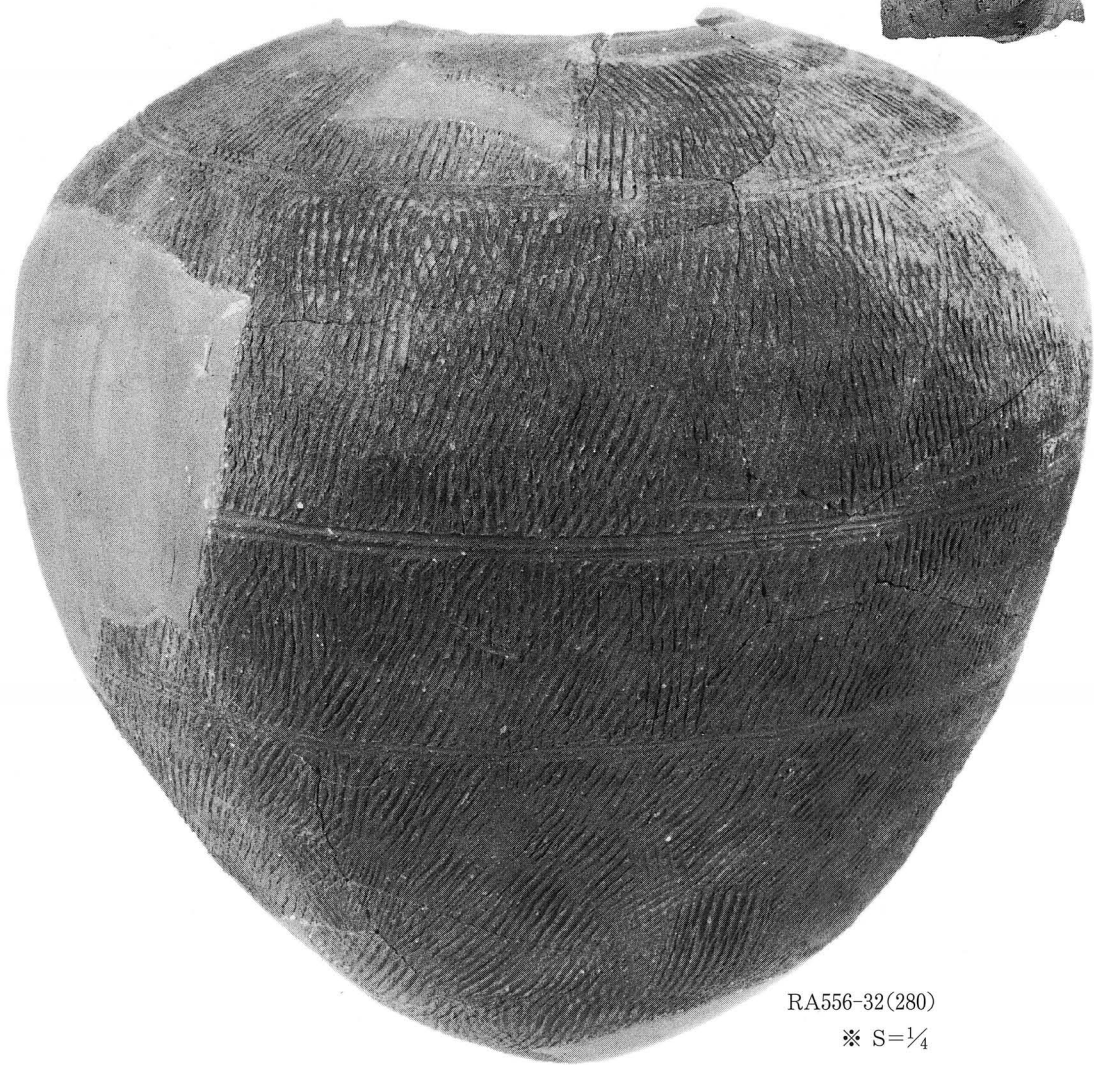
RA556-27(303)



RA556-28(289)



RA556-30(300)



RA556-32(280)

※ S=1/4

写真図版61 RA556 (3) 出土遺物



RA556-31(283)

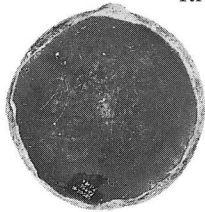


RA556-36(307)

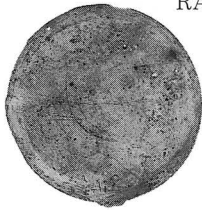


RA556-37(1003)

※ S=2/3

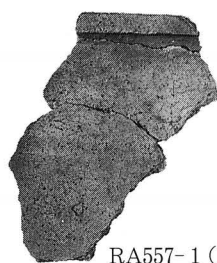


RA556-5(161)



RA556-33(281、282)

写真図版62 RA556(4) 出土遺物



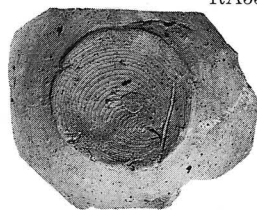
RA557-1 (163)



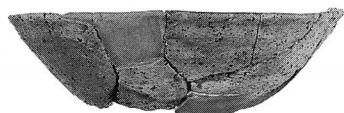
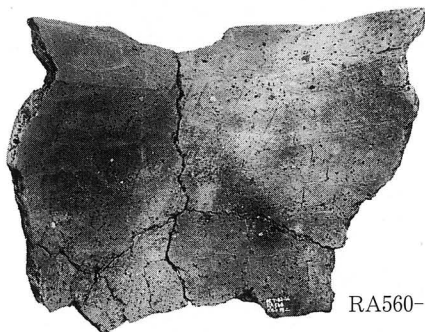
RA557-2 (315)



RA559-1 (290)



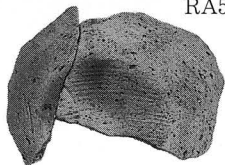
RA560-1 (164)



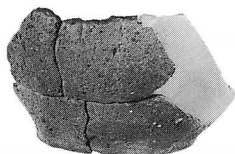
RA560-2 (166)



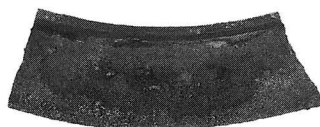
RA560-3 (170)



RA560-5 (316)



RA560-4 (165)



RA560-6 (4008)



RA561-1 (193)

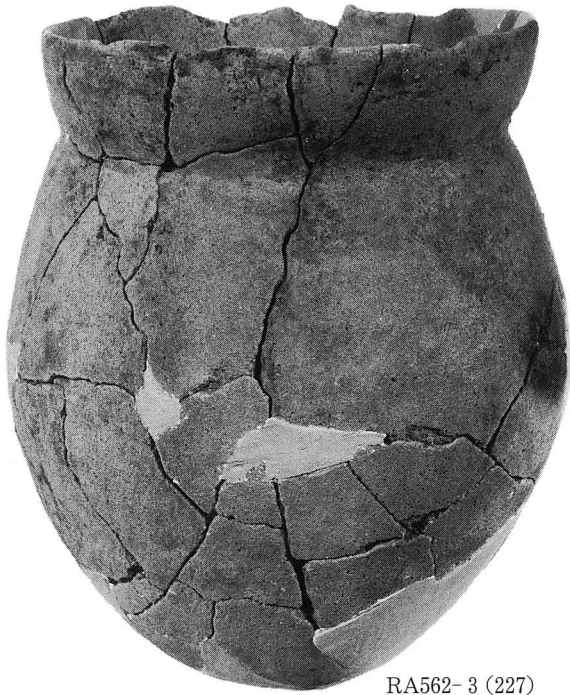
写真図版63 RA557・559・560・561 出土遺物



RA562-1 (231)



RA562-2 (232)



RA562-3 (227)



RA562-4 (228)

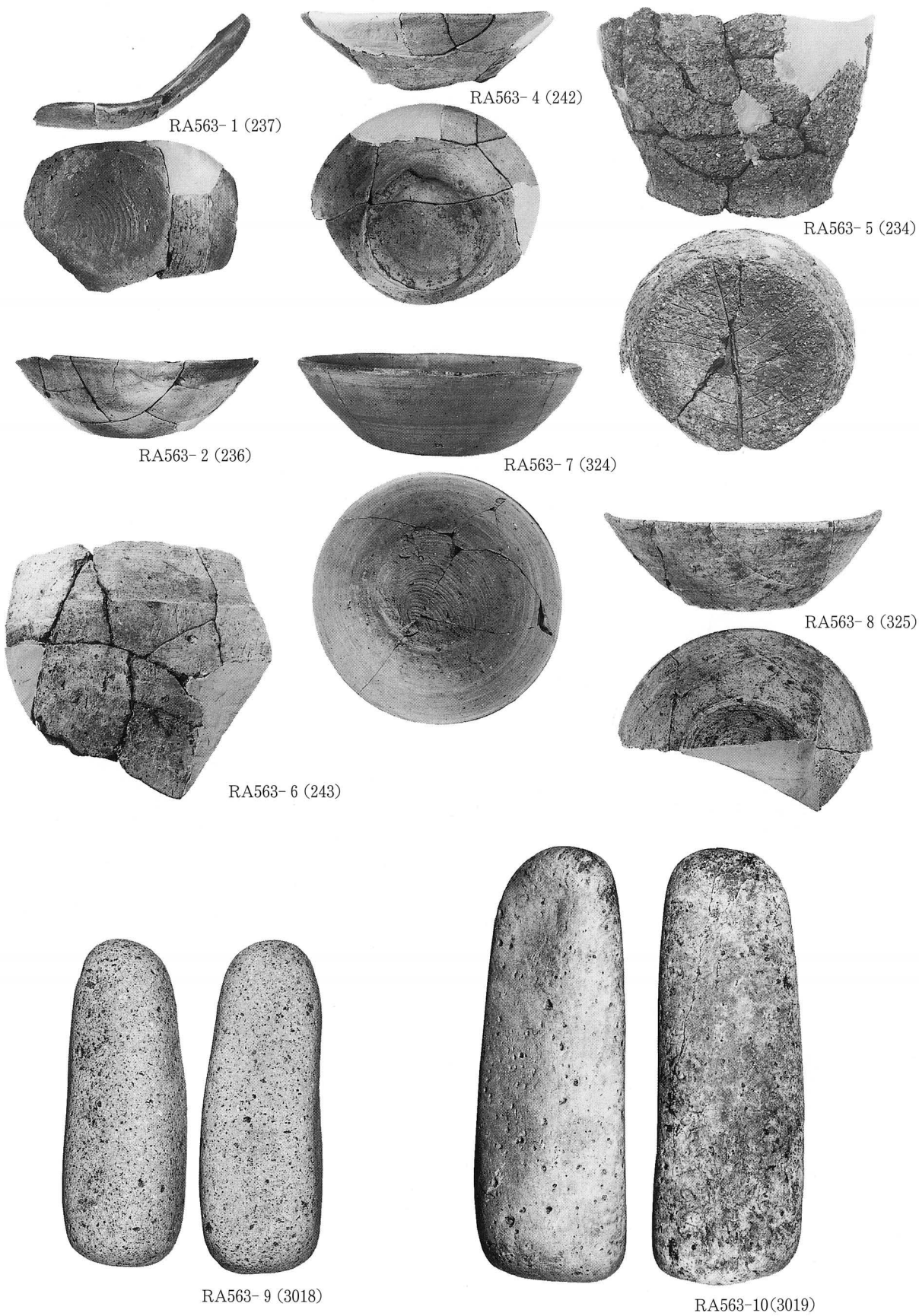


RA562-5 (229)



RA562-6 (230)

写真図版64 RA562 出土遺物



写真図版65 RA563 出土遺物



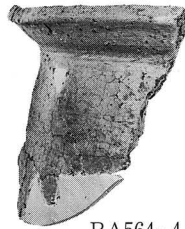
RA564-1 (252)



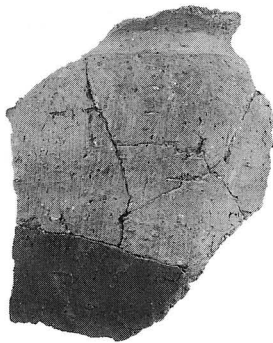
RA564-2 (253)



RA564-3 (256)



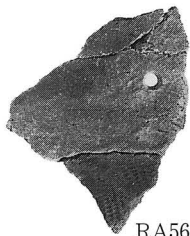
RA564-4 (247)



RA564-6 (250)



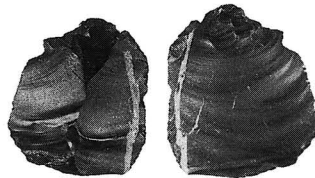
RA564-5 (251)



RA564-7 (328)



RA564-8 (332)



RA564-9 (3003)

※ S=1/2



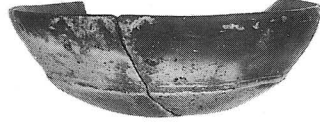
RA564-10 (4009)



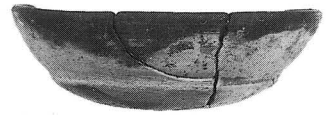
RD1060-1 (132)



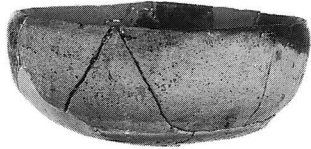
RD1060-2 (133)



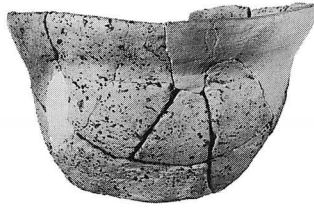
RD1060-3 (129)



RD1060-4 (131)



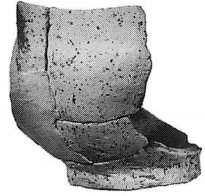
RD1060-5 (130)



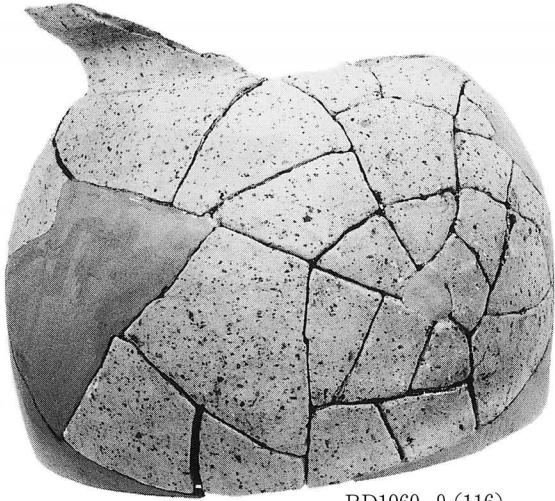
RD1060-6 (119)



RD1060-7 (120)



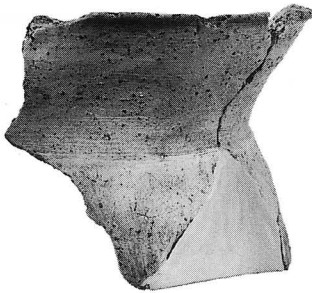
RD1060-8  
(124, 126)



RD1060-9 (116)



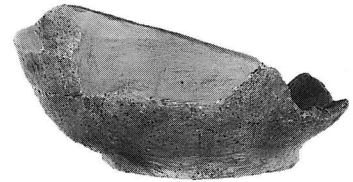
RD1060-10 (118)



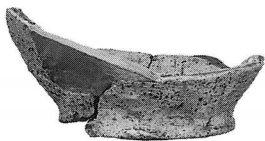
RD1060-11 (263)



RD1060-12 (117)



RD1060-13 (121)



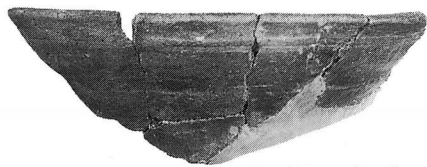
RD1060-15 (122)



RD1060-14 (123)

写真図版67 RD1060 出土遺物





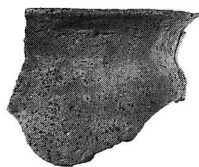
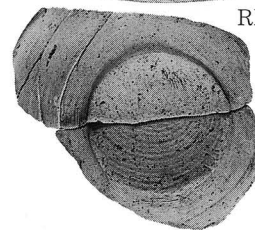
RD1039-1 (209)



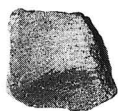
RD1066-1 (333)



RD1071-1 (171)



RD1072-1 (135)



RD1072-2 (337)



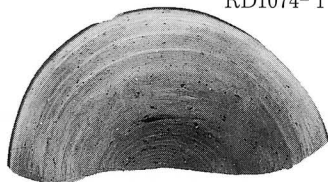
RD1073-1 (172)



RD1074-1 (317)



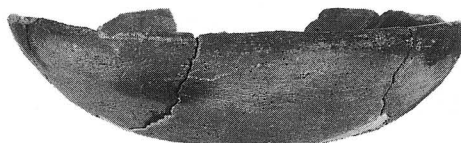
RD1074-2 (318)



RD1075-1 (212)



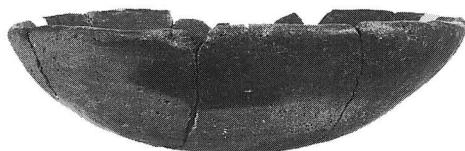
RE055-1 (73)



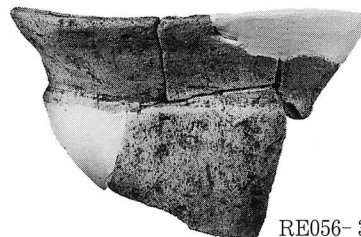
RE056-1 (219)



RE055-2 (2002)



RE056-2 (218)



RE056-3 (217)

写真図版68 RD1074・1075 RE055・056 (1) 出土遺物



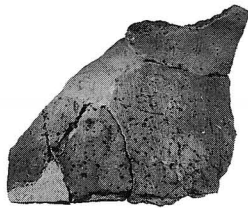
RE056-4 (215)



RE056-5 (214)



RG444-1 (4010)



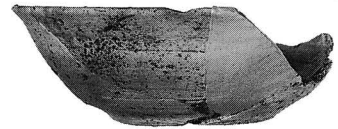
RG446-1 (77)



RG447-1 (87)



RG444-2 (4011)



RG447-2 (83)



RG447-3 (80)



RG447-4 (271)



RG447-5 (81)



RG447-7 (269)



RG447-6 (267)

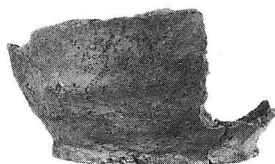
写真図版69 RE056 (2) RG444・446・447 出土遺物



RG448-1 (95)



RG448-2 (97)



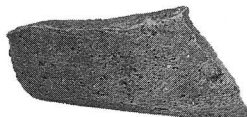
RG448-3 (93)



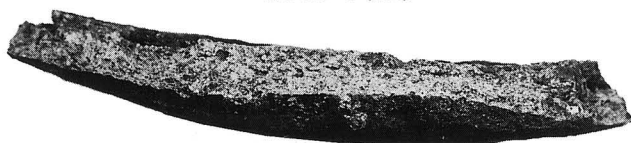
RG448-4 (273)



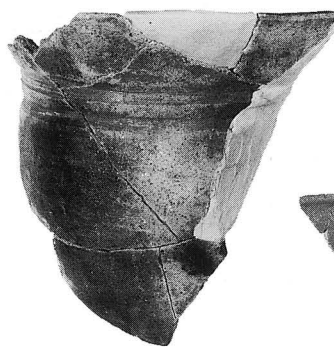
RG448-5 (272)



RG449-1 (274)



RG449-2 (2003)



RG450-1 (102)



RG450-2 (103)



RG453-1 (175)



RG453-2 (174)



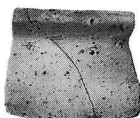
RG453-4 (176)



RG453-5 (177)



RG453-6 (179)



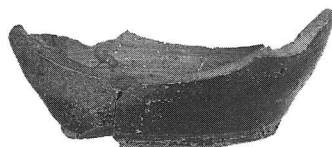
RG453-7 (173)



RG454-1 (186)



RG454-3 (185)



RG454-6 (291)



RG454-7 (319)



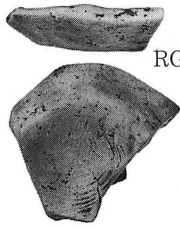
RG454-2 (187)



RG454-5 (292)



写真図版70 RG448・449・450・453・454 出土遺物



RG456-1 (190)



RG457-1 (220)



RG464-1 (334)



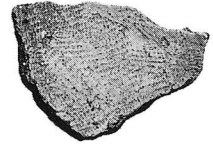
北 I 外-1 (110)



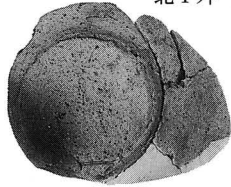
北 I 外-2 (109)



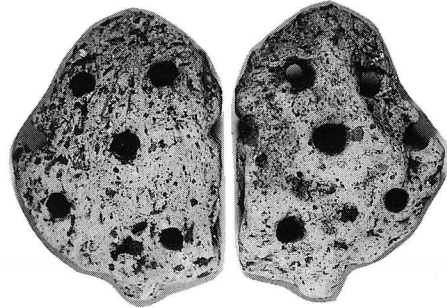
北 I 外-3 (108)



北 I 外-5 (336)

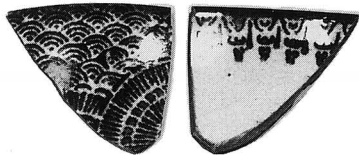


北 I 外-4 (105)

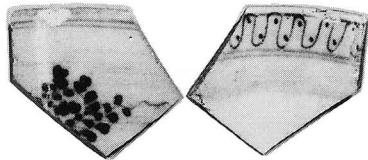


北 I 外-6 (1004)

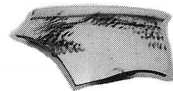
※ S=2/3



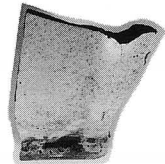
北 I 外-7 (2005)



北 I 外-8 (2006)



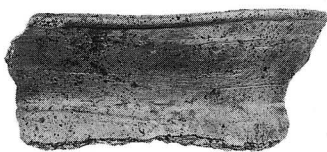
北 I 外-9 (2007)



北 I 外-10(2011)

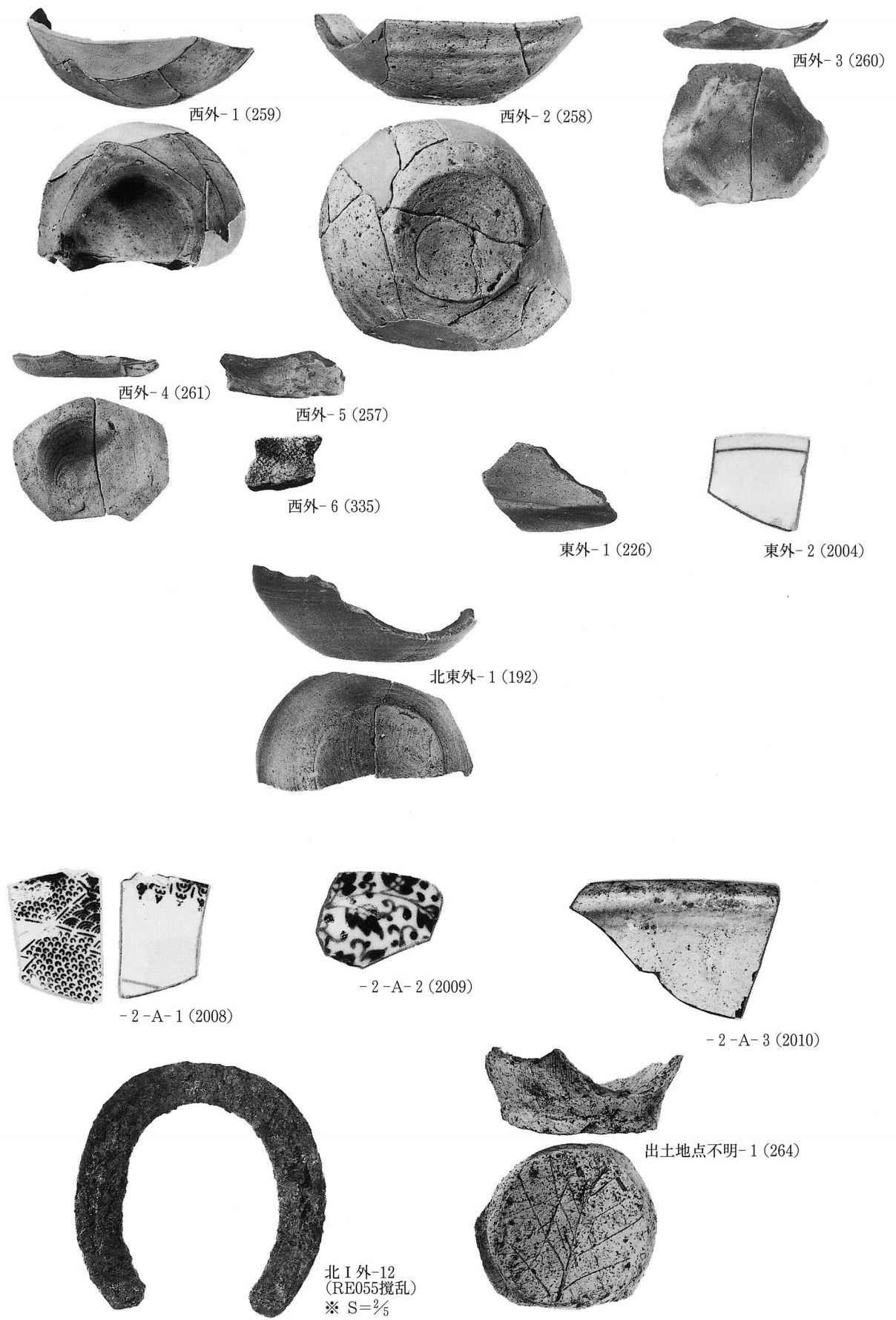


北 I 外-11(4013)



北 II 外-1 (134)

写真図版71 RG456・457・464・北 I 外・北 II 外 出土遺物



写真図版72 西外・東外・北東外・-2-A・RE055・不明 出土遺物

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	だいたろういせきだいのんじゅうよじはくつちょうさほうこくしょ							
書名	台太郎遺跡第44次発掘調査報告書							
副書名	盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第422集							
編著者名	阿部眞澄・安藤由紀夫・菊池 賢							
編集機関	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡第11地割185番地 TEL 019-638-9001							
発行年月日	平成15年3月28日							
所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
台太郎遺跡	いわてけん 岩手県盛岡市 向中野字八日 市場41-1他	03201	L E -16 -2269	39度 40分 47秒	141度 8分 40秒	2002.04.09 ～ 2002.08.05	2,907㎡	盛岡南新都市 開発整備事業 に伴う緊急発 掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物				
台太郎遺跡 (第44次)	集落跡	7世紀後半 ～ 奈良時代	竪穴住居跡11棟・竪穴 状遺構1棟・土坑7基	土師器・土製紡錘車・ 石器(砥石)		住居跡は北西壁にカマ ドを据えつける。		
		平安時代 (9世紀～ 10世紀)	竪穴住居跡9棟・掘立 柱建物跡(古代)2棟・ 土坑4基・溝跡(古代) 20条	土師器・須恵器・赤焼 土器・鉄製品・(釘な ど)・石器(砥石)				
		中世～近代 (時期不明 含む)	掘立柱建物跡3棟・土 坑26基・堀跡1条・溝 跡3条・焼土遺構2基・ 竪穴状遺構1棟・柱穴 約130基	陶磁器・蹄鉄		建物跡1棟は馬屋のあ る南部曲家。堀跡は屋 敷の区画か。東区の溝 1条は方形周溝。		

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

所長	木村昇	副所長	高橋正儀
〔管理課〕			
課長	葦山	嘱託	高橋照雄
課長補佐	山崎正善	〃	加藤美代子
〃	山岸直賢	〃	湯沢邦子
〃	山中賢一	〃	伊藤滋子
主査		〔調査第二課〕	
〔調査第一課〕		課長	高橋與右衛門
課長	佐々木	課長補佐	中川重紀
課長補佐	佐々木	文化財専門員	中金子佐知子
〃	高山内透	文化財調査員	赤石登澄
文化財専門員	小田充	〃	阿飯坂一重
文化財調査員	吉田大二郎	〃	飯坂木裕明
〃	佐々木信一	〃	鈴木慈泰彦
〃	早坂則也	〃	久安藤由紀夫
〃	小金野進盛	〃	星佐藤淳一
〃	野中真昭彦	〃	佐藤澤武英
〃	金子部孝明	〃	半川浩二郎
〃	阿部部勝則	〃	溜山直美
〃	阿羽柴人晃	〃	丸山田(濱齋)
〃	高木村克幸	期限付調査員	齋藤麻紀子
〃	長星沢昭太郎	〃	原美津子
〃	杉上拓一郎	〃	吉田里和
〃	村多準一郎	〃	菊池智寛
〃	本山和晴	〃	立花高
〃	青澤敬和	〃	
〃	西村島正昭	〃	
〃	福北村忠勝	〃	
〃	八木田寛	〃	
〃	米山治	〃	
〃	丸山勲	〃	
〃	北原弘	〃	
〃	島村繪美	〃	
期限付調査員	中坂部林卓	〃	
〃	小江藤敦	〃	
〃	川又晋	〃	
〃	吉田真由美	〃	
〃	長洞ひかり	〃	
〃	玉山健一	〃	
〃	太田代一彦	〃	
〃	藤原大地	〃	
〃	斐地公	〃	
〃	立花公志	〃	

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第422集

## 台太郎遺跡第44次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成15年 3月20日

発行 平成15年 3月28日

発行 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 盛岡市下飯岡第11地割185番地

電話 (019) 638-9001・9002

FAX (019) 638-8563

印刷 株式会社 熊谷印刷

〒020-0066 盛岡市上田1丁目6番49号

電話 (019) 653-4151

FAX (019) 654-0435



